

にし の
西野遺跡Ⅱ

— 宅地開発に伴う発掘調査報告書 —

第二分冊

2024.3

香南市教育委員会

例 言

1. 本書は、宅地造成開発に伴い、平成18年度に野市町教育委員会が実施した西野遺跡ルノ丸地区の発掘調査報告書である。
2. 西野遺跡は、高知県香南市野市町西野1530番地他に所在する。
3. 本報告は、二次調査(平成18年度)のE～I・M区と四次調査(平成19年度)の南区である。これらは調査区の南部に当たり、二次調査の北部A～D・J～L区及び四次調査の北区については第一分冊で報告した。
4. 発掘調査対象面積は二次調査が約8,700㎡、四次調査が約905㎡、発掘調査面積は、二次調査が約4,500㎡、四次調査が170㎡である。
5. 二次調査は、試掘調査を平成17年10月に行ない、平成18年4月4日から19年3月30日に発掘調査を行なった。四次調査は平成19年10月9日から11月8日に発掘調査を行なった。いずれも調査時から整理作業を開始し、報告書刊行年度は第一分冊が令和3年度、第二分冊が令和5年度である。
6. 試掘調査・発掘調査時の平成18年度の調査体制は以下の通りである。
調査員 野市町教育委員会 生涯学習課 溝渕 真紀
調査員 財団法人 野市町開発公社 更谷 大介
7. 本報告書に関する整理作業は、更谷と溝渕が平成20年度まで遺構図及び写真等の整理作業を行ない、平成22年度より香南市教育委員会生涯学習課 主監調査員 松村 信博と臨時職員 藤方 正治が整理作業を継続した。平成28年度より主幹調査員 横山 藍が報告書刊行作業を行なった。
8. 第二分冊刊行時、令和5年度の香南市教育委員会生涯学習課文化振興保護係の体制は以下の通りである。
課長 山崎 正博 会計年度職員 岡林 真史
係長 竹中 ちか 齋藤 美幸
主幹調査員 横山 藍 澤田 秀幸
松井 喬行 高橋 加奈
高橋 由香
藤原 ゆみ
森 信輔
山崎 佐世
依光 美佐子(五十音順)
9. 本書の執筆(第IV章(2)を除く)・編集は横山が行なった。遺構写真撮影は更谷・溝渕による。試掘及び土層観察等の調査に関する記述は、更谷の記録を元に行っている。遺構図の作成は更谷・溝渕が行なったものをトレースした。実測遺物の選出作業については松村、遺物観察作業については藤方・横山が行なった。遺物写真撮影は高橋・藤原・松井・松田(令和3年度会計年度職員)、写真図版編集は藤原が行なった。
10. 本報告書第IV章(2)土佐における古代の出土銭貨については、高知県文化財保護審議会委員 岡本 桂典氏に玉稿を賜った。記して感謝する。

11. 遺構については、ST(竪穴建物跡)・SB(掘立柱建物跡)・SA(柵列)・SK(土坑)・SD(溝跡)・P(柱穴)とし、遺構番号は必要に応じて通し番号を付した。報告書刊行の際は調査時の遺構名及び番号をそのまま使用し、報告する。掲載している遺構図の縮尺はSTは $S=1/40 \cdot 1/80$ 、SB・SAは $S=1/100$ 、SK・SD・Pは $S=1/40 \cdot S=1/60$ で作成しそれぞれに記載しており、方位(N)は世界標準座標方眼北である。
12. 遺物については、原則的に $S=1/3$ 及び $S=1/4$ 、その他必要に応じて適切な縮尺を使用した。各遺物にはスケールバーを掲載している。
13. 現場作業及び整理作業については下記の方々に行なって頂いた。(敬称略、五十音順)
発掘調査作業
檀尾 俊喜・河村 みさ子・佐野 信重・西川 博明
整理作業
小松経子・齋藤美幸・高橋加奈・高橋由香・藤方正治・藤原ゆみ・松田克純・水田紀子・宮本幸子・山崎佐世・吉本由佳・依光美佐子
また、報告書作成にあたっては、香南市教育委員会・香南市文化財センターの諸氏の協力と援助を得た。
14. 出土遺物について、池澤俊幸氏・久家隆芳氏・吉成承三氏((公財)高知県埋蔵文化財センター)、出原恵三氏に助言を頂いた。記して感謝する。
15. 調査の実施にあたっては、地元の方々の絶大な協力と援助を得た。記して感謝する。
16. 出土遺物の注記は、出土略号を二次調査の試掘調査を05-NNR南、本調査を06-NNR南、四次調査は07-NNR南とし、図面・写真資料とともに香南市文化財センターにおいて保管している。

本文目次

第Ⅲ章 南部調査区の調査成果	1
1. 調査の方法	1
2. 調査区の概要と基本層序	3
3. 検出遺構と出土遺物	3
(1) 竪穴建物跡	8
(2) 掘立柱建物跡・柵列	15
(3) 土坑	17
(4) 溝跡	39
(5) 柱穴	42
(6) 包含層出土遺物	58
第Ⅳ章 小結	69
1. 西野遺跡二・四次調査のまとめ	69
(1) 弥生時代	69
(2) 古墳時代	70
(3) 古代	70
(4) 中世	72
2. 土佐における古代の出土銭貨	73

挿図目次

図3-1	調査区位置図・グリッド設定図	1
図3-2	遺構平面図	2
図3-3	ST1001遺構図	3
図3-4	ST1001出土遺物実測図1	4
図3-5	ST1001出土遺物実測図2	5
図3-6	ST1001出土遺物実測図3	6
図3-7	ST1001出土遺物実測図4	7
図3-8	ST1002遺構図	8
図3-9	ST1002出土遺物実測図	8
図3-10	ST2022遺構図	9
図3-11	ST2022出土遺物実測図	10
図3-12	ST2023遺構図	11
図3-13	ST2023出土遺物実測図	12
図3-14	ST2024遺構図	13
図3-15	ST2024出土遺物実測図	13
図3-16	ST1遺構図	14
図3-17	ST1出土遺物実測図	14
図3-18	SB7遺構図	15
図3-19	SB7出土遺物実測図	16
図3-20	SA1遺構図	16
図3-21	SK1(F区)遺構図	17
図3-22	SK1(F区)出土遺物実測図	18
図3-23	SK1(G区)遺構図	19
図3-24	SK1(G区)出土遺物実測図	19
図3-25	SK1(M区)遺構図	20
図3-26	SK1(M区)出土遺物実測図	20
図3-27	SK2(F区)遺構図	21
図3-28	SK2(F区)出土遺物実測図	21
図3-29	SK3(F区)遺構図	22
図3-30	SK3(F区)出土遺物実測図	22
図3-31	SK3(G区)遺構図・出土遺物実測図	23
図3-32	SK5遺構図	23
図3-33	SK5出土遺物実測図	23
図3-34	SK1001出土遺物実測図	24
図3-35	SK1003遺構図・出土遺物実測図	24

図3-36	SK1006 遺構図・出土遺物実測図	.25
図3-37	SK2005・2088 遺構図	.25
図3-38	SK2089 遺構図・出土遺物実測図	.25
図3-39	SK2092 (SK2087) 遺構図	.26
図3-40	SK2092 (SK2087) 出土遺物実測図1	.27
図3-41	SK2092 (SK2087) 出土遺物実測図2	.28
図3-42	SK2094 遺構図	.28
図3-43	SK2094 出土遺物実測図	.28
図3-44	SK2097 遺構図・出土遺物実測図	.29
図3-45	SK2098 遺構図	.30
図3-46	SK2098 出土遺物実測図1	.30
図3-47	SK2098 出土遺物実測図2	.31
図3-48	SK2099 遺構図・出土遺物実測図	.32
図3-49	SK2116 遺構図・出土遺物実測図	.32
図3-50	SK2117 遺構図・出土遺物実測図	.33
図3-51	SK2118 遺構図・出土遺物実測図	.33
図3-52	SK2122 遺構図・出土遺物実測図	.34
図3-53	SK2129 遺構図・出土遺物実測図	.34
図3-54	SK2132 遺構図・出土遺物実測図	.34
図3-55	SK2138 遺構図・出土遺物実測図	.35
図3-56	SK2167 遺構図・出土遺物実測図	.35
図3-57	SK2171～2173 遺構図・出土遺物実測図	.36
図3-58	SK 遺構図	.37
図3-59	SK2183 遺構図・出土遺物実測図	.38
図3-60	SK1 遺構図・出土遺物実測図	.38
図3-61	SK2 遺構図・出土遺物実測図	.39
図3-62	SD1 出土遺物実測図	.39
図3-63	SD3 出土遺物実測図	.40
図3-64	SD 出土遺物実測図	.40
図3-65	SD1・2 出土遺物実測図	.41
図3-66	ピット出土遺物実測図1	.43
図3-67	ピット出土遺物実測図2	.44
図3-68	ピット出土遺物実測図3	.45
図3-69	ピット出土遺物実測図4	.46
図3-70	ピット出土遺物実測図5	.47
図3-71	ピット出土遺物実測図6	.48
図3-72	ピット出土遺物実測図7	.49
図3-73	ピット出土遺物実測図8	.50

図3-74	ピット出土遺物実測図9	51
図3-75	ピット出土遺物実測図10	52
図3-76	ピット出土遺物実測図11	53
図3-77	包含層出土遺物実測図1(弥生土器)	55
図3-78	包含層出土遺物実測図2(弥生土器)	56
図3-79	包含層出土遺物実測図3(弥生土器・土師器・庄内式土器)	57
図3-80	包含層出土遺物実測図4(弥生土器)	58
図3-81	包含層出土遺物実測図5(土製品)	59
図3-82	包含層出土遺物実測図6(石製品)	59
図3-83	包含層出土遺物実測図7(土師器)	60
図3-84	包含層出土遺物実測図8(土師器)	61
図3-85	包含層出土遺物実測図9(土師器)	62
図3-86	包含層出土遺物実測図10(土師器)	63
図3-87	包含層出土遺物実測図11(須恵器)	64
図3-88	包含層出土遺物実測図12(須恵器)	65
図3-89	包含層出土遺物実測図13(緑釉陶器・黒色土器・瓦器・瓦質土器)	66
図3-90	包含層出土遺物実測図14(青磁・白磁・陶器・陶磁器・炆器・製塩土器)	67
図3-91	包含層出土遺物実測図15(瓦)	68
図3-92	包含層出土遺物実測図16(土製品)	68
図3-93	包含層出土遺物実測図17(鉄製品)	68
図4-1	西野遺跡二・四次調査遺構配置図(弥生時代)	69
図4-2	西野遺跡二・四次調査遺構配置図(古墳時代)	71
図4-3	U字形鍬・鋤先	72
図4-4	西野遺跡二・四次調査遺構配置図(古代・中世)	72
図4-5	西野遺跡で出土した萬年通寶	74

遺物観察表目次

遺物観察表 1414 ~ 1433	77
遺物観察表 1434 ~ 1453	78
遺物観察表 1454 ~ 1473	79
遺物観察表 1474 ~ 1493	80
遺物観察表 1494 ~ 1513	81
遺物観察表 1514 ~ 1533	82
遺物観察表 1534 ~ 1553	83

遺物観察表 1554 ~ 1573.....	84
遺物観察表 1574 ~ 1593.....	85
遺物観察表 1594 ~ 1613.....	86
遺物観察表 1614 ~ 1633.....	87
遺物観察表 1634 ~ 1653.....	88
遺物観察表 1654 ~ 1673.....	89
遺物観察表 1674 ~ 1693.....	90
遺物観察表 1694 ~ 1713.....	91
遺物観察表 1714 ~ 1733.....	92
遺物観察表 1734 ~ 1753.....	93
遺物観察表 1754 ~ 1773.....	94
遺物観察表 1774 ~ 1793.....	95
遺物観察表 1794 ~ 1813.....	96
遺物観察表 1814 ~ 1833.....	97
遺物観察表 1834 ~ 1853.....	98
遺物観察表 1854 ~ 1873.....	99
遺物観察表 1874 ~ 1893.....	100
遺物観察表 1894 ~ 1913.....	101
遺物観察表 1914 ~ 1933.....	102
遺物観察表 1934 ~ 1953.....	103
遺物観察表 1954 ~ 1973.....	104
遺物観察表 1974 ~ 1993.....	105
遺物観察表 1994 ~ 2013.....	106
遺物観察表 2014 ~ 2033.....	107
遺物観察表 2034 ~ 2053.....	108
遺物観察表 2054 ~ 2070.....	109

図版目次

- 図版 1 A区北部調査前風景(西より)
H・I区調査前風景(西より)
北区調査前風景(南西より)
南区調査前風景(北西より)
- 図版 2 A・B・K区遺構完掘状態(南より)
A・J区北部遺構完掘状態(西より)

- 図版 3 G区遺構完掘状態(西より)
- 図版 4 J区中部遺構完掘状態(西より) 1
J区中部遺構完掘状態(西より) 2
- 図版 5 M区遺構完掘状態(東より)
M区遺構完掘状態(西より)
- 図版 6 北区遺構完掘状態(西より)
南区遺構完掘状態(西より)
- 図版 7 ST1001完掘状態(西より)
ST1001・1002バンクセクション(南より)
- 図版 8 ST1001検出状態(西より)
ST1001バンクセクション(北西より)
ST1001弥生土器甕(1433)出土状態
ST1001弥生土器高杯(1457)出土状態
ST1001石包丁(1461)出土状態
ST1001完掘状態(北より)
ST1002石包丁(1474)出土状態(東より)
ST1002石包丁(1474)出土状態
- 図版 9 ST2001完掘状態(北より)
ST2001カマド検出状態(南より)
- 図版 10 ST2002完掘状態(西より)
ST2002バンクセクション(東より)
- 図版 11 ST2002カマド完掘状態(南東より)
ST2002カマド検出状態(南より)
ST2002カマド遺物出土状態
SD2003完掘状態(北西より)
- 図版 12 ST2003・2004完掘状態(南西より)
ST2003・2004検出状態(東より)
ST2003トレンチセクション(北より)
ST2003礫出土状態(東より)
ST2003土師器甕(113)出土状態
- 図版 13 ST2003カマド検出状態(南より)
ST2003カマド完掘状態(南より)
ST2003カマド遺物出土状態(1回目)(南より)
ST2003カマド弥生土器甕(106)出土状態
ST2003カマド遺物出土状態(2回目)(南より)
ST2003カマド弥生土器甕(104・106)・須恵器杯身(126)
ST2003カマド遺物出土状態(3回目)(南より)
ST2003カマド須恵器杯身(125)出土状態

- 図版 14 ST2004完掘状態(西より)
ST2005検出状態(西より)
ST2005遺物出土状態(西より)
ST2005完掘状態(西より)
ST2006完掘状態(北より)
ST2006鉄製品鉄剣(161)出土状態
ST2007検出状態(南より)
ST2007完掘状態(西より)
- 図版 15 ST2008完掘状態(南より)
ST2008完掘状態(北より)
- 図版 16 ST2008遺物出土状態
ST2008弥生土器甕(180)出土状態
ST2008弥生土器壺(179)・甕(182)出土状態(南より)
ST2008弥生土器壺(179)・甕(182)出土状態
ST2008弥生土器甕(181・184)出土状態
ST2008弥生土器鉢(199)出土状態
ST2008 SK2遺物出土状態(南西より)
ST2008 SK2遺物出土状態(南より)
- 図版 17 ST2010上面土器集中遺物出土状態(1回目) (東より)
ST2010上面土器集中遺物出土状態(1回目) (南より)
ST2010上面土器集中遺物出土状態(1回目) (西より)
ST2010上面土器集中支脚(298)出土状態
ST2010上面土器集中遺物出土状態(2回目) (南より) 1
ST2010上面土器集中遺物出土状態(2回目) (南より) 2
ST2010上面土器集中遺物出土状態(3回目) (南より)
ST2010上面土器集中支脚(301)出土状態(南より)
- 図版 18 ST2009・2010完掘状態(西より)
ST2009・2010バンクセクション(東より)
- 図版 19 ST2009・2010検出状態(東より)
ST2009バンクセクション(東より)
ST2009土製品土錘(253)出土状態
ST2009完掘状態(東より)
ST2010バンクセクション(西より)
ST2010南半礫・遺物出土状態(西より)
ST2010弥生土器甕(325)出土状態
ST2010弥生土器甕(325・332)出土状態
- 図版 20 ST2012床面遺物出土状態(東より)
ST2012上面遺構検出状態(北西より)

- 図版 20 ST2012遺物出土状態(1回目) (北西より)
 ST2012遺物出土状態(2回目) (北西より)
 ST2012遺物出土状態(3回目) (北西より)
- 図版 21 ST2012弥生土器壺(397)出土状態
 ST2012遺物出土状態(1回目)
 ST2012弥生土器鉢(457)出土状態
 ST2012中央ピット遺物出土状態(北より)
 ST2012西半遺物出土状態(2回目) (南より)
 ST2012東半遺物出土状態(2回目) (南より)
 ST2012 SK2完掘状態(北より)
 ST2012 SK3完掘状態(東より)
- 図版 22 ST2015完掘状態(南より)
 ST2015バンクセクション(東より)
- 図版 23 ST2015カマドセクション(南より)
 ST2015カマド遺物出土状態(北東より)
 ST2015カマド遺物出土状態(北より)
 ST2015カマド須恵器杯(513)出土状態
 ST2015カマド弥生土器高杯(507)出土状態
 ST2015カマド完掘状態(南東より)
 ST2013完掘状態(東より)
 ST2013 P1ミニチュア土器(496)出土状態
- 図版 24 ST2016・2017・2021完掘状態(北東より)
 ST2016上面遺構完掘状態(西より)
 ST2016上面P1礫出土状態(北より)
 ST2016上面P2完掘状態(北より)
 ST2016上面P3礫出土状態(北より)
- 図版 25 ST2016・2017遺物出土状態(南東より)
 ST2016・2017バンクセクション(西より)
 ST2017弥生土器甕(542・543)出土状態
 ST2021床面検出状態(南より)
 ST2021完掘状態(南東より)
- 図版 26 ST2018・2019検出状態(東より)
 ST2018・2019完掘状態(西より)
- 図版 27 ST2018完掘状態(北東より)
 ST2018弥生土器高杯(573)出土状態
 ST2018石包丁(575)出土状態
 ST2019遺物出土状態(南西より)
 ST2019弥生土器鉢(589)出土状態

- 図版 27 ST2019セクション(南西より)
ST2019 P2弥生土器鉢(590)出土状態
ST2019 P3弥生土器壺(577)出土状態
- 図版 28 ST2020検出状態(北より)
ST2020バンクセクション(北より)
- 図版 29 ST2020完掘状態(北より)
ST2020カマド検出状態(南より)
ST2020カマド完掘状態(北より)
ST2020カマド鉄製品(608)出土状態(北より)
ST2020カマド鉄製品(608)出土状態
- 図版 30 ST2022遺物出土状態(南より)
ST2022炭化物検出・石包丁(1488)出土状態(西より)
ST2022石包丁(1488)出土状態
ST2022弥生土器壺(1476)出土状態
- 図版 31 ST2022遺物出土状態(北西より)
ST2022中央ピットセクション(北より)
ST2022弥生土器鉢(1480)出土状態
ST2022礫出土状態
ST2022壁溝検出状態(北東より)
- 図版 32 ST2023完掘状態(北西より)
ST2023・2024検出状態(西より)
ST2023バンクセクション(南より)
ST2023カマドセクション(南東より)
ST2023カマド土師器甕(1493)出土状態
- 図版 33 ST2024完掘状態(東より)
ST2024カマド検出状態(東より)
ST2024カマド遺物出土状態
ST2024カマド土師器甕(1500)出土状態
ST2024須恵器杯蓋(1505)出土状態
- 図版 34 ST2025完掘状態(南東より)
ST2026完掘状態(南西より)
ST2027完掘状態(南東より)
ST2028完掘状態(東より)
ST3001弥生土器甕(616)出土状態
- 図版 35 北区ST1完掘状態(北より)
北区ST1セクション(北東より)
北区ST1弥生土器壺(618)出土状態
北区ST1 SK1完掘状態

- 図版 35 北区ST1 SK2完掘状態
- 図版 36 北区ST2完掘状態(北より)
北区ST2検出状態(北より)
北区ST2ピット完掘状態(南より)
北区ST2弥生土器甕(669)出土状態(南西より)
北区ST2弥生土器甕(669)出土状態
- 図版 37 南区ST1完掘状態(北東より)
南区ST1遺物出土状態(北東より)
南区ST1弥生土器鉢(1511・1512)出土状態(南より)
南区ST1弥生土器鉢(1511)出土状態
南区ST1弥生土器鉢(1512)出土状態
- 図版 38 SB1完掘状態(南東より)
SD2051完掘状態(北西より)
SD2052完掘状態(南東より)
P3268弥生土器壺(687)出土状態(南西より)
SK2011弥生土器甕(683)出土状態(北より)
SK2011弥生土器甕(683)出土状態
- 図版 39 C区SK1鉄製品鋤先(731)出土状態(南西より)
C区SK1鉄製品鋤先(731)出土状態(西より)
F区SK1礫出土状態(西より)
F区SK1完掘状態(西より)
F区SK2礫出土状態(西より)
F区SK2土製品(1562)出土状態
F区SK2完掘状態(西より)
F区SK3完掘状態(北西より)
- 図版 40 F区SK1・2・3完掘状態(東より)
G区SK1弥生土器甕(1544)出土状態(北より)
G区SK1弥生土器甕(1544)出土状態
G区SK1完掘状態(南西より)
G区SK3弥生土器壺(1570)出土状態(西より)
G区SK3弥生土器壺(1570)出土状態
G区SK3完掘状態(南より)
G区SK4完掘状態(北東より)
- 図版 41 G区SK5完掘状態(西より)
M区SK1床面検出状態(南より)
SK1003遺物出土状態(西より)
SK1003完掘状態(南より)
SK2009完掘状態(北東より)

- 図版 41 SK2014遺物出土状態(1回目) (南東より)
SK2014遺物出土状態(1回目)
SK2014遺物出土状態(2回目)
- 図版 42 SK2015検出状態(西より)
SK2015土師器椀(753)出土状態
SK2015土師器椀(753)出土状態(南より)
SK2029礫出土状態(北より)
SK2052遺物出土状態(南より)
SK2062弥生土器鉢(766)出土状態(東より)
SK2062弥生土器鉢(766)出土状態
- 図版 43 SK2063セクション(北より)
SK2063弥生土器高杯(866)出土状態
SK2072礫出土状態(東より)
SK2074礫出土状態(北東より)
SK2081遺物出土状態(南より)
SK2081弥生土器壺(770・772)出土状態(東より)
SK2081弥生土器壺(770)出土状態
SK2081弥生土器壺(772)出土状態
- 図版 44 SK2090・2091完掘状態(北西より)
SK2090検出状態(北より)
SK2090土師器甕(780)出土状態
SK2090周辺遺構完掘状態(西より)
SK2090完掘状態(北より)
- 図版 45 SK2092(SK2087)遺物出土状態(1回目) (南西より)
SK2092(SK2087)弥生土器壺(1584)出土状態
SK2092(SK2087)弥生土器甕(1587)出土状態
SK2092(SK2087)石製品(1599・1600・1601)出土状態
SK2092(SK2087)遺物出土状態(1回目)
SK2092(SK2087)遺物出土状態(2回目)
SK2094遺物出土状態(西より)
SK2094土師器杯(1603)出土状態
- 図版 46 SK2097検出状態(南より)
SK2097セクション(北西より)
SK2097完掘状態(南より)
SK2098遺物出土状態(東より)
SK2098弥生土器壺(1609)出土状態
SK2098弥生土器壺(1610)出土状態
SK2098完掘状態(西より)

- 図版 46 SK2099弥生土器壺(1622)出土状態(東より)
- 図版 47 SK2147弥生土器甕(788)出土状態(北より)
SK2153土師器椀(881)出土状態
SK2155弥生土器甕(883)出土状態(西より)
SK2155弥生土器甕(883)出土状態
SK2159完掘状態(西より)
SK3001完掘状態(北より)
SK3002磔出土状態(北より)
SK3002完掘状態(北より)
- 図版 48 北区SK3完掘状態(南より)
北区SK3完掘状態(北より)
北区SK4完掘状態(北より)
北区SK6完掘状態(南より)
北区SK7完掘状態(南より)
- 図版 49 I区完掘状態(南より)
集石遺構1セクション(南より)
集石遺構1完掘状態(南より)
I区SD1～3・5・集石遺構1検出状態(北より)
SD2057・2058完掘状態(南東より)
- 図版 50 南区SD5～7完掘状態(南より)
南区SD5～7検出状態(西より)
南区SD5～7磔出土状態(西より)
南区SD6・7磔出土状態(北より)
南区SD1・2完掘状態(東より)
- 図版 51 P2001弥生土器壺(926)出土状態(北西より)
P2037土師器杯(930)出土状態(北西より)
P2075弥生土器甕(936)出土状態
P2209磔出土状態(北より)
P2404弥生土器壺(1002)出土状態(東より)
P2455磔出土状態(南より)
P2453磔出土状態(南より)
P2453須恵器壺(1023)出土状態
- 図版 52 P2518土師器皿(1700)出土状態(北より)
P2518土師器皿(1700)出土状態
P2613土師器皿(1721)出土状態(北より)
P2613土師器皿(1721)出土状態
P2650錢貨(1738)出土状態(北東より)
P2650錢貨(1738)出土状態

- 図版 52 P2672礫出土状態(北西より)
P2758土師器杯(1781)出土状態
- 図版 53 P2803石包丁(1794)出土状態(西より)
P2803石包丁(1794)出土状態
P2982土師器椀(1828)出土状態(西より)
P2982土師器椀(1828)出土状態
P3293土師器椀(1084)出土状態(南より)
P3293土師器椀(1084)出土状態
P3181弥生土器甕(1053)出土状態(南西より)
P3334弥生土器壺(1836)出土状態(南西より)
- 図版 54 北区P1～5検出状態(北より)
北区P2土師器杯(1088)出土状態
北区P1～5完掘状態(北より)
北区P3・4遺物出土状態(西より)
北区P5土師器杯(1093)出土状態
北区P7・10完掘状態(東より)
北区P11遺物出土状態(北より)
- 図版 55 北区P44土師器皿(1102・1103)出土状態(東より)
北区P44土師器皿(1102・1103)出土状態
南区P60土師器杯(1860)出土状態(南西より)
南区P60土師器杯(1860)出土状態
SX1遺物出土状態(南東より)
- 図版 56 SX1遺物出土状態(北より)
SX1弥生土器壺(1114)出土状態
A区包含層土師器皿(1217)出土状態
A区包含層土師器杯(1234)出土状態
A区包含層土師器杯(1237)出土状態
A区包含層土師器甕(1274)出土状態
D区包含層弥生土器鉢(1171)出土状態
D区包含層砥石(1208)出土状態
- 図版 57 D区包含層鉄製品轡(銜)(1410)出土状態
F区包含層石包丁(1933)出土状態
南区包含層弥生土器鉢(1920)・土師器椀(1963)出土状態
南区包含層弥生土器鉢(1920)出土状態
南区包含層土師器杯(1959)出土状態
南区包含層土師器椀(1963)出土状態
G区作業風景(北東より)
K区作業風景(北東より)

- 図版 58 弥生土器(甕)・土師器(甕)
 図版 59 弥生土器(壺・甕)・土師器(甌)・石製品(砥石)・鉄製品(鉄剣)
 図版 60 弥生土器(甕)
 図版 61 弥生土器(壺・高杯)・土製品(支脚)
 図版 62 弥生土器(甕)
 図版 63 弥生土器(壺・甕・高杯)
 図版 64 弥生土器(壺・甕・鉢・高杯)
 図版 65 弥生土器(甕・高杯)・土師器(甕)・須恵器(提瓶)
 図版 66 弥生土器(甕)・土師器(甕)
 図版 67 弥生土器(甕)・石製品(砥石)
 図版 68 弥生土器(壺・甕)
 図版 69 弥生土器(甕)
 図版 70 弥生土器(壺・甕)・土師器(甕)・石製品(叩石)
 図版 71 陶器(德利)・石製品(石斧・台石)
 図版 72 弥生土器(壺・甕)・須恵器(壺)・石製品(叩石)
 図版 73 弥生土器(甕・鉢・蓋)・土師器(甕)
 図版 74 弥生土器(甌)・土師器(甕)・須恵器(壺・甕)
 図版 75 弥生土器(甕・高杯)・須恵器(甕)・白磁(碗)
 図版 76 弥生土器(壺・甕・鉢・高杯)・石製品(叩石)
 図版 77 弥生土器(壺・甕)・土師器(甕・甌)
 図版 78 弥生土器(壺・甕・高杯)・土製品(支脚)
 図版 79 弥生土器(甕)
 図版 80 弥生土器(鉢)・須恵器(壺)・石製品(剥片)
 図版 81 弥生土器(壺)
 図版 82 弥生土器(甕・鉢)・石製品(叩石)
 図版 83 弥生土器(壺・甕)・土師器(杯)
 図版 84 弥生土器(壺・甕・甌)・須恵器(杯蓋)・石製品(石包丁)
 図版 85 弥生土器(壺・鉢)・ミニチュア土器・須恵器(杯身)・石製品(砥石・叩石)
 図版 86 弥生土器(鉢)
 図版 87 弥生土器(甕・鉢)・黒色土器(椀)・土製品(土錘)・石製品(砥石)
 図版 88 弥生土器(鉢)・土製品(支脚)
 図版 89 弥生土器(鉢)・ミニチュア土器・土製品(支脚)・石製品(石包丁)
 図版 90 弥生土器(壺・甕・鉢)・石製品(叩石)
 図版 91 弥生土器(甌・鉢)・小型丸底土器(鉢)
 図版 92 弥生土器(甕・鉢・高杯・器台)・ミニチュア土器・須恵器(蓋)・石製品(石斧・砥石)
 図版 93 弥生土器(壺・鉢・台付鉢・高杯か台付鉢)・石製品(石包丁)
 図版 94 弥生土器(甕・鉢・台付鉢)・石製品(石包丁)
 図版 95 弥生土器(壺・甕・鉢)・土師器(椀)・鉄製品(刀子)

- 図版 96 弥生土器(壺・鉢・台付鉢・高杯)・土師器(椀)・緑釉陶器(皿)・陶器(瓶)・石製品(叩石)
- 図版 97 土師器(皿・杯)・須恵器(蓋)・石製品(石包丁・砥石)・鉄製品(刀子)
- 図版 98 弥生土器(壺・甕)・土師器(皿・杯・椀)・手づくね土器
- 図版 99 弥生土器(甕・鉢・高杯)・小型丸底土器(鉢)・石製品(石包丁)
- 図版 100 石製品(石包丁・石斧・砥石・叩石)
- 図版 101 土師器(皿・台付皿・杯)・手づくね土器・石製品(叩石)
- 図版 102 土師器(杯)・須恵器(杯蓋・杯・円面硯)・緑釉陶器(碗)・鉄製品(鉄斧・轡(銜))
- 図版 103 弥生土器(鉢)・土師器(杯か高杯)・須恵器(杯蓋)・石製品(石包丁)・鉄製品(刀子)
- 図版 104 弥生土器(鉢・高杯)・土師器(杯)・土製品(不明)・石製品(剥片か)
- 図版 105 弥生土器(壺・甕・鉢)・土師器(杯)・石製品(剥片)・鉄製品(刀子)
- 図版 106 土師器(皿・杯)・須恵器(杯)・石製品(石包丁)・銅製品(鏡か)
- 図版 107 土師器(皿・杯)・須恵器(高杯)・緑釉陶器(碗)・銭貨・石製品(石包丁)
- 図版 108 弥生土器(甕)・土師器(杯・椀)・石製品(土掘り具か石包丁)
- 図版 109 弥生土器(鉢)・石製品(石包丁・石斧・紡錘車)
- 図版 110 土師器(杯・椀)・須恵器(蓋)・石製品(管玉)・鉄製品(馬具か)
- 図版 111 緑釉陶器(碗・皿・不明)
- 図版 112 黒色土器(椀)
- 図版 113 瓦器(皿・椀)
- 図版 114 青磁(碗)
- 図版 115 白磁(碗)
- 図版 116 製塩土器・陶器(壺・甕)
- 図版 117 瓦(丸瓦・平瓦)
- 図版 118 鉄製品(鋤先)

付 図

西野遺跡 二・四次調査遺構配置図(S=1/200)

第三章 南部調査区の調査成果

1. 調査の方法

原則として、宅地開発計画の内、幅員6mの道路及び、その両側3mの浄化槽設置予定範囲の4,500㎡の南部について調査を実施した。調査に際しては、任意の座標軸を採用した。4mごとのグリッドを設定し、東西方向については東部隅を起点としたアルファベット、南北方向は北部隅を起点として、位置情報の記録を行なった。任意座標軸の北は、公共座標軸より17度東傾する。

調査区名については掘削順にアルファベットを付したが、検出遺構については全調査区を通して続き番号を付した。遺構番号を付したのは、全ての竪穴建物跡及び溝跡、遺物が出土した土坑・ピット等である。掘立柱建物については、調査時には個別のピットとして記録を取り、整理作業の際に遺構番号を付した。

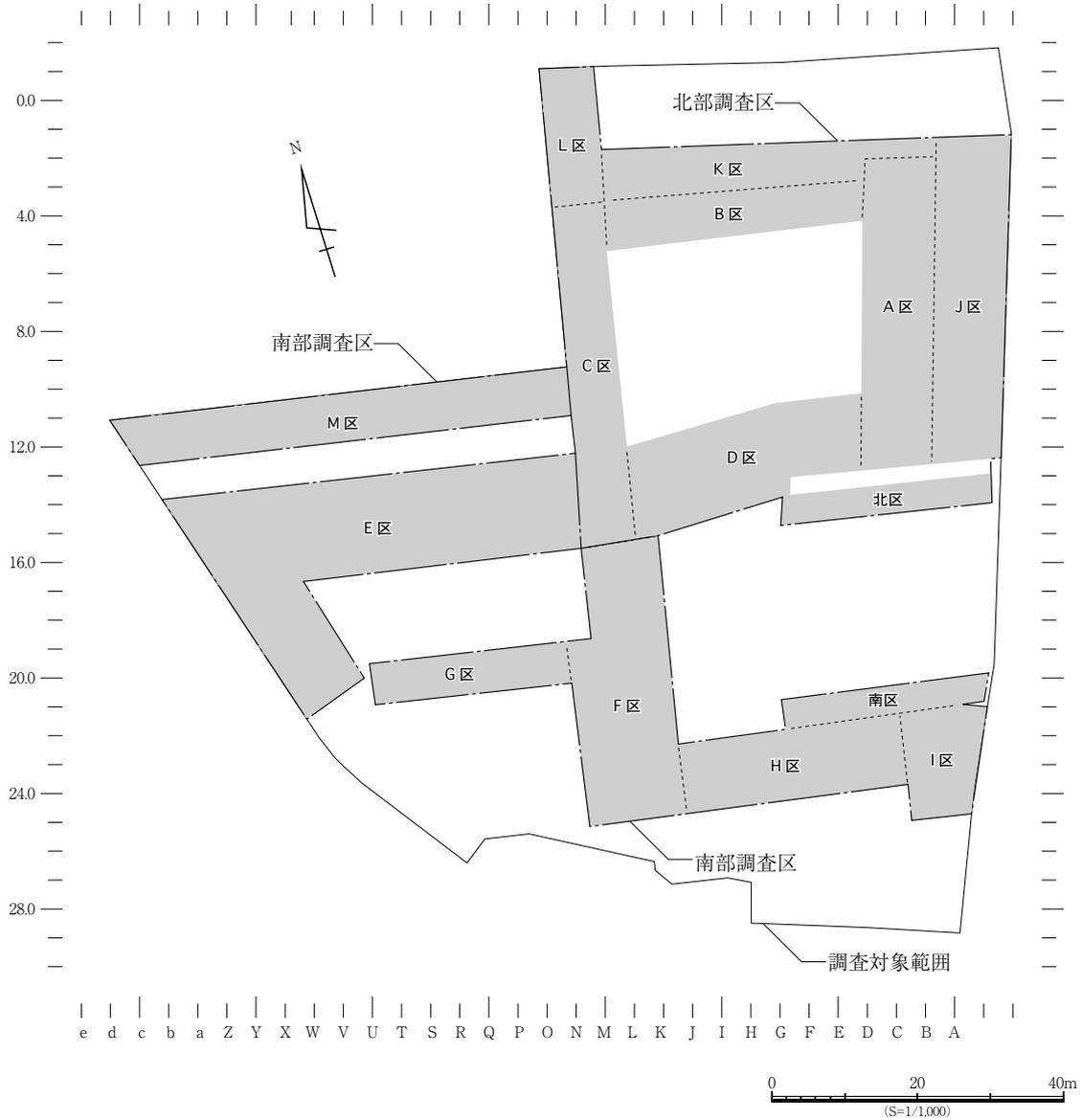


図3-1 調査区位置図・グリッド設定図

発掘調査は、耕作土及び包含層の直上まで重機を用いて堆積土を除去し、包含層掘削・遺構検出・遺構埋土掘削を手作業で進めた。遺構の実測については、平面及び断面を縮尺20分の1、出土状態など必要に応じて縮尺10分の1等の図を作成し、記録を行なった。

2. 調査区の概要と基本層序

調査区の基本層序は第一分冊で先述のため、ここでは概略のみに留める。遺構検出面の標高は東部J区で17.90～18.10m、西部E区で17.20～17.80m、南部H区で17.40～17.60m、北部K区で17.80～18.10mである。調査区全体では北東部の標高が高く、南西部へ向かって僅かに傾斜する野市台地のほぼ西端部に位置する。表土直下には後述の遺構の帰属時期と同様の遺物包含層が残存する。

3. 検出遺構と出土遺物

二及び四次調査では、竪穴建物跡29棟、土坑94基、溝跡73条、ピット多数の遺構を検出した。遺構検出面は1面のみで、異なる時期の遺構が同一面で確認された。出土遺物から確認できる時期は、弥生時代前期末、弥生時代終末期から古墳時代初頭、古墳時代後期、古代、古代末から中世前期、近世から近代と多岐に渡る。占める割合としては弥生時代終末期から古墳時代初頭、次に古墳時代後期、これに次いで古代から中世前期の遺物が確認されている。一方、いくつかの時期の遺物が混在して出土した遺構も多く、遺構の時期の特定が困難なものも多い。ここでは、調査区全体の内、主に南部のE～I・M区と四次調査(平成19年度)の南区で検出した遺構及び出土遺物について報告する。二次調査の後、四次調査の遺構番号の若いものから順に掲載する。一部、異なる調査区内に同一の遺構番号のものがあるが、遺構番号の後の括弧内に調査区を示し、調査時のものを採用した。

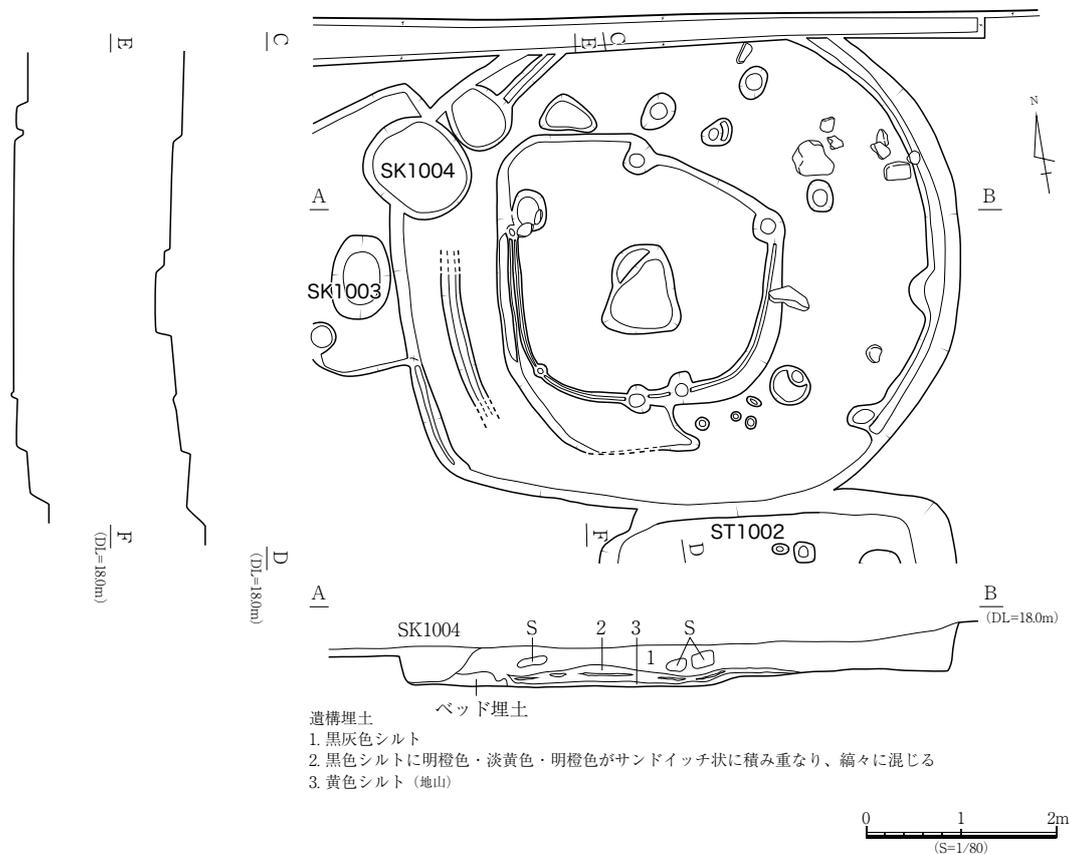


図3-3 ST1001遺構図

3. 検出遺構と出土遺物

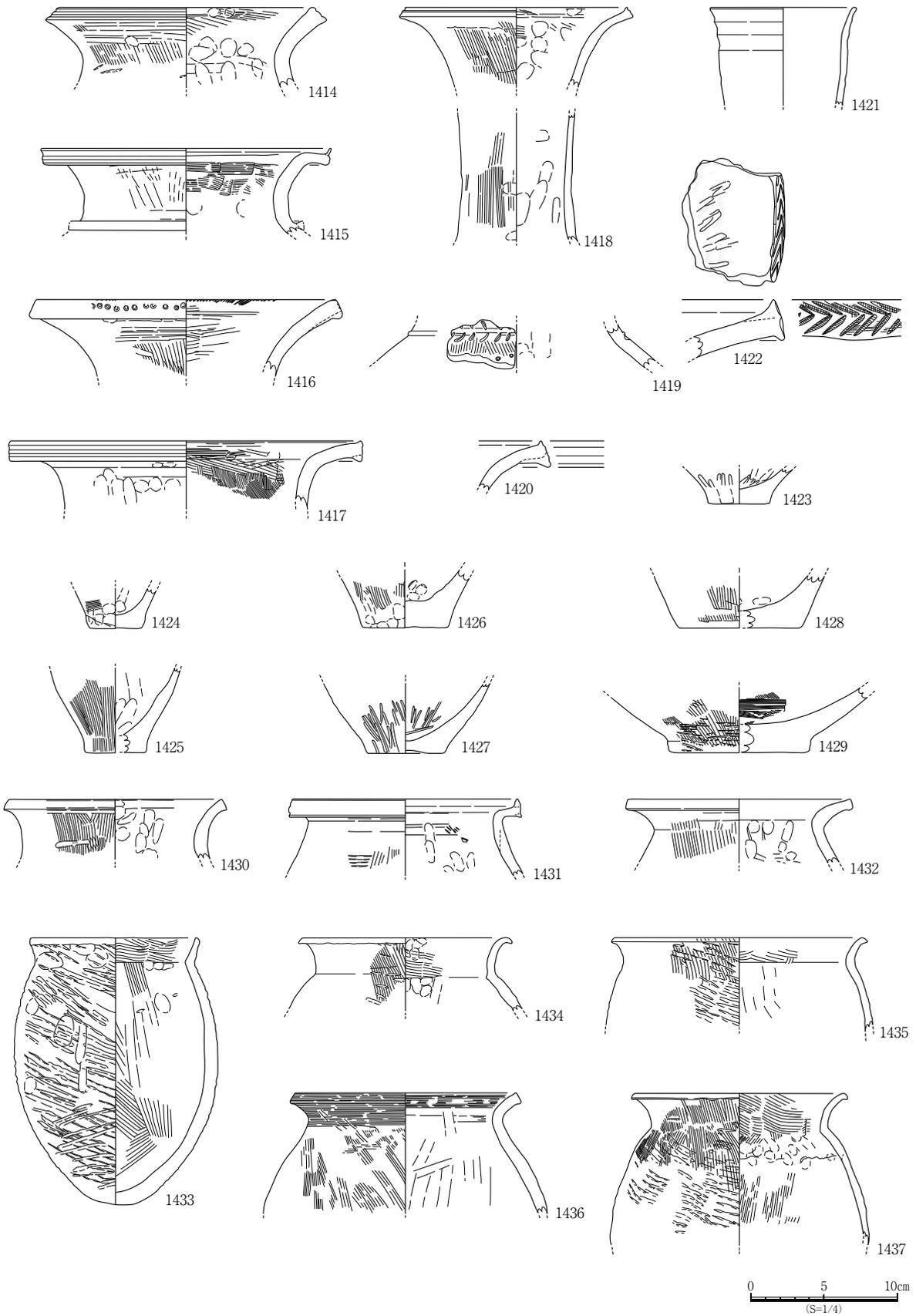


図3-4 ST1001出土遺物実測図1

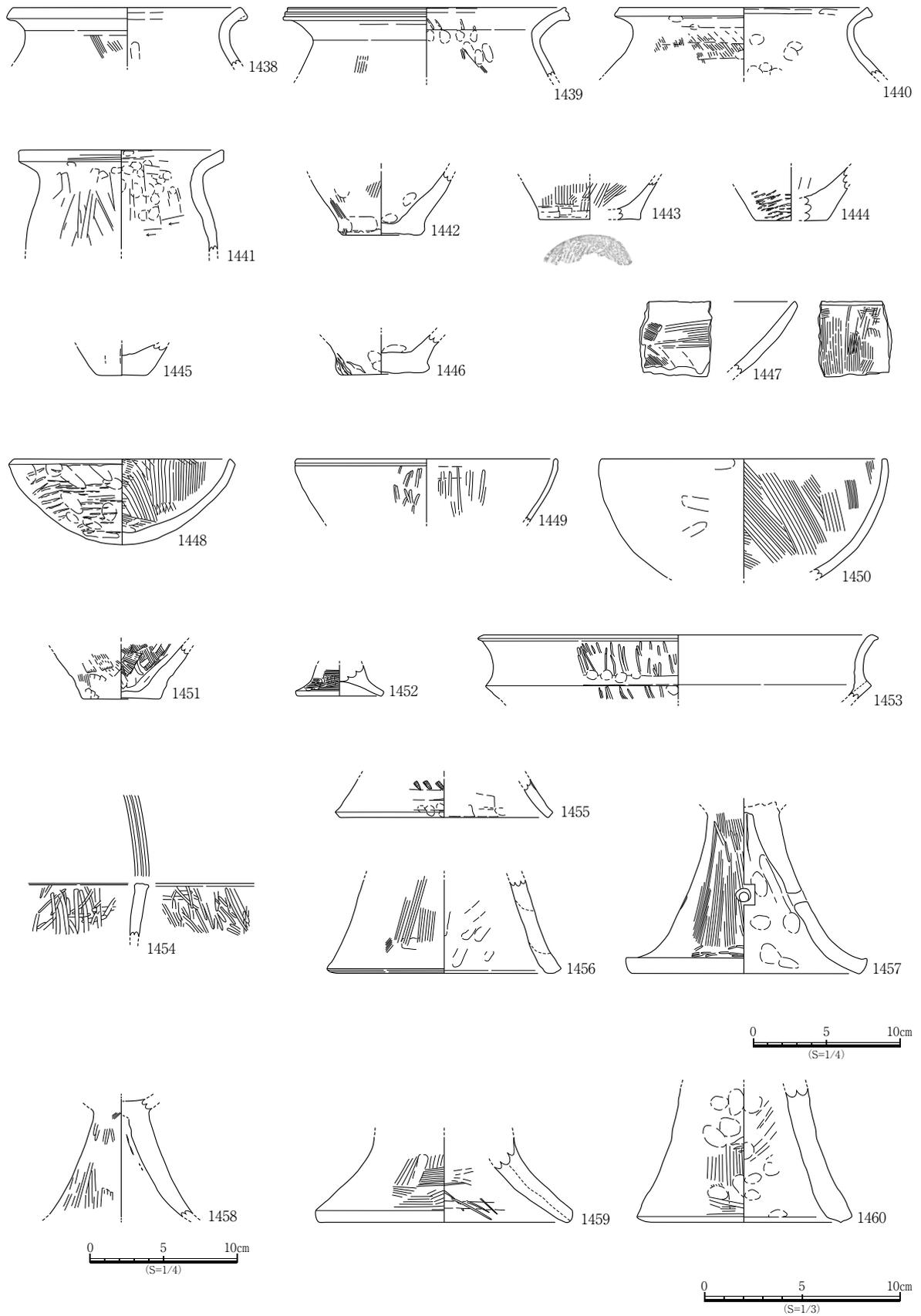


図3-5 ST1001出土遺物実測図2

3. 検出遺構と出土遺物



図3-6 ST1001出土遺物実測図3

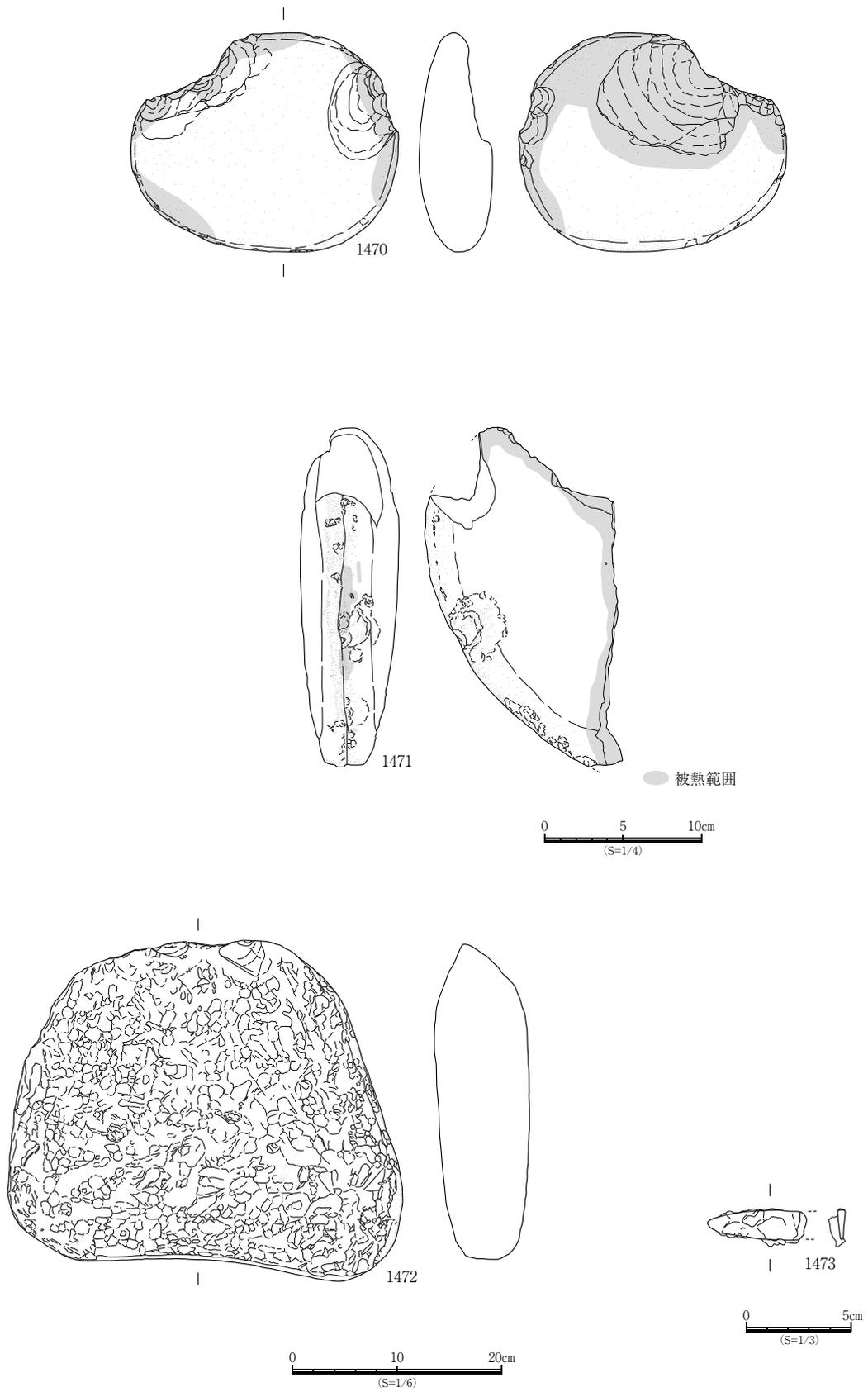


図3-7 ST1001出土遺物実測図4

3. 検出遺構と出土遺物

(1) 竪穴建物跡

竪穴建物跡は異なる時期の遺構との切り合いが多く、出土遺物の混入もみられるが、概ね弥生時代終末期から古墳時代初頭、古墳時代後期の2時期のものが検出された。調査時の切り合い関係の記録が乏しく、整理作業の際に確定できた別時期の遺構については破線、判然としないものについては実線で床面検出遺構と同様の表記とした。出土遺物実測図については器種器形ごとに図示し、詳細については、遺物観察表に記す。

ST1001

H区中央北部で検出した円形を呈する竪穴建物跡で、調査区北部へ延びる。長軸は5.92m、短軸は5.12m以上を測り、面積は約25.09㎡以上である。標高17.35～17.74mで検出し、深さは約0.48～0.64m、床面の標高は約17.15mを測る。床面中央部やや西寄りに長軸3.00m、短軸2.80m、比高差約0.12mの不整円形の段部を有し、標高は17.00mである。床面周縁と段部周縁に壁溝が巡る。段部の周縁に支柱穴とみられるピットを4個確認した。出土遺物は弥生土器・土製品・石製品・鉄製品等で、1414～1473を図示した。

ST1002

H区中央南部で検出した隅丸方形を呈する竪穴建物跡で、調査区南部へ延びる。長軸は4.24m、短軸は2.56m以上を測り、面積は約10.85㎡以上である。標高17.42～17.76mで検出し、深さは約0.40m、床面の標高は約17.45mを測る。支柱穴については判然としない。出土遺物は石製品等で、1474を図示した。

ST2022

E区中央南部で検出した円形を呈する竪穴建物跡で、調査区南部へ延びる。長軸は6.92m、短軸は3.68m以上を測り、面積は約18.58㎡以上である。標高17.83～17.95mで検出し、深さは約0.32m、床面の標高は約17.53mを測る。東西の床面周縁に壁溝が巡り、支柱穴は判然としないが、中央に中央ピットを有する。床面中央ピット北部で焼土を検出し、この面では炭化した木片と完形に近い弥生土器(1476・1480)・石包丁(1488)が出土した。その他、埋土中の出土遺物は弥生土器・ミニチュア土器・土師器・石製品等で、1475～1489を図示した。

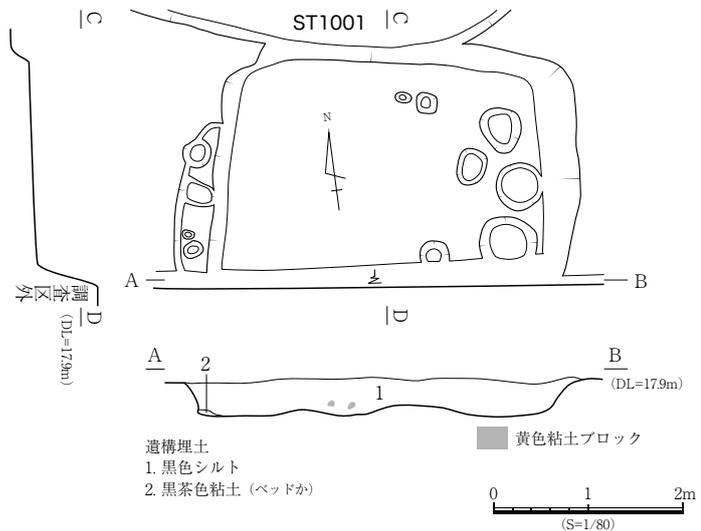


図3-8 ST1002遺構図

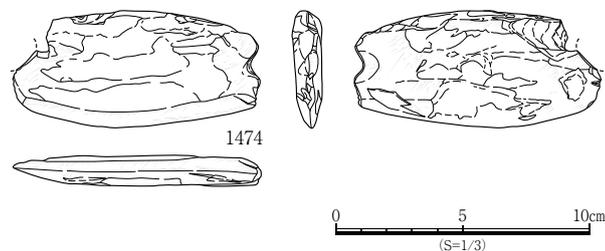
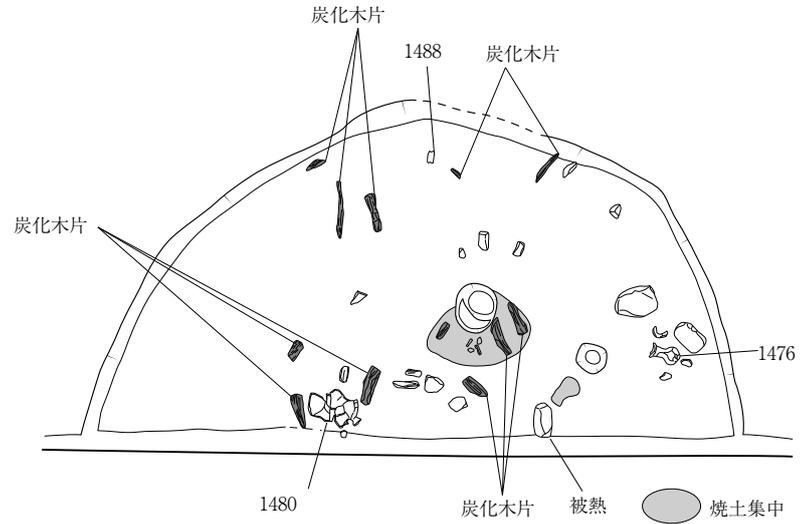


図3-9 ST1002出土遺物実測図



ST2022 焼土・炭化物・遺物出土状態

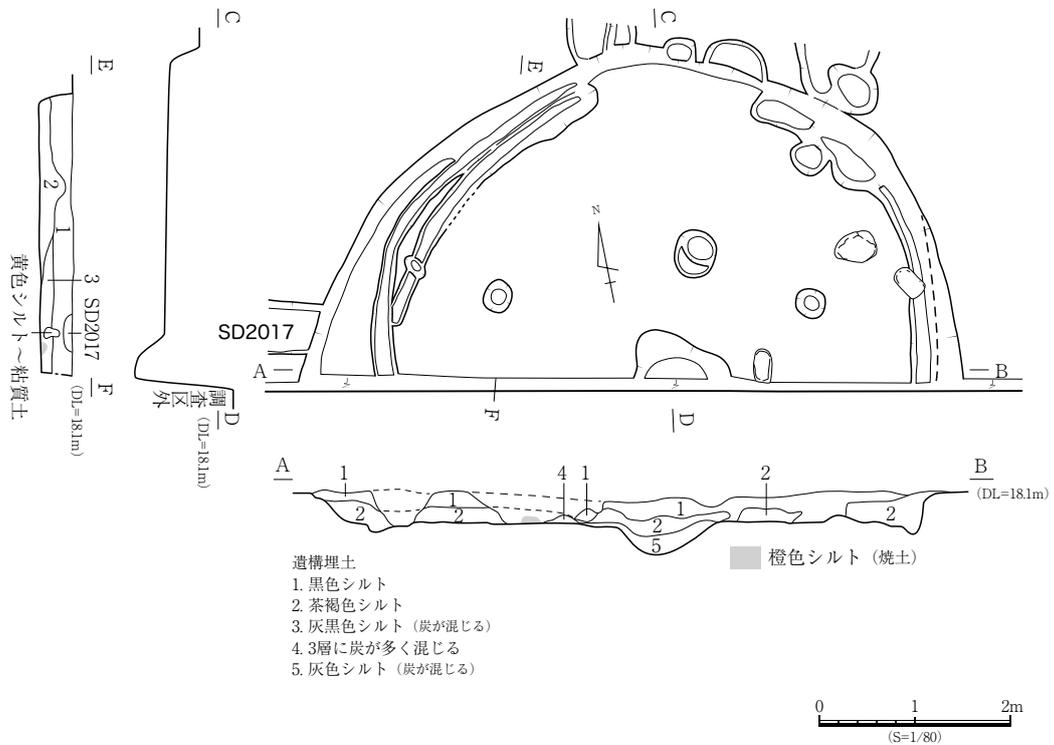


図3-10 ST2022遺構図

3. 検出遺構と出土遺物

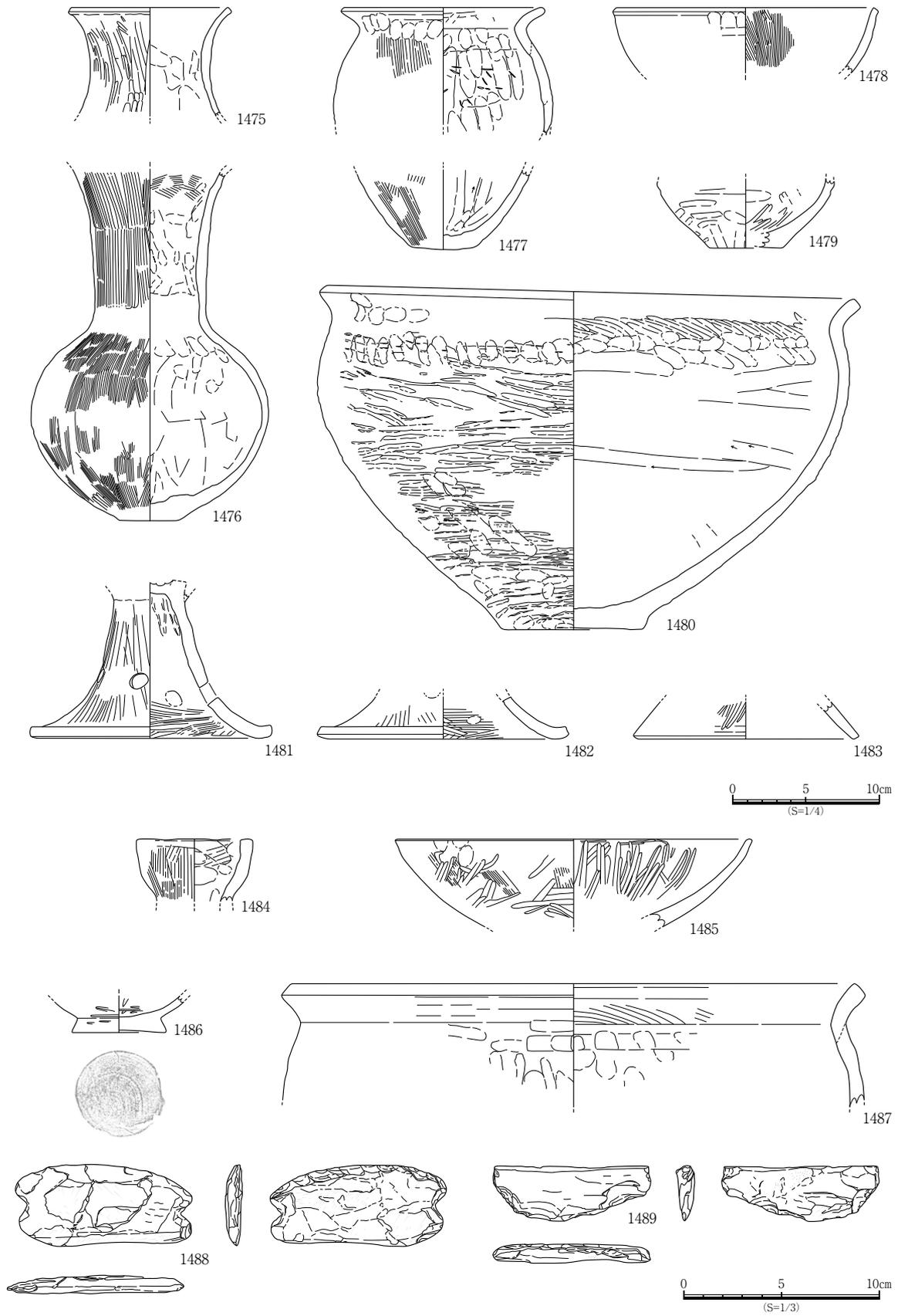


図3-11 ST2022出土遺物実測図

ST2023

F区南西部で検出した隅丸方形形状を呈する竪穴建物跡で、長軸は5.40m、短軸は4.72mを測り、面積は約25.48㎡である。標高17.53～17.66mで検出し、深さは約0.24m、床面の標高は約17.35mを測る。主軸方向はN-4°-Wで、床面西部中央部にカマドを有する。今次調査では西部にカマドを有する竪穴建物跡はこの1棟のみである。床面で複数の小ピットを検出したが、支柱穴については判然としない。床面東部には長軸3.20m、短軸0.48m、床面との比高差約10cmの段部を有する。出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器・石製品等で、1490～1498を図示した。

ST2024

F区南部で検出した隅丸方形形状とみられる竪穴建物跡で、調査区南部へ延びる。長軸は5.16m、短軸は1.72m以上を測り、面積は約8.88㎡以上である。標高17.53mで検出し、深さは約0.28m、床面の標高は約17.28mを測る。床面北部中央にカマドを有する。床面で複数の小ピットを検出したが、支柱穴については判然としない。床面北部に長軸2.40m、短軸1.12mの段部を有する。出土遺物は土師器・須恵器等で、1499～1505を図示した。

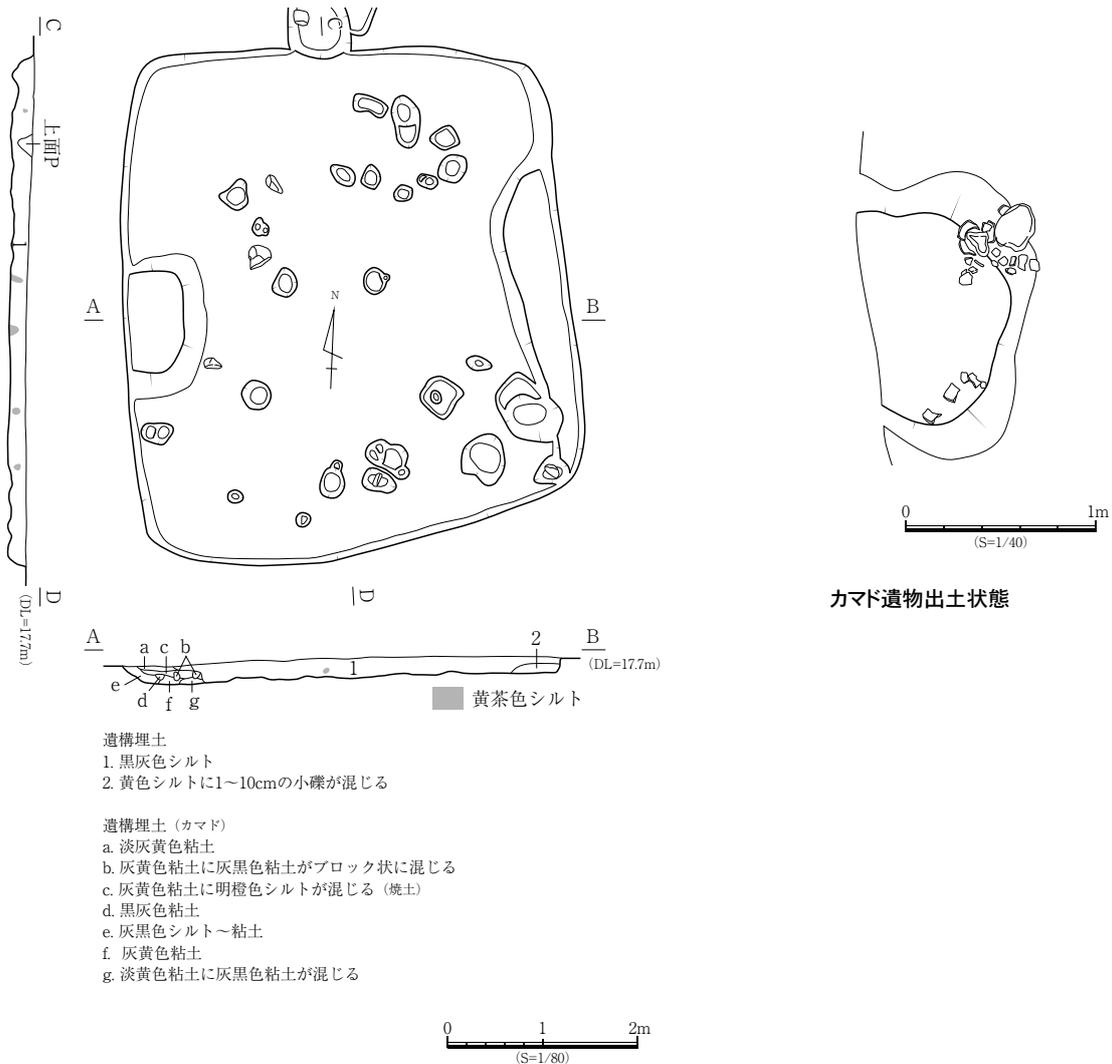


図3-12 ST2023遺構図

3. 検出遺構と出土遺物

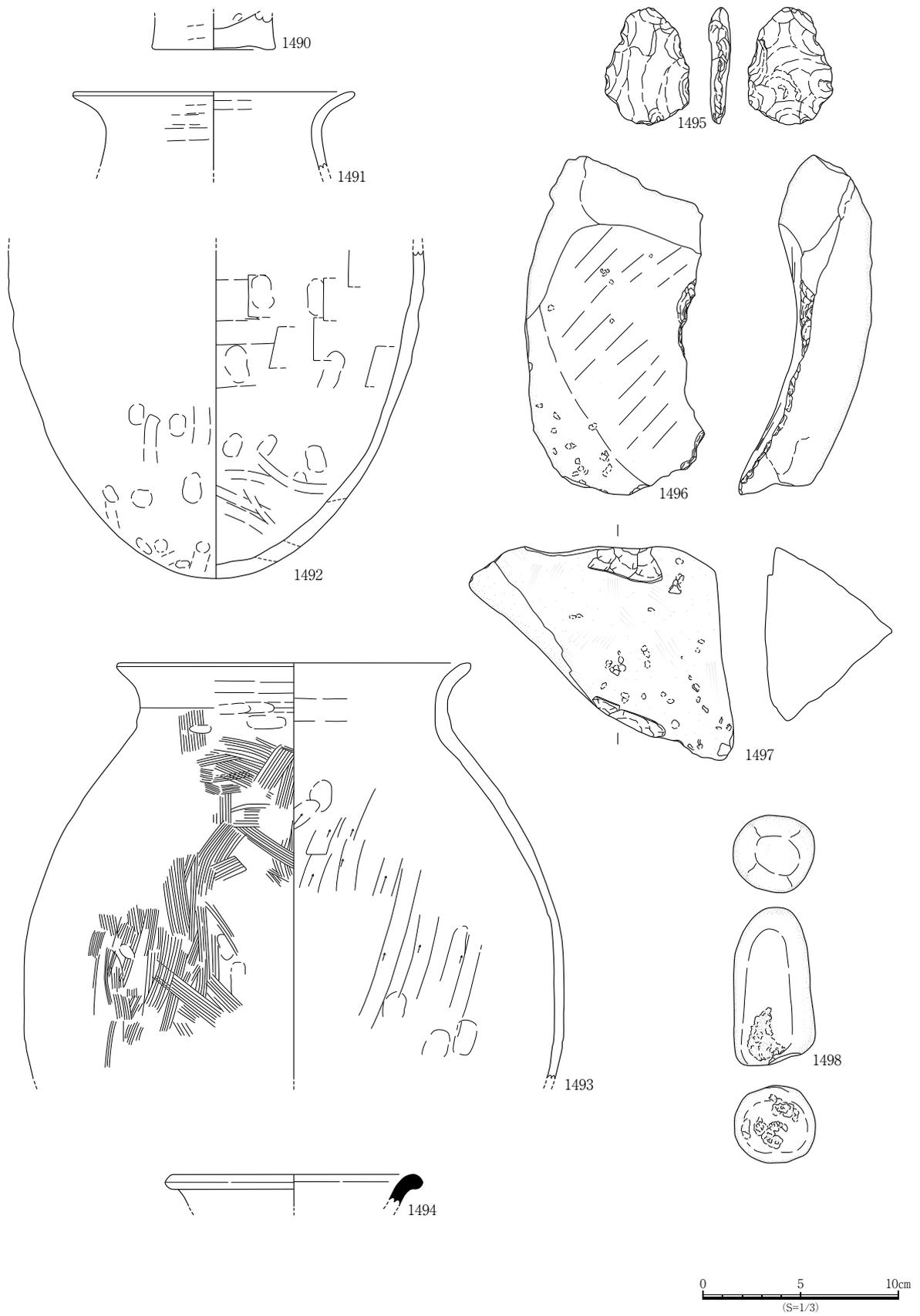


图3-13 ST2023出土遺物実測図

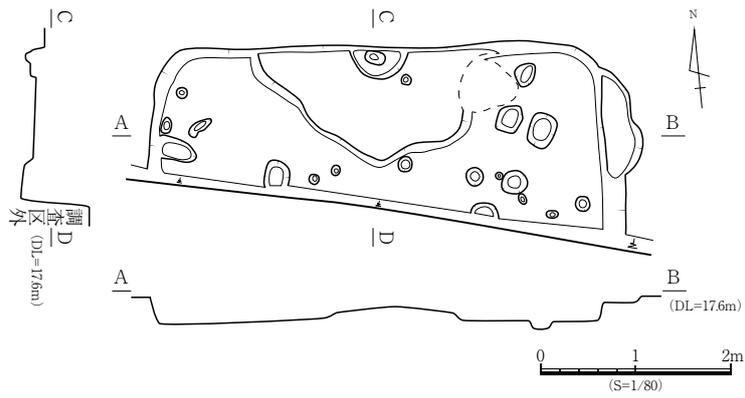


図3-14 ST2024遺構図

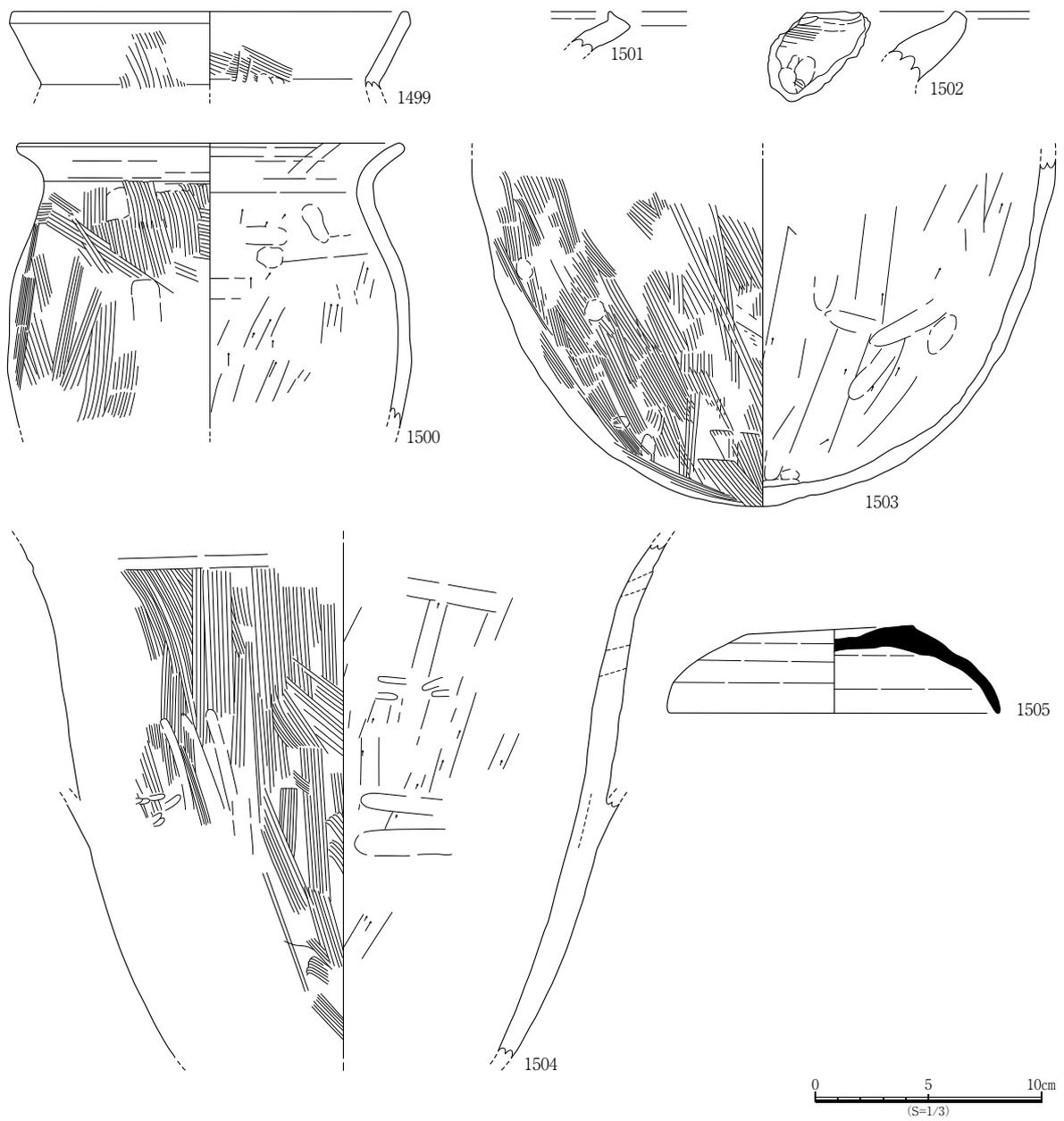


図3-15 ST2024出土遺物実測図

3. 検出遺構と出土遺物

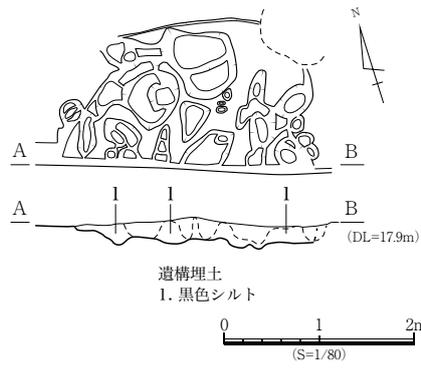


図3-16 ST1遺構図

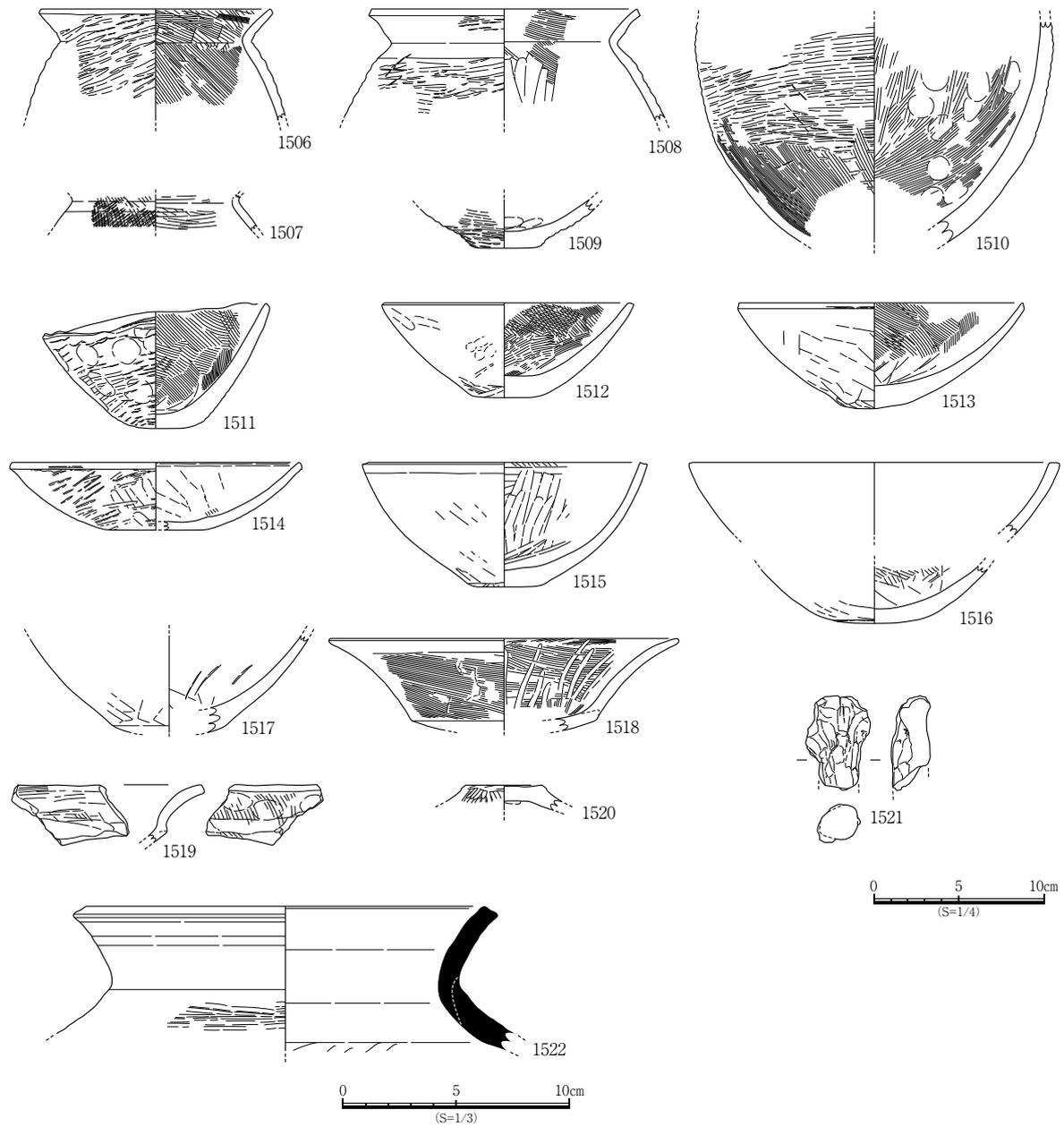


図3-17 ST1出土遺物実測図

ST1

南区南西部で検出した不整円形とみられる竪穴建物跡で、調査区南部へ延びる。長軸は2.68m、短軸は1.51m以上を測り、面積は約2.82㎡以上である。標高17.77mで検出し、深さは約0.16m、床面の標高は約17.60mを測る。上面遺構による攪乱が著しく、主柱穴については判然としない。出土遺物は弥生土器・土製品・須恵器等で、1506～1522を図示した。

(2)掘立柱建物跡・柵列

掘立柱建物跡は、調査区南部で1棟を検出した。その他、調査区外に延びる可能性があるが、柱穴列として捉えられるものは、柵列として報告する。一部土坑として記録されたものもあるが、遺構番号は変更せず、調査時のものを採用している。尚、先述の通り出土遺物の詳細については遺物観察表に記す。

SB7

F区中央部で検出した桁行3間(6.17m)、梁行2間(4.53m)の南北棟建物跡で、主軸方向はN-11°-Eである。柱間距離は桁行1.93～2.21m、梁行2.15～2.40m、面積は27.95㎡を測る。柱穴の掘方は円形又は楕円形で、不整隅丸形状のものも見られる。妻側柱列の外部に棟持柱を立てる独立棟持柱又は、近接棟持柱を有する。構成するピットの径は0.46～1.04mで、深さは約0.34～0.58mを測る。出土遺物はP2720・P2739・P2744から出土した土師器・須恵器・弥生土器等で、1523～1526を図示した。

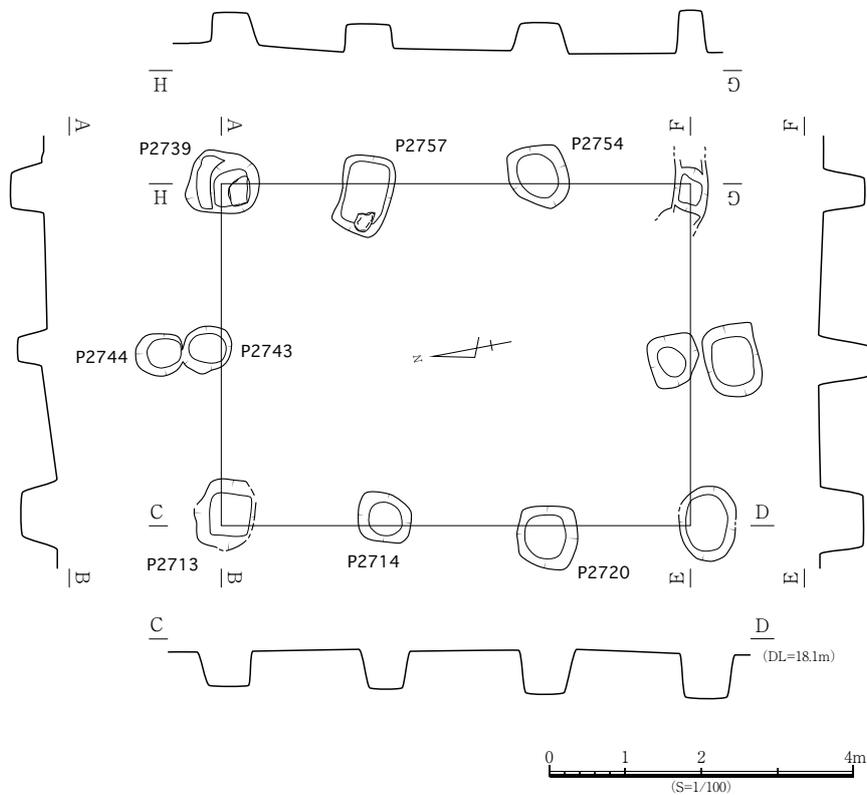


図3-18 SB7遺構図

3. 検出遺構と出土遺物

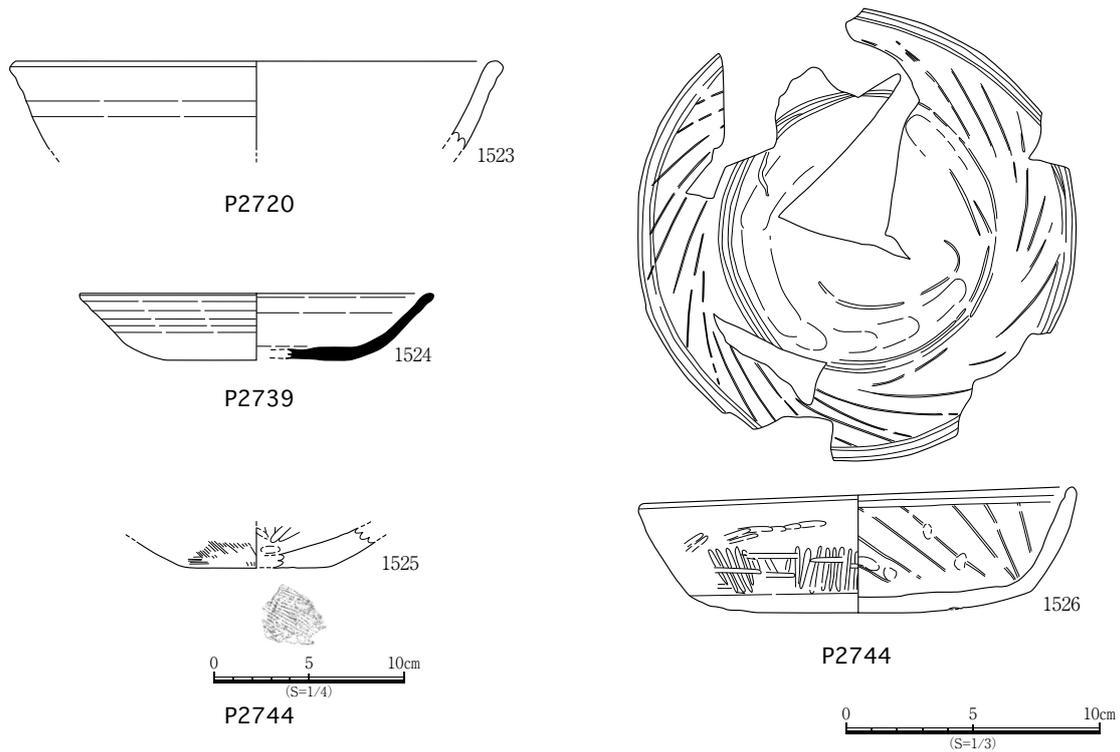


図3-19 SB7出土遺物実測図

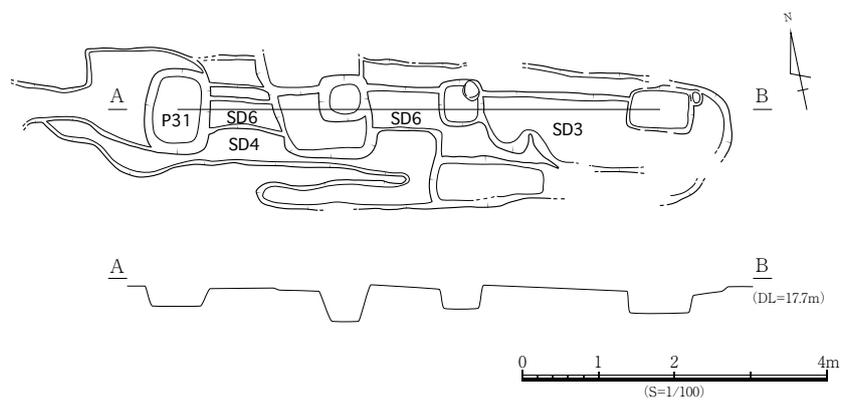


図3-20 SA1遺構図

SA1

G区西部で検出した4個のピットで構成された柵列で、延長6.34m、主軸方向はN-78°-Wである。柱穴の掘方は隅丸方形で、柱間距離は1.50~2.61mを測る。SD3・4・6と同様の主軸方向で、関連した遺構と見られる。構成するピットの径は0.65~1.13m、深さは0.24~0.48mである。図示できる遺物は出土しなかった。

(3)土坑

調査時に土坑と判断し、SKと付されたものを対象とした。規模の大きな柱穴状の遺構も含まれているが、掘立柱建物跡の柱穴と判断できるもの以外は土坑として報告する。原則として全調査区を通して連続する番号が付されているが、例外として同じ遺構番号が付されたものが複数ある場合は、遺構名の後に調査区を括弧書きで記した。遺構の時期は、弥生時代前期末、弥生時代終末期から古墳時代初頭、古墳時代後期、古代、古代末から中世前期、近世から近代である。他遺構からの混入遺物も多く見られるが、調査時の記録を元に報告を行う。出土遺物の詳細については、遺物観察表に記す。

SK1 (F区)

F区中央部で検出した楕円形の土坑である。長軸は3.78m、短軸は2.13mを測り、検出面からの深さは約0.12～0.22mである。ごく浅い土坑であるが、西部で5～45cm程度の礫が大量に出土した。出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器・白磁等で、1527～1537を図示した。

SK1 (G区)

G区中央北部で検出した楕円形又は不整隅丸方形の土坑である。長軸は2.61m以上、短軸は2.35mを測り、検出面からの深さは約0.49～0.58mである。出土遺物は弥生土器等で、1538～1546を図示した。

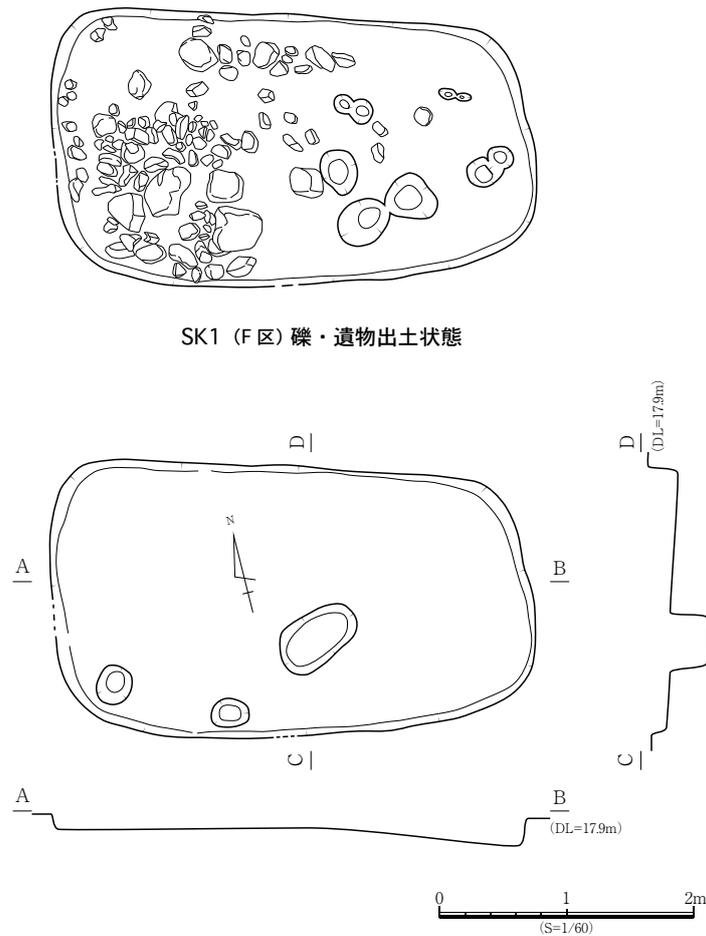


図3-21 SK1 (F区)遺構図

3. 検出遺構と出土遺物

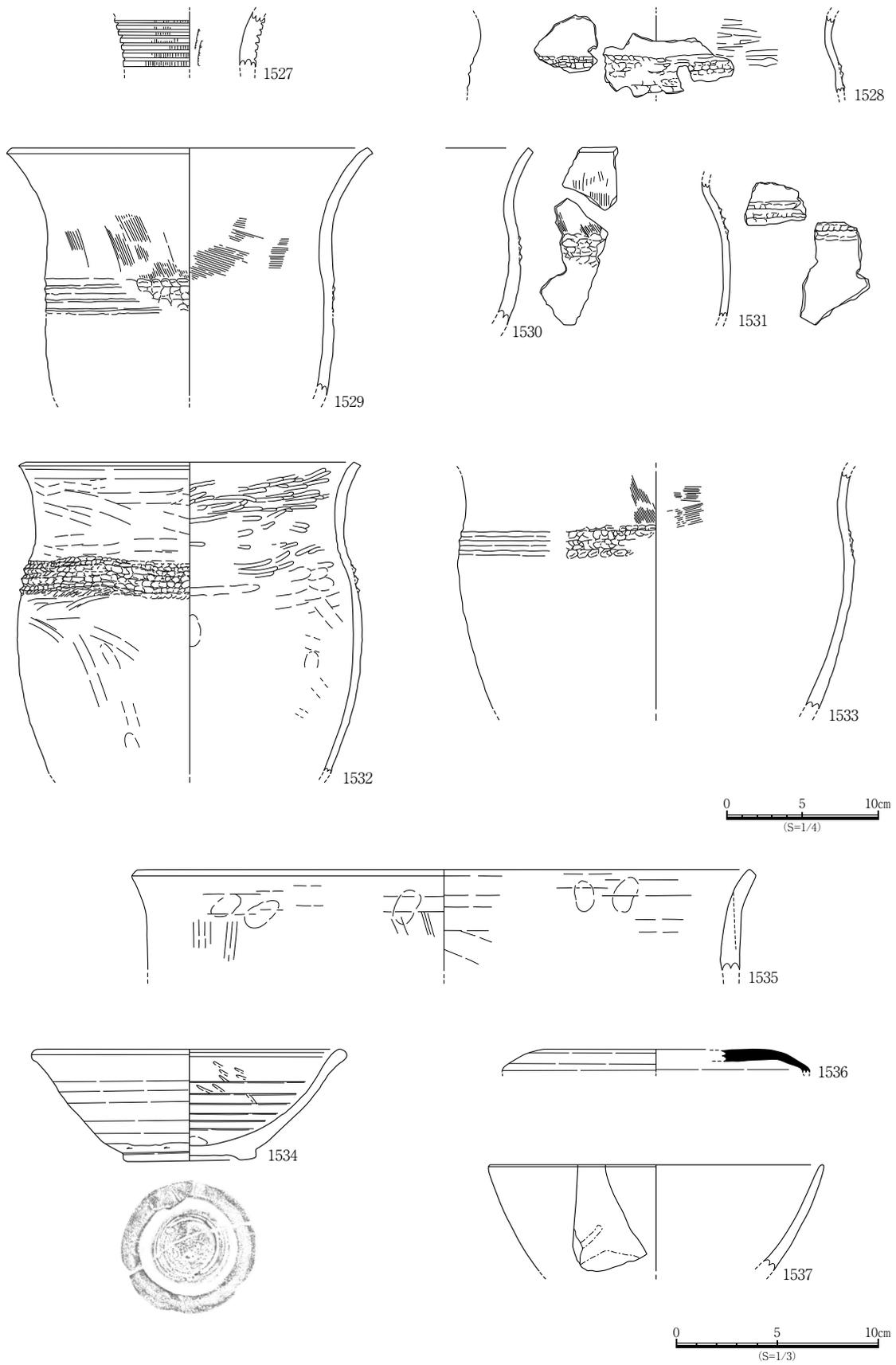


図3-22 SK1 (F区)出土遺物実測図

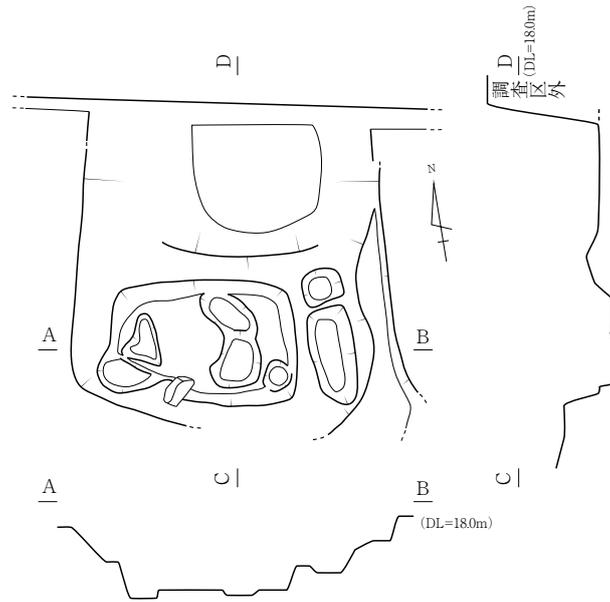


図3-23 SK1 (G区)遺構図

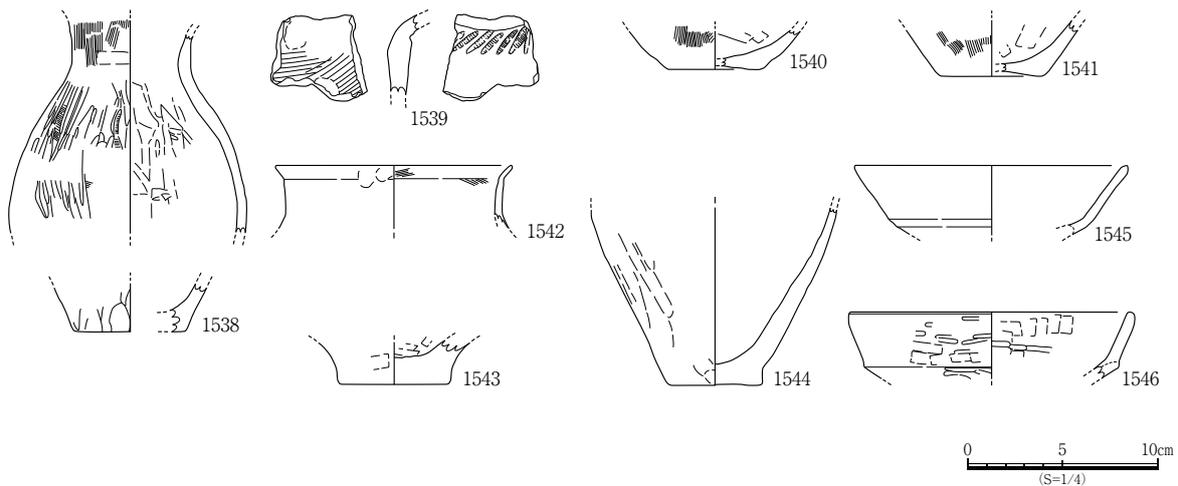


図3-24 SK1 (G区)出土遺物実測図

SK1 (M区)

M区中央部で検出した楕円形の土坑である。長軸は4.83m、短軸は1.89mを測り、検出面からの深さは約0.09～0.51mである。南北に浅いテラス状の段部を有し、南部で小ピットが検出された。出土遺物は土師器・石製品等で、1547～1556を図示した。

SK2 (F区)

F区中央部で検出した不整隅丸方形の土坑である。長軸は3.23m、短軸は2.89mを測り、検出面からの深さは約0.35mである。南北にテラス状の段部を有し、西部にピットが2個検出された。出土遺物は弥生土器・土製品等で、1557～1562を図示した。

SK3 (F区)

F区中央部で検出した楕円形とみられる土坑である。長軸は4.03m、短軸は2.62mを測り、検出面

3. 検出遺構と出土遺物

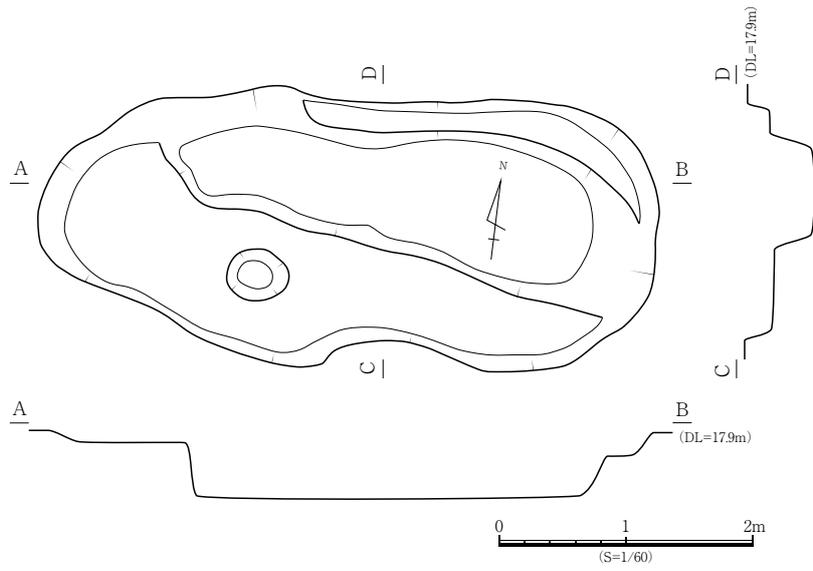


図3-25 SK1 (M区)遺構図

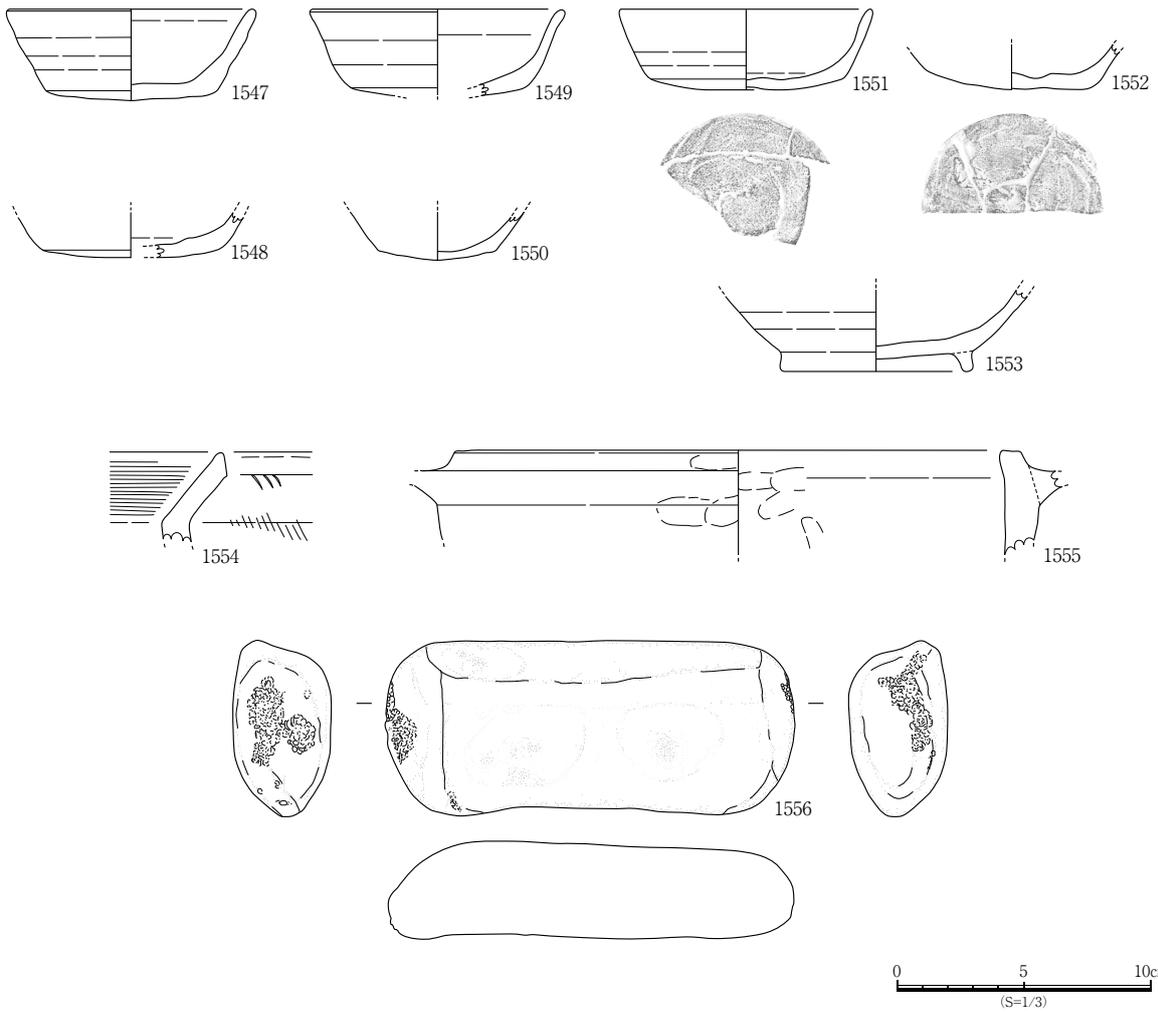


図3-26 SK1 (M区)出土遺物実測図

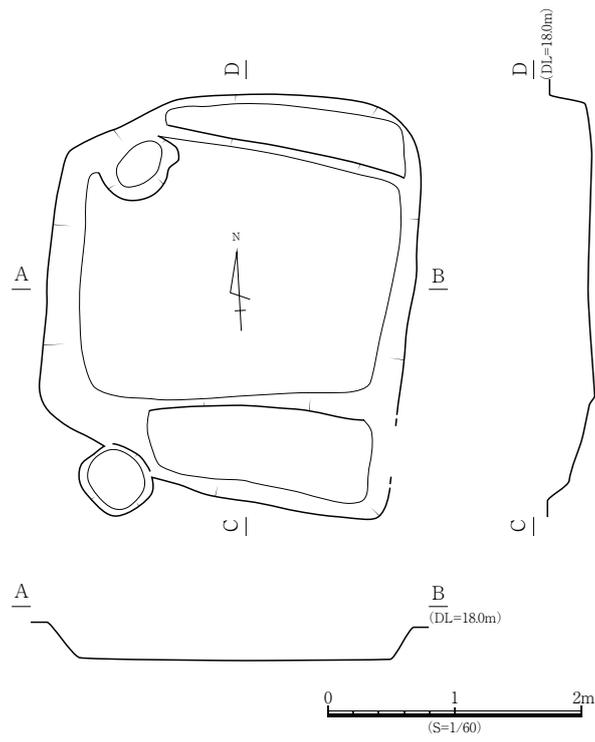


図3-27 SK2(F区)遺構図

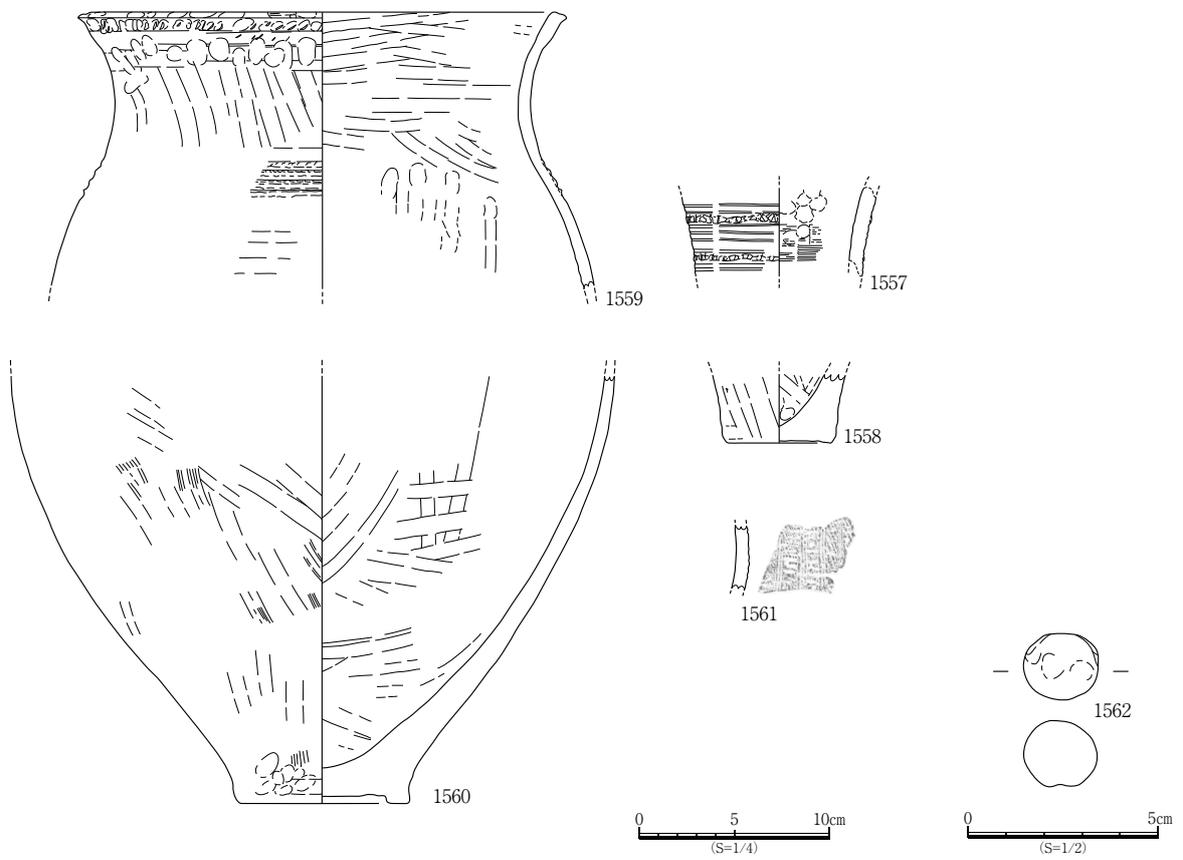


図3-28 SK2(F区)出土遺物実測図

3. 検出遺構と出土遺物

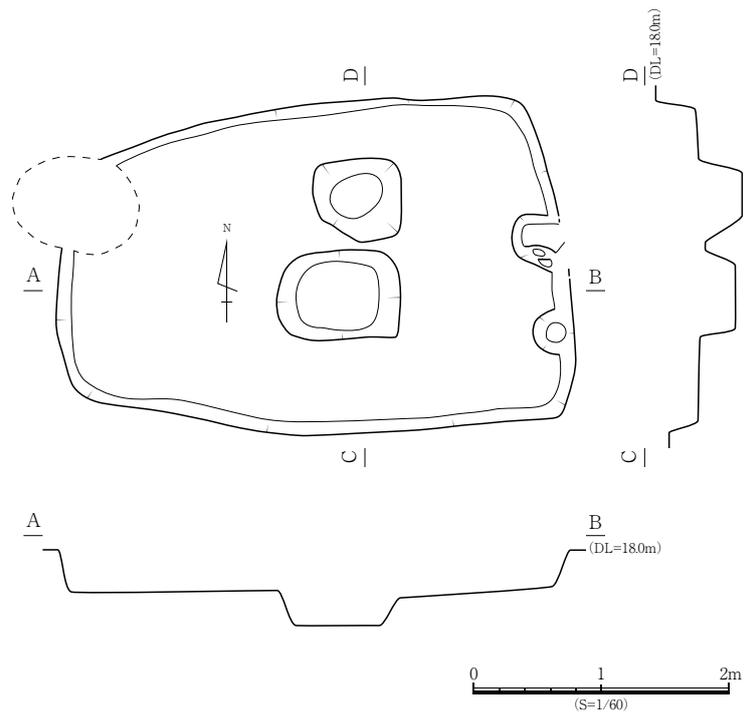


図3-29 SK3 (F区) 遺構図

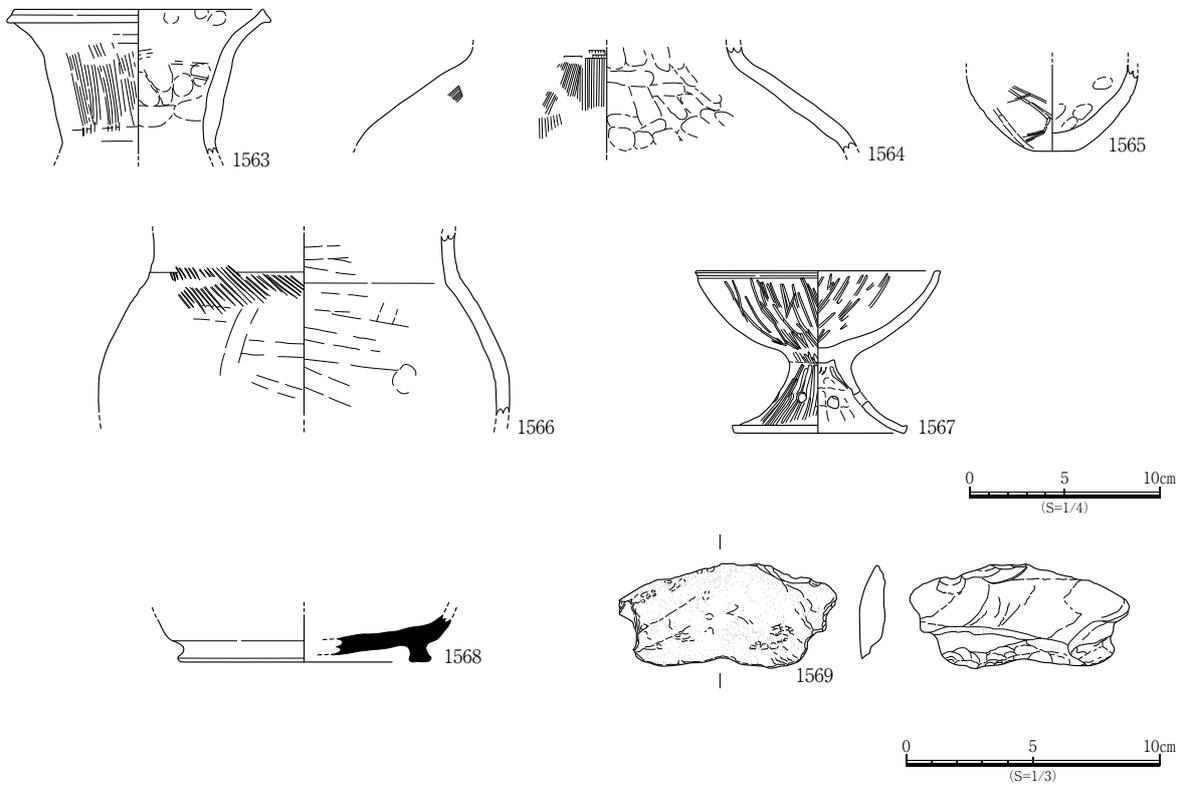


図3-30 SK3 (F区) 出土遺物実測図

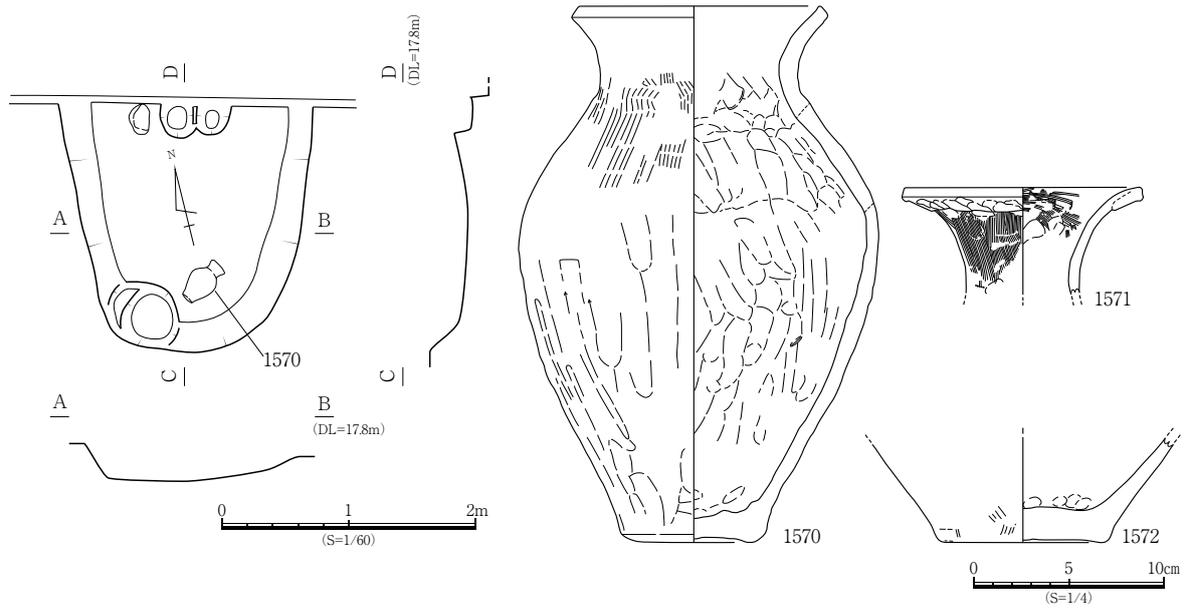


図3-31 SK3(G区)遺構図・出土遺物実測図

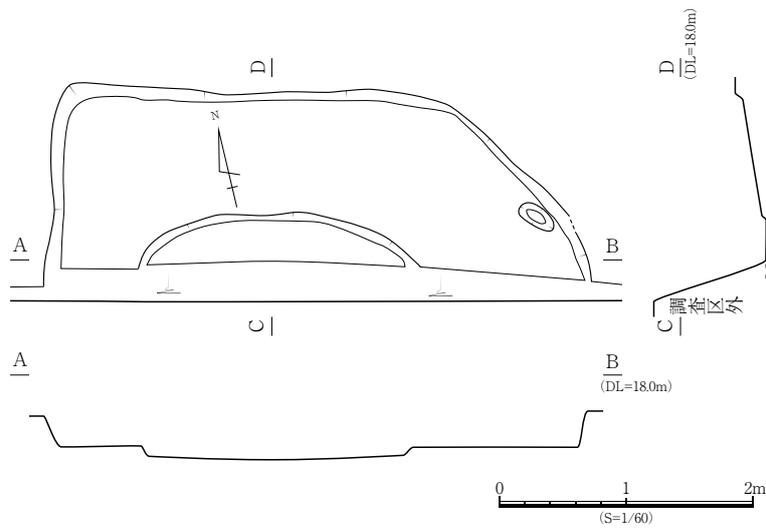


図3-32 SK5遺構図

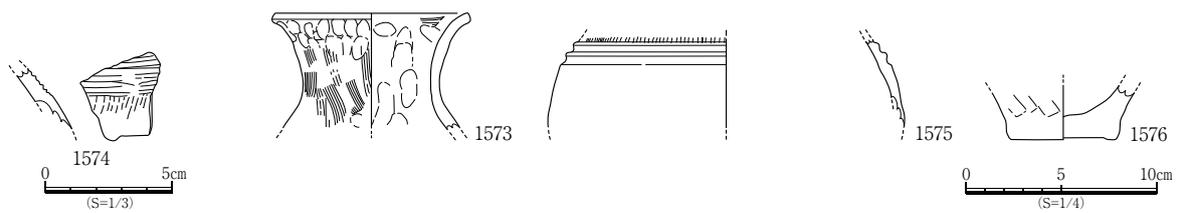


図3-33 SK5出土遺物実測図

3. 検出遺構と出土遺物

からの深さは約 0.32～0.65m である。床面中央部で 2 個、東部で 2 個のピットを検出した。出土遺物は弥生土器・須恵器・石製品等で、1563～1569 を図示した。

SK3 (G区)

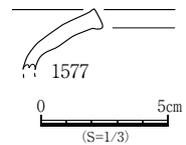
G 区中央部で検出した楕円形とみられる土坑である。長軸は 2.03m 以上、短軸は 2.01m を測り、調査区北部へ延びる。床面で完形の弥生土器甕(1570)が出土した。検出面からの深さは約 0.11～0.28m である。出土遺物は弥生土器等で、1570～1572 を図示した。

SK5

G 区中央部で検出した隅丸多角形とみられる土坑で調査区南部へ延びる。長軸は 4.31m、短軸は 1.67m 以上を測り、検出面からの深さは約 0.24～0.37m である。中央部に楕円形状の浅い段部を有する。出土遺物は弥生土器等で、1573～1576 を図示した。

SK1001

I 区南部で検出した楕円形の土坑である。長軸は 0.80m、短軸は 0.59m を測り、検出面からの深さは約 0.29m である。出土遺物は弥生土器等で、1577 を図示した。



SK1003

H 区西部で検出した楕円形の土坑である。長軸は 0.89m、短軸は 0.61m を測り、検出面からの深さは約 0.49m である。出土遺物は弥生土器・土製品等で、1578～1580 を図示した。

図3-34
SK1001 出土遺物
実測図

SK1006

H 区中央部で検出した円形又は楕円形の土坑である。長軸は 0.62m、短軸は 0.45m 以上を測り調査区南部へ延びる。検出面からの深さは約 0.18～0.26m である。出土遺物は弥生土器等で、1581・1582 を図示した。

SK2005

E 区中央部で検出した不整形の土坑である。長軸は 1.32m、短軸は 1.12m 以上を測り、検出面からの深さは約 0.08～0.24m である。床面北西部にピット状の落ち込みがみられる。図示できる遺物は出土しなかった。

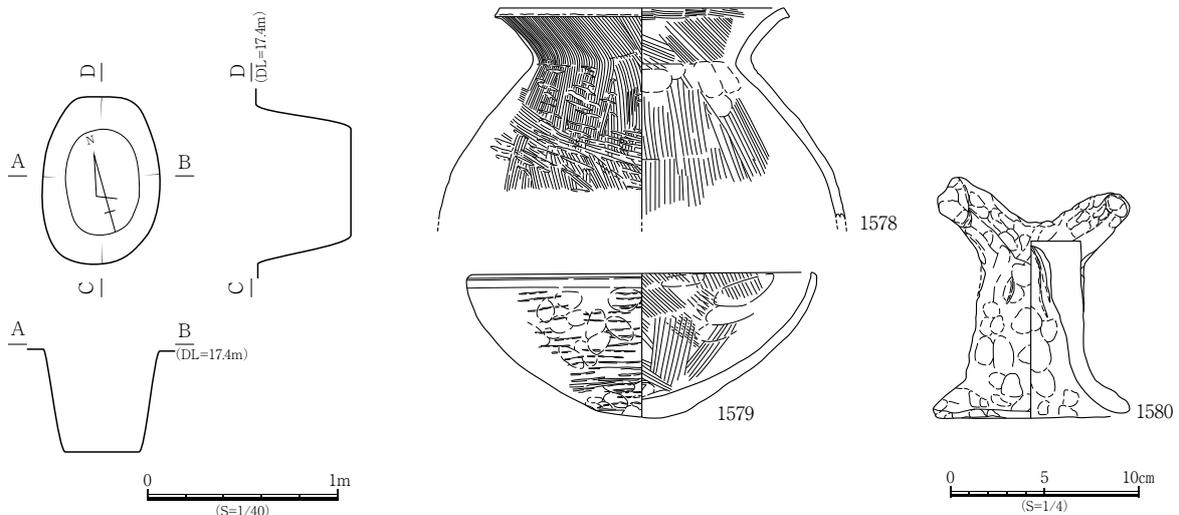


図3-35 SK1003 遺構図・出土遺物実測図

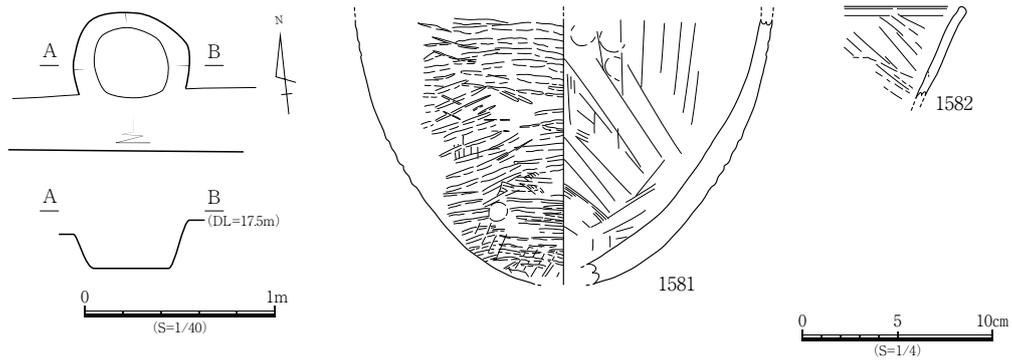


図3-36 SK1006遺構図・出土遺物実測図

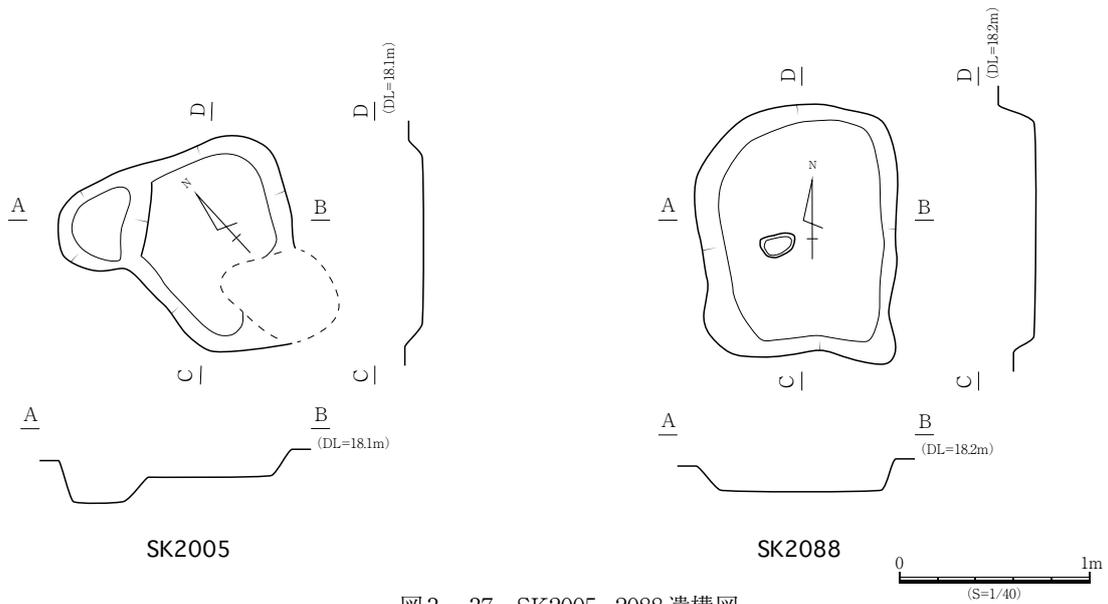


図3-37 SK2005・2088遺構図

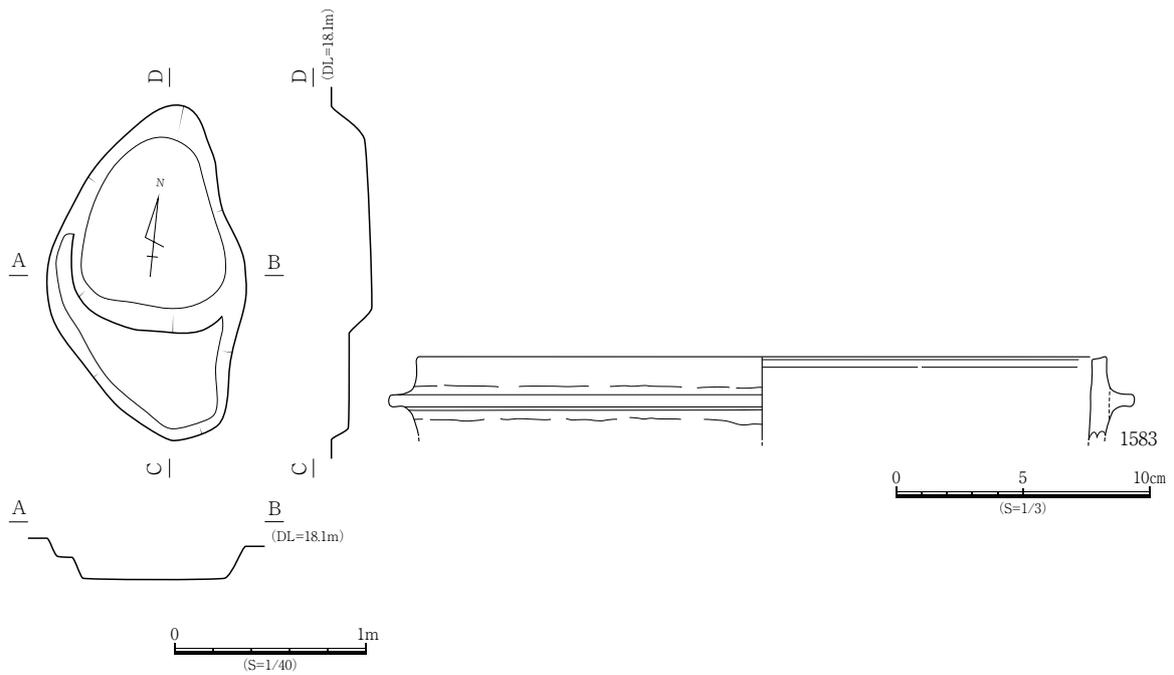


図3-38 SK2089遺構図・出土遺物実測図

3. 検出遺構と出土遺物

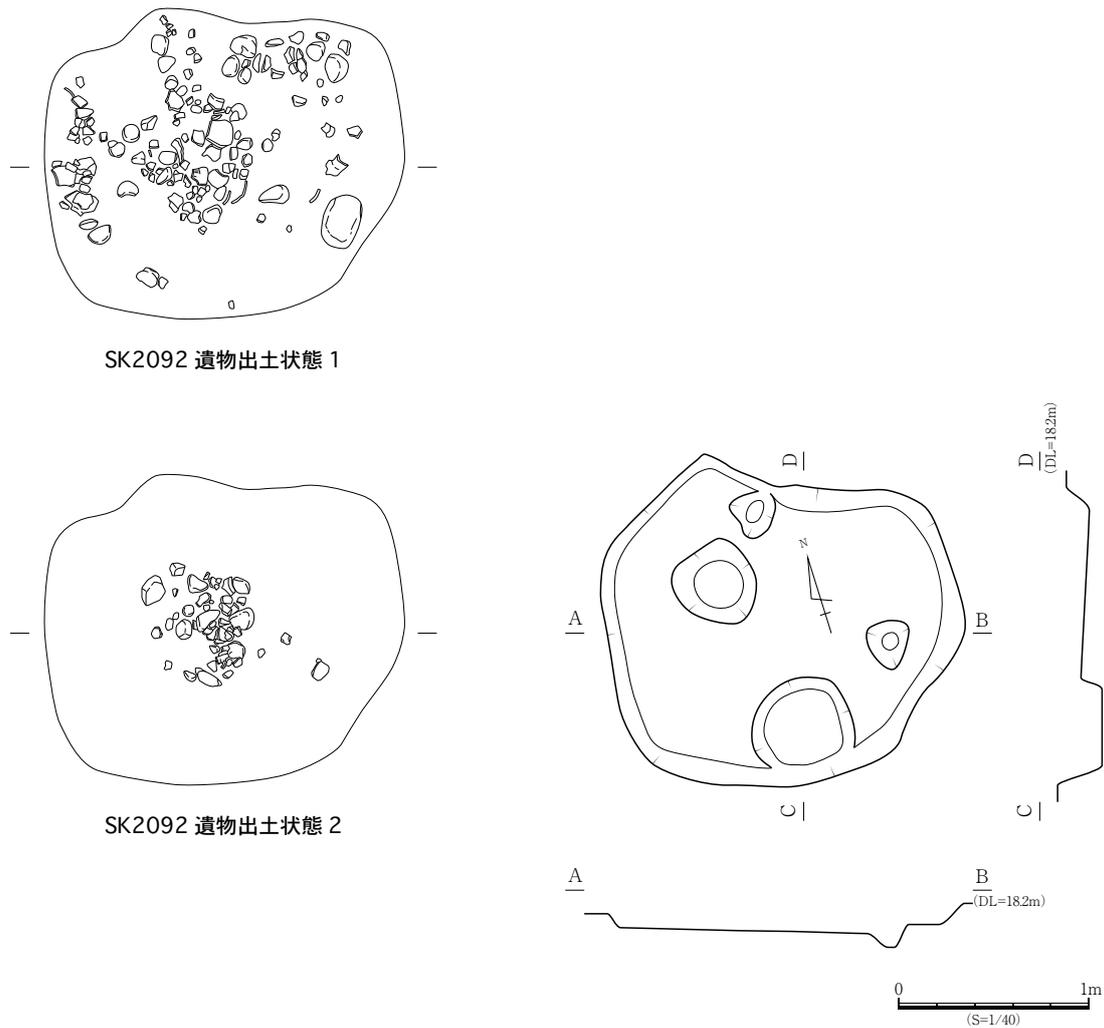


図3-39 SK2092 (SK2087) 遺構図

SK2088

E区東部で検出した不整隅丸方形の土坑である。長軸は1.32m、短軸は1.04mを測り、検出面からの深さは約0.12～0.20mである。床面中央部にピット状の落ち込みがみられる。図示できる遺物は出土しなかった。

SK2089

E区東部で検出した楕円形の土坑である。長軸は1.78m、短軸は1.04mを測り、検出面からの深さは約0.10～0.22mである。南部に比高差0.12mのテラス状の段部を有する。出土遺物は瓦質土器等で、1583を図示した。

SK2092 (SK2087)

E区東部で検出した不整円形の土坑である。長軸は1.87m、短軸は1.62mを測り、検出面からの深さは約0.08～0.15mである。検出時は2基の土坑(SK2087・2092)と思われたが、完掘時に1基の遺構であることが判明した。床面で4個のピットを検出した。検出面及び埋土中から大量の礫と共に弥生土器片及び石製品が出土した。出土遺物はSK2087と併せて弥生土器・石製品等で、1584～1601を図示した。(遺物観察表については調査時の記録を残すため、当時の番号をそのまま記した。)

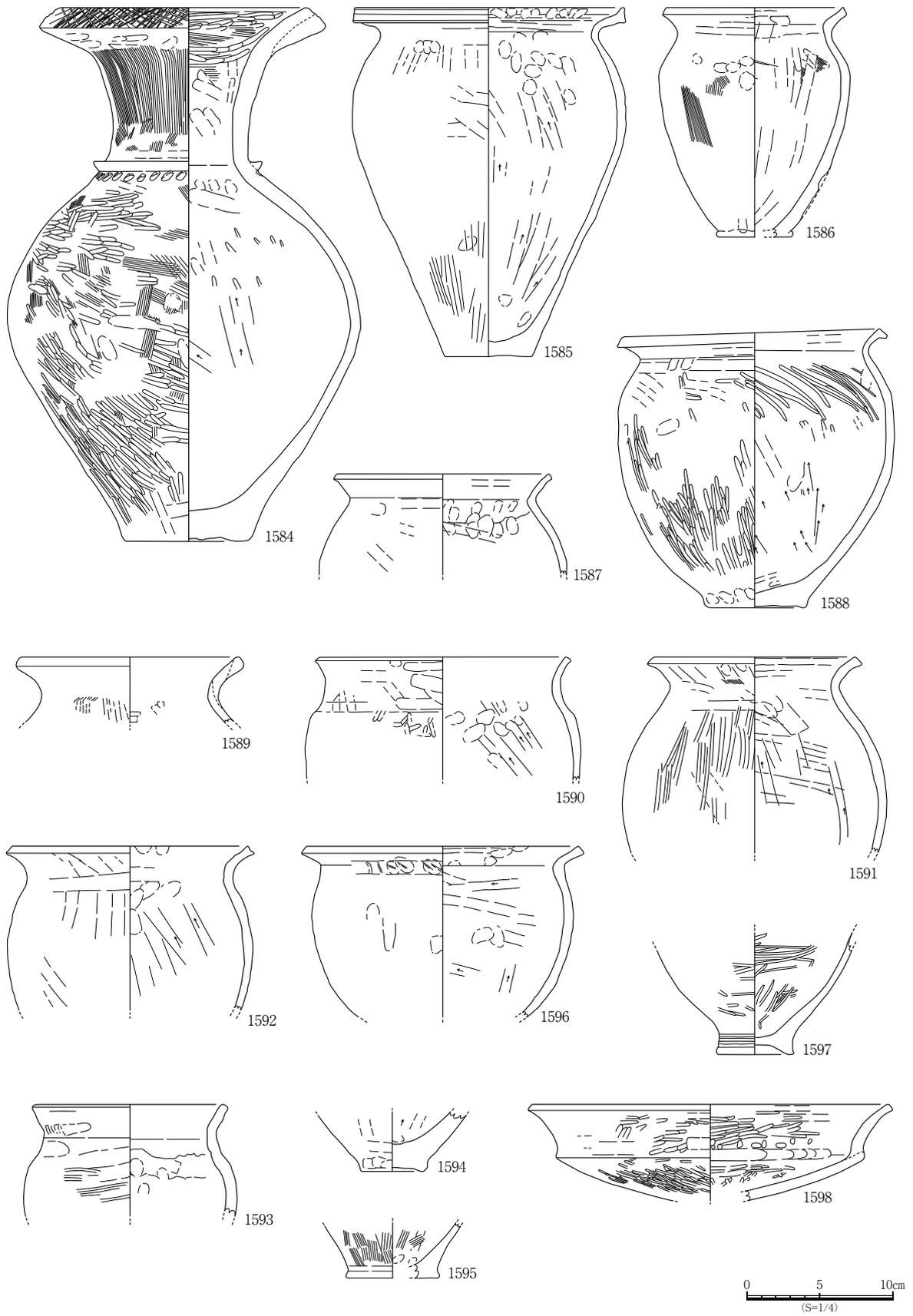


図3-40 SK2092 (SK2087) 出土遺物実測図1

3. 検出遺構と出土遺物

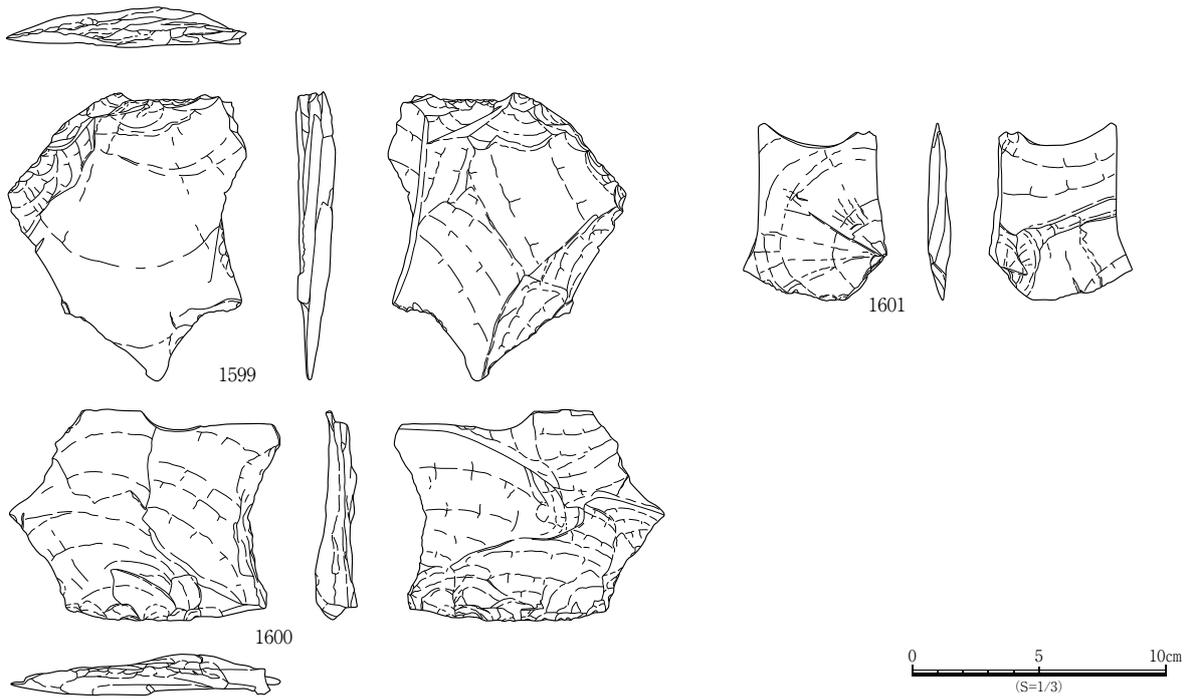


図3-41 SK2092 (SK2087) 出土遺物実測図2

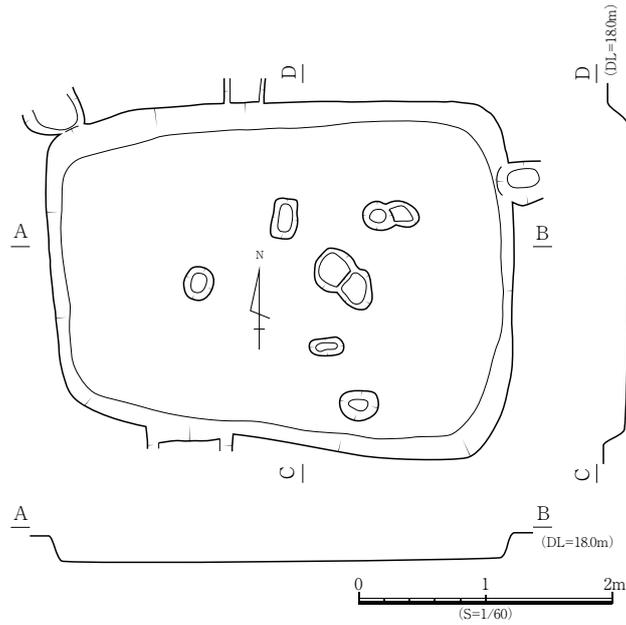


図3-42 SK2094 遺構図

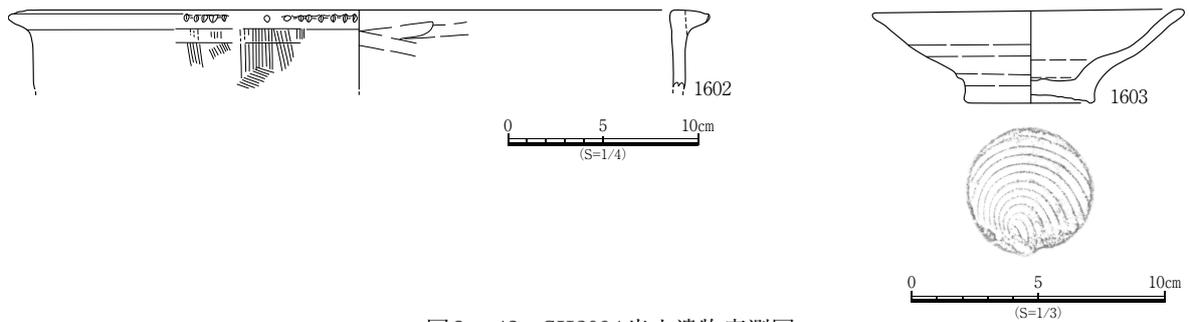


図3-43 SK2094 出土遺物実測図

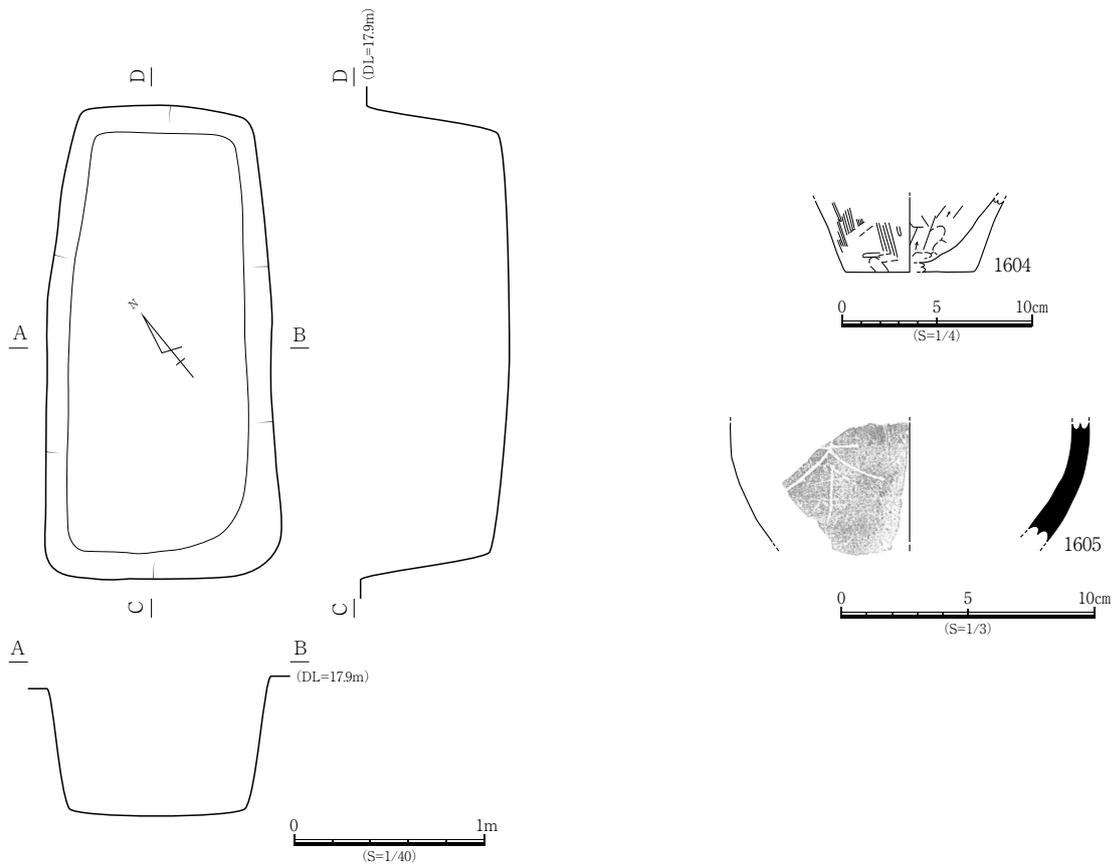


図3-44 SK2097 遺構図・出土遺物実測図

SK2094

E区西部で検出した隅丸長方形の土坑である。長軸は3.64m、短軸は2.78mを測り、検出面からの深さは約0.23mである。床面で8個の小ピットを検出した。出土遺物は弥生土器・土師器等で、1602・1603を図示した。

SK2097

E区西部で検出した隅丸長方形の土坑である。長軸は2.52m、短軸は1.18mを測り、検出面からの深さは約0.73mである。出土遺物は弥生土器・須恵器等で、1604・1605を図示した。

SK2098

E区西部で検出した不整隅丸長方形の土坑である。長軸は3.40m、短軸は1.72mを測り、検出面からの深さは約0.24～0.29mである。出土遺物は弥生土器等で、1606～1621を図示した。

SK2099

E区西部で検出した楕円形の土坑である。長軸は2.16m、短軸は1.08mを測り、検出面からの深さは約0.62～0.76mである。埋土中より10～32cmの角礫が出土した。出土遺物は弥生土器・緑釉陶器等で、1622～1624を図示した。

3. 検出遺構と出土遺物

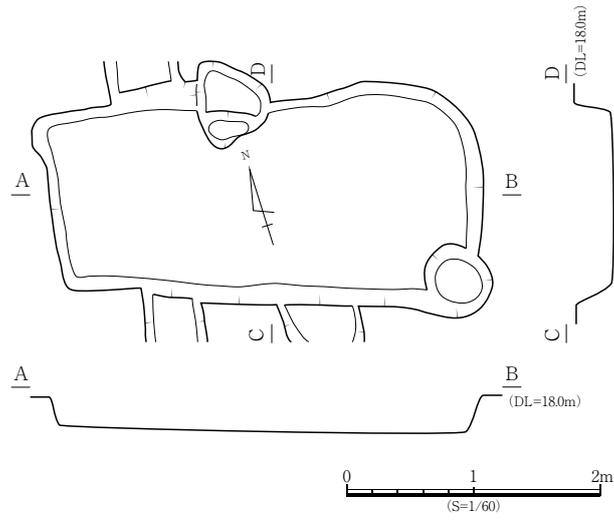


図3-45 SK2098遺構図

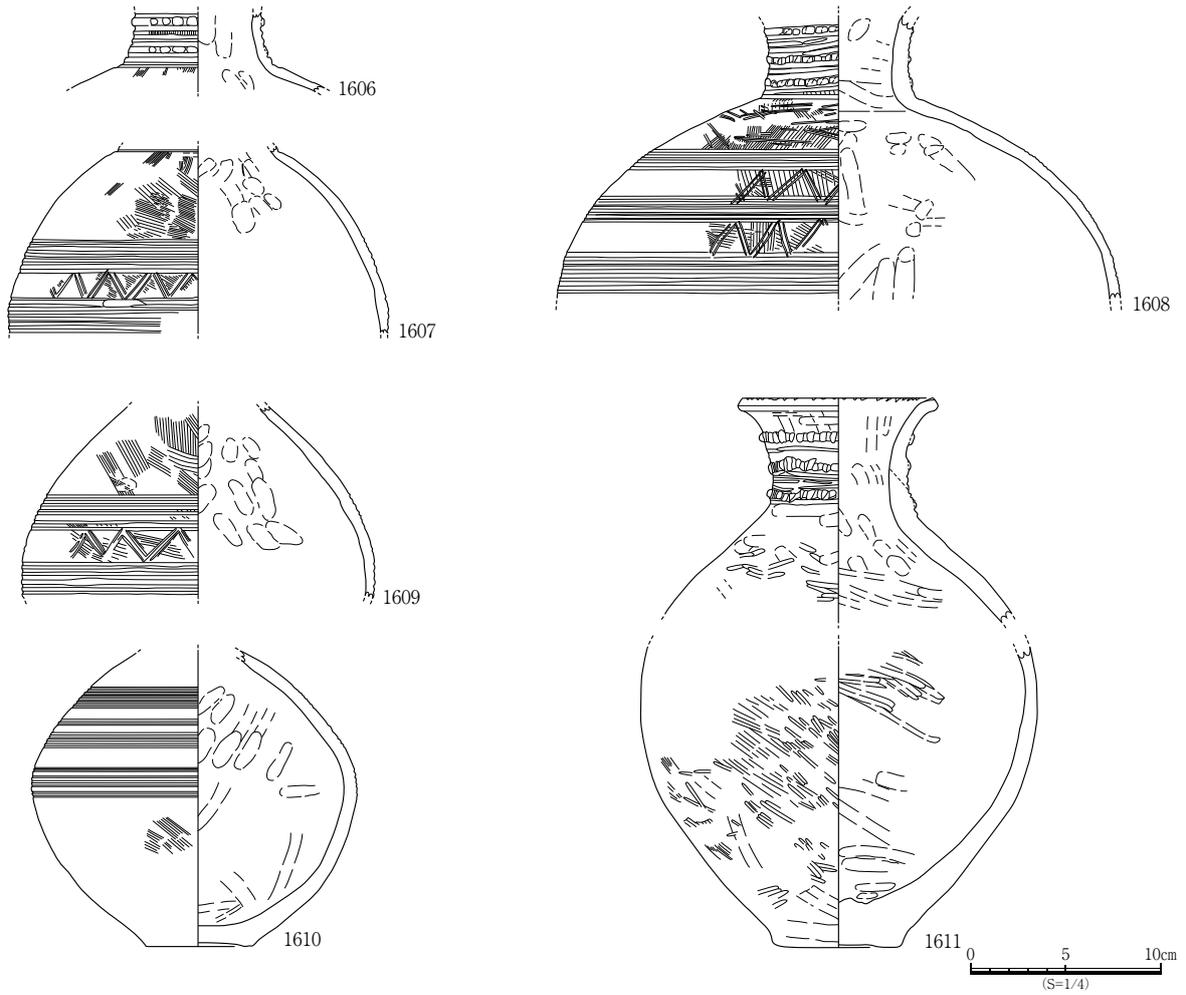


図3-46 SK2098出土遺物実測図1

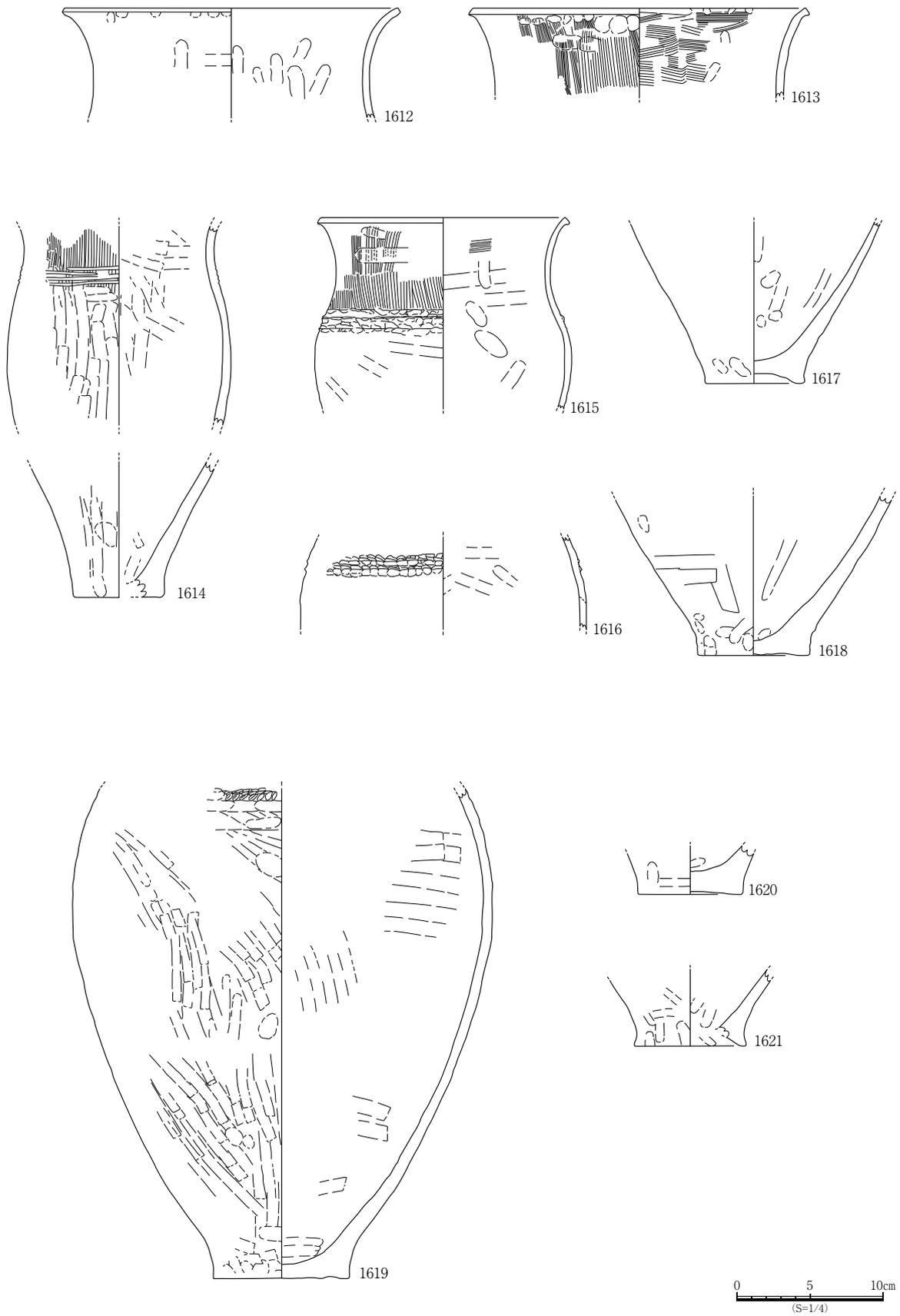


图3-47 SK2098出土遺物実測図2

3. 検出遺構と出土遺物

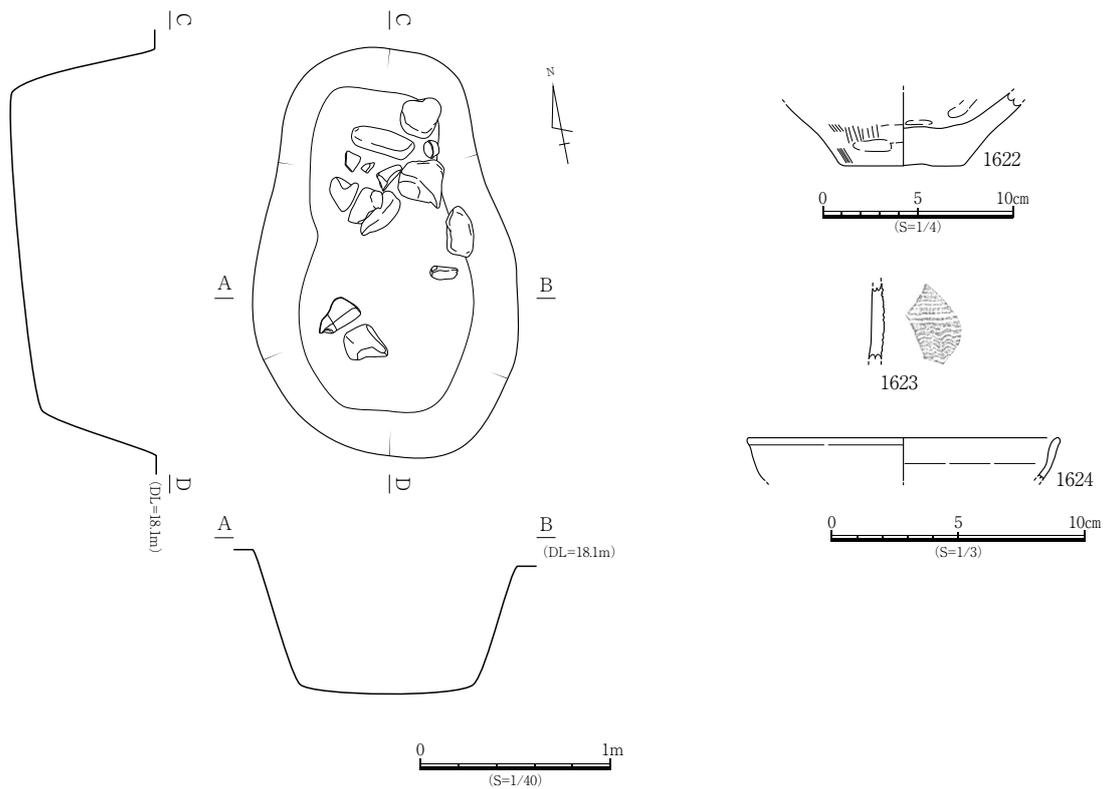


図3-48 SK2099 遺構図・出土遺物実測図

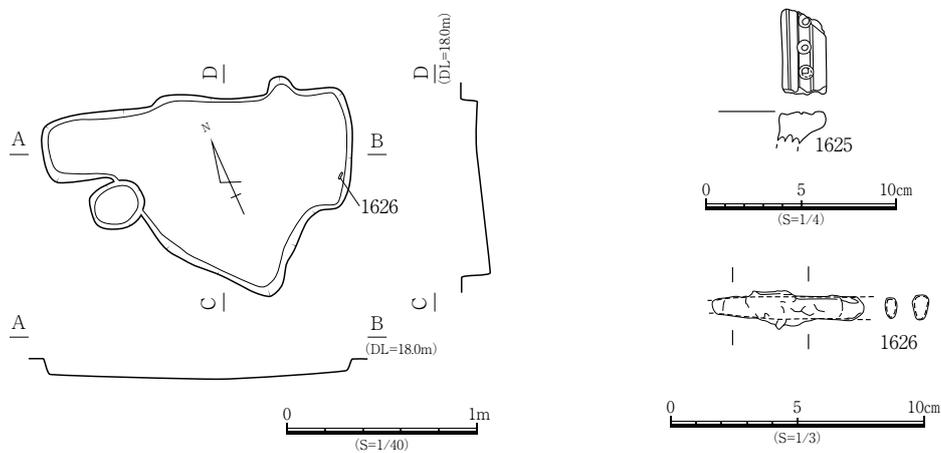


図3-49 SK2116 遺構図・出土遺物実測図

SK2116

F区北部で検出した不整形の土坑である。長軸は1.64m、短軸は1.17mを測り、検出面からの深さは約0.11～0.16mである。出土遺物は弥生土器・鉄製品等で、1625・1626を図示した。

SK2117

F区北部で検出した隅丸方形とみられる土坑である。長軸は1.24m以上、短軸は1.12mを測り、北部を他遺構に切られる。検出面からの深さは約0.14mである。出土遺物は土師器・須恵器・土製品等で、1627～1630を図示した。

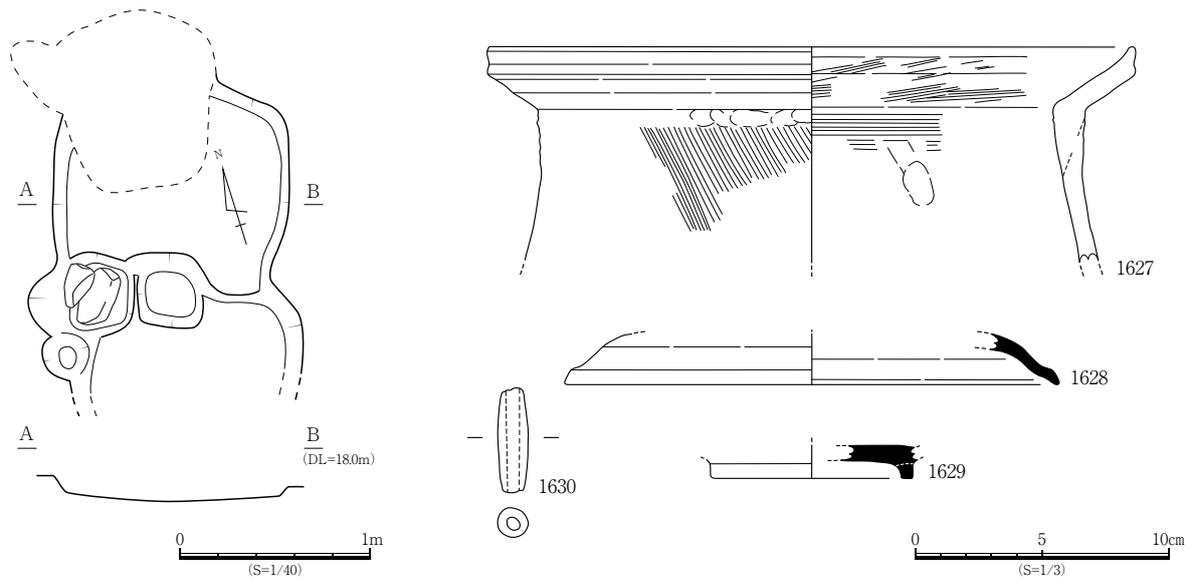


図3-50 SK2117 遺構図・出土遺物実測図

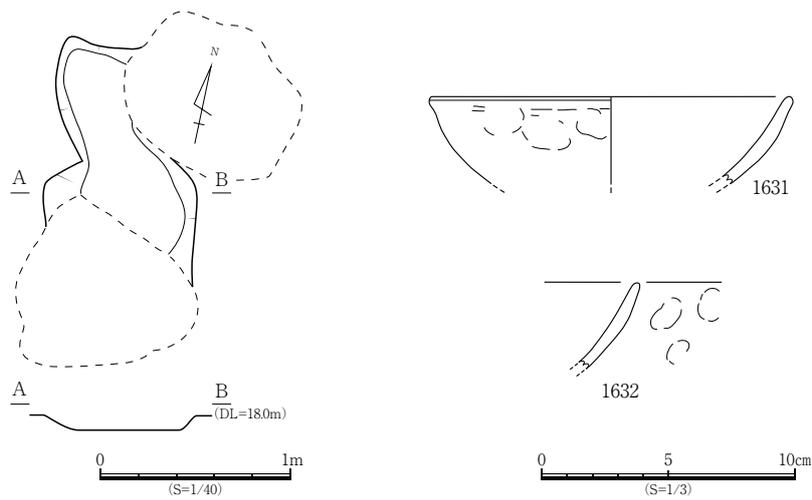


図3-51 SK2118 遺構図・出土遺物実測図

SK2118

F区北部で検出した不整形の土坑である。長軸は1.33m以上、短軸は0.81mを測り、南北を他遺構に切られる。検出面からの深さは約0.08mである。出土遺物は瓦器等で、1631・1632を図示した。

SK2122

F区南部で検出した隅丸方形の土坑である。長軸は0.72m、短軸は0.71mを測り、検出面からの深さは約0.42～0.54mである。中央部に柱痕状の落ち込みを有す。出土遺物は弥生土器等で、1633・1634を図示した。

SK2129

F区南部で検出した不整形の土坑である。長軸は0.97m以上、短軸は0.67mを測り、北部を他遺構に切られる。検出面からの深さは約0.04mである。床面で5個のピットを検出した。出土遺物は石製品等で、1635を図示した。

3. 検出遺構と出土遺物

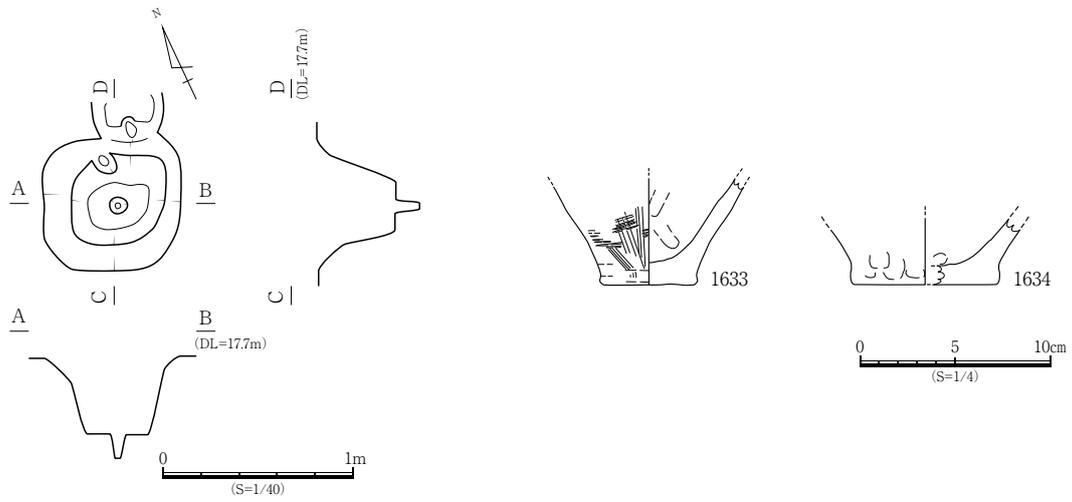


図3-52 SK2122遺構図・出土遺物実測図

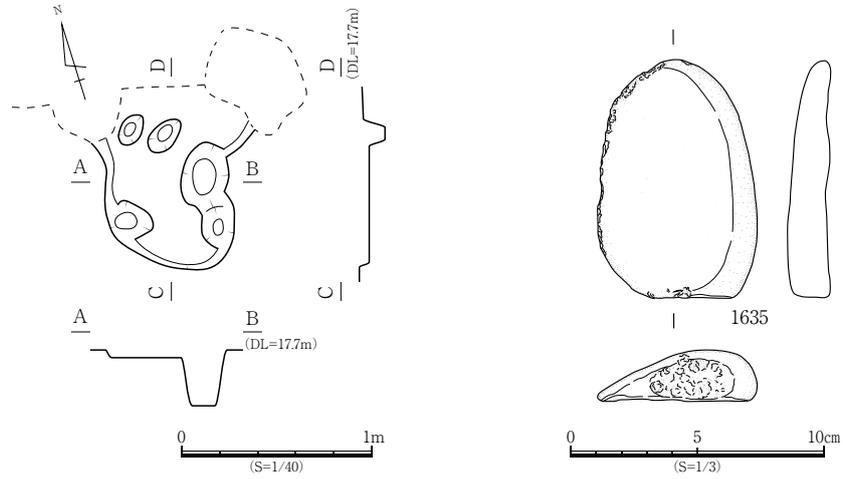


図3-53 SK2129遺構図・出土遺物実測図

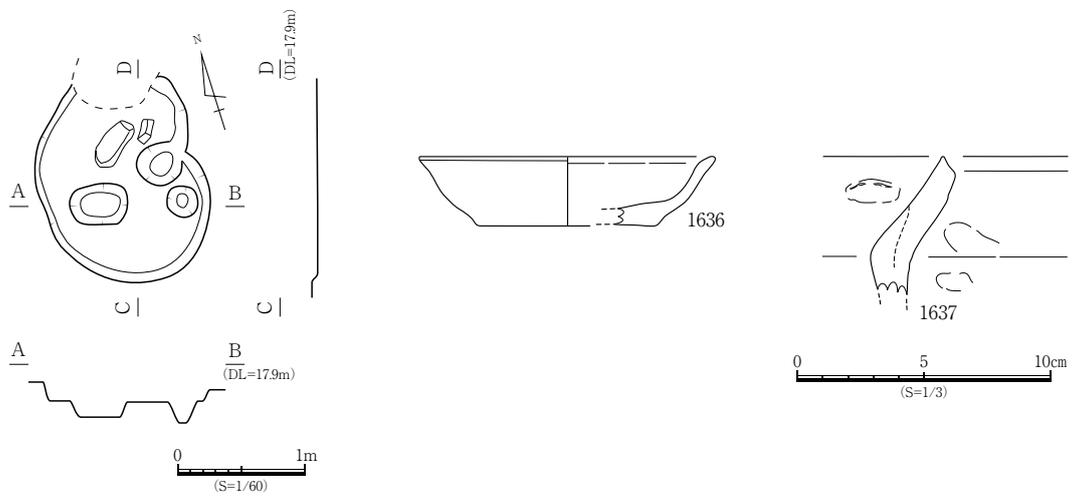


図3-54 SK2132遺構図・出土遺物実測図

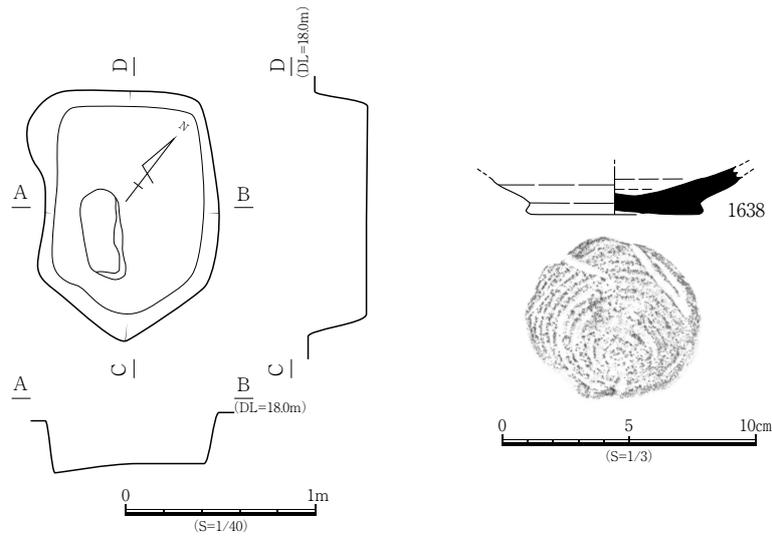


図3-55 SK2138 遺構図・出土遺物実測図

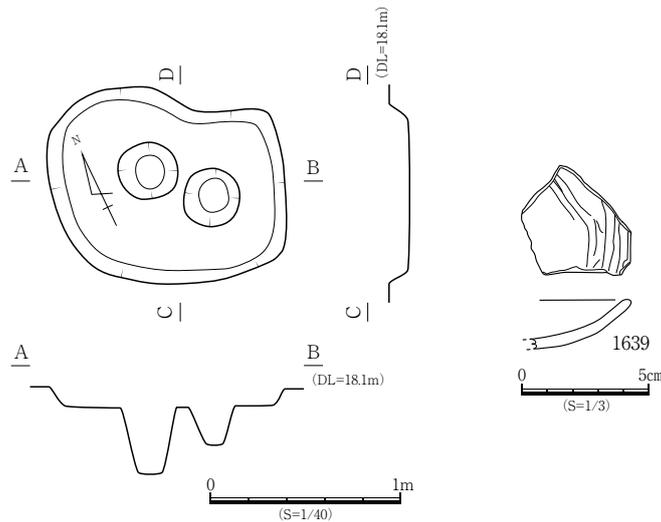


図3-56 SK2167 遺構図・出土遺物実測図

SK2132

F区南部で検出した楕円形の土坑である。長軸は1.64m以上、短軸は1.37mを測り、北部を他遺構に切られる。検出面からの深さは約0.04～0.15mで、床面で3個のピットを検出し、10～28cm大の角礫が出土した。出土遺物は土師器等で、1636・1637を図示した。

SK2138

F区中央部で検出した隅丸多角形の土坑である。長軸は1.32m、短軸は0.92mを測り、検出面からの深さは約0.27～0.32mである。48cm大の角礫が出土した。出土遺物は須恵器等で、1638を図示した。

SK2167

M区東部で検出した不整隅丸方形の土坑である。長軸は1.24m、短軸は0.96mを測り、検出面からの深さは約0.12mである。床面で2個のピットを検出した。出土遺物は瓦器等で、1639を図示した。

3. 検出遺構と出土遺物

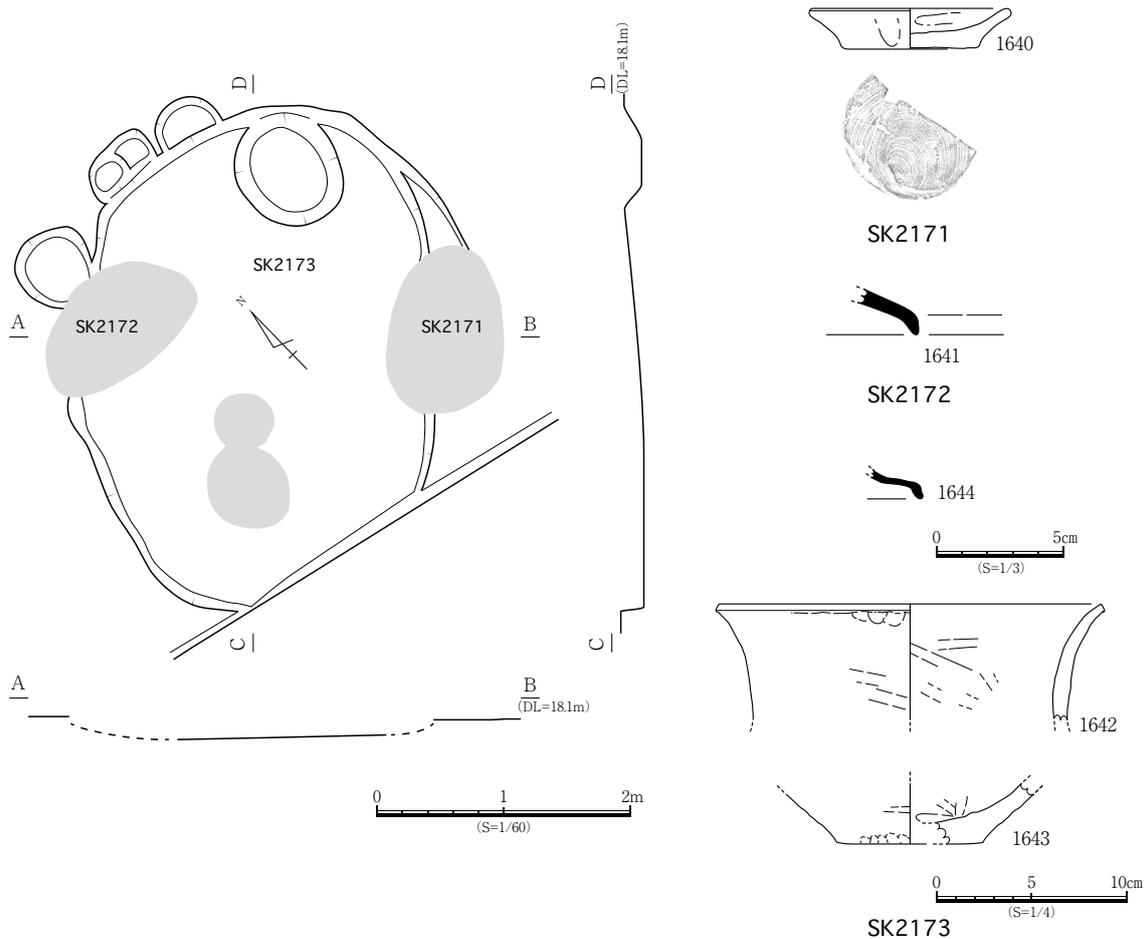


図3-57 SK2171～2173 遺構図・出土遺物実測図

SK2171～2173

M区東部で検出した関連するとみられる複数の土坑である。SK2171の長軸は1.33m、短軸は0.90m、SK2172の長軸は1.34m、短軸は0.83mで、灰色土のごく浅い広がりである。SK2173は楕円形の土坑で、長軸は4.05m、短軸は2.92mを測り、検出面からの深さは約0.02～0.18mである。SK2171及びSK2172はSK2173に関連する遺構とみられる。この他にも遺物は出土しなかったが中央部に同様の灰色土の広がりがみられる。SK2173の床面北部でピットを1個検出した。出土遺物は土師器・須恵器・弥生土器等で、1640～1644を図示した。

SK2175

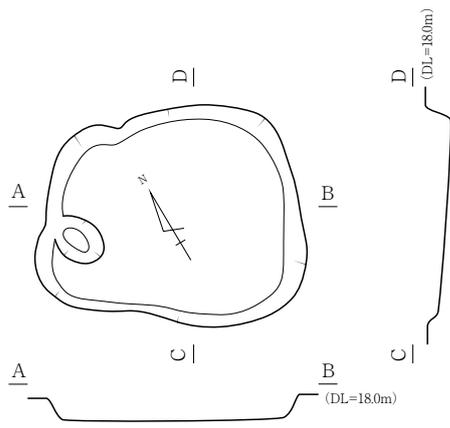
M区東部で検出した楕円形の土坑である。長軸は1.40m、短軸は1.18mを測り、検出面からの深さは約0.12mである。図示できる遺物は出土しなかった。

SK2176

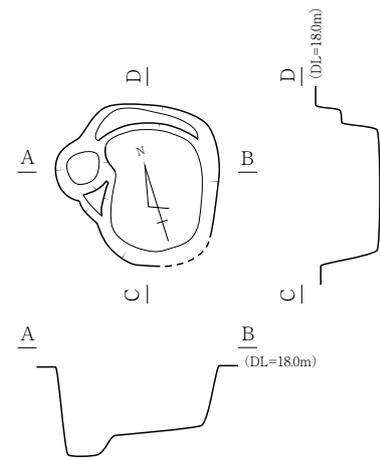
M区東部で検出した楕円形の土坑である。長軸は0.86m、短軸は0.70mを測り、検出面からの深さは約0.14～0.39mである。図示できる遺物は出土しなかった。

SK2177

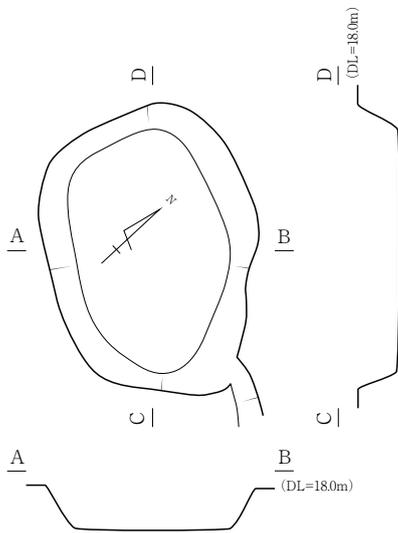
M区中央部で検出した楕円形の土坑である。長軸は1.52m、短軸は1.10mを測り、検出面からの深さは約0.24mである。図示できる遺物は出土しなかった。



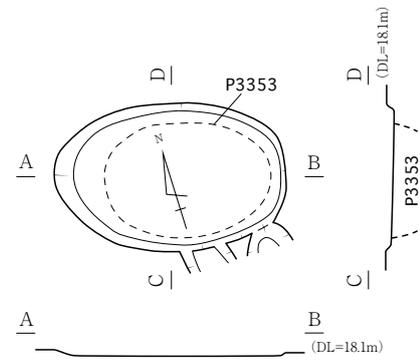
SK2175



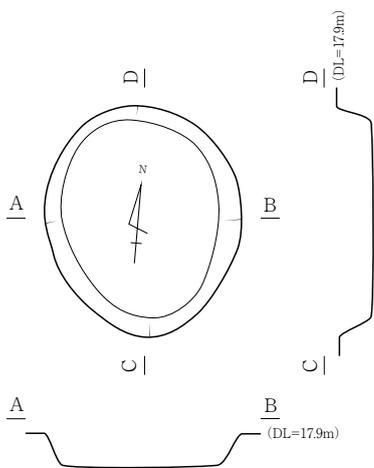
SK2176



SK2177



SK2180



SK2181

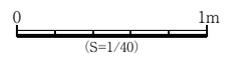


図3-58 SK遺構図

3. 検出遺構と出土遺物

SK2180

M区東部で検出した楕円形の土坑である。長軸は1.20m、短軸は0.78mを測り、検出面からの深さは約0.04mである。床面でピットを検出したが、切り合いによるもので、関連はないものと考えられる。図示できる遺物は出土しなかった。

SK2181

M区中央部で検出した楕円形の土坑である。長軸は1.20m、短軸は1.05mを測り、検出面からの深さは約0.18mである。図示できる遺物は出土しなかった。

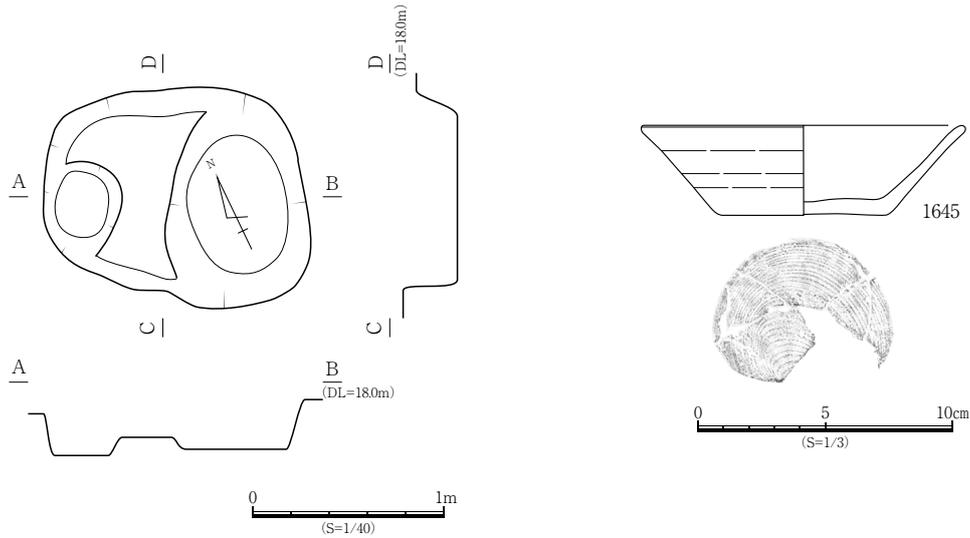


図3-59 SK2183遺構図・出土遺物実測図

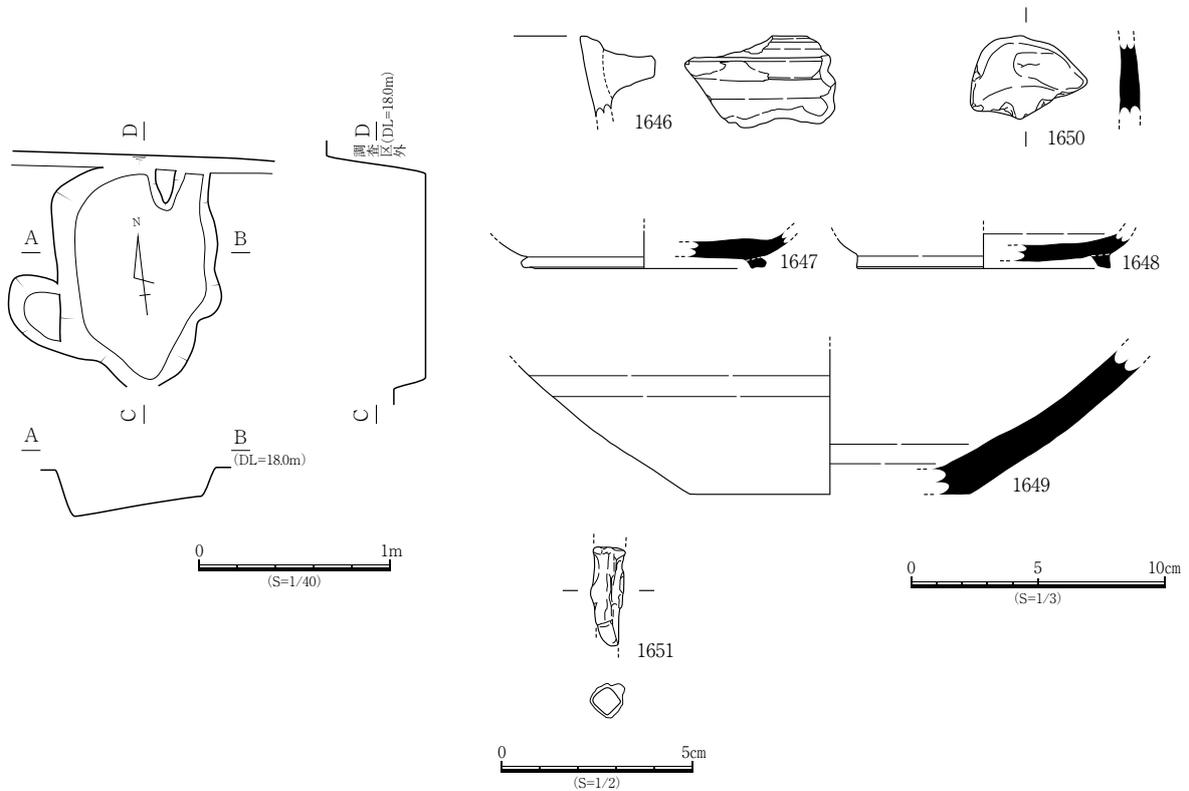


図3-60 SK1遺構図・出土遺物実測図

SK2183

M区西部で検出した楕円形の土坑である。長軸は1.32m、短軸は1.06mを測り、検出面からの深さは約0.15～0.29mである。出土遺物は土師器等で、1645を図示した。

SK1

南区中央部で検出した不整楕円形の土坑である。長軸は1.18m、短軸は0.85mを測り、検出面からの深さは約0.15～0.24mである。出土遺物は土師器・須恵器・鉄製品等で、1646～1651を図示した。

SK2

南区西部で検出した不整楕円形の土坑である。長軸は1.37m、短軸は0.68mを測り、検出面からの深さは約0.03～0.11mである。出土遺物は弥生土器等で、1652・1653を図示した。

(4)溝跡

出土遺物の時期は、弥生時代終末期から古墳時代初頭、古墳時代後期、古代、古代末から中世前期である。それぞれの位置及び規模については本文中及び巻末の付図に記した。出土遺物の詳細については、遺物観察表に記す。

SD1

G区西部で検出した溝跡である。規模は長さ約1.77m、幅0.27～0.64mを測り、検出面からの深さは約0.09～0.18mである。主軸方向はN-11°-Wである。出土遺物は弥生土器・土師器・須恵器等で、1654～1657を図示した。

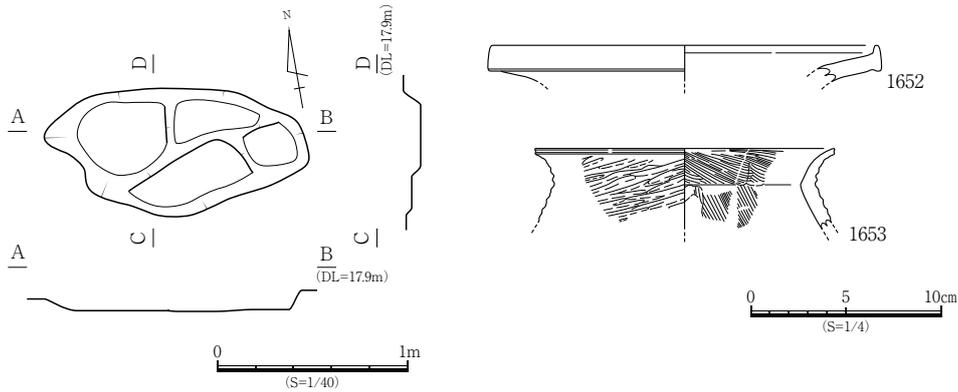


図3-61 SK2遺構図・出土遺物実測図

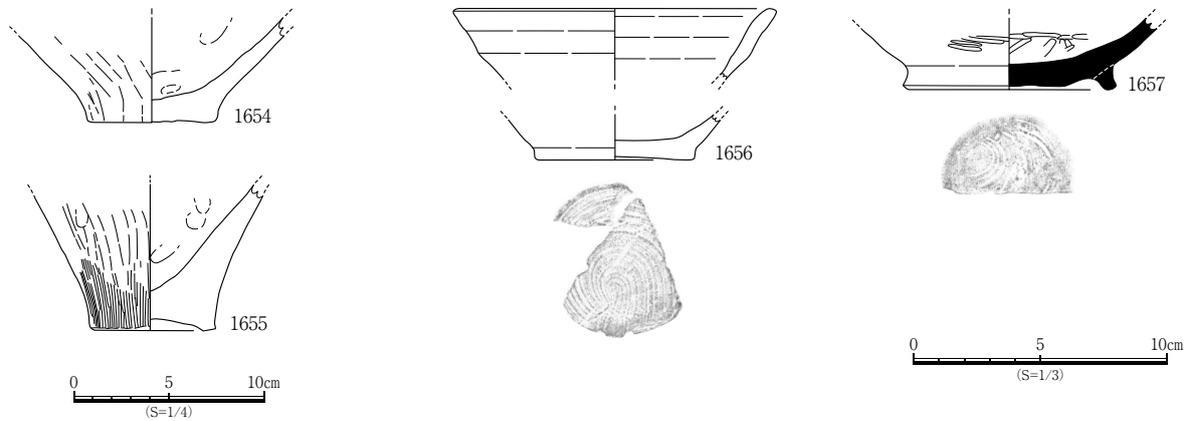


図3-62 SD1出土遺物実測図

3. 検出遺構と出土遺物

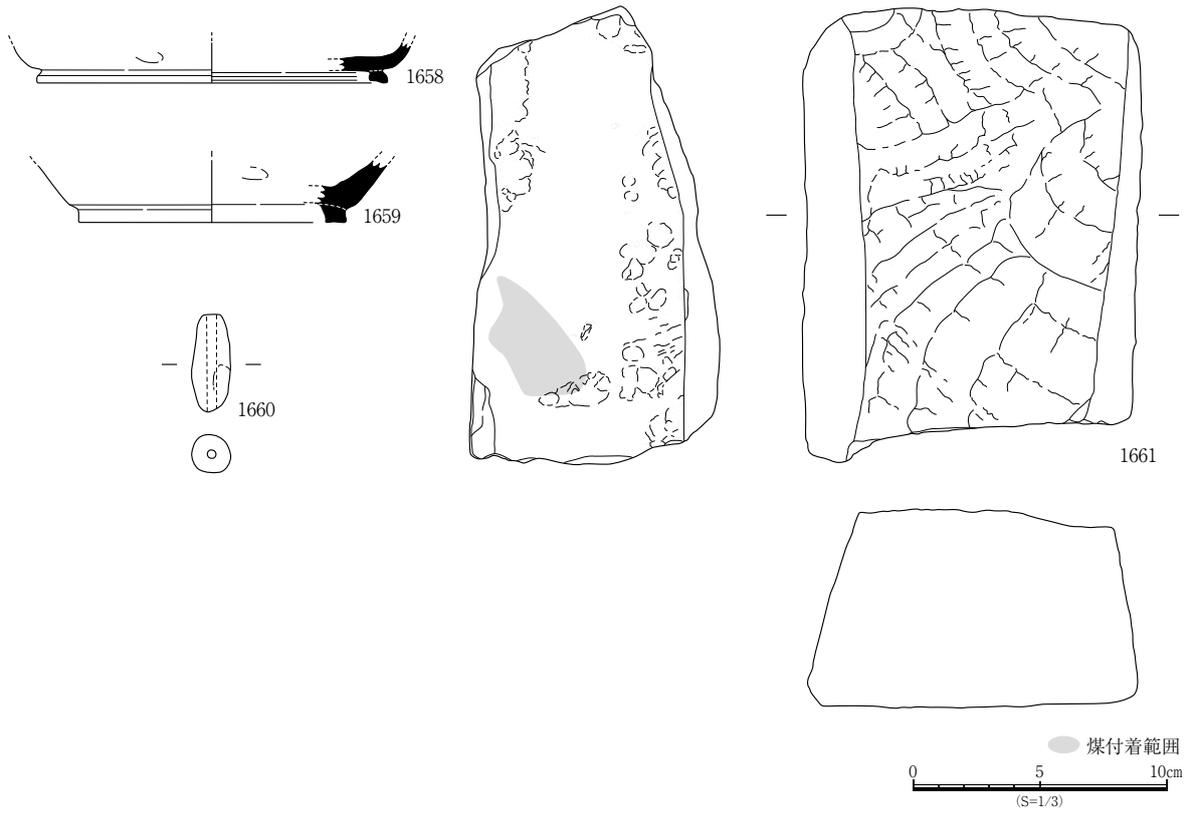


図3-63 SD3出土遺物実測図

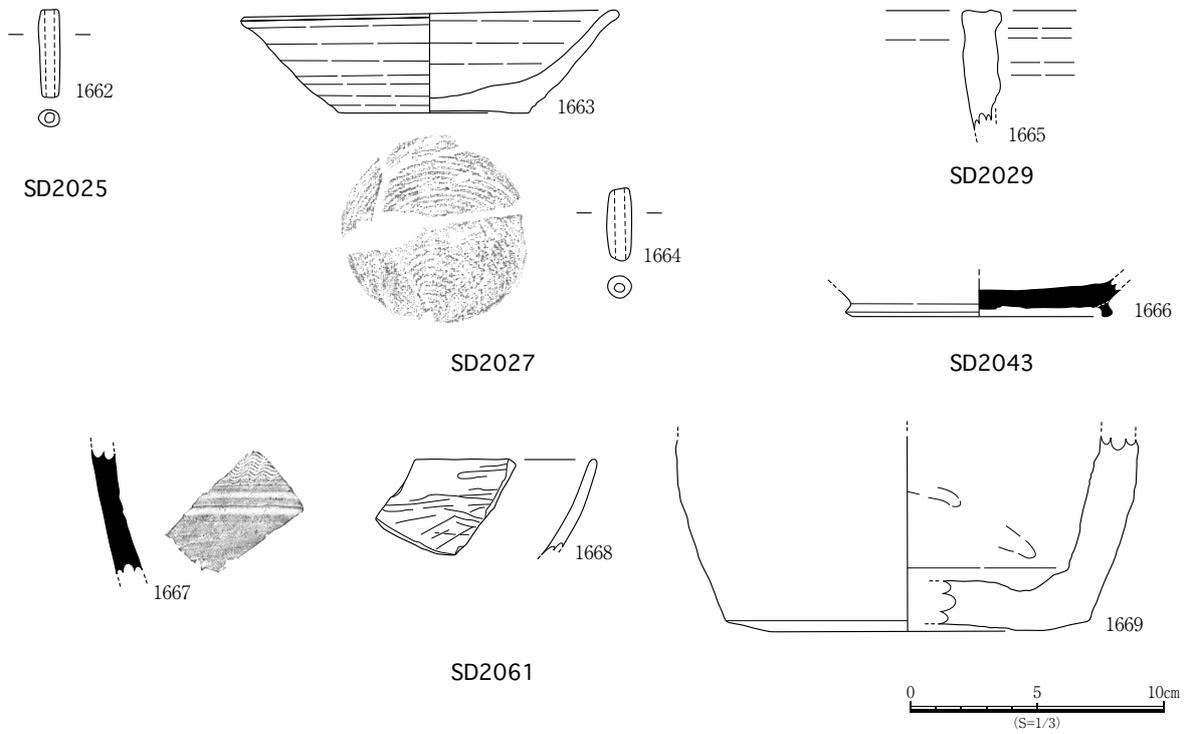


図3-64 SD出土遺物実測図

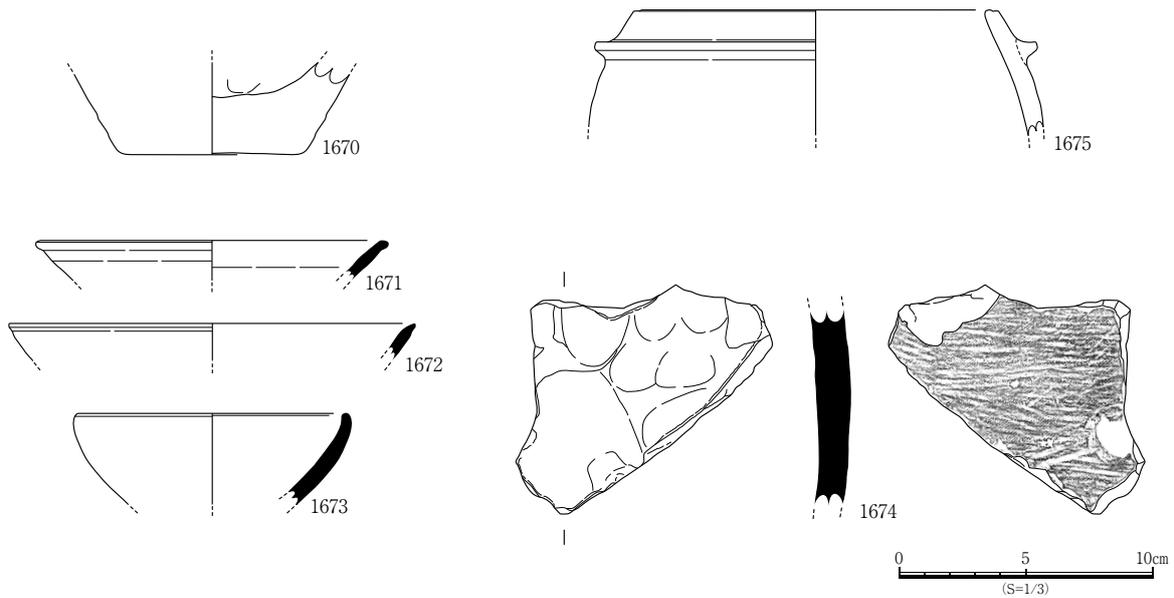


図3-65 SD1・2出土遺物実測図

SD3

I区中央部で検出した溝跡である。規模は長さ約12.66m以上、幅0.68～1.32mを測り、調査区北部へ延びる。検出面からの深さは約0.04～0.12mである。主軸方向はN-2°-Eである。並行するSD2と共に約90°屈曲し、南区のSD1・2へ接続する。出土遺物は須恵器・土製品・石製品等で、1658～1661を図示した。

SD2025

F区北部で検出した溝跡である。規模は長さ約1.19m、幅0.24～0.34mを測る。検出面からの深さは約0.05～0.08mである。主軸方向はN-70°-Wである。出土遺物は土製品等で、1662を図示した。

SD2027

F区北部で検出した溝跡である。規模は長さ約7.69m以上、幅1.12～2.14mを測る。検出面からの深さは約0.16～0.18mである。主軸方向はN-66°-Wである。出土遺物は土師器・土製品等で、1663・1664を図示した。

SD2029

H区西部で検出した溝跡である。規模は長さ約3.88m、幅0.19～0.36mを測る。検出面からの深さは約0.01～0.03mである。主軸方向はN-75°-Wである。出土遺物は弥生土器等で、1665を図示した。

SD2043

F区中央部で検出した溝跡である。規模は長さ約5.25m、幅0.30～0.91mを測る。検出面からの深さは約0.12～0.17mである。主軸方向はN-83°-Wである。出土遺物は須恵器等で、1666を図示した。

SD2061

M区東部で検出した溝跡である。規模は長さ約4.92m以上、幅0.71～2.38mを測る。検出面からの深さは約0.05～0.42mである。主軸方向はN-6°-Eである。出土遺物は須恵器・瓦器・陶器等で、1667～1669を図示した。

3. 検出遺構と出土遺物

SD1・2

南区東部で検出した溝跡である。規模は長さ約9.60m以上、幅1.51～1.62mを測り、調査区南部及び東部へ延びる。並行する2条の溝跡として番号を付したが、同一の性格を持つと考えられるためSD1・2として報告する。南部は約90°屈曲し、I区のSD2・3へ接続する。検出面からの深さは約0.10～0.44mである。出土遺物は土師器・須恵器・瓦質土器等で、1670～1675を図示した。

(5)柱穴

竪穴建物跡及び掘立柱建物、柵列を構成していると考えられる柱穴については(1)竪穴建物跡(2)掘立柱建物跡・柵列の項で報告した。ここでは上記以外で柱穴とされ、遺物が出土したものを記す。

P70

G区中央部で検出した楕円形の柱穴で、長軸0.40m、短軸0.33m、深さ0.30mを測る。出土遺物は弥生土器等で、1684・1685を図示した。

P1018

H区東部で検出した楕円形の柱穴で、長軸0.75m、短軸0.63m、深さ0.32mを測る。出土遺物は弥生土器等で、1687～1689を図示した。

P2497

E区中央部で検出した楕円形の柱穴で、長軸0.68m、短軸0.56m、深さ0.21mを測る。SK2094の上面で検出した。出土遺物は弥生土器等で、1693を図示した。

P2513

E区中央部で検出した円形の柱穴で、長軸0.60m、短軸0.50m、深さ0.34mを測る。出土遺物は土師器・須恵器・石製品等で、1696～1699を図示した。

P2518

E区西部で検出した楕円形の柱穴で、長軸0.58m、短軸0.32m、深さ0.26mを測る。出土遺物は土師器等で、1700・1701を図示した。

P2565

E区東部で検出した円形の柱穴で、長軸0.48m、短軸0.47m、深さ0.17mを測る。出土遺物は土師器・銅製品等で、1709～1712を図示した。

P2577

E区中央部で検出した円形の柱穴で、長軸0.42m、短軸0.33m、深さ0.10mを測る。出土遺物は土師器等で、1713・1714を図示した。

P2580

E区中央部で検出した楕円形の柱穴で、長軸0.83m、短軸0.70m、深さ0.32mを測る。出土遺物は土師器・黒色土器等で、1716・1717を図示した。

P2631

E区西部で検出した楕円形の柱穴で、長軸0.67m、短軸0.46m、深さ0.34mを測る。出土遺物は土師器・須恵器等で、1724～1726を図示した。

P2635

E区西部で検出した楕円形の柱穴で、長軸0.84m、短軸0.40m、深さ0.53mを測る。出土遺物は土師器等で、1728・1729を図示した。

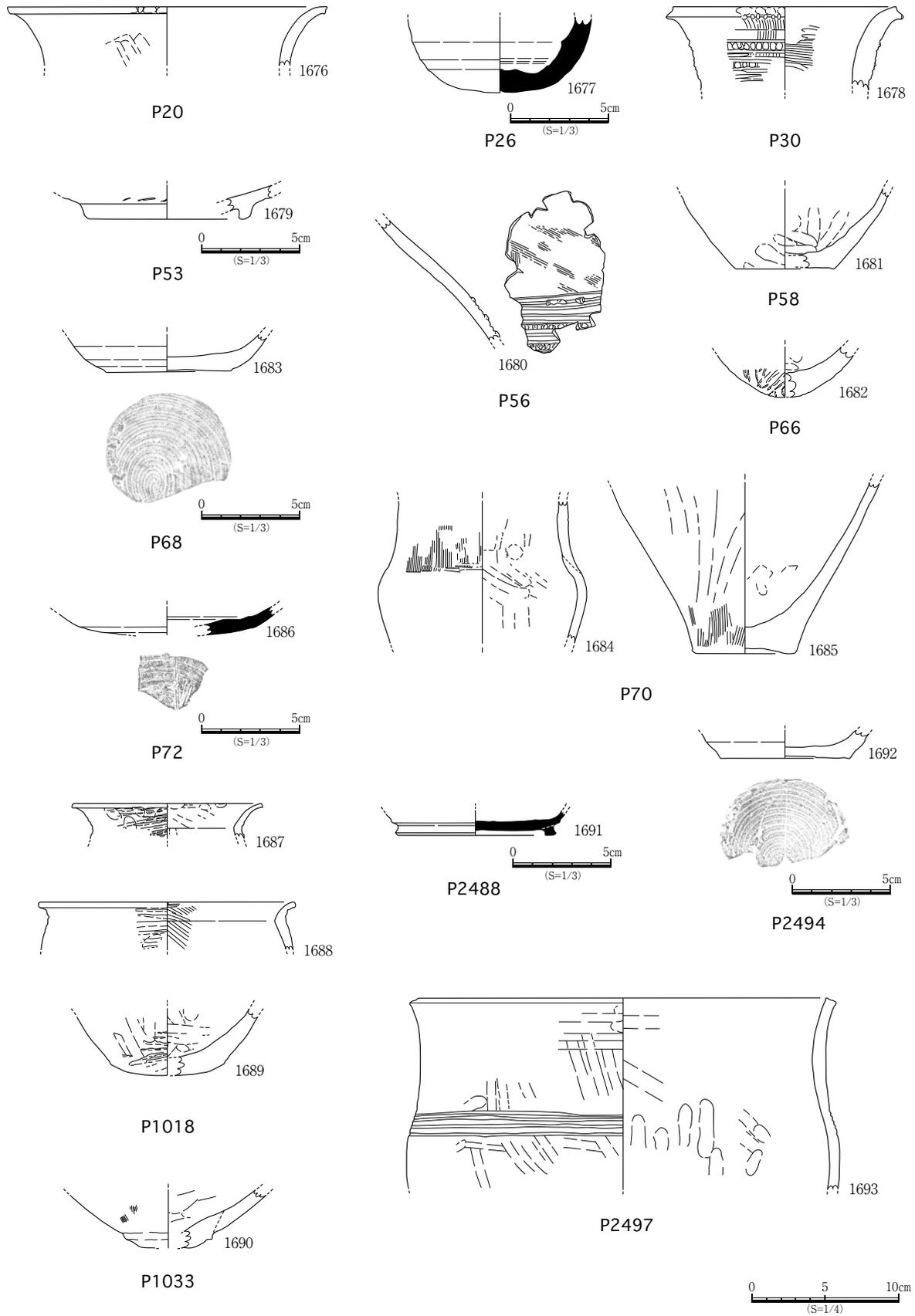


図3-66 ピット出土遺物実測図1

3. 検出遺構と出土遺物

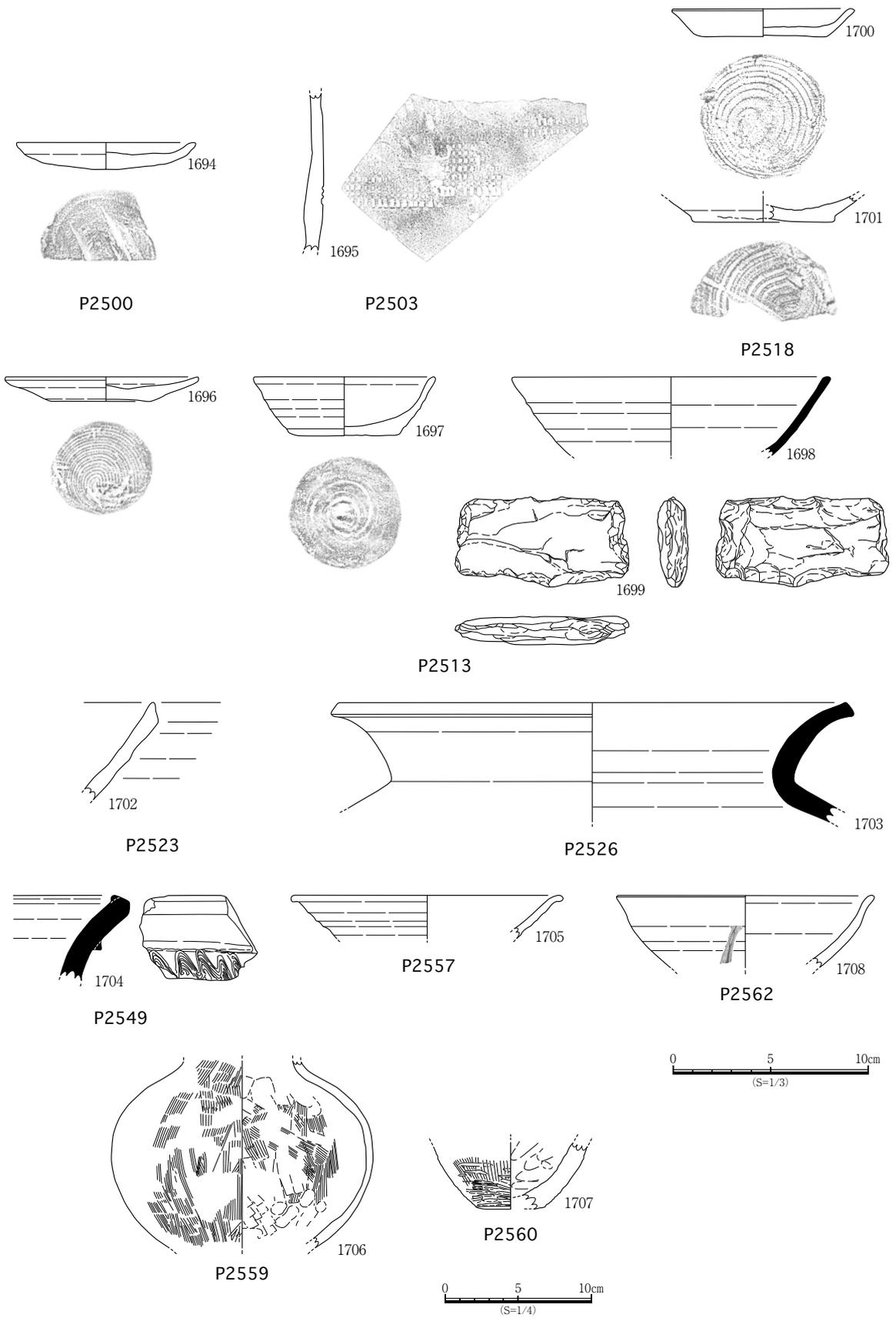


図3-67 ピット出土遺物実測図2

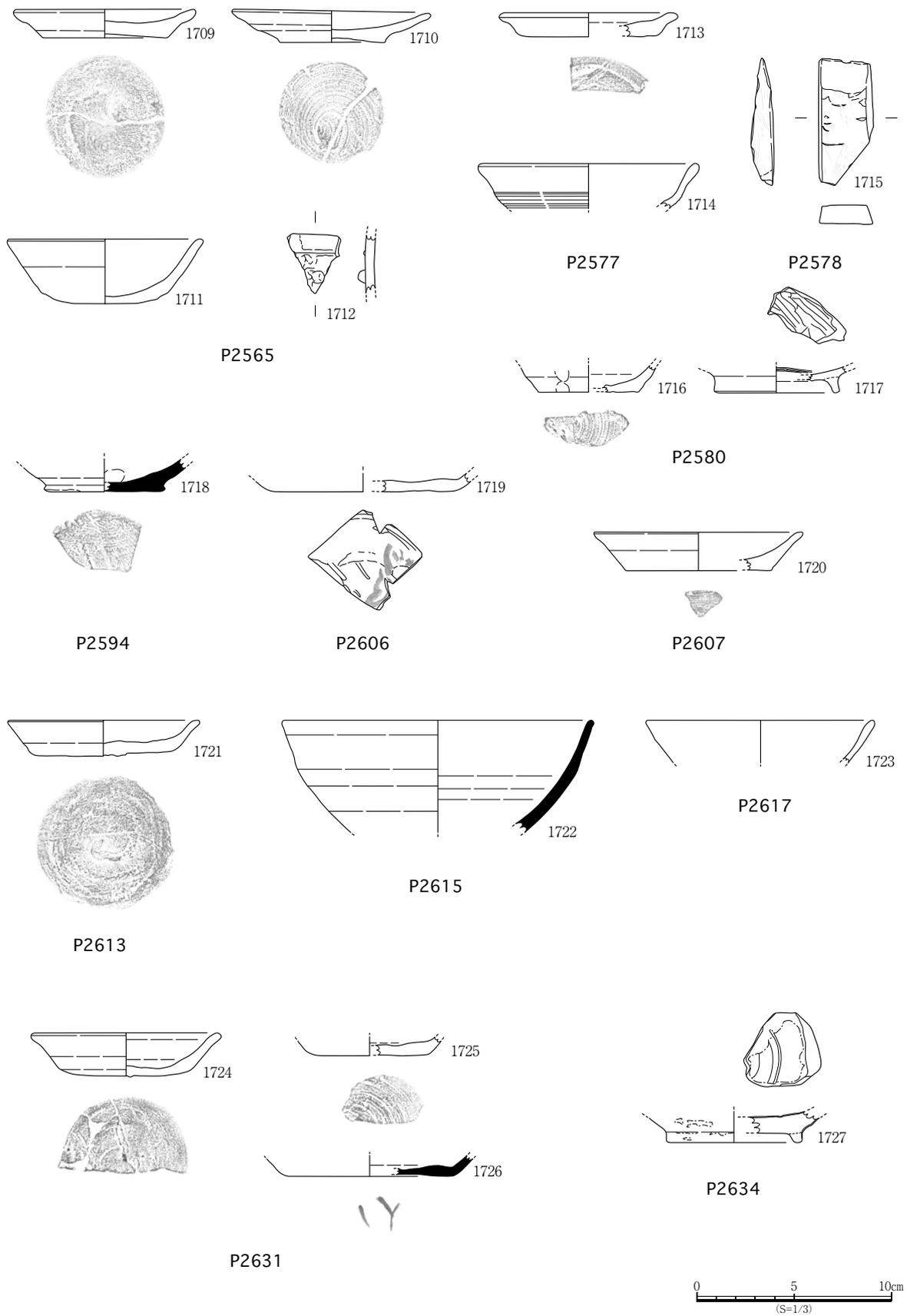


図3-68 ピット出土遺物実測図3

3. 検出遺構と出土遺物

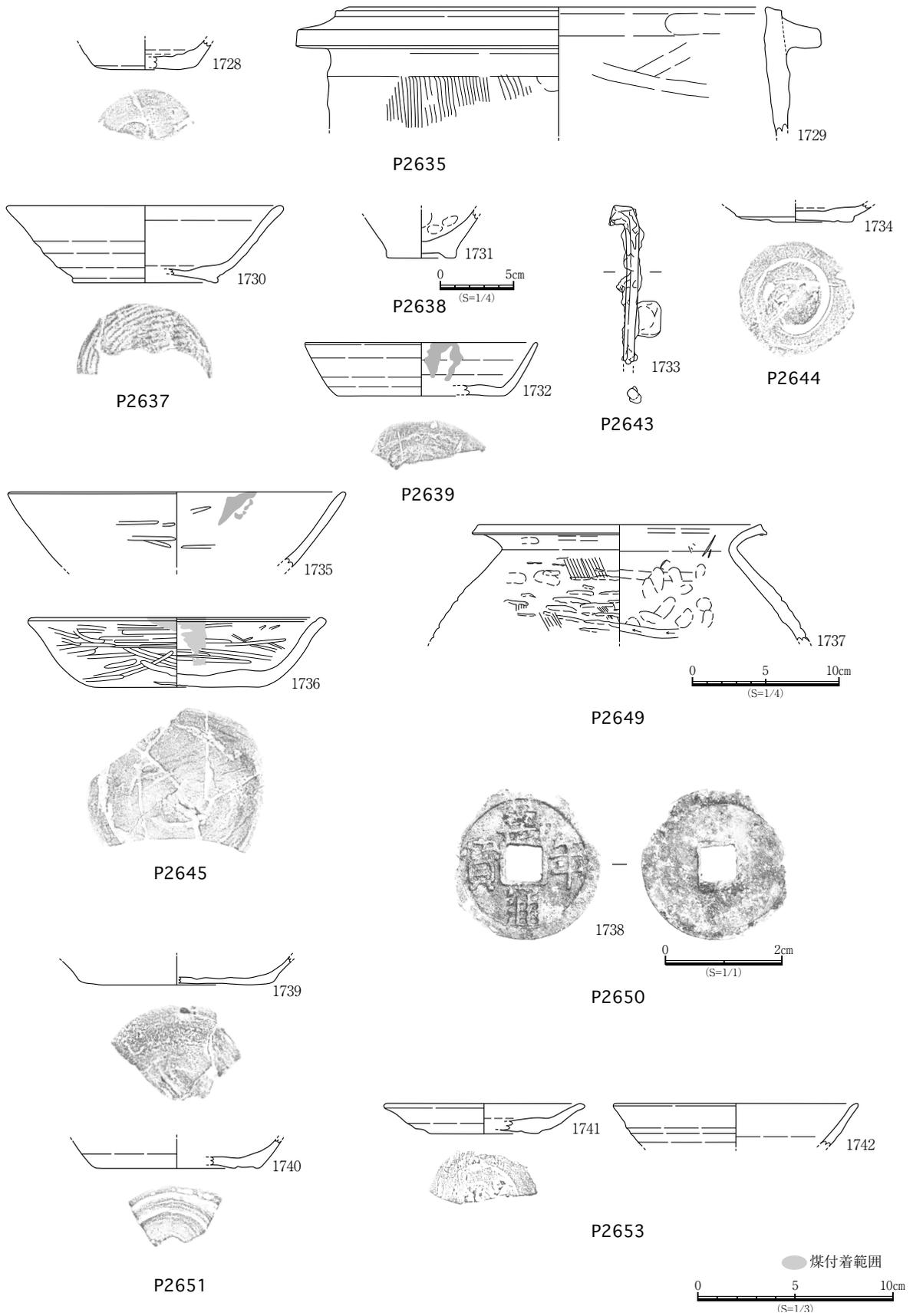


図3-69 ピット出土遺物実測図4

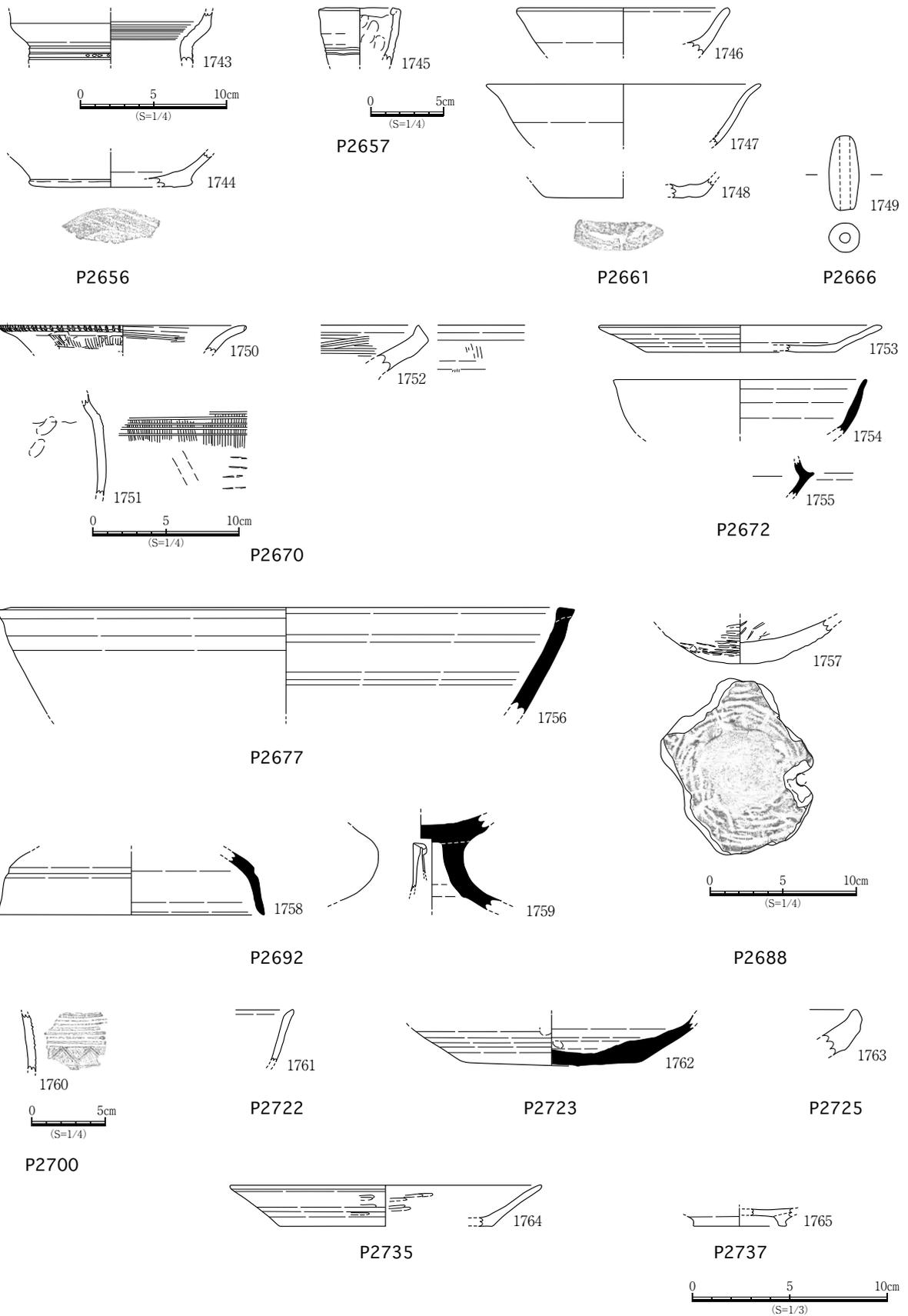


図3-70 ピット出土遺物実測図5

3. 検出遺構と出土遺物

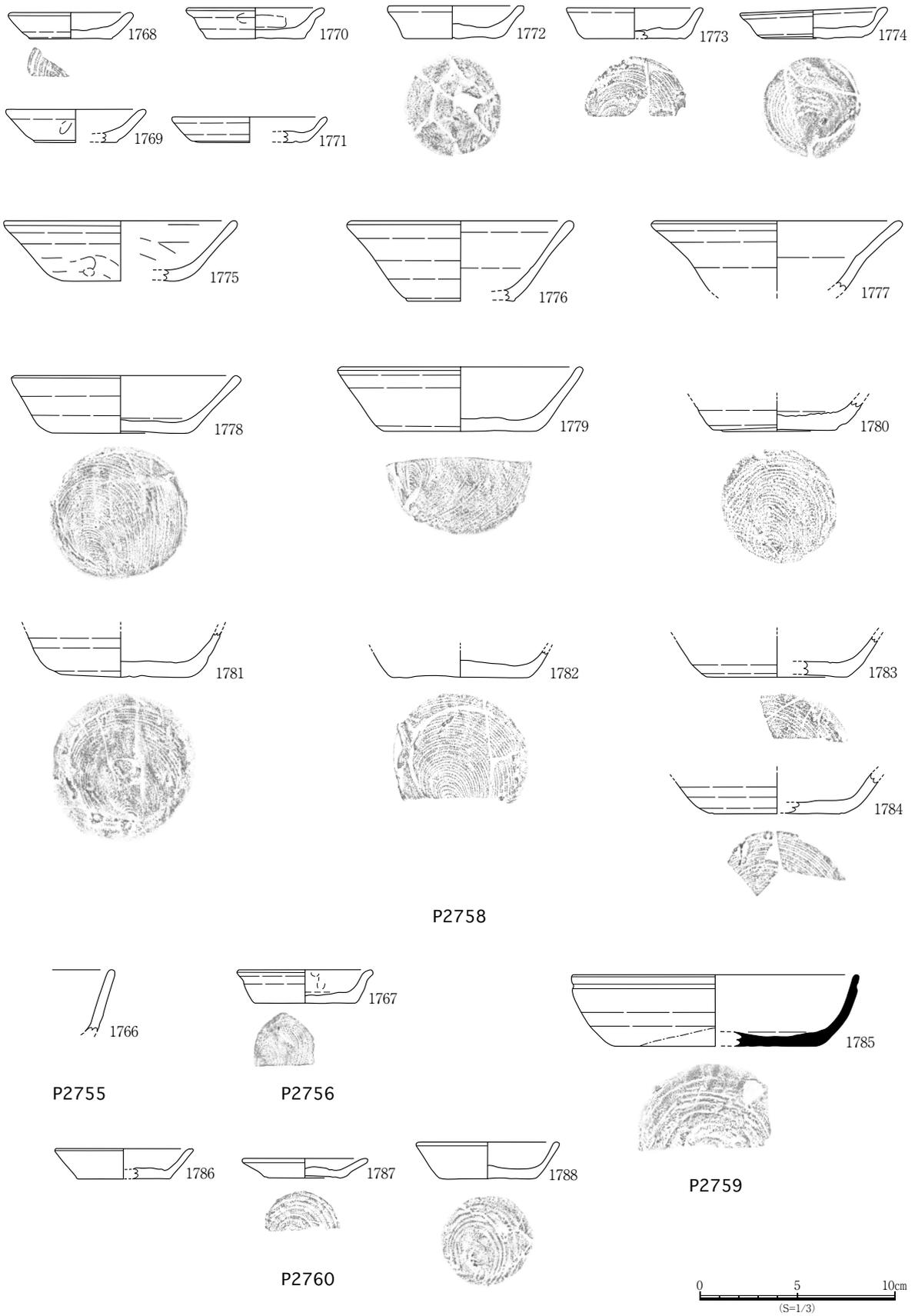


図3-71 ピット出土遺物実測図6

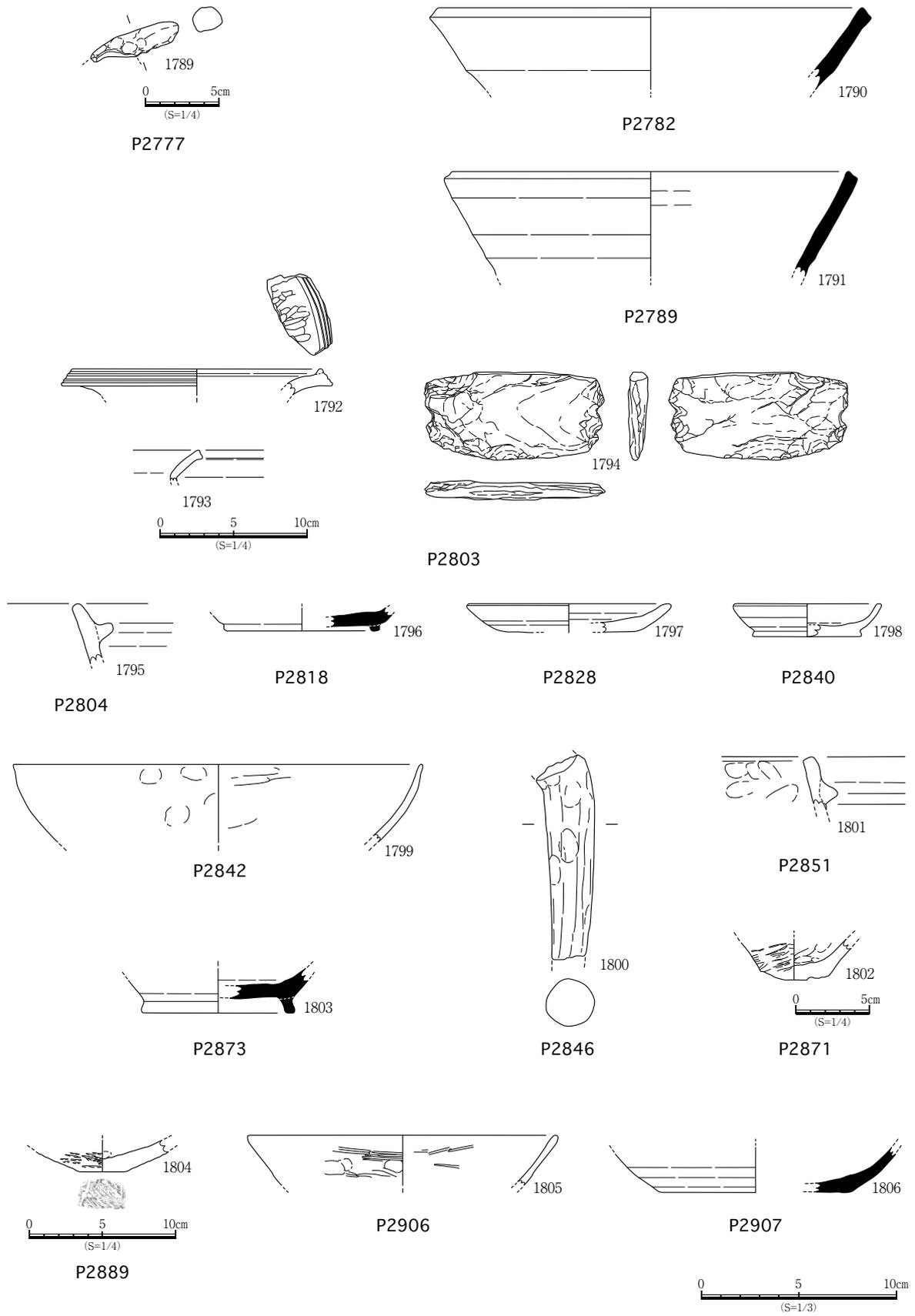


図3-72 ピット出土遺物実測図7

3. 検出遺構と出土遺物

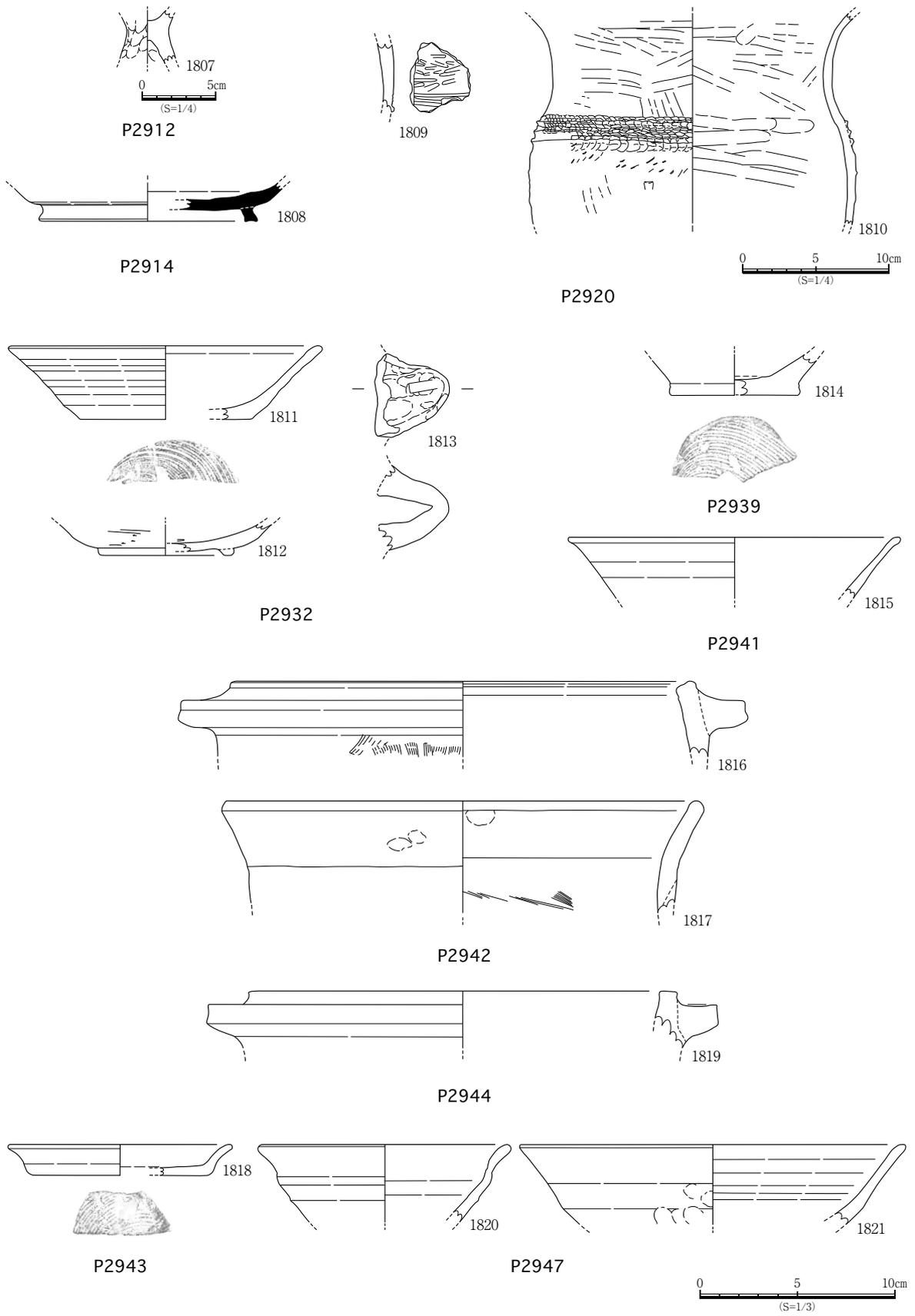


図3-73 ピット出土遺物実測図8

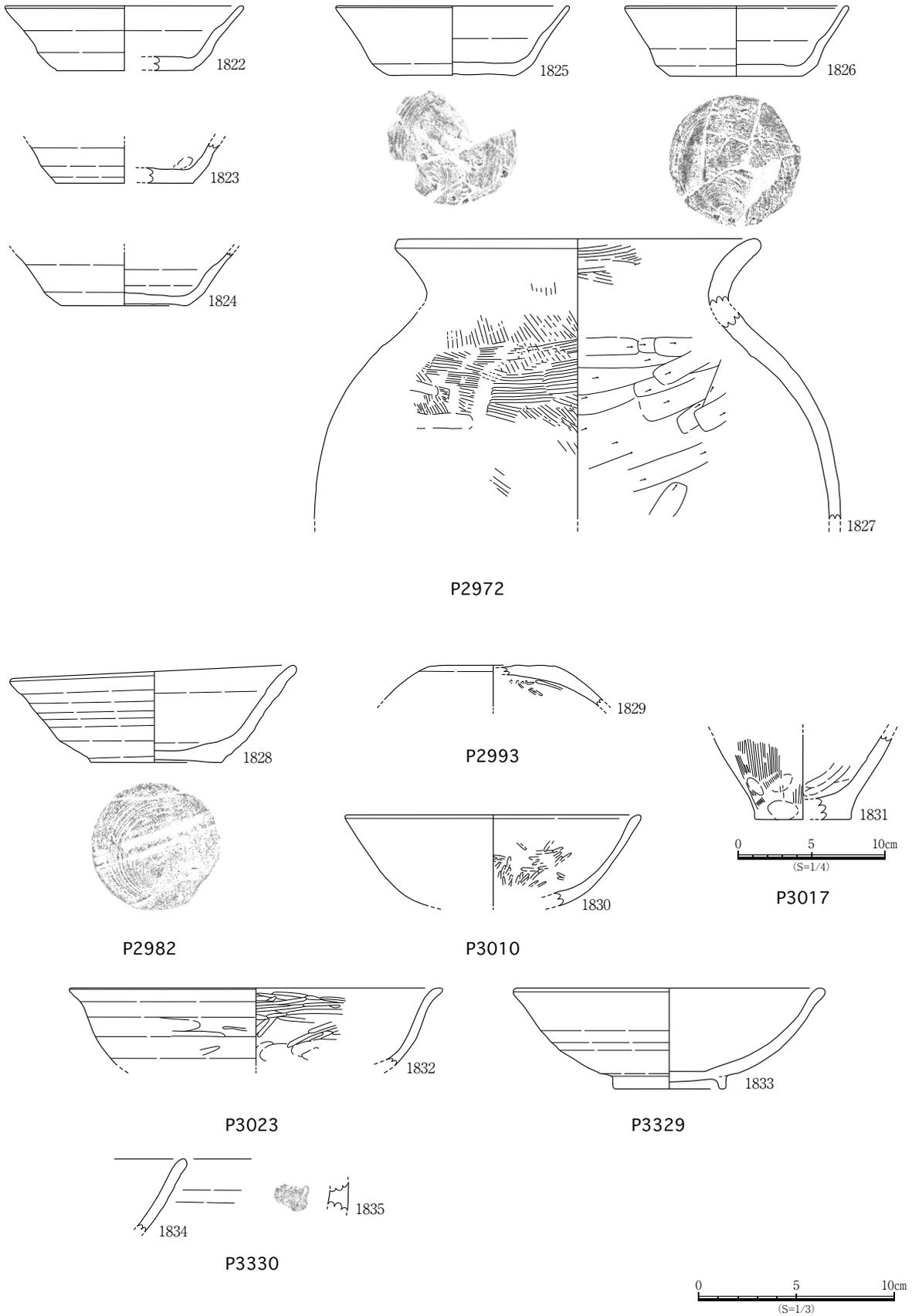


図3-74 ビット出土遺物実測図9

3. 検出遺構と出土遺物

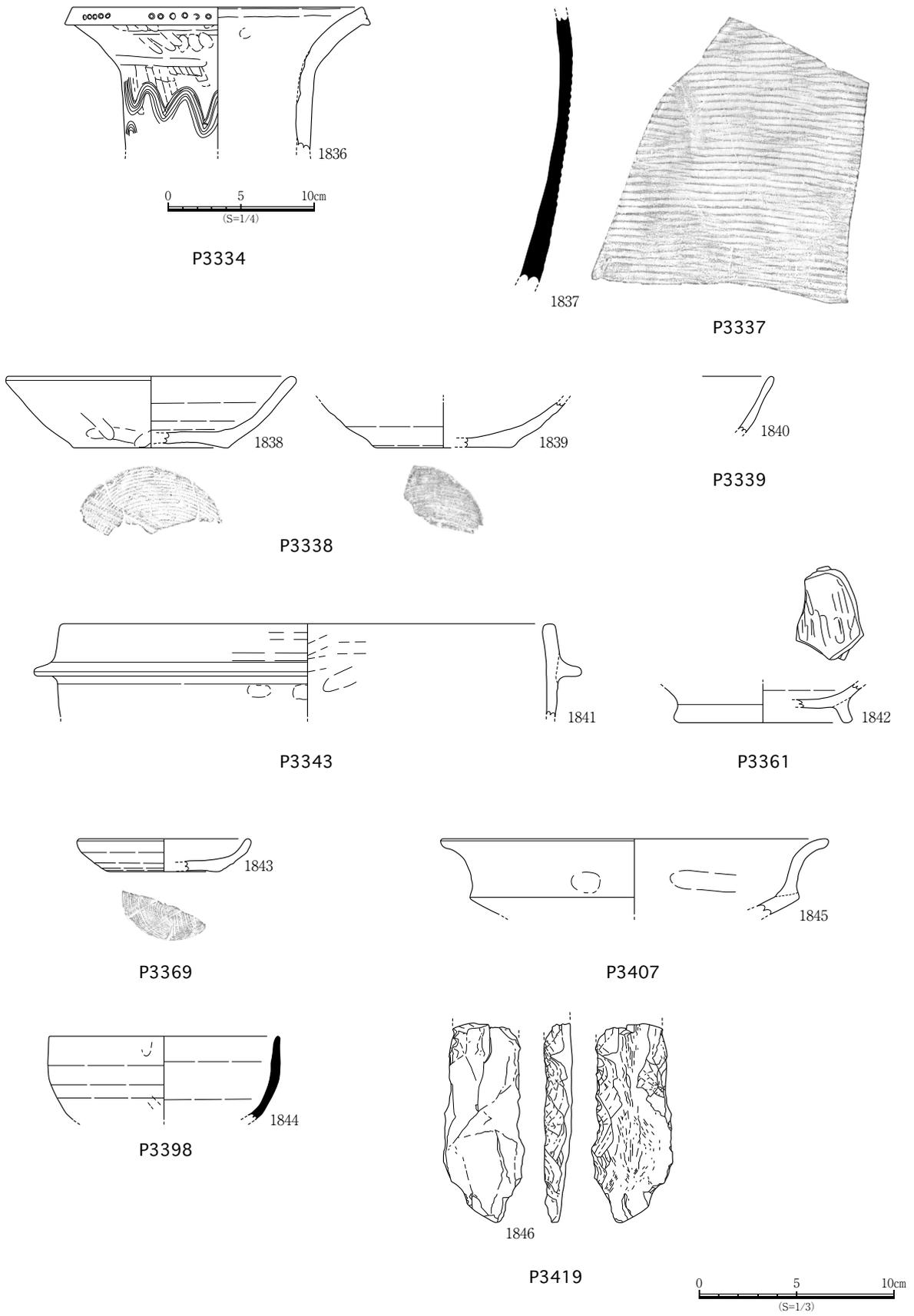


図3-75 ピット出土遺物実測図10

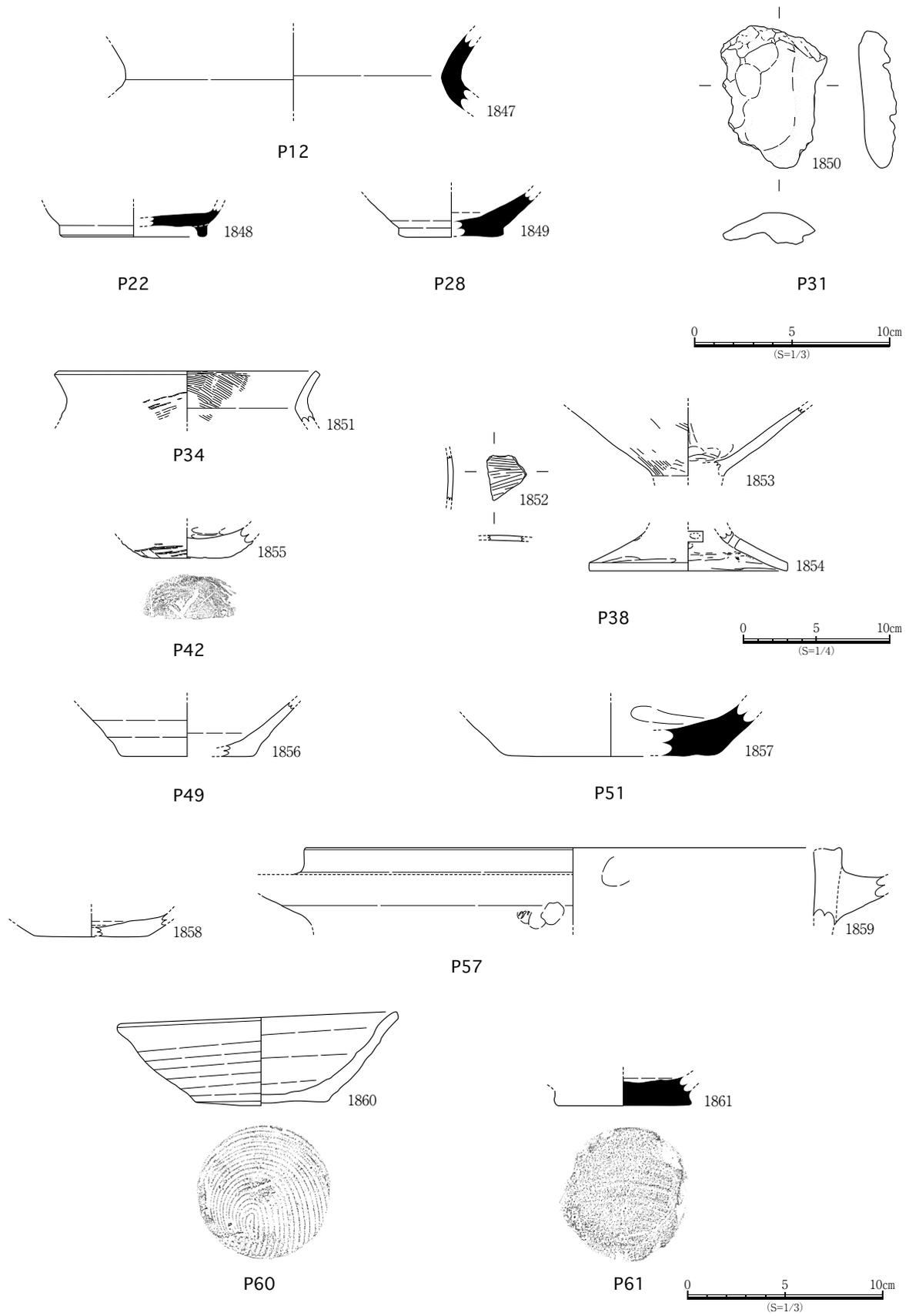


図3-76 ピット出土遺物実測図11

3. 検出遺構と出土遺物

P2645

E区西部で検出した楕円形の柱穴で、長軸1.08 m、短軸0.54 m、深さ0.37 mを測る。出土遺物は土師器等で、1735・1736を図示した。

P2650

E区西部で検出した楕円形の柱穴で、長軸1.42 m、短軸1.10 m、深さ0.62 mを測る。北部に柱痕、南部の堀方を有す。出土遺物は堀方南部縁辺から出土した銭貨等で、1738を図示した。

P2651

E区西部で検出した楕円形とみられる柱穴で、調査区南部へ延びる。長軸2.33 m、短軸0.77 m以上、深さ0.47 mを測る。出土遺物は土師器等で、1739・1740を図示した。

P2661

E区西部で検出した不整形の柱穴で、長軸0.88 m、短軸0.77 m、深さ0.47 mを測る。出土遺物は土師器等で、1746～1748を図示した。

P2670

F区北部で検出した円形の柱穴で、長軸0.43 m、短軸0.37 m、深さ0.29 mを測る。出土遺物は弥生土器・土師器等で、1750～1752を図示した。

P2692

F区北部で検出した不整楕円形の柱穴で、長軸1.33 m、短軸0.96 m、深さ0.14 mを測る。出土遺物は須恵器等で、1758・1759を図示した。

P2758

F区北部で検出した円形の柱穴で、長軸0.45 m、短軸0.44 m、深さ0.34 mを測る。出土遺物は土師器等で、1768～1784を図示した。

P2760

F区北部で検出した隅丸方形の柱穴で、長軸0.33 m、短軸0.32 m、深さ0.23 mを測る。出土遺物は土師器等で、1786～1788を図示した。

P2803

H区西部で検出した円形の柱穴で、長軸0.55 m、短軸0.53 m、深さ0.21 mを測る。出土遺物は弥生土器・石製品等で、1792～1794を図示した。

P2920

F区中央部で検出した楕円形の柱穴で、長軸0.45 m、短軸0.28 m、深さ0.32 mを測る。出土遺物は弥生土器等で、1809・1810を図示した。

P2932

F区中央部で検出した不整形の柱穴で、長軸0.45 m、短軸0.35 m、深さ0.12 mを測る。出土遺物は土師器・黒色土器等で、1811～1813を図示した。

P2942

F区中央部で検出した円形の柱穴で、長軸0.40 m、短軸0.35 m、深さ0.18 mを測る。床面から根石が出土した。出土遺物は土師器等で、1816・1817を図示した。

P2947

F区中央部で検出した楕円形の柱穴で、長軸0.85 m、短軸0.68 m、深さ0.22 mを測る。出土遺物は土

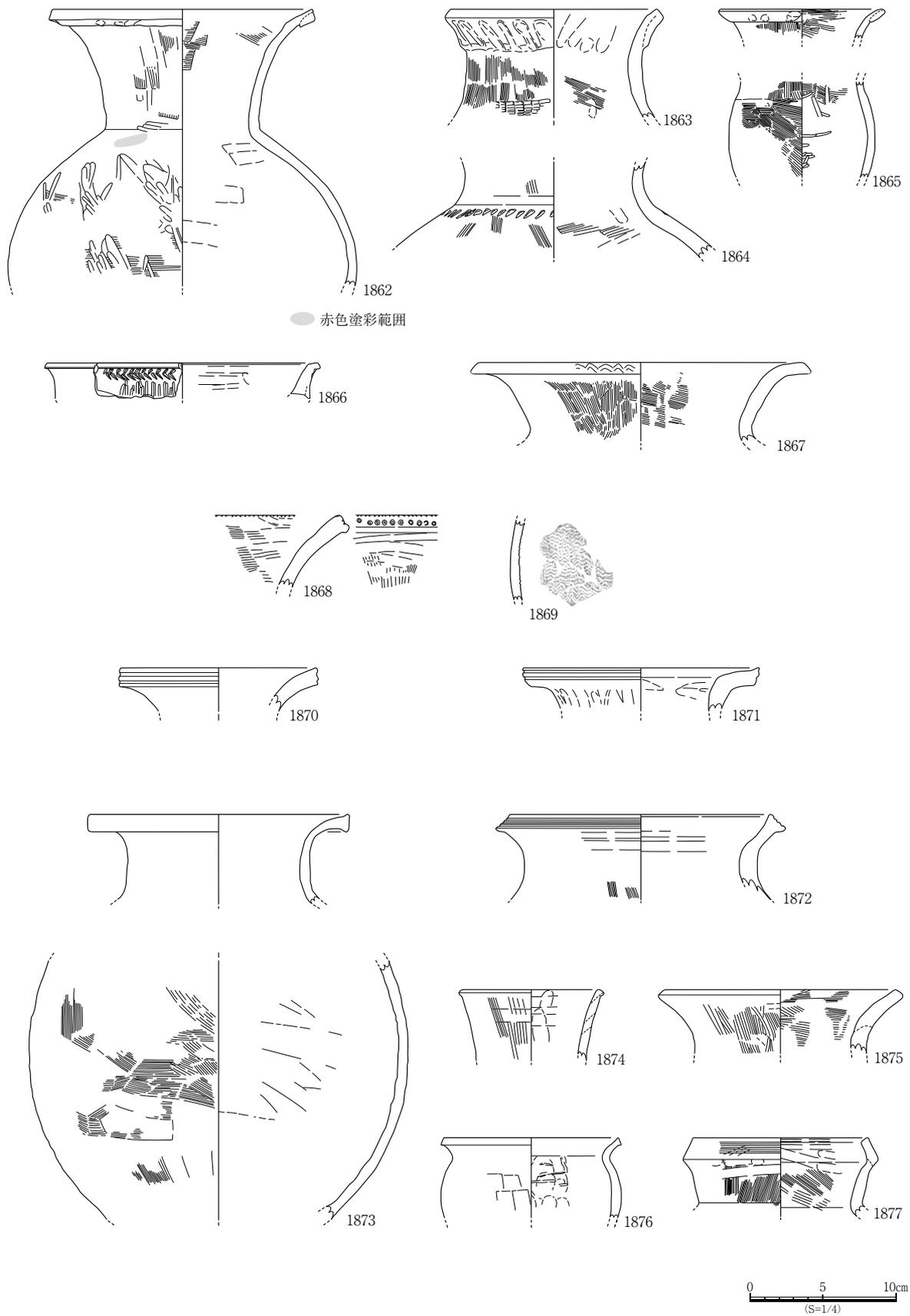


図3-77 包含層出土遺物実測図1(弥生土器)

3. 検出遺構と出土遺物

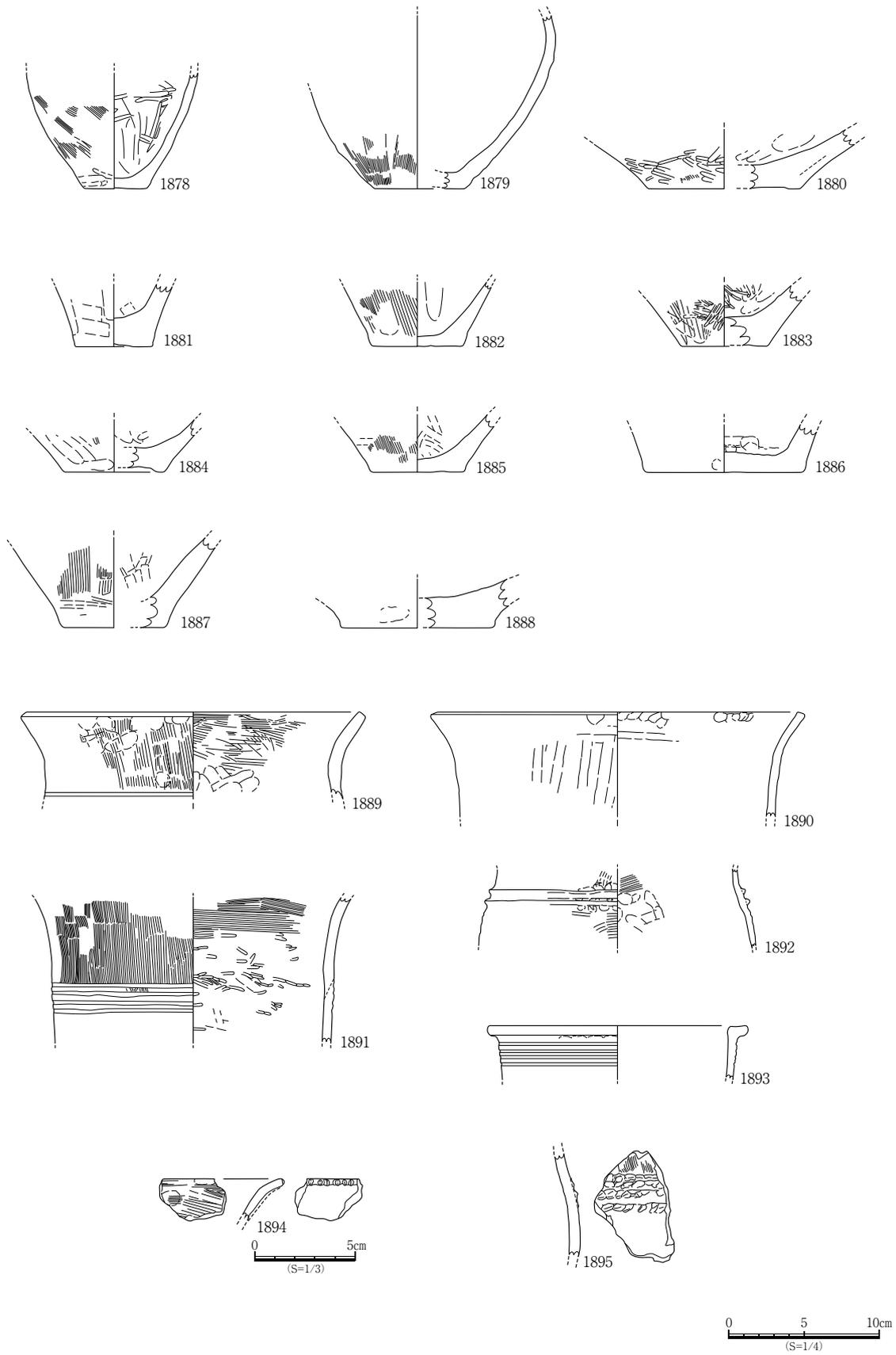


図3-78 包含層出土遺物実測図2(弥生土器)

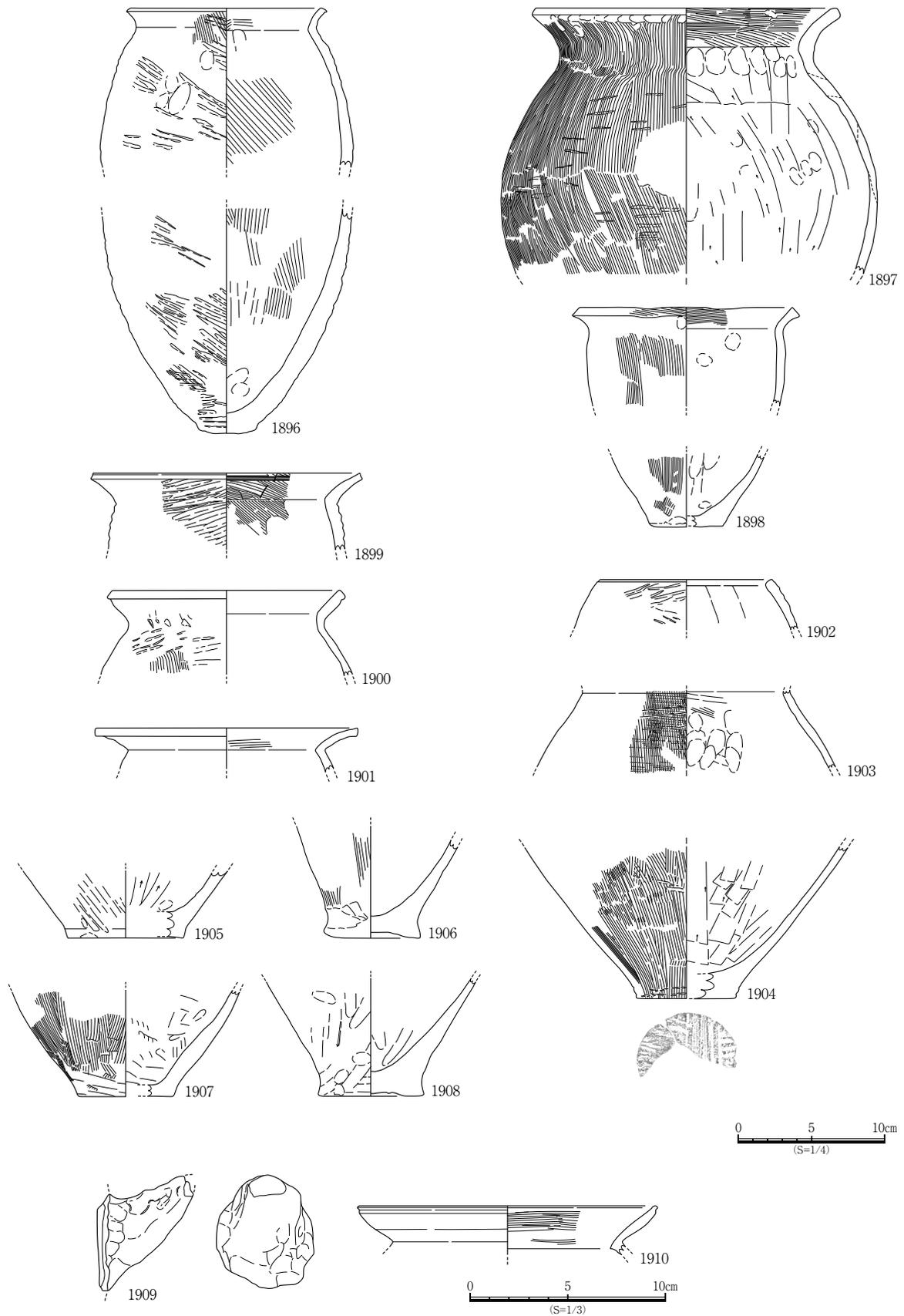


図3-79 包含層出土遺物実測図3(弥生土器・土師器・庄内式土器)

3. 検出遺構と出土遺物

師器等で、1820・1821を図示した。

P2972

F区中央部で検出した楕円形の柱穴で、長軸0.80m、短軸0.39m、深さ0.18mを測る。出土遺物は土師器等で、1822～1827を図示した。

(6)包含層出土遺物

包含層出土遺物は、北区と同様に黒色シルト質土から出土したものが多くを占める。H区南壁ではV層、J区東壁ではIV層が包含層に相当し、調査区全体を通して13～16cm程度の体積が確認された。

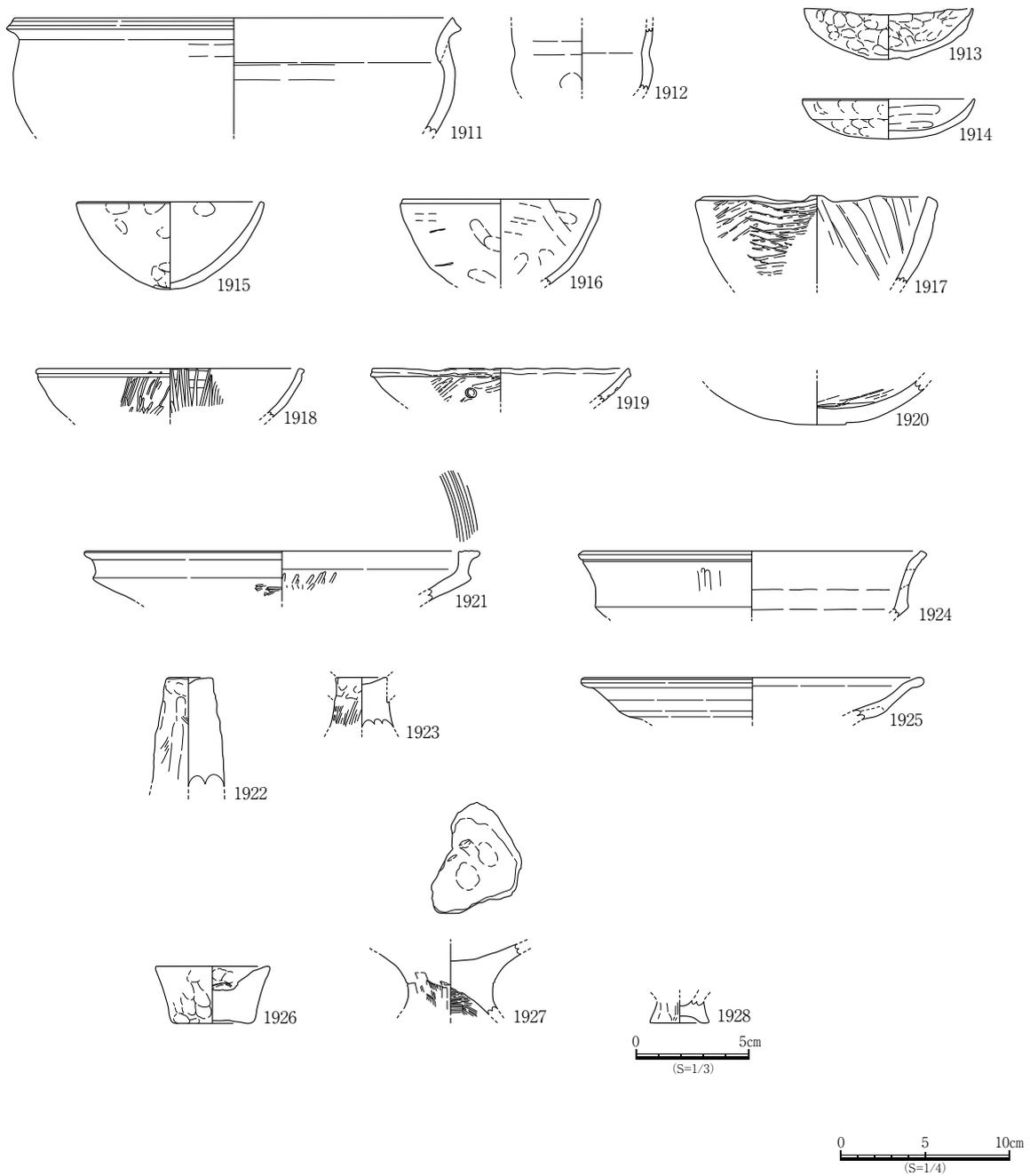


図3-80 包含層出土遺物実測図4(弥生土器)

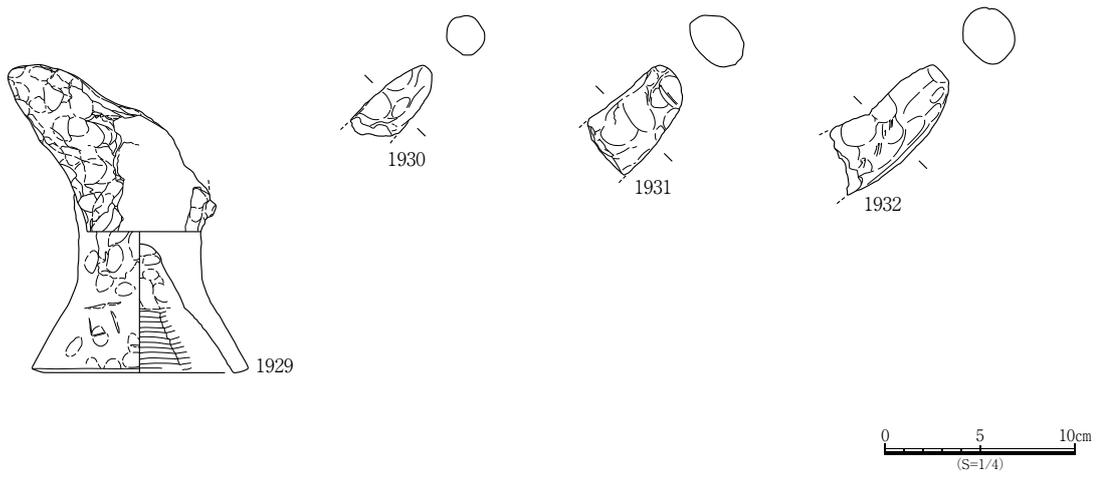


図3-81 包含層出土遺物実測図5(土製品)

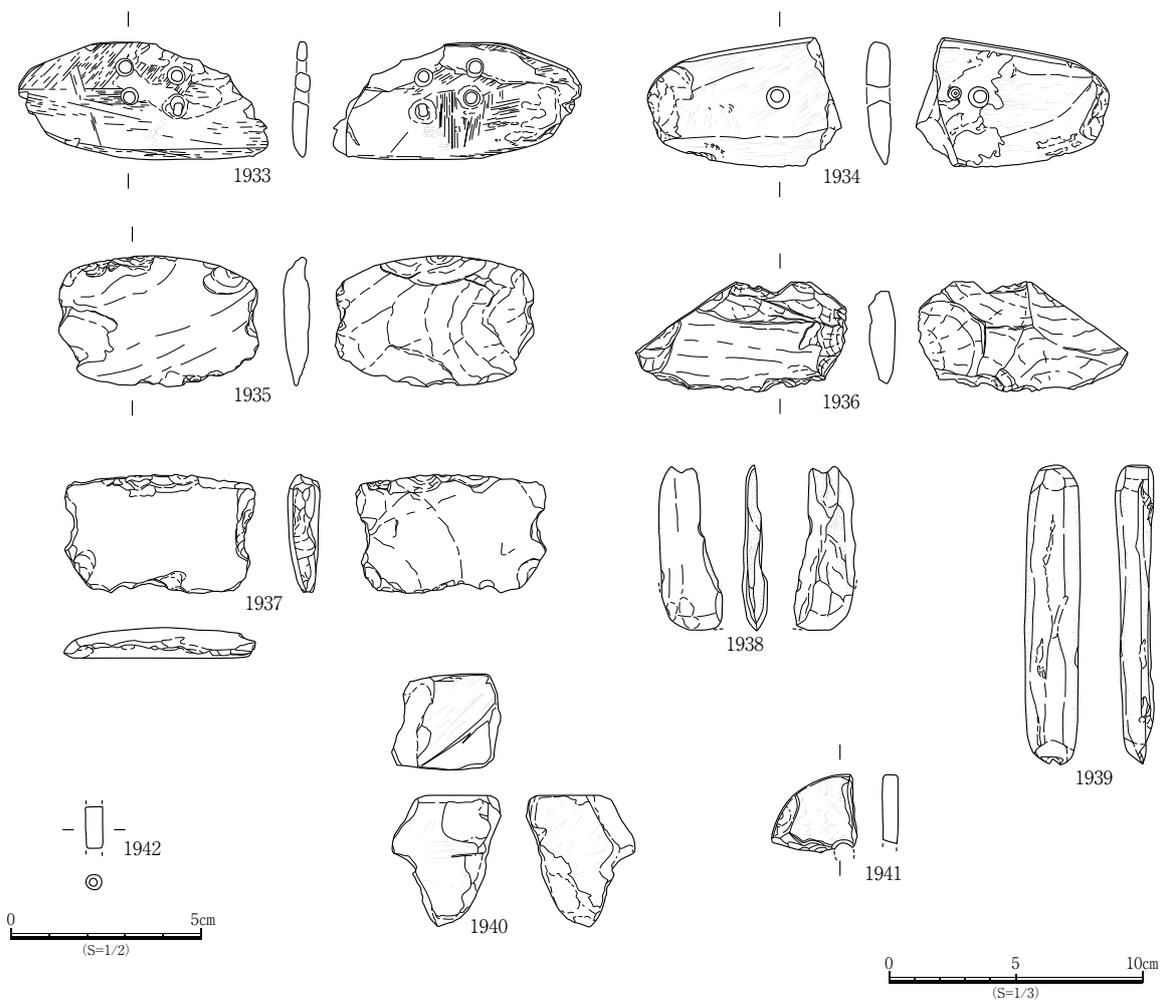


図3-82 包含層出土遺物実測図6(石製品)

3. 検出遺構と出土遺物

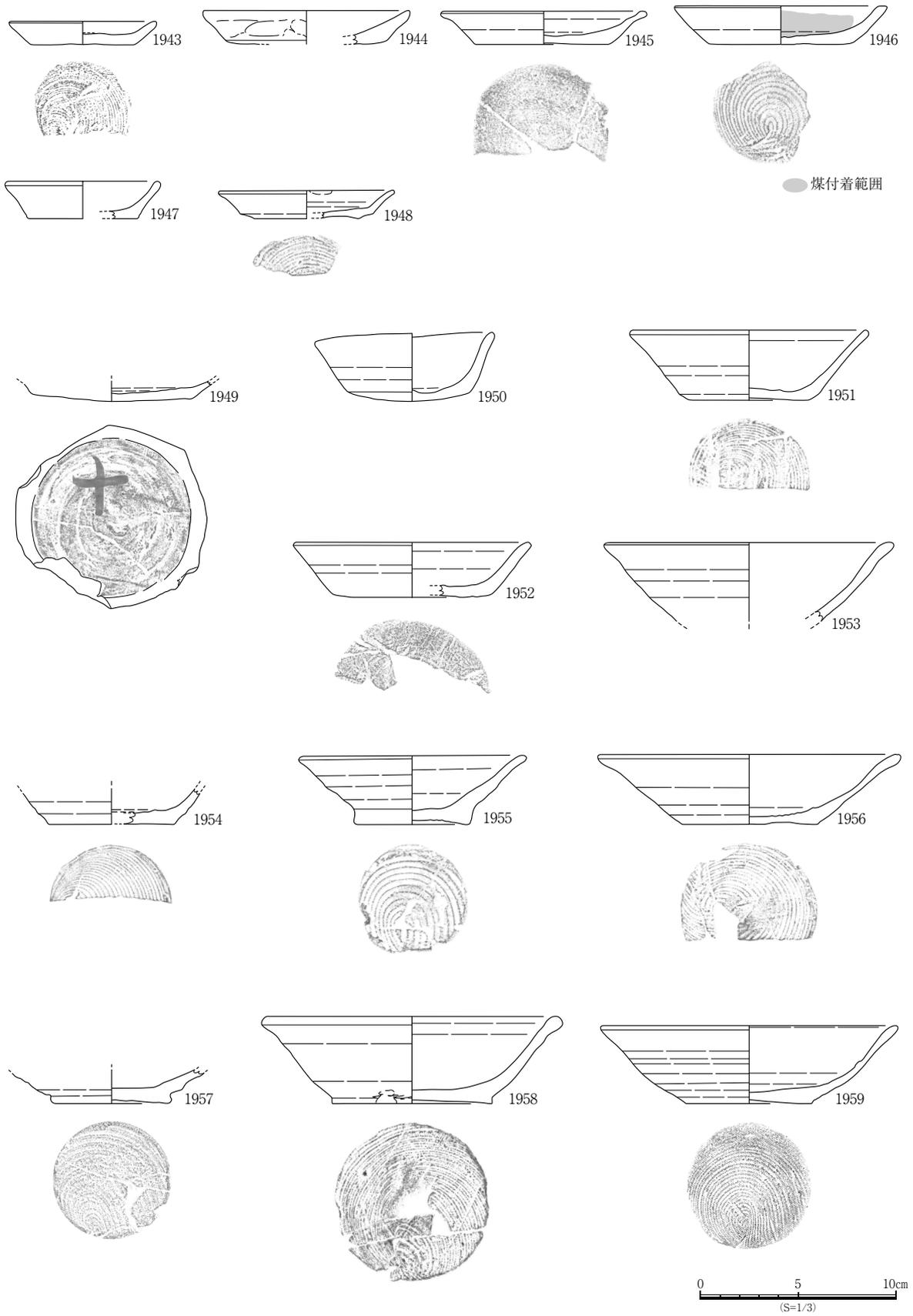


図3-83 包含層出土遺物実測図7(土師器)

出土遺物は、それぞれの調査区ごとに取り上げを行なったが、調査区が細分されているため、全体をまとめて器種・器形ごとに掲載する。遺物の時期は、弥生時代前期末、弥生時代終末期から古墳時代初頭、古墳時代後期、古代、古代末から中世である。出土遺物の詳細については、遺物観察表に記す。

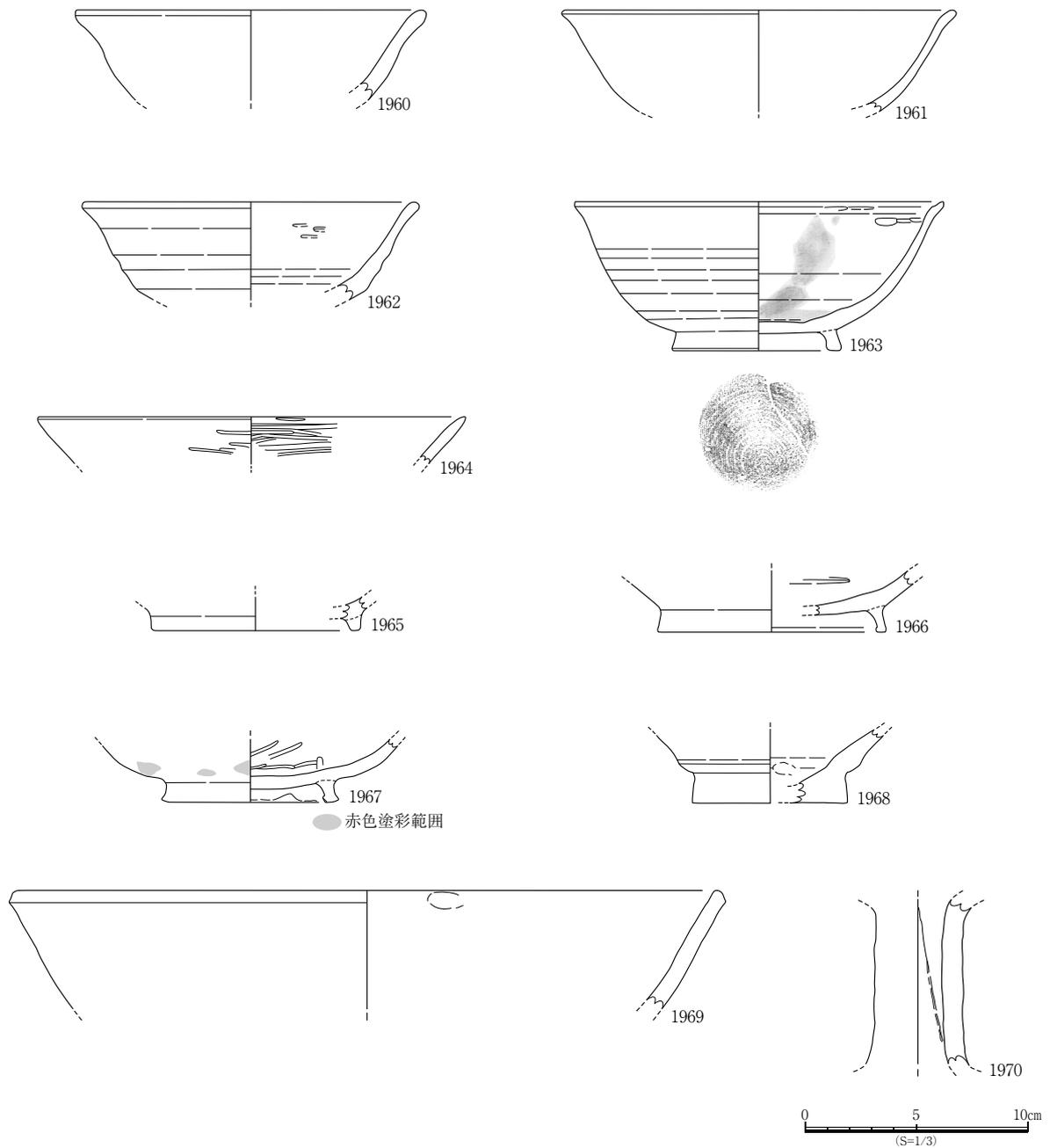


図3-84 包含層出土遺物実測図8(土師器)

3. 検出遺構と出土遺物

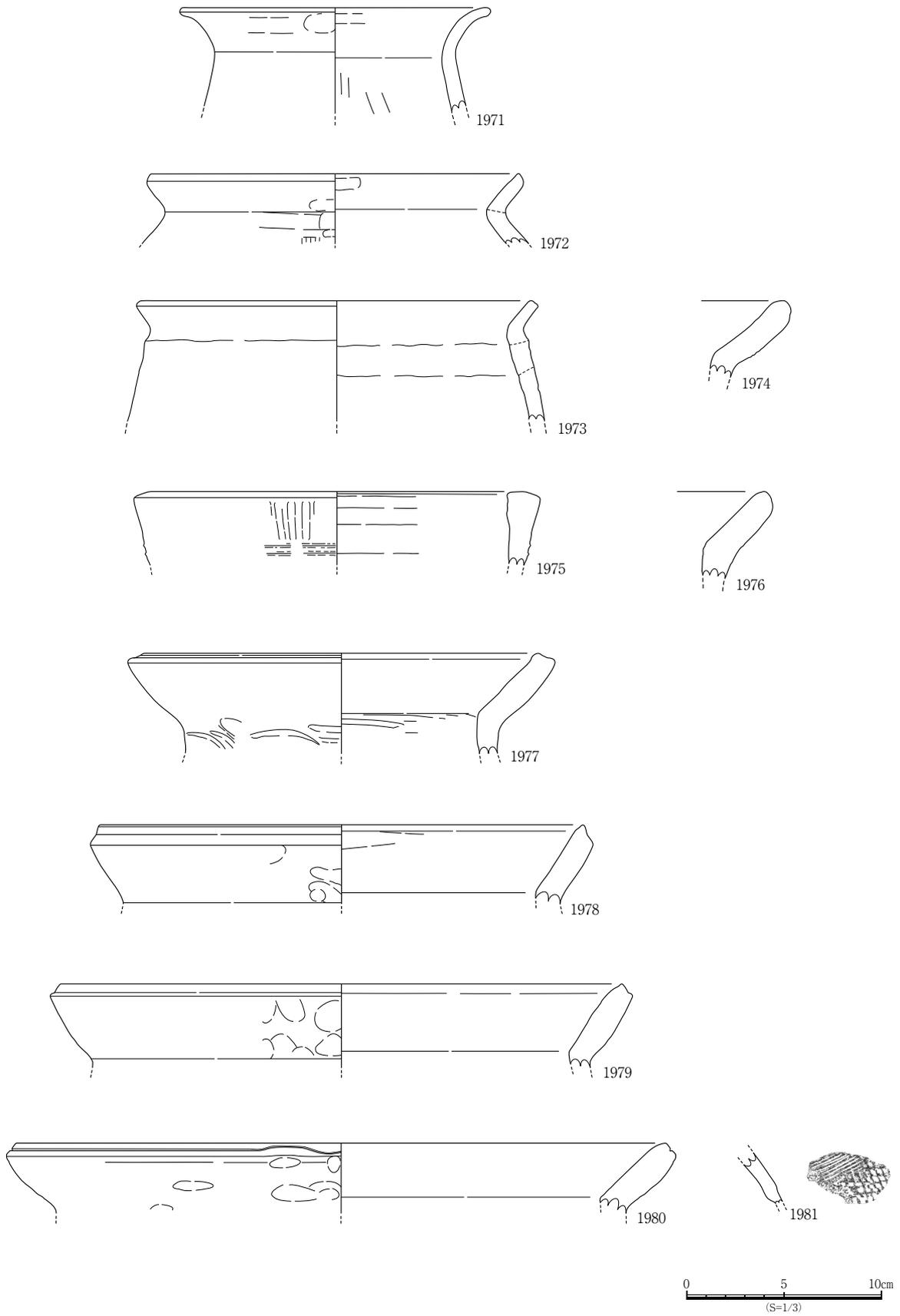


図3-85 包含層出土遺物実測図9(土師器)

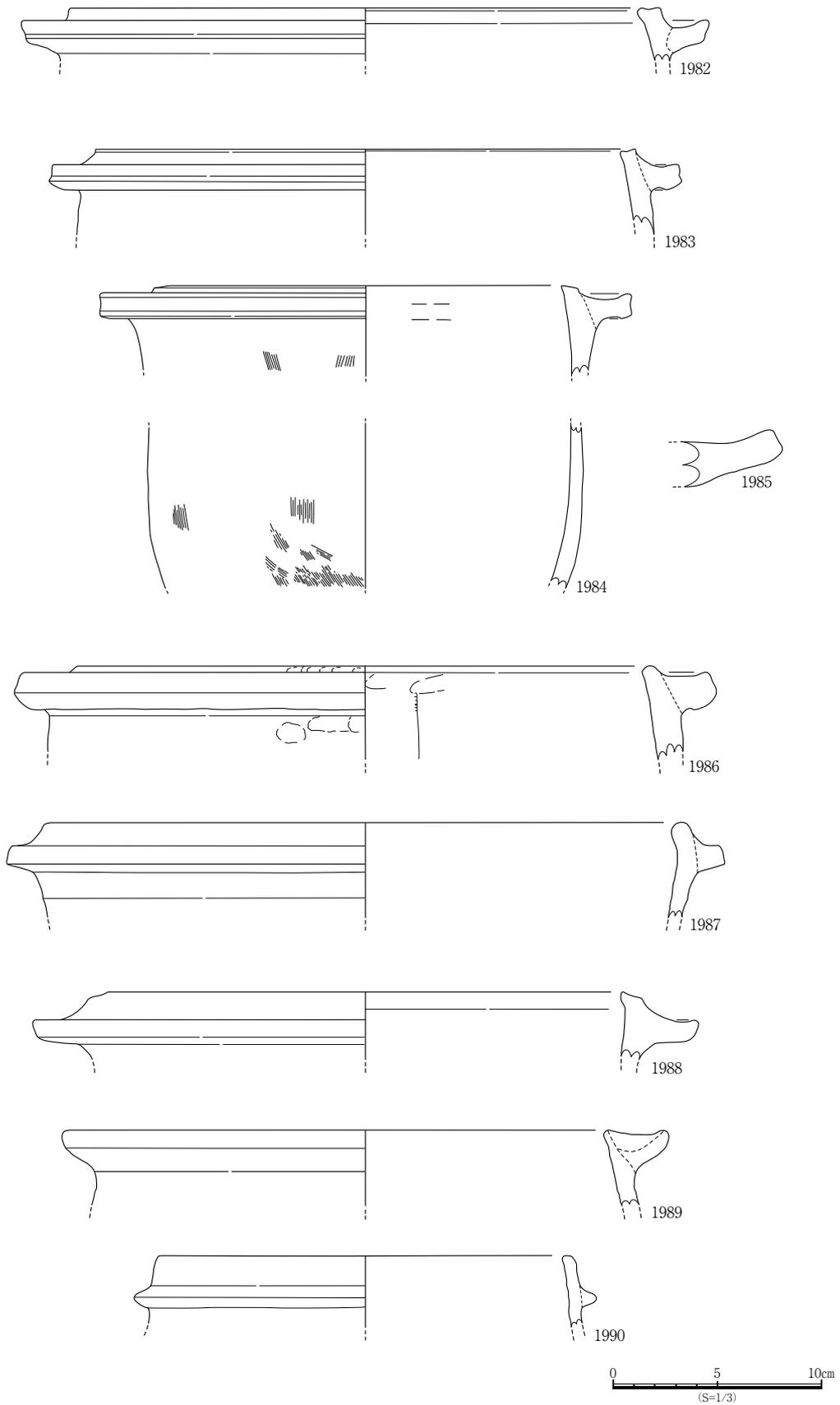


図3-86 包含層出土遺物実測図10(土師器)

3. 検出遺構と出土遺物

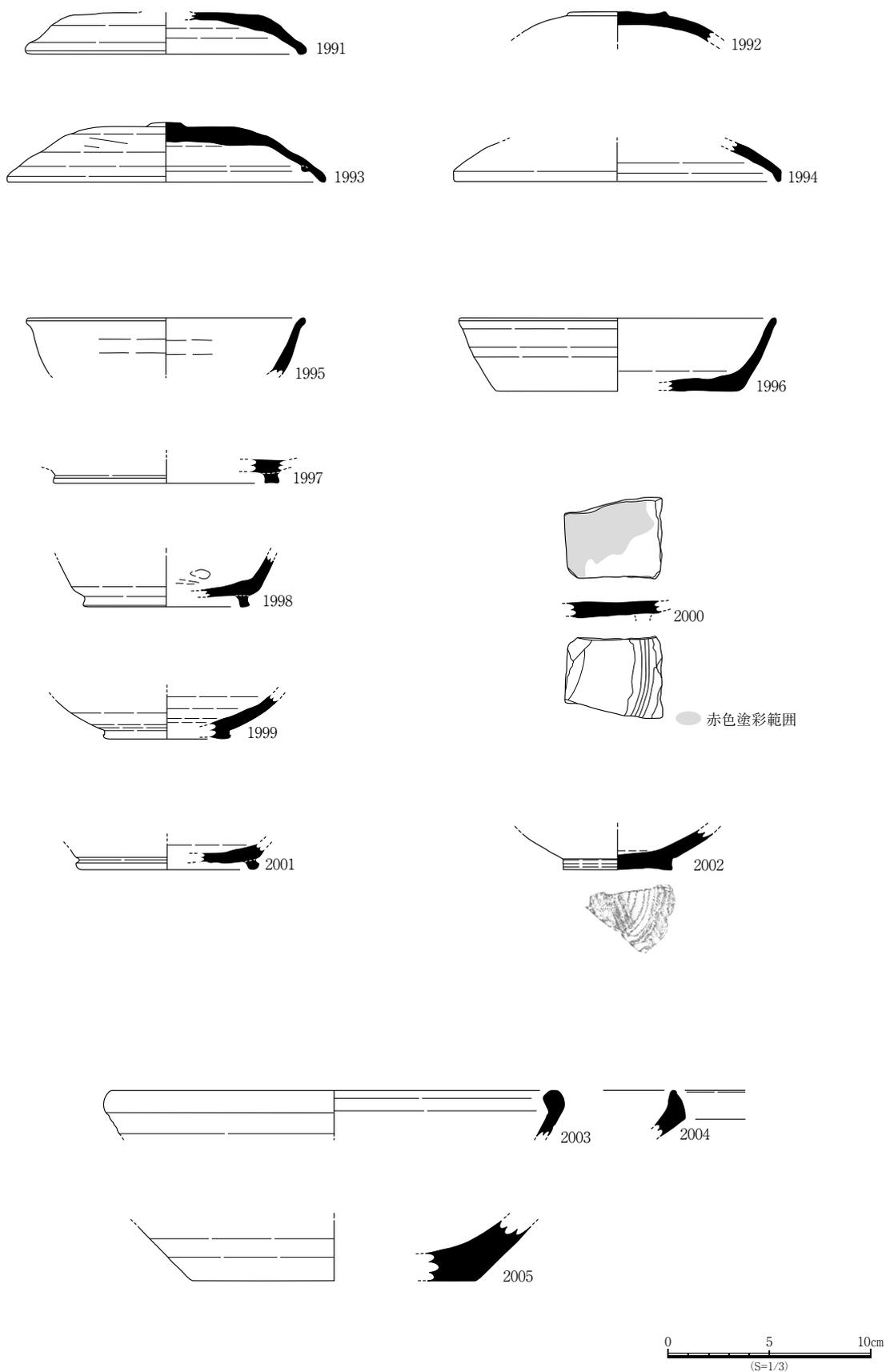


図3-87 包含層出土遺物実測図11(須恵器)

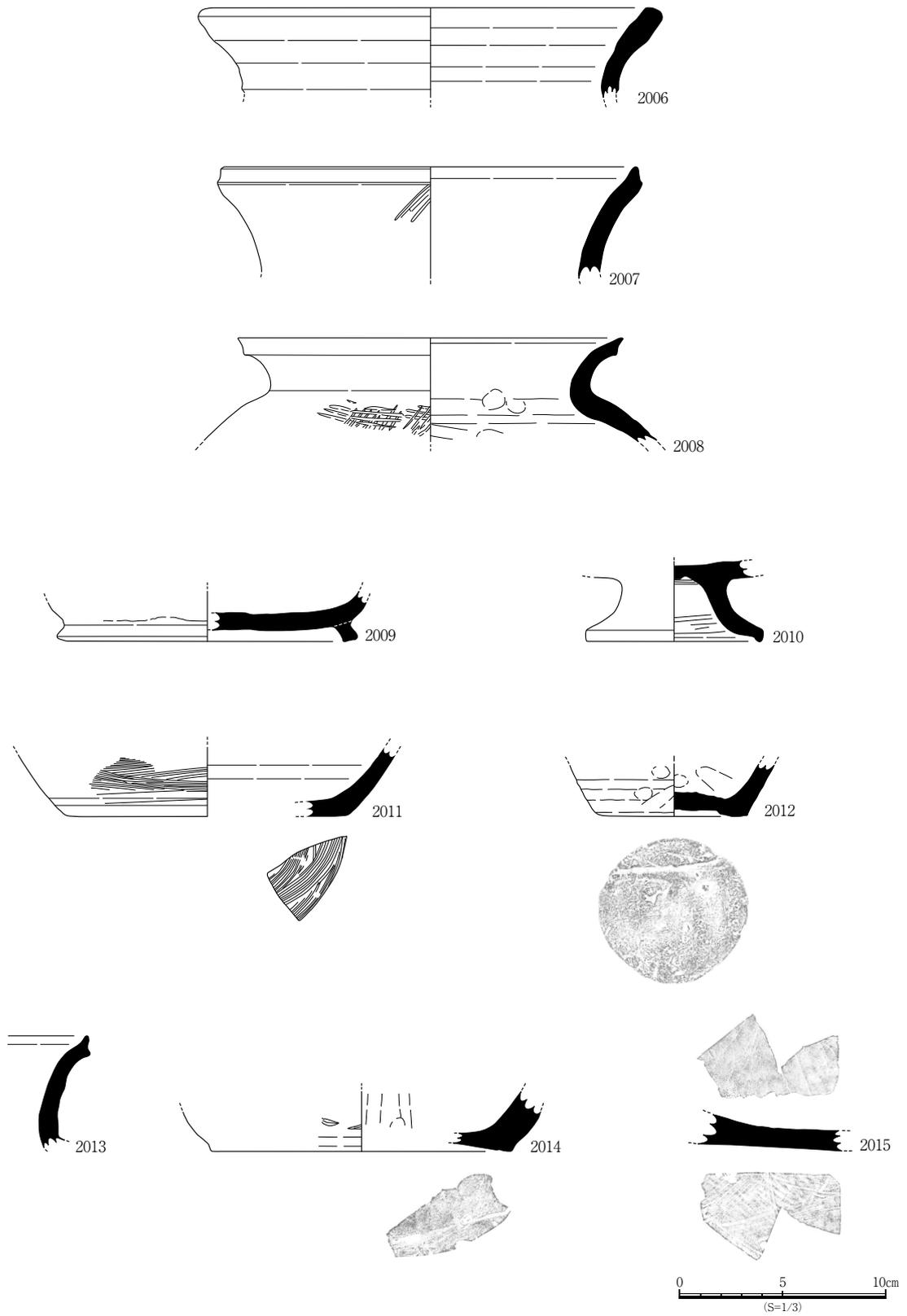


図3-88 包含層出土遺物実測図12(須恵器)

3. 検出遺構と出土遺物

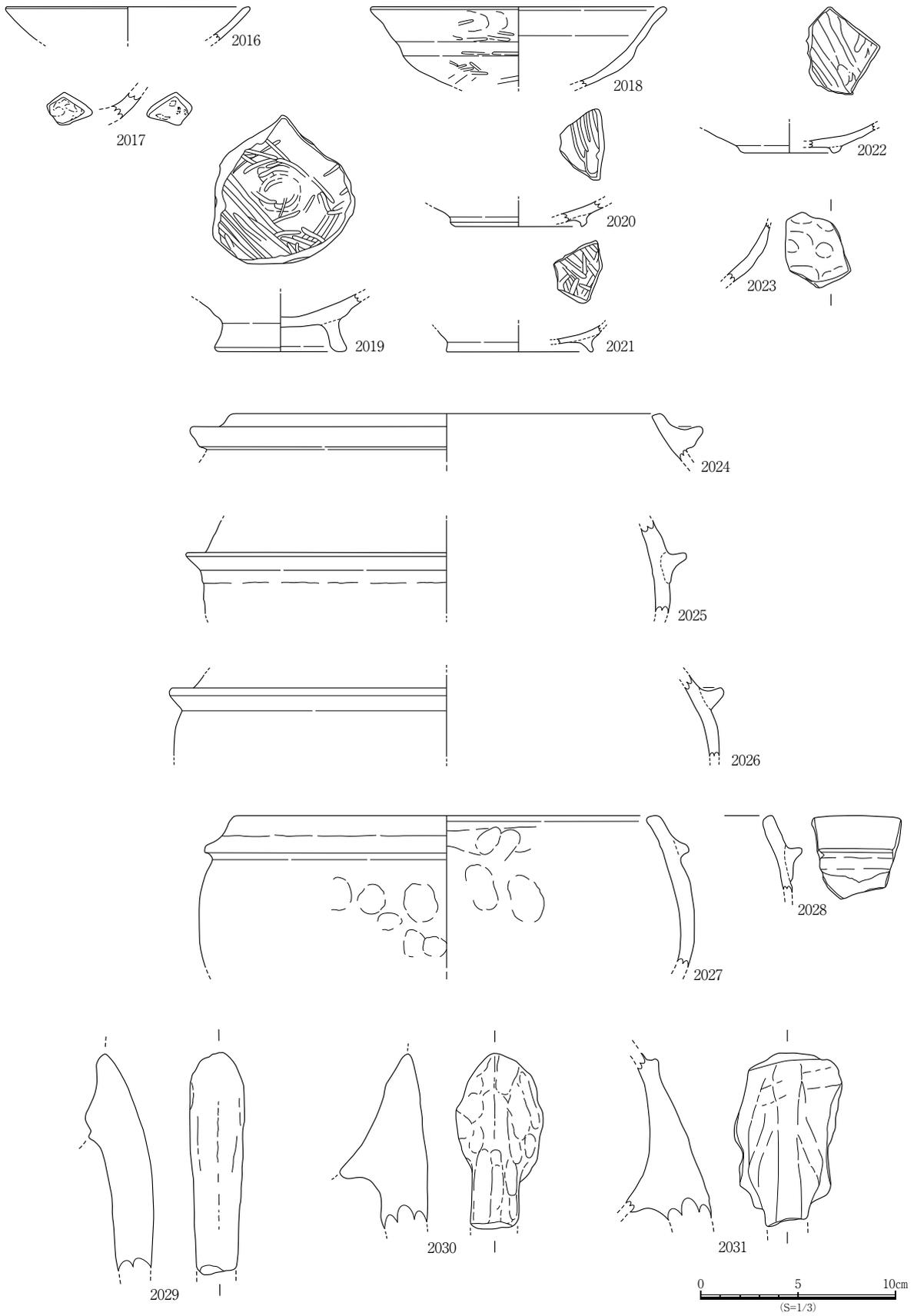


図3-89 包含層出土遺物実測図13(緑釉陶器・黒色土器・瓦器・瓦質土器)

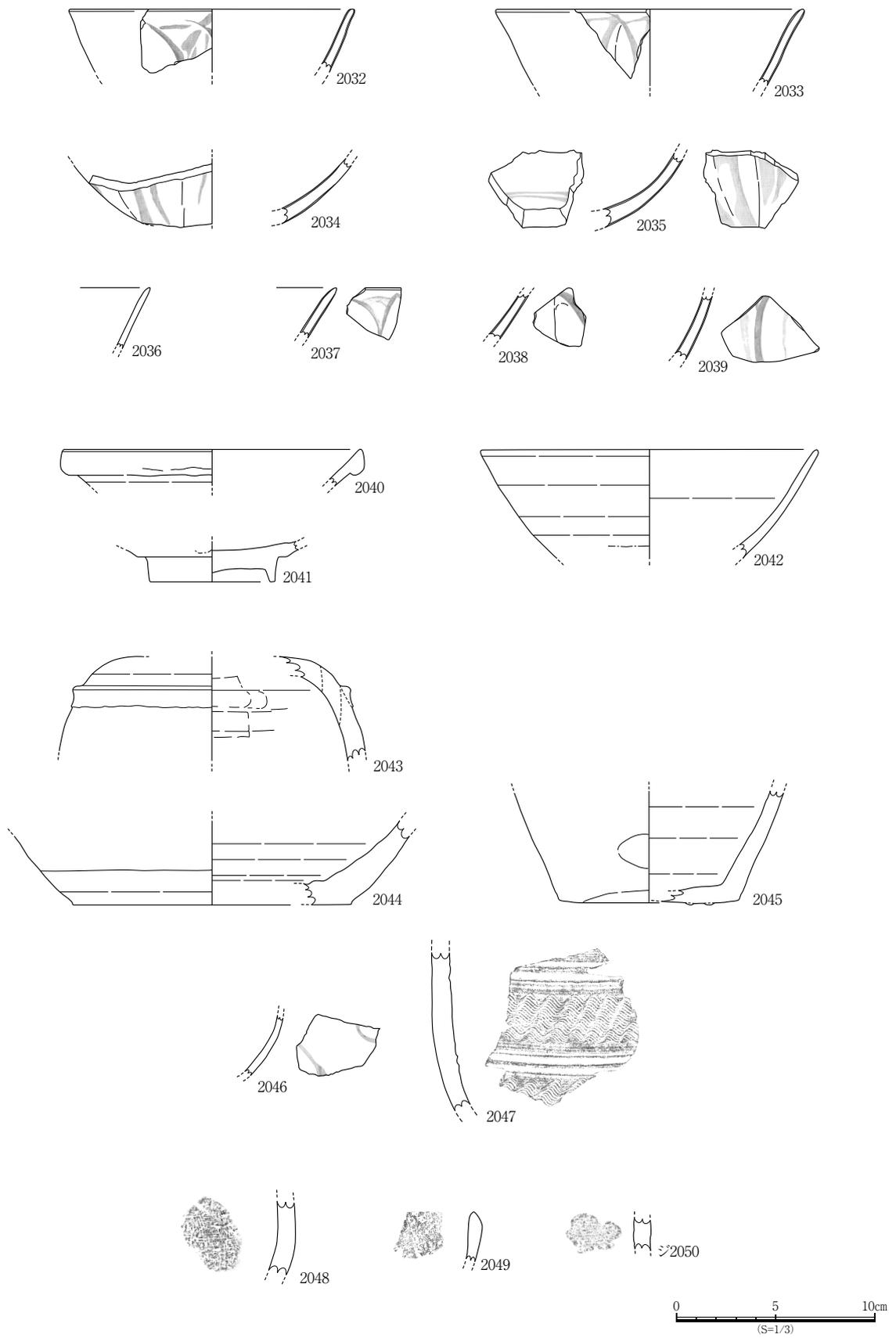


図3-90 包含層出土遺物実測図14(青磁・白磁・陶器・陶磁器・炆器・製塩土器)

3. 検出遺構と出土遺物

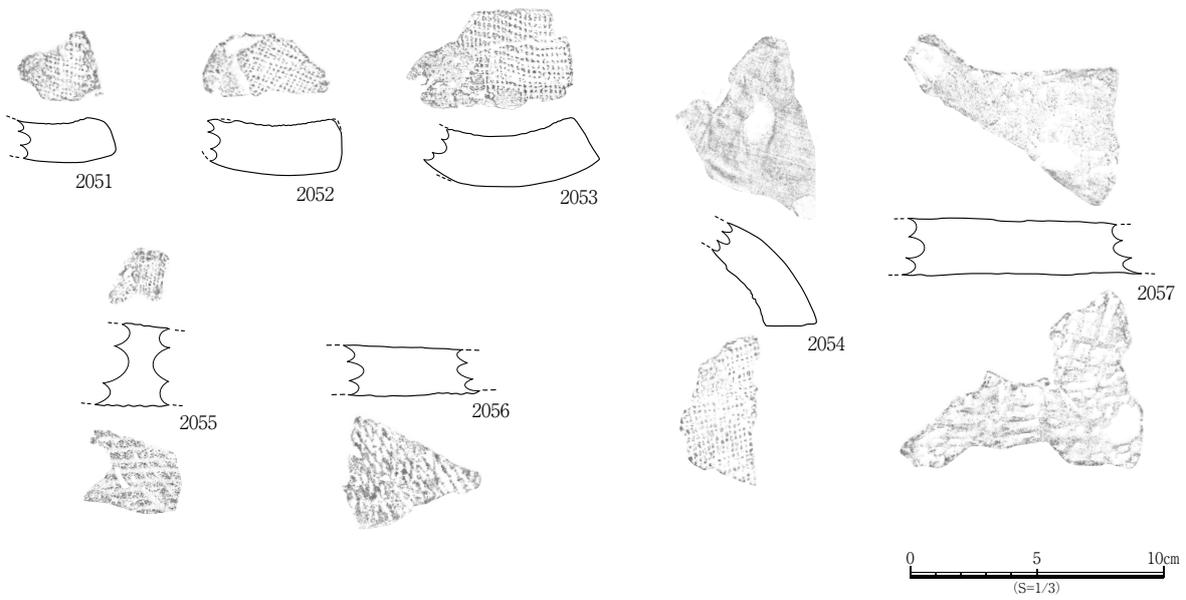


図3-91 包含層出土遺物実測図15(瓦)

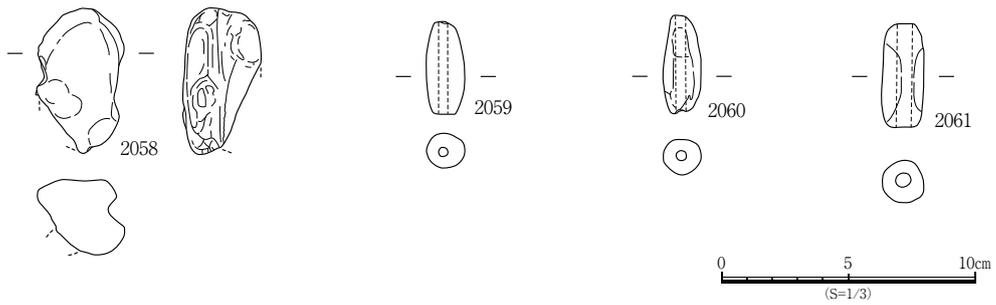


図3-92 包含層出土遺物実測図16(土製品)

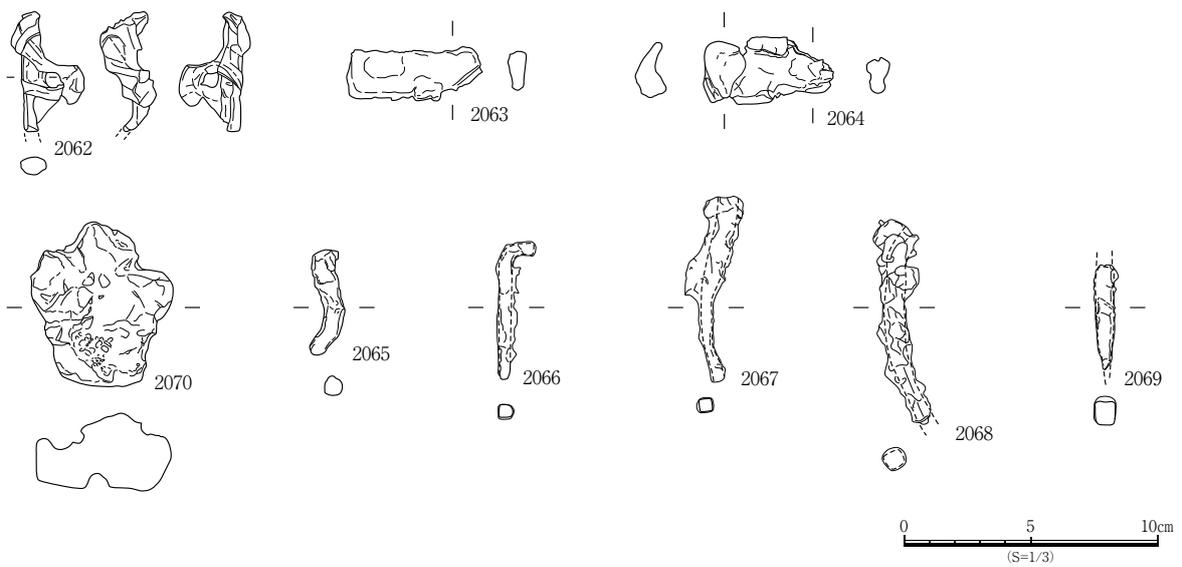


図3-93 包含層出土遺物実測図17(鉄製品)

第IV章 小結

1. 西野遺跡二・四次調査のまとめ

(1) 弥生時代

本報告書でまとめた西野遺跡二・四次調査では、竪穴建物跡は29棟検出とされ、報告書刊行に際して当時竪穴建物跡とされていない他の遺構も併せるとその数は30棟にのぼる。その内20棟から弥生時代の遺物が出土しており、その殆どが調査区北東部に集中する。弥生時代後期後半のものが多くを占めるが、その他、弥生時代前期末から中期初頭に位置付けることができる遺構として、ST3001が挙げられる。ST3001は、非常に浅い円形または楕円形状の竪穴建物跡である。出土した弥生土器甕(615・616)はいずれも平底状で、頸部から口縁部は緩やかに外反し、外面肩部に2・3条の微隆起突帯が巡る。この他にも、浅い不整形形状の土坑SK2070からは、小さな平底状で、胴部中位に5～7条の1単位の沈線が5帯巡る壺(769)が出土した。隅丸長方形形状の土坑SK2081からは、頸部に多

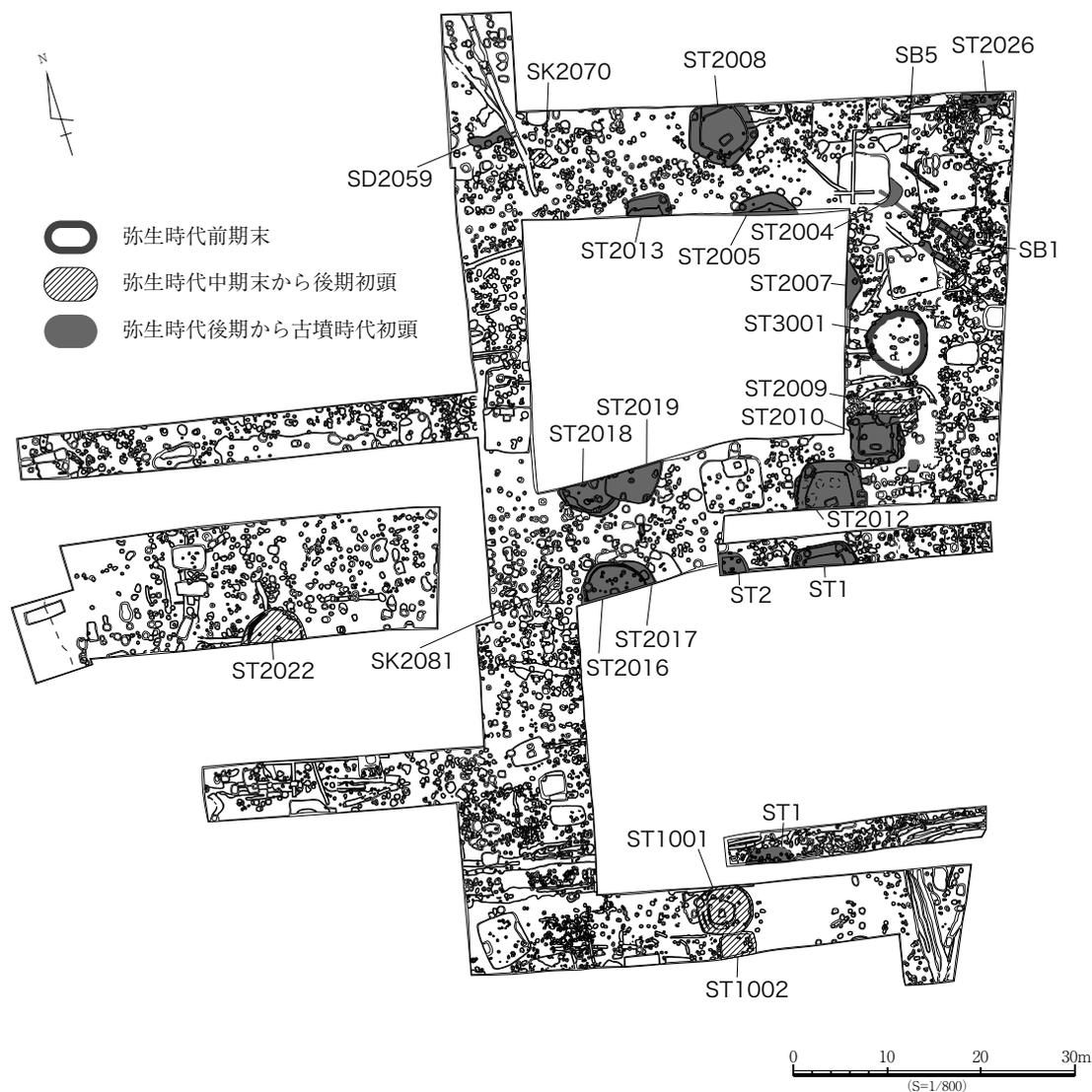


図4-1 西野遺跡二・四次調査遺構配置図(弥生時代)

重沈線及び押圧による刻みを施した突帯が巡る長頸壺(770)や、胴部中位に6・7条1単位の沈線を2帯、その間に円形浮文を配す壺(772)が出土した。浅い円形のSX1からは、上下に拡張した口縁部に刻みを施し、頸部に多重沈線及び扁平刻目突帯が巡る広口壺(1114)や肩部に微隆起突帯が巡る甕(1115・1116)等が出土した。この他に、SK2147・2149・2151・2164、SD2059、P2073・2253・3181・3182からも同時期の遺物が出土している。割合として多くを占めてはいないが、包含層や他の遺構に混入したものも含めると一定数の弥生時代前期末から中期初頭の生活領域があったものと考えられる。

弥生時代後期の遺構は、二次調査の調査区全体の約半数以上を占める。上記の前期末から中期初頭を除く殆どが終末期の遺構であるが、中期末から後期初頭の遺構も些少であるが存在する。ST2018は円形状の竪穴建物跡で、口縁部が上下に肥厚し3条の凹線が巡る甕(560)と、小さな平底状で外面にタタキの施された鉢(568)や、丸底状の壺(559)や甕(562)が出土した。また、ST1001からは中期末から後期初頭と終末期の2時期の遺物が出土した。凹線文を有する壺(1414・1418)・甕(1431・1439)・高杯(1454)などと、胴部にタタキが見られるヒビノキⅡ・Ⅲ式の甕(1433)・鉢(1448)である。また、ST2022のような、V-4・5からVI-1様式⁽¹⁾(ヒビノキⅡ式古)の土器を中心とし、ヒビノキⅢ段階の土器の占める割合が低い遺構も存在する。

ST1001・1002・2022については調査区北東部以外に分布しており、前期末及び中期末から後期初頭にかけて比較的広範囲に低い密度で点在していた竪穴建物跡が、後期後半に北東部に集中することが明らかとなった。集落の中心的な空間であったことが想定される。また、この範囲には、柱間に布堀り状の溝跡を有する3×1間の掘立柱建物跡SB1や、同様の主軸方向で布堀り状の溝跡を有するSB5などが存在する。SB1からは終末期の遺物がまとめて出土しており、後述する古代の掘立柱建物とは主軸方向が異なることから、当該期の遺構の可能性はある。

(2) 古墳時代

高知平野に展開する他の遺跡と同様に古墳時代前期は空白期となっている。周辺の下ノ坪遺跡⁽²⁾や深淵遺跡で6世紀後半頃からカマドを持つ竪穴建物跡が出現しており、今次調査の西野遺跡でも同様の様相を示すことが確認された。古墳時代後期の竪穴建物跡は10棟である。規模が確認できるもので面積は25.18～27.00㎡の小規模なものと、36.86～40.00㎡の比較的大規模なものに大分することができ、小規模なものが半数強を占める。カマドを有することが確認できたものはST2001・2002・2003・2015・2020・2023の6棟である。カマドの位置は概ね北部中央であるが、ST2023のみ西部中央に配されている。また、ST2003・2015のカマドには袖や焚口及び支脚に石材が用いられていたことが記録されている。竪穴建物跡の帰属時期の中心は6世紀後半から7世紀初頭である。

その他、古墳時代後期の遺構はごく一部ではあるが、包含層出土遺物では当該期のものが一定を占めることから、竪穴建物跡の分布が示す調査区北東部を中心として集落が展開していたことが見てとれる。2005年に実施された西野遺跡1次調査は、この地点から約40m北部に位置し、当該期の遺構は一部のピットや土坑に限られていることが報告されており⁽³⁾、今次調査区でも竪穴建物跡以外の遺構が些少であることは同様の様相を呈している。

(3) 古代

古代の遺物が出土した遺構は、掘立柱建物跡含めて調査区全体に分布する。軸方向はSB1・5を除いてN-8～17°-Wを測り、概ね同一方向の規則性を見ることができる。最大規模を持つものは桁行4間(7.30m)、梁行3間(4.70m)のSB2で、調査区北東部に位置する。また、SB7では妻側柱列の外部

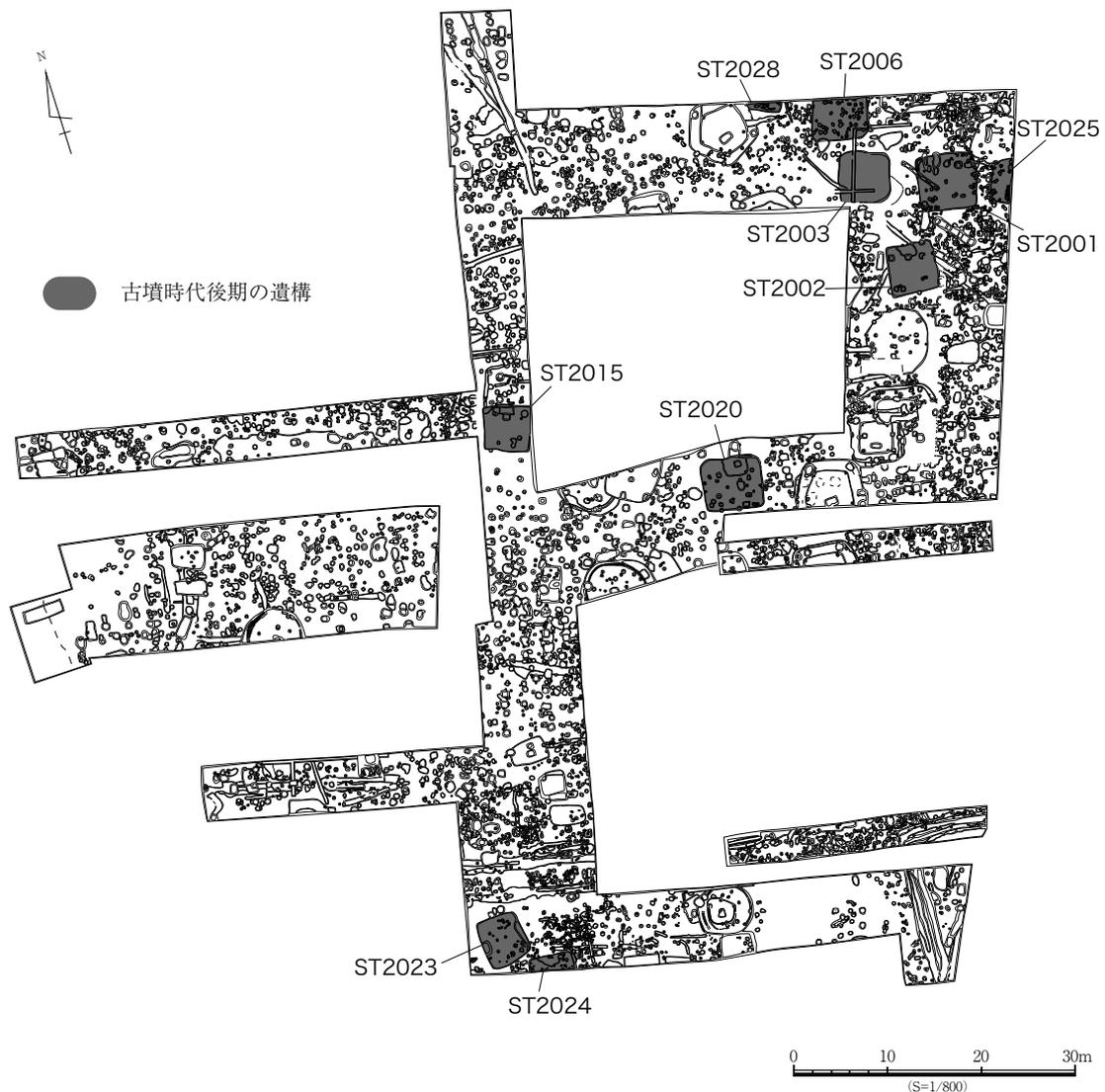


図4-2 西野遺跡二・四次調査遺構配置図(古墳時代)

に棟持柱を立てる掘立柱建物跡も見られた。

出土遺物の帰属時期は、概ね8～10世紀代で、8～9世紀代を中心とする。概ね土師器・須恵器が多くを占め、搬入品は黒色土器・緑釉陶器が出土した。黒色土器碗はA類・B類が出土し、楠葉型である(1378・1379)。緑釉陶器はSK2074から東海系猿投(876)や、包含層から東海系及び洛北産のものが確認された。また、官衙関連遺物とされる円面硯(1340～1342)は3点出土した。

特筆すべき遺物としては鉄製のU字型鍬・鋤先が挙げられる。西野遺跡一次調査に続き2点目の出土である。これについては一次調査の報告⁽³⁾において性格等について考察を行っているためここでは法量等の報告に留める。一次調査のSK45から出土した鉄製の鍬・鋤先(F1)は、全長20.0cm、全幅19.7cm、中央刃部の長さは10.0cm、耳部幅は3.0cmで、刃部の側縁はややシャープで刃部は尖り気味である。今次調査のSK1から出土した鍬・鋤先(731)は全長28.2cm、全幅23.0cm、中央刃部の幅8.5cm、耳部幅3.3cmと大型で、刃部の側縁がやや張っており、平面形はU字形に近い。遺構からの出土であるが、異なる時期の遺物の混入が見られ、共伴遺物から帰属時期の特定は困難である。周辺では深淵遺跡

1. 西野遺跡二・四次調査のまとめ

(4)で8～9世紀の遺物包含層からU字形鋏・鋤先が出土している。全長16.8cm、全幅19.2cm、中央刃部の長さ約4.0cm、耳部幅約4.0cmと小型で、平面形は凹字状を呈しており、西野遺跡から出土したものは形状が異なる。西野遺跡及び周辺遺跡から出土したU字形鋏・鋤先の帰属時期、比較及び位置付けについては、今後の検討課題としたい。

(4) 中世

出土遺物の帰属時期の中心は中世前期である。この時期の遺構が占める割合は些少であるが、特筆すべき遺構として調査区南東部のI区SD2・3及び南区SD1・2を挙げる。I区ではN-2°-Eで北進し、南区で90度屈曲し調査区東部へ延びる。出土した瓦質土器羽釜(1675)は13世紀後半から14世紀代のものと見られる。これらの2重

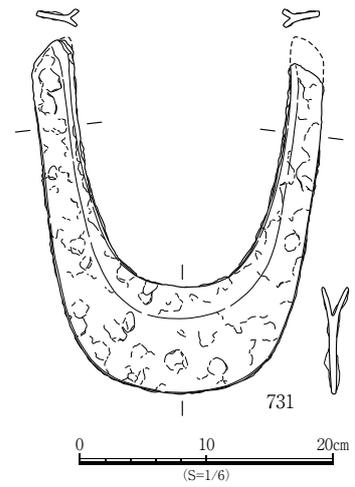


図4-3 U字形鋏・鋤先



図4-4 西野遺跡二・四次調査遺構配置図(古代・中世)

の溝跡に囲まれた区画が調査区南東部に展開する可能性があり、これについては当該地点に当たる三次調査の報告の際に留意して検討する必要がある。また、SD2010からは古代から中世の遺物が出土し、上記のSD1～3と同様の軸方向を持つことから、近い時期に機能していた可能性がある。これらの溝跡は、西野遺跡全体の中世集落を考える上で重要な役割を果たすものと思われる。また、今後西野遺跡の報告が進むことで、深淵遺跡など物部川左岸に展開する中世前期の遺跡の様相についても明らかとなることが予想される。

出土遺物は、土師質土器煮炊具及び供膳具、須恵器、瓦質土器、貿易陶磁器が出土した。白磁は白磁Ⅸ類⁽⁵⁾(10世紀末から11世紀代)が多く出土した。青磁は鎬連弁文碗・無文碗で龍泉窯、次いで同案窯のものが多く、13～14世紀代にピークが見られる。また、中世後期の遺物も僅かであるが確認された。

補註・参考文献

- (1) 分類については菅原康夫・梅木謙一『弥生土器の様式と編年－四国編－』による
- (2) 出原恵三・池澤俊幸・小松大洋・行藤たけし『下ノ坪遺跡Ⅰ』1997 高知県野市町教育委員会
- (3) 松村信博・藤方正治『西野遺跡ルノ丸地区2005年度調査』2013 香南市教育委員会
- (4) 高橋啓明・出原恵三・吉原達生『深淵遺跡発掘調査報告書』1989 野市町教育委員会
- (5) 分類については中世土器研究会編『概説中世の土器・陶磁器』による

2. 土佐における古代の出土銭貨

高知県文化財保護審議会委員 岡本 桂典

土佐では、古代の銭貨の出土例はあまり多くない。考古学史上の古代の銭貨発見史をみると、昭和10年(1935)2月19日に高知新聞・土陽新聞において、「千二百年前の古銭和銅開珍発見」を報じたことがあった。新聞によると、発見場所は香美郡赤岡町(現香南市)で「同町の北町通りより懸道下道線に通じる香宗川下流の昭和橋架替工事中であるが、十六日午後一時頃橋臺の元を掘つてみた人夫森岡信静が桐箱を発見、…」とある。工事監督の町会議員が赤岡署に届け出たと書かれている。桐箱の中に銭貨が納められ、2種4枚あったとされている。1種は、一面に馬に米俵を積み、これを人が引いているものが描かれ、もう一面に宝の文字がみられるものである。もう1種は、一面に同様の絵が描かれ、もう一面に和銅開珍とあるもので、新聞ではこの銭貨を古代の和同開珎として報じている。しかし、銭貨は皇朝十二銭の1つである和同開珎ではなく、絵が铸られていることや桐箱に入られていることから厭勝銭と考えられている。この銭貨は、いわゆる絵銭で駒曳き銭と呼ばれるものと考えられる⁽¹⁾。

律令国家が和銅元年(708)から応和3年(963)にかけて発行した和同開珎をはじめとする12種類の銅銭を本朝十二銭、または皇朝十二銭と呼んでいる。かかる銭貨が高知県の発掘調査で確認されるのは、昭和50年(1975)以降の行政発掘調査をまたなければならない。

高知県内では、現在まで今回報告する香南市西野遺跡を含めて4遺跡から皇朝十二銭のうちの3種が出土している。これらを発掘年代別にみていくと次のようになる。

昭和51年(1976)には、高知市春野町(旧吾川郡春野町)秋山の山根・石屋敷遺跡で確認された中世の溝状遺構から、延喜7年(907)铸造の延喜通寶1枚が出土している⁽²⁾。

昭和52年(1977)には、四国霊場第29番札所摩尼山国分寺(土佐国分寺僧寺跡)の書院改築に伴う発掘

2. 土佐における古代の出土銭貨

調査で、弘仁9年(818)発行の富壽神寶10枚が出土している。銭貨は、書院の部分に当たる西端の瓦溜から断面が三角形の杉木と思われる串状のものに富壽神寶10枚が刺さった状態でみつがっている。この瓦溜からは、土佐国分僧寺の創建期瓦が出土しており、富壽神寶10枚は土佐国分僧寺の鎮壇具の一つとして用いられたものと考えられている⁽³⁾。

平成5年(1993)から6年にかけて行われた中村・宿毛道路関連遺跡発掘調査で、四万十市(旧中村市)森沢の船戸遺跡の溝跡(SR1)から天平宝字4年鑄造の萬年通寶1枚が出土している。船戸遺跡は、古代～中世には河津としての性格を有していたと考えられている⁽⁴⁾。

本遺跡からは、天平宝字4年(760)鑄造の萬年通寶1枚⁽⁵⁾がルノ丸地区の南に位置するP 2650(長軸1.42m、短軸1.10m、深さ62cm)の底付近から出土している(図4-5)。このピット群は、掘立柱建物跡の柱穴と思われ、銭貨は地鎮のため用いられたことが考えられる。県内では萬年通寶が2枚出土していることになる。

これらの銭貨は貨幣としてではなく、呪術的な目的で用いられたと考えられ、その出土遺跡は寺院や官衙に関係している。西野遺跡の銭貨は周辺の下ノ坪遺跡や深淵遺跡などに関連する遺物として注目される。

(註)

(1) 土佐史談会「千二百年前の古銭和銅開珍発見」『土佐史談』第50号 1935年4月

土佐史談会 後、岡本健児編「古銭埋蔵銭遺跡」『高知県史考古資料編』1973年3月 高知県に所収

(2) 岡本健児 広田典夫『山根 石屋敷遺跡(付馬場末遺跡)』1976年3月 春野町教育委員会、現在高知県立歴史民俗資料館 通常展示中

(3) 岡本健児・広田典夫・宅間一之『土佐国分寺 鐘楼建立・書院改築に伴う発掘調査報告書』1978年3月 高知県南国市国分 国分寺、現土佐国分寺蔵

(4) 高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター『船戸遺跡—中村・宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ—高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第27集』1996年3月 高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター、高知県立埋蔵文化財センター蔵

(5) 銭貨は保存処理済

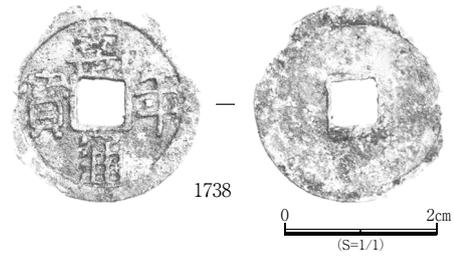


図4-5 西野遺跡で出土した萬年通寶

参考文献

1. 岡本桂典「高知県の地鎮めと銭貨」『出土銭貨』第7号 1997年5月 出土銭貨研究会

2. 岡本桂典「高知県の「古代の出土銭貨の新資料」」『出土銭貨』第13号 2000年5月 出土銭貨研究会

遺物觀察表

凡例

1. 遺物観察表の法量は、基本的に口径・器高・底径について計測した。法量の内、完形又は復元可能な口径・底径については数値を記載、器高の残存長については()で記載した。その他、器形により必要なものは直接項目に付け加えた。石製品及び鉄製品については完形・欠損に拘らず全長・全幅・全厚の順にそれぞれ記載した。
2. 色調については『新版標準土色帳』(農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修)に準じた。
3. 胎土については肉眼観察で判別できるものについてのみ記載した。
4. 備考は器種の分類、年代のわかるものについて記載した。
5. 中世の土器・陶磁器の分類については『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編 真陽社1995、貿易陶磁器の分類については『国立歴史民俗博物館資料調査報告書4 日本出土の貿易陶磁器』1993を参照した。
6. 遺構・層位については、原則的に調査時の記録を使用した。不明なものについては包含層出土として報告する。

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1414	H区	ST1001	弥生土器壺	17.4	(5.5)	-	橙色 にぶい黄橙色 灰色	口縁部は直線的に延びる。端部は外側に肥厚し面を成し、2条の凹線。内面口縁部粗いハケの後ナデ、頸部はナデ、押圧痕。外面ハケの後ナデ、口縁部横方向のナデ。	
1415	H区	ST1001	弥生土器壺	19.8	(5.9)	-	橙色 にぶい黄橙色 黄灰色	口縁部は外反し、端部は外側に肥厚し面を成す。端部に2条の凹線、頸部に断面三角形の突帯。内面横方向のハケの後ナデ、外面丁寧なナデ、口縁部端下は横方向のナデ。	
1416	H区	ST1001	弥生土器壺	20.4	(5.3)	-	にぶい黄橙色 褐色 にぶい黄橙色	口縁部は外反し、端部は外側に肥厚し面を成す。端部に竹管刺突文、上端に細かい刻み目。内面ハケの後横方向のナデ。外面ハケ、口縁部上位では横方向のナデが卓越する。	
1417	H区	ST1001	弥生土器壺	24.0	(4.7)	-	橙色 浅黄褐色 黒色	口縁部は外反し、端部は上下に肥厚し面を成す。口縁端部に2条の凹線を施す。内面ハケの後ナデ、口縁部では横方向のナデが顕著。外面ナデ。	
1418	H区	ST1001	弥生土器壺	15.2	(5.6) (8.9)	-	赤褐色 明赤褐色 暗灰黄色	長頸壺。口縁部は外反し、外側に粘土帯を貼付。端部は上下に肥厚、2条の凹線が巡る。内面ハケの後ナデ、外面ハケ、口縁部は横方向のナデ。内外面の一部に煤付着。	
1419	H区	ST1001	弥生土器壺	-	(3.0)	-	橙色 ク ク	外面頸部に1条の断面蒲鉾型の突帯が巡る。その上下に篋条工具の丸い端部を用いた刻み羽状文。下方には竹管刺突文を配する。内面ナデ、頸部に押圧痕を残す。外面ハケ。	
1420	H区	ST1001	弥生土器壺	-	(3.3)	-	黒褐色・橙色 黒褐色 ク	口縁部は外反し、端部は粘土帯を貼付することにより上下に肥厚する。口縁端部に3条の凹線を施す。外面口縁部端下に押圧痕と横方向のナデを施すが、接合痕が残る。	
1421	H区	ST1001	弥生土器壺	9.7	(6.8)	-	橙色 明赤褐色 暗灰黄色	長頸壺の口縁から頸部片。口縁部に粘土接合部の盛り上がりともみられる3条の段部が残る。頸部は直線的に延び、口縁部は緩く外反する。端部は丸く収める。内外面ともナデ。	
1422	H区	ST1001	弥生土器壺	-	(4.0)	-	明黄褐色 ク 浅黄褐色	口縁部は大きく開く。端部は粘土帯を貼付し上下に肥厚する。篋又は刷毛状工具による羽状文。内面細かいハケ・ヘラミガキ、口縁部端ナデ。外面細かいハケ、口縁部端ナデ。	
1423	H区	ST1001	弥生土器壺	-	(2.4)	4.3	黄褐色 ク 黄灰色	底部は狭い平底でやや突出する。内外面ともヘラミガキか。	
1424	H区	ST1001	弥生土器壺	-	(2.8)	3.6	にぶい橙色 にぶい黄橙色 黄灰色	底部は狭い平坦面状を呈す。胴部は直線的に立ち上がる。内面ナデ、外面ハケの後ナデ。	
1425	H区	ST1001	弥生土器壺	-	(5.9)	4.2	にぶい黄褐色 橙色 黄灰色	底部は狭い平底状。胴部は緩く内湾して立ち上がる。内面ナデ、外面ハケ、底部にもハケがみられる。	
1426	H区	ST1001	弥生土器壺	-	(4.0)	6.0	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 灰黄褐色	底部は平底状。胴部は緩く外反する。内面ナデ、外面ハケ。底部端にナデを施す。	
1427	H区	ST1001	弥生土器壺	-	(4.8)	5.4	橙色 ク にぶい黄色	底部は平底状で、中央がやや窪む。胴部は緩く内湾する。内外面ともミガキ。	
1428	H区	ST1001	弥生土器壺	-	(3.6)	8.2	明黄褐色 黒褐色 黄褐色	底部は平底状。胴部は直線的に立ち上がる。内面ナデ、外面ハケ。	
1429	H区	ST1001	弥生土器壺	-	(4.5)	9.6	にぶい黄褐色 浅黄褐色 黄灰色	底部は平底で突出する。胴部は緩く内湾して立ち上がる。内面細かいハケ、外面タタキの後ハケ。	
1430	H区	ST1001	弥生土器甕	14.4	(4.1)	-	橙色 ク にぶい黄色	口縁部は外反し、端部は面を成し、外側へやや肥厚する。口縁部には2条の沈線状の窠痕が残る。内面口縁部横方向のナデ、頸部はナデ、押圧痕が残る。外面縦方向のハケ。	
1431	H区	ST1001	弥生土器甕	15.4	(5.3)	-	褐色 ク 黄灰色	頸部から口縁部は短く外上方に開き、端部は上下に肥厚。内面ナデ、頸部に押圧痕。外面胴部タタキの後ハケ、口縁部ナデ。一部に煤付着。胎土中に角閃石を含む。搬入品か。	
1432	H区	ST1001	弥生土器甕	15.2	(4.4)	-	にぶい黄色 浅黄褐色 灰白色	頸部の屈曲はやや急で、口縁部は緩く外反する。端部は面を成し、外側にやや肥厚する。内面口縁部横方向のナデ、外面ハケの後口縁部に横方向のナデ。	
1433	H区	ST1001	弥生土器甕	11.3	18.4	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 褐色	底部は小さな平底状か丸底状。頸部は弱いくの字状。口縁部は短く直線的で、端部は丸く収め外側にやや肥厚。内面ハケの後ナデ、口縁部ハケ。外面タタキ、頸部に押圧痕。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1434	H区	ST1001	弥生土器 甕	14.0	(5.0)	—	明褐色 にぶい褐色 黄灰色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は緩く外反して立ち上がる。端部は内傾する面を成し、外側にやや肥厚する。内面ハケの後ナデ、外面タタキの後ハケ。内外面とも煤付着。	
1435	H区	ST1001	弥生土器 甕	17.0	(6.5)	—	明赤褐色 〃 〃	頸部の屈曲はやや弱く、口縁部は短く外反する。端部は面を成し、外側へ肥厚する。内面口縁部はハケの後ナデ、胴部はナデ。一部に煤付着。外面タタキの後口縁部にハケ。	
1436	H区	ST1001	弥生土器 甕	15.1	(8.3)	—	にぶい黄橙色 橙色 にぶい黄橙色	頸部は屈曲し、口縁部は緩く外反する。端部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面ナデ。外面口縁部は横方向のナデ、胴部はハケ、煤付着。	
1437	H区	ST1001	弥生土器 甕	14.4	(10.4)	—	明赤褐色 〃 〃	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は緩く外反する。端部は面を成し外側にやや肥厚する。内面口縁部ハケ、胴部にハケの後ナデ。外面タタキの後ハケ。	
1438	H区	ST1001	弥生土器 甕	15.6	(4.0)	—	にぶい黄褐色 灰黄褐色 にぶい黄褐色	頸部は緩く屈曲し、口縁部は短く外上方に開く。端部は面を成し、外側に肥厚する。内面ナデ。外面口縁部横方向のナデ、胴部ハケ。	
1439	H区	ST1001	弥生土器 甕	18.8	(4.8)	—	橙色 〃 黄灰色	口縁部は緩く外反する。端部は外側に肥厚し、2条の凹線を施す。内面口縁部ナデ、胴部はハケの後ナデ。外面口縁部横方向のナデ、胴部はハケの後ナデか。一部に煤付着。	
1440	H区	ST1001	弥生土器 甕	16.9	(4.7)	—	にぶい黄褐色 橙色 暗灰黄色	頸部は外反し、口縁部は短く直線的に立ち上がる。端部は外側にやや肥厚し面を成し、不明瞭な凹線が施される。内面ナデ、口縁部は横方向のナデが顕著。外面ハケの後ナデ。	
1441	H区	ST1001	弥生土器 甕	13.9	(7.0)	—	明赤褐色 橙色 〃	口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は面を成し、外側にやや肥厚、3条の凹線。内面口縁部ナデ、胴部上位ケズリの後ヘラナデ。外面口縁部ナデ、胴部ヘラナデ。煤付着。	
1442	H区	ST1001	弥生土器 甕	—	(4.4)	5.4	オリーブ黒色 褐色 灰色	底部は平底状で、端部に稜を留める。胴部は緩く内湾して立ち上がる。内面ナデ、凹凸面を残す。外面ハケの後ナデ。底部にケズリまたは強いナデの痕跡を残す。	
1443	H区	ST1001	弥生土器 甕	—	(2.6)	7.0	にぶい黄褐色 橙色・黄灰色 灰色	底部は平底状。胴部は直線的に立ち上がる。内面ハケ。外面ハケ、底部端に強い横方向のナデ。	
1444	H区	ST1001	弥生土器 甕	—	(3.7)	5.0	橙色 明黄褐色 黒褐色	底部はやや狭い平底状。胴部は直線的に立ち上がる。内面ナデ、外面タタキ。	
1445	H区	ST1001	弥生土器 甕	—	(2.1)	3.3	にぶい黄褐色 にぶい橙色 にぶい黄褐色	底部は小さな平底状で、端部は丸味を持つ。内外面ともナデ。	
1446	H区	ST1001	弥生土器 甕	—	(2.8)	6.2	暗灰黄色 にぶい黄褐色 黒褐色	底部は平底状で、弱い凹凸面を残す。内面ナデ、押圧痕を残す。外面タタキ。	
1447	H区	ST1001	弥生土器 鉢	—	(5.0)	—	明褐色 にぶい黄褐色 黄灰色	体部から口縁部は内湾気味に斜上方に延びる。端部は影らみを持った面を成す。内面ハケの後ナデ、外面ハケ。	
1448	H区	ST1001	弥生土器 鉢	14.8	5.9	—	褐色 〃 〃	底部はやや突出した丸底状。体部から口縁部は内湾し、口縁端部は内傾する面を成し、外側へ微かに肥厚する。内面ハケの後ナデ。外面タタキ。内外面の一部に煤付着。	
1449	H区	ST1001	弥生土器 鉢	17.7	(4.4)	—	褐色 にぶい褐色 オリーブ黒色	体部は直線的に延び、口縁部は緩く内湾する。端部は丸く収める。内面ナデの後ミガキ。外面ミガキ、口縁部下に沈線状の段が巡る。	
1450	H区	ST1001	弥生土器 鉢	19.5	(8.2)	—	明褐色 〃 〃	大型の鉢。体部から口縁部は内湾して延び、端部は面を成す。内面ハケ、外面ナデ。小さい中裂孔が存在する。	
1451	H区	ST1001	弥生土器 鉢	—	(3.8)	5.2	にぶい黄褐色 にぶい褐色 黄灰色	底部は平底状。胴部は直線的に立ち上がる。内面細かい単位ハケ、外面ハケの後ナデ。	
1452	H区	ST1001	弥生土器 台付鉢	—	(2.1)	5.8	にぶい褐色 明赤褐色 灰色	台部は外反し短く開く。端部は面を成す。内面ハケの後ナデ。ハケを中心から螺旋状に施す。外面篋状工具による横方向のナデ。	
1453	H区	ST1001	弥生土器 高杯	26.6	(4.5)	—	にぶい黄褐色 浅黄褐色 黄灰色	杯部の屈曲から口縁部は外反し上方に延びる。端部は面を成し、外側へやや肥厚、不明瞭な凹線がみられる。外面ミガキの後横方向のナデ。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1454	H区	ST1001	弥生土器高杯	-	(3.7)	-	橙色 褐灰色	口縁部は直線的に上方に延び、端部に2条の凹線を施す。内外面ともナデの後ミガキ。	
1455	H区	ST1001	弥生土器高杯	-	(2.7)	14.3	にぶい黄橙色 灰黄褐色 にぶい黄褐色	裾部は直線的に広がり、端部は面を成す。外面裾部に篋状工具の端部を用いた列点文を施す。内外面とも横方向のナデ。	
1456	H区	ST1001	弥生土器高杯	-	(6.5)	14.8	橙色 にぶい黄褐色 にぶい橙色・オリーブ黒色	裾部は緩く外反し、端部は幅広の弱い凸面を成す。内面ナデ、凹凸面が残る。外面ハケ、裾部には凹線状の幅広で浅い溝が巡る。端部に横方向のナデを施す。	
1457	H区	ST1001	弥生土器高杯	-	(11.8)	15.5	にぶい橙色 灰色	裾部は緩く外反し、端部は外側へやや肥厚。脚部中位の4方向に直径0.9cmの円形透し。内面裾部はナデ、脚中位にナデ・押圧痕、上位に絞り目。外面ハケの後ミガキ。	
1458	H区	ST1001	弥生土器高杯	-	(8.1)	-	にぶい橙色 褐灰色	脚部は緩やかに開き、裾部は欠損する。内面に絞り目。外面粗いハケの後ミガキ。外面は一部を残し殆どが薄く剥落する。	
1459	H区	ST1001	土製品支脚	-	4.4	12.7	浅黄褐色 にぶい黄褐色 浅黄褐色	脚裾部は大きく開く。端部は太く丸味を持った面を成す。内面裾部横方向のナデ。外面ハケ、裾部で横方向のハケが卓越する。	
1460	H区	ST1001	土製品支脚	-	6.9	10.0	にぶい黄褐色 淡黄色 灰色	脚部は緩く外反する。端部は不明瞭な面を成す。内面ナデ、浅い凹凸面を残す。外面ハケの後ナデか。	
1461	H区	ST1001	石製品石包丁	全長 4.9	全幅 4.1	全厚 0.5	-	泥質の石材の磨製石包丁。平面の約2/3が欠損・剥離。直背。刃側は弧を描くか。縁辺は直線的。穿孔部は破断。残存部に線条痕、刃部に強い溝状の使用痕。重量11.0g	
1462	H区	ST1001	石製品不明	全長 8.0	全幅 6.4	全厚 1.6	-	砂岩製。平面形は分銅型又は撥型を呈す。細く尖った弧を描く縁辺に使用痕を残す。刃部の一部を欠損する。重量66.0g	
1463	H区	ST1001	石製品浮子か	全長 8.1	全幅 8.1	全厚 5.3	-	使用痕や加工痕は不明。重量54.0g	
1464	H区	ST1001	石製品石錘	全長 14.8	全幅 13.8	全厚 5.4	-	平面不整形形状で、断面扁平な楕円形状を呈す。4方に元来の窪みと欠損部が存在する。重量1514.0g	
1465	H区	ST1001	石材剥片	全長 14.1	全幅 9.4	全厚 5.0	-	砂岩製。裏面は大きく剥離面を残す。表面の稜や縁辺には敲打による鼠歯状痕や剥落部分を留める。表面の一部に煤附着。重量518.0g	
1466	H区	ST1001	石製品叩石	全長 11.0	全幅 9.6	全厚 4.5	-	砂岩製。表裏面の中央部分と縁辺に敲打痕を残す。表面中央は大きく窪む。また裏面の一部には擦痕が残る。重量704.0g	
1467	H区	ST1001	石製品叩石	全長 9.5	全幅 7.0	全厚 1.3	-	砂岩製の敲打具の一部か、剥離した縁辺に敲打痕を部分的に留める。一部に煤附着。重量119.0g	
1468	H区	ST1001	石製品叩石	全長 10.7	全幅 8.8	全厚 7.0	-	砂～礫岩製。平面楕円形状、断面はやや偏心した楕円形状を呈す。縁辺に幅広く敲打痕を残す。重量913.0g	
1469	H区	ST1001	石製品叩石	全長 11.6	全幅 4.7	全厚 2.8	-	泥岩製か。表面の中央にタール状の煤附着。縁辺に線条が認められる。滑らか。端面には敲打痕を残す。重量129.0g	
1470	H区	ST1001	石製品叩石	全長 17.0	全幅 14.1	全厚 4.7	-	砂岩製。扁平な河原石。打撃により大きく2カ所が剥離。自然面は表裏面とも残るが、縁辺付近に敲打痕・剥離痕が著しい。一部に被熱赤変。重量1367.0g	
1471	H区	ST1001	石製品台石か	全長 21.8	全幅 12.7	全厚 6.3	-	砂礫岩製の台石か。扁平な河原石を用いる。縁辺に敲打痕・剥離痕。裏面の中央に筋状の打痕が集中する。表面の中心に被熱赤変部分あり。破断の原因か。重量1823.0g	
1472	H区	ST1001	石製品台石	全長 37.5	全幅 32.8	全厚 9.0	-	砂岩製の台石。元より欠けた部分の多い面を裏面とし、表面には打痕が卓越する。平面形は隅丸台形状、断面形は扁平な楕円形状を呈す。重量1610.0g	
1473	H区	ST1001	鉄製品刀子	全長 4.8	全幅 1.5	全厚 0.4	-	峰から刀身部にかけての約1/3が残存。刃側は細く、背側は狭い面を成す。峰部分では刃部及び背部ともに緩く弧を描く。重量7.0g	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1474	H区	ST1002	石製品 石包丁	全長 9.8	全幅 4.7	全厚 1.3	-	泥質の結晶片岩か。磨製石包丁。表面は自然面で裏面は打割による剥離面を残す。刃部は弧状、片刃。背部も弧状。側縁は研磨による挟り、一部破損する。重量 76.0g	
1475	E区	ST2022	弥生土器 壺	10.6	(7.5)	-	橙色 にぶい橙色 々	口縁部は外反し上方に延び、外側へやや肥厚し凹線風の段部を有す。内面頸部に絞り目風の凹凸面と押圧痕、口縁部はナデ。外面口縁・頸部にヘラミガキ。	
1476	E区	ST2022	弥生土器 壺	-	(24.2)	4.0	黒色 にぶい橙色 オリーブ黒色	長頸壺。底部はやや狭い平底状。頸部から口縁部は緩く外上方へ延びる。内面ハケの後ナデ、頸部には絞り目風の凹凸面・押圧痕が残る。外面丁寧なハケ、一部ナデ。	
1477	E区	ST2022	弥生土器 甕	13.4	(8.8) (5.5)	4.4	にぶい黄橙色 にぶい橙色 暗灰黄色	底部は緩い凸面状。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。内面ナデ、胴部に接合痕・爪痕などを残す。外面ハケ、口縁部横方向のナデ。	
1478	E区	ST2022	弥生土器 鉢	17.6	(4.5)	-	にぶい黄橙色 々 黄灰色	体部は内湾し、口縁部は短く外反する。端部は面を成す。内面ハケ、外面ナデ。器面に小規模の裂孔が多く見られる。	
1479	E区	ST2022	弥生土器 鉢	-	(4.8)	5.0	明黄褐色 々 々	底部は平底状。体部は緩く外反の後内湾する。内面ケズリの後丁寧なナデ・ヘラミガキ。外面タタキの後ナデ。	
1480	E区	ST2022	弥生土器 鉢	36.0	23.7	9.4	にぶい黄橙色 々 にぶい橙色	底部は逆台形状に突出。口縁端部は外側にやや肥厚。内面ヘラミガキ、体部ケズリの後ナデ。外面体部タタキ、頸部に籠状工具の斜方向の連続的な圧痕。外面に煤附着。	
1481	E区	ST2022	弥生土器 高杯	-	(10.8)	15.2	にぶい橙色 にぶい褐色 褐灰色	裾部で開き端部は面を成す。脚部の4方向以上に直径1.1cmの円形透かし。内面脚部上位はナデ、縦方向の段。裾部は横方向の粗いハケ。外面縦方向の粗いハケ。	
1482	E区	ST2022	弥生土器 高杯	-	(2.9)	15.2	橙色 にぶい橙色 灰黄褐色	脚部は外反し裾部で更に開く。端部は中央部の窪んだ凹面を成す。脚部中位に円孔を穿つ。内面ハケ、裾部に横及び斜方向の粗いハケ。外面ハケの後ナデ。	
1483	E区	ST2022	弥生土器 高杯	-	(2.6)	14.7	にぶい黄橙色 々 浅黄橙色	脚部片。裾部は直線的に広がり、端部は面を成す。内外面ともナデ、裾部は横方向のナデ。外面はナデ・ミガキ。	
1484	E区	ST2022	ミニチュア 土器	6.0	(3.3)	-	にぶい黄橙色 々 黄灰色	口縁部は内湾し上方に延び、端部は面を成す。内外面ともハケ、内面押圧痕を残す。複合口縁壺を模したもののか。	
1485	E区	ST2022	土師器 杯か高杯	18.2	(4.5)	-	にぶい黄橙色 々 浅黄褐色	体部は緩く丸味を持って口縁部に延び、端部は丸く収める。内面放射状のミガキ・ナデ、外面ミガキ・ナデ。	
1486	E区	ST2022	土師器 杯	-	(1.9)	4.8	にぶい黄褐色 々 灰色	底部は断面台形状の円盤状を呈す。内面ミガキ、底部回転ナデの後円形のミガキ。外面ミガキ、高台の側面に籠又は爪痕が不連続に残る。底部切り離しは回転糸切り。	
1487	E区	ST2022	土師器 甕	28.8	(6.4)	-	にぶい黄褐色 々 々	胴部は緩く内湾し頸部で屈曲、口縁部は短く外反する。端部は面を成す。内面ナデ、口縁部横方向のナデ、口縁部ヘラナデ又は粗いハケ、頸部は押圧痕。外面ナデ。	
1488	E区	ST2022	石製品 石包丁	全長 9.1	全幅 4.2	全厚 0.9	-	刃部は片刃で、直刃。背部は弧状、両側縁はV字状の挟り。表面に自然面を残し、裏面は剥離、斜方向の線条が残る。表面は平滑。刃部に研ぎに係る線条を残す。重量 43.0g	
1489	E区	ST2022	石製品 石包丁	全長 8.1	全幅 2.9	全厚 1.1	-	刃部は片刃で研ぎ出されるが、剥落が著しい。平面形は弧状。背部は欠損するも両側縁に打痕が施される。打ち欠いて使用か。刃部には斜方向の線条が残る。重量 23.0g	
1490	H区	ST2023	弥生土器 壺	-	(1.9)	6.2	灰オリーブ色 にぶい黄褐色 灰オリーブ色	底部は平底状。縁辺は高台状になり、中央は僅かに凹む。内外面ともナデ。	
1491	F区	ST2023	土師器 壺	14.2	(4.0)	-	にぶい黄褐色 々 々	口縁部は外反し、端部は面を成し上方へ肥厚する。内外面ともナデ。1492と同一個体か。	
1492	F区	ST2023	土師器 壺	-	(17.0)	-	にぶい黄褐色 々 々	断面楕円形の胴部で底部は丸底状を呈す。内外面ともナデ・指頭圧痕。1491と同一個体か。	
1493	F区	ST2023	土師器 甕	18.0	(21.2)	-	にぶい黄褐色 々 々	口縁部は短く外反する。内外面の口縁部は横方向のナデ。内面胴部は縦方向のヘラケズリ、外面は丁寧なハケ。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1494	F区	ST2023 P2	須恵器 壺か	12.5	(1.6)	-	灰色 〃 〃	壺の口縁部片か。口縁部は外反し、端部はやや肥厚し丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1495	H区	ST2023	石材 剥片か	全長 6.1	全幅 4.3	全厚 1.2	-	緑色片岩製。平面形は分銅型を呈し、基部から厚みを減じて端部へ至る。風化し、部分的に摩滅を受ける。重量28.0g	
1496	H区	ST2023	石製品 叩石	全長 17.5	全幅 9.2	全厚 4.8	-	砂岩製。自然面を残すが剥離、破断が著しい。自然面の一部に稜が残り、敲打痕を留める。破断した縁辺に打撃を加える。重量734.0g	
1497	H区	ST2023	石製品 叩石か	全長 13.5	全幅 11.1	全厚 6.5	-	自然面は一面のみで、他は打撃による破断面、敲打痕が残る。破断による縁辺の鋭い稜には擦痕が残る。重量787.0g	
1498	F区	ST2023	石製品 叩石	全長 8.1	全幅 4.2	全厚 4.0	-	長軸の一端に敲打痕が残る。砂岩製。重量203.0g	
1499	F区	ST2024	土師器 甕	17.6	(3.5)	-	にぶい橙色 〃 浅黄橙色	口縁部はくの字状に外反し、端部は内傾する面を成す。内外面とも口縁部は横方向のナデ。内面頸部はハケ、外面頸部はハケの後横方向のナデ、口縁の一部に煤付着。	
1500	F区	ST2024 P6	土師器 甕	16.8	(12.7)	-	にぶい褐色・にぶい赤褐色 にぶい褐色 〃	口縁部は短く外反する。内外面とも口縁部は丁寧な横方向のナデ、内面胴部は縦方向のケズリ。外面頸部以下は縦・横・斜方向のハケ。	
1501	F区	ST2024	土師器 甕	-	(1.8)	-	にぶい褐色 黒褐色 灰黄褐色	くの字状に外反する甕の口縁部片。口縁端部は内傾し、尖り気味に仕上げる。胎土に雲母片含む。搬入品。	
1502	H区	ST2024	土師器 甕か	-	(3.2)	-	にぶい褐色 〃 灰色	口縁部は直線的に外上方に開き、その後短く上方に延びる。端部は面を成す。内面ハケの後ナデ、横方向のハケが残る。外面ハケの後ナデ、斜方向の粗なハケ。	
1503	F区	ST2024	土師器 甕	-	(15.5)	-	にぶい橙色 橙色 明黄褐色	底部は丸底状。内面下から上へのケズリ・ナデ、外面細かい単位のハケ。焼成良好で器壁が薄い。	
1504	F区	ST2024	土師器 甕	-	(23.0)	-	にぶい褐色 明褐色 橙色	内面下から上のケズリ、一部に横方向のナデ。外面口縁部直下は横方向の強いナデにより凹線状を呈す。胴部縦・斜方向のハケ。	
1505	F区	ST2024 P3	須恵器 杯蓋	14.5	3.9	-	黄灰色 〃 〃	外面中位の片側が段状に凹む。外面天井部の一部に僅かに粘土塊が付着。内外面とも回転ナデ。	
1506	南区	ST1	弥生土器 甕	13.5	(6.6)	-	浅黄色 にぶい黄橙色 褐灰色	胴部から頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は直線的に外上方に延びる。口縁端部は面を成し外側に肥厚する。内面ハケ。外面タタキ、胴部上位と口縁端部に煤付着。	
1507	南区	ST1	弥生土器 甕	-	(2.2)	-	にぶい黄色 にぶい黄橙色 灰色	胴部上位から頸部片。頸部の屈曲はやや急。胎土中に摩滅した石英粒を含む搬入品。内面横方向のハケ。外面細かいタタキの後ハケ、胴部上位に煤付着。	
1508	南区	ST1 包含層	弥生土器 甕	15.7	(6.6)	-	にぶい黄褐色 〃 黄灰色	胴部上位から口縁部片。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は緩く外反する。端部は面を成す。内面ハケの後ナデ。外面タタキ、口縁部はタタキの後ナデ。	
1509	南区	ST1	弥生土器 甕	-	(2.9)	3.7	にぶい黄褐色 〃 浅黄褐色	底部はやや突出した小さな平底状。内面ナデ、外面タタキ。	
1510	南区	ST1 包含層	弥生土器 甕	-	(13.0)	-	浅黄褐色 にぶい黄褐色 灰色	胴部片。内面ハケの後ナデ。外面タタキの後ハケ、煤付着。	
1511	南区	ST1	弥生土器 鉢	13.1	7.4	4.4	にぶい黄褐色 〃 〃	底部は小さな平底状。体部から口縁部は緩く外上方に延び、口縁部は不整形な面を成す。内面ハケ、底部ナデ、螺旋状のハケ。外面タタキの後ナデ。	
1512	南区	ST1	弥生土器 鉢	14.4	5.6	4.0	にぶい黄褐色 〃 淡黄色	底部は押し潰したような平底で、端部は不明瞭。口縁部は緩く外上方に延び、端部は面を成す。内面ハケの後ナデ、底部に放射状のハケ。外面ナデ、底部に一部タタキ。	
1513	南区	ST1 SK1・P60 包含層	弥生土器 鉢	16.7	6.3	3.9	灰黄褐色 浅黄色 黄灰色	底部は小さな平底状。体部から口縁部は緩く外上方に延び、端部は面を成し、外側にやや肥厚する。内面ハケの後ナデ。外面ナデ、底部は籠状工具による押圧。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1514	南区	ST1	弥生土器鉢	16.8	4.0	6.0	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	底部は押し潰したような平底状で、底部端は不明瞭。体部から口縁部は外上方に延びる。端部は面を成し、外側へやや肥厚する。内面ナデ、外面タタキ。	
1515	南区	ST1	弥生土器鉢	16.8	7.4	3.8	にぶい黄橙色 〃 〃	底部は緩い凸面状。体部は丸みを帯び、口縁端部は面を成す。内面箆状工具によるナデ、外面タタキの後ナデ。比較的丁寧な仕上げだが、小規模な裂孔が見られる。	
1516	南区	ST1	弥生土器鉢	21.7	(4.3) (3.4)	4.2	にぶい黄橙色 〃 浅黄橙色	底部は粘土貼付底風に突出し、底部端は湾曲する。体部から口縁部は内湾する。端部は面を成し、外側に肥厚する。内面ハケの後ナデ、箆状工具の痕跡。外面ナデ。	
1517	南区	ST1 P33	弥生土器鉢	-	(5.8)	-	にぶい黄橙色 〃 オリープ黒色	底部はやや突出したやや小さな平底状。内外面ともナデ。内面底部に箆状工具によるナデの痕跡が見られる。	
1518	南区	ST1 P38	弥生土器高杯	20.5	(5.4)	-	にぶい黄橙色 〃 灰色	杯部は接合部で屈曲の後、口縁部は外反する。内面ハケの後ミガキ。外面ハケ、口縁部横方向のナデ。	
1519	南区	ST1	弥生土器高杯	-	(3.4)	-	にぶい黄橙色 〃 灰色	杯部は接合部で屈曲の後、口縁部は外反する。内面粗い単位ハケ、一部に細かい単位ハケ、口縁部に煤付着。外面縦方向ハケの後、口縁端部に横方向ハケ。	
1520	南区	ST1	弥生土器蓋	-	(1.5)	-	にぶい黄褐色 暗灰色 にぶい黄褐色	天井部は僅かに凹状になり、下部に向かって外下方に開く。内面ナデ、外面ミガキ。	
1521	南区	ST1 SK1	土製品支脚	全長 5.6	全幅 3.8	全厚 2.3	- にぶい黄橙色 灰色	2本の角状支部をもつ支脚の摘みか。外面ナデ、箆状工具によるナデの痕跡が残る。	
1522	南区	ST1	須恵器甕	17.7	(6.4)	-	灰黄色 〃 〃	頸部は湾曲し、口縁部は緩く外反する。端部は面をなし、外側へ肥厚する。内外面とも回転ナデ、内面胴部上位に押圧痕、外面胴部にタタキ。	
1523	F区	SB7 (P2720)	土師器椀	19.2	(3.5)	-	にぶい黄橙色 淡黄色 〃	口縁端部は丸く収める。焼成良好、精緻な胎土。内外面とも回転ナデ。	
1524	F区	SB7 (P2739)	須恵器杯	14.0	2.7	7.8	灰黄色 〃 〃	口縁部は緩やかに外上方に延び、端部は僅かに外反し丸く収める。内外面とも回転ナデ。外面底部は摩耗が著しく、切り離しは不明。	
1525	F区	SB7 (P2744)	弥生土器甕	-	(2.2)	7.8	黄灰色 橙色 灰黄褐色	内面ナデ、外面ハケ。外面底部にもハケ。	
1526	F区	SB7 (P2744)	土師器杯	16.9	5.0	13.7	にぶい黄橙色・橙色 にぶい橙色 浅黄橙色	内外面に赤色顔料塗布。内面口縁端部は沈線状に凹む。内面底部に螺旋状の暗文、口縁部ミガキ。外面ケズリの後ナデ・ミガキ、底部に少量の粘土塊が付着。	8c
1527	F区	SK1	弥生土器壺	-	(3.7)	-	にぶい黄橙色 橙色 にぶい黄褐色	頸部片。8条以上の多重の匏描沈線が巡る。	
1528	F区	SK1	弥生土器甕	-	(5.2)	-	にぶい橙色 〃 〃	胴部上位に3条の微隆起突帯。内面胴部の一部にミガキ。	
1529	F区	SK1	弥生土器甕	23.5	(16.5)	-	にぶい橙色 褐灰色 にぶい黄褐色	胴部上位に3条の微隆起突帯。口縁部は緩やかに外反し、端部は横方向のナデにより内傾する面を成す。内面ハケ。外面頸部は縦方向ハケ、胴部中位以下はナデ。	
1530	F区	SK1	弥生土器甕	-	(11.8)	-	橙色 にぶい橙色 橙色	胴部上位に3条の微隆起突帯。口縁部は緩やかに外反し、端部は横方向のナデにより内傾する面を成す。外面頸部は縦方向ハケ、胴部中位以下はナデ。	
1531	F区	SK1	弥生土器甕	-	(9.0)	-	にぶい橙色 にぶい褐色 にぶい橙色	胴部上位に3条の微隆起突帯。	
1532	F区	SK1	弥生土器甕	21.7	(20.8)	-	にぶい褐色 〃 橙色	胴部上位に3条の微隆起突帯。口縁部は外反し、端部は内傾する面を成す。内面口縁部は横方向のヘラミガキ、胴部はナデ。外面ナデ。	
1533	F区	SK1	弥生土器甕	-	(15.9)	-	にぶい橙色 灰黄褐色 黄褐色	胴部上位に3条の微隆起突帯。内面ハケ。外面頸部は縦方向ハケ、胴部中位以下は縦方向のナデ。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1534	F区	SK1	土師器 椀	15.1	5.6	6.6	にぶい橙色 橙色・にぶい橙色 灰白色	口縁部は丸味を帯び緩やかに斜上方に延びる。口縁端部はやや肥厚し、丸く収める。内面全体にミガキ、外面高台との境目にケズリ。内面の一部に赤色顔料塗布か。	
1535	F区	SK1	土師器 甕か	30.5	(5.0)	-	にぶい橙色 にぶい黄褐色 〃	口縁部は僅かに外反し、端部は内傾する平坦面状を呈す。内面横方向のナデ。外面口縁部横方向のナデ、胴部上位は縦方向のハケ。	
1536	F区	SK1	須恵器 蓋	-	(1.2)	-	灰白色 〃 灰黄色	天井部は欠損する。内外面とも回転ナデ。外面はナデにより段状になる。	
1537	F区	SK1	白磁 碗	16.7	(5.3)	-	灰白色 〃 〃	内外面とも施釉、外面下位は露胎する。	
1538	G区	SK1	弥生土器 壺	-	(11.2) (2.3)	5.9	にぶい黄褐色 橙色 黄灰色	底部は平底状。胴部は内湾し、頸部は緩く外反する。内面ナデ。外面ハケの後ヘラミガキ、口縁部ではハケが卓越する。	
1539	G区	SK1	弥生土器 壺	-	(4.4)	-	にぶい黄褐色 橙色 黄灰色	外面に刻み(烈点文)が施される。内面ハケ・ナデ、外面ナデ。	
1540	G区	SK1	弥生土器 壺	-	(2.1)	5.0	黒褐色 にぶい黄褐色 褐灰色	底部は平底状で、浅い凹面を成す。内面ナデ、外面細かい単位のハケの後ナデ。	
1541	G区	SK1	弥生土器 壺	-	(3.0)	5.6	暗灰色・にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 灰色	底部は平底状で、浅い凹面を呈す。内面ナデ、外面細かい単位のハケの後ナデ。	
1542	G区	SK1	弥生土器 甕	12.4	(3.4)	-	にぶい橙色 〃 明褐色	口縁部は緩く外反し、屈曲の後短く広がる。端部は尖り気味に丸く収める。器壁は薄い。内面ハケの後ナデ、外面ナデ。	
1543	G区	SK1	弥生土器 甕	-	(2.3)	5.6	黒褐色 橙色 褐灰色	底部は平底状。底部端から胴部は外反して立ち上がる。内面ナデ。	
1544	G区	SK1	弥生土器 甕	-	(9.4)	4.8	にぶい褐色 にぶい橙色 褐灰色	底部は平底状。底部端は押圧に伴い一部外反し、直立して立ち上がる。胴部は緩く内湾する。内面ナデ。外面ハケの後ナデ。器面に裂孔が多く残る。	
1545	G区	SK1	弥生土器 高杯	14.4	(3.7)	-	にぶい黄褐色 橙色 にぶい橙色	杯部は接合部分で屈曲し、口縁部は直線的に立ち上がる。端部は丸く収める。内外面ともナデ。	
1546	G区	SK1	弥生土器 高杯	15.0	(3.6)	-	橙色 〃 灰色	杯部は接合部分で屈曲し、口縁部は直線的に立ち上がる。端部は丸味を持った面を成す。内面ハケの後ナデ、一部ミガキ。外面ナデ又はミガキ、一部に煤付着。	
1547	M区	SK1	土師器 杯	9.7	3.7	6.8	橙色 〃 明黄褐色	底部は緩い凸面を成す。体部から口縁部は直線的に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。内面体部に波帯状に煤付着。	
1548	M区	SK1	土師器 杯	-	(1.8)	7.0	にぶい黄褐色 〃 〃	底部は緩い凸面を成す。内外面とも回転ナデ。内面の一部に煤付着。外面底部はナデにより滑らかに仕上げられる。	
1549	M区	SK1	土師器 杯	9.9	(3.4)	-	にぶい黄褐色 〃 〃	底部は緩い凸面を成す。底部端は屈曲し、体部は直線的、口縁部は緩く外反する。端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。内面の一部に煤付着。	
1550	M区	SK1	土師器 杯	-	(1.9)	4.6	橙色 〃 〃	底部は緩い凸面を成す。体部は直線的に立ち上がる。内外面とも回転ナデ。内面の一部、外面底部に煤付着。	
1551	M区	SK1	土師器 杯	9.9	3.2	7.6	明黄褐色 〃 〃	底部は緩い凹面を成す。体部から口縁部は直線的に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。内面底部ロクロ目顕著、一部に煤付着。外面底部に粘土紐の痕跡。	
1552	M区	SK1	土師器 杯	-	(1.8)	6.2	明褐色 〃 にぶい橙色	底部は緩い凸面を成し、体部は直線的に立ち上がる。内面回転ナデ、見込みにロクロ目を残す。一部に煤付着。外面ナデ。底部に粘土紐の接合痕を留める。	
1553	M区	SK1	土師器 椀	-	(3.3)	7.2	にぶい黄褐色 橙色 浅黄褐色	底部端に断面台形のやや高い高台がハの字状に付く。内外面ともナデ。内面底部中央と外面の一部に煤付着。外面高台内に板状の圧痕が残る。内面の剥離が著しい。	

遺物観察表 1554～1573

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1554	M区	SK1	土師器 甕	-	(3.6)	-	明褐色 褐色 にぶい黄褐色	口縁部は直線的に外反し、端部は面を成す。内面横方向のハケ。外面口縁部横方向のナデ、胴部は斜方向のハケ。口縁部下の一部に工具の痕跡が見られる。	
1555	M区	SK1	土師器 羽釜	22.4	(4.2)	-	にぶい黄褐色 暗灰黄色 々	口縁部は直立し、端部は平坦面状。口縁部下の外面に断面台形状の鑿が取り付く。内面ナデ、外面口縁部及び鑿の上面に丁寧なナデ。外面の一部に煤附着。	
1556	M区	SK1	石製品 叩石	全長 16.2	全幅 7.0	全厚 3.9	-	平面形は短辺が膨らんだ長方形、断面形は隅丸三角形。砂岩製の敲打具で、端部に敲打痕を残す。細い側縁にも鼠歯状痕を残す。重量 691.0g	
1557	F区	SK2	弥生土器 壺	-	(4.7)	-	橙色 々 灰オリーブ色	壺の頸部片。多重の寛描沈線、2条の扁平刻目突帯が巡る。扁平刻目突帯は浅黄橙色で、他とは異なる発色。	
1558	F区	SK2	弥生土器 甕	-	(3.7)	5.5	にぶい橙色 暗灰黄色 々	底部は平底状。板状工具による強い縦方向のナデにより砂粒が移動する。	
1559	F区	SK2	弥生土器 甕	24.4	(14.7)	-	橙色 々 々	口縁部から頸部片。外面胴部上位に3条の微隆起突帯が巡る。口縁部は外側に肥厚し、内傾する面の直下には爪の圧痕が残る。内外面ともナデ、外面口縁部は指頭圧痕。	
1560	F区	SK2	弥生土器 甕	-	(22.7)	8.8	にぶい黄褐色 々 にぶい橙色	胴部から底部片。内面はナデ、外面はハケをナデ消す。外面底部は高台状を呈し、中央部が凹む。	
1561	F区	SK2	弥生土器 甕	-	(3.5)	-	にぶい黄褐色 々 黄灰色	胴部片。外面タタキの後ハケ。	
1562	F区	SK2	土製品 不明	全長 2.0	全幅 1.9	全厚 1.7	- にぶい黄褐色 -	球形の土製品。赤色顔料が塗布される。	
1563	F区	SK3	弥生土器 壺	13.1	(7.7)	-	にぶい黄褐色 橙色 黒色	頸部は外上方に延び、口縁部は外反する。口縁部は内傾し凹線状を呈す。内外面口縁部と外面頸部と胴部の境目は丁寧な横方向のナデ、頸部は縦方向のハケ。	
1564	F区	SK3	弥生土器 壺	-	(5.7)	-	にぶい黄褐色 々 黄灰色	壺の肩部片。内面ナデ・指頭圧痕。外面縦方向のハケ・ナデ。	
1565	F区	SK3	弥生土器 壺か	-	(4.6)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色・灰色 浅黄褐色	小型の壺の胴部から底部片か。底部は丸底状。外面胴部に絵画あるいは記号が施される。	
1566	F区	SK3	弥生土器 甕か	-	(9.7)	-	にぶい黄褐色 々 々	胴部片。胴部と頸部の境目に刷毛状工具によるとみられる列点文が施される。内面ナデ・指頭圧痕。外面胴部中位は板状工具によるナデ。	
1567	F区	SK3	弥生土器 高杯	12.9	8.6	9.0	橙色 々 灰黄色	碗状の杯部。裾部に推定6カ所の透孔。口縁部は沈線状に凹む。内外面ともミガキ。内面は指頭圧痕・ナデ、爪による圧痕。内面に僅かに赤色顔料塗布。	
1568	F区	SK3	須恵器 壺	-	(1.9)	10.0	灰白色 々 々	底部に高台がハの字状に付く。内面底部に篋状工具によるナデ。	
1569	F区	SK3	石製品 石包丁	全長 8.6	全幅 4.2	全厚 1.0	-	打製石包丁。一面は自然面、片面は剥離面。両側に挟りが見られる。頁岩製。重量 39.0g	
1570	G区	SK3	弥生土器 壺	12.6	28.5	6.3	浅黄褐色 橙色 にぶい黄色	底部は中央のやや凹んだ平底。口縁部は直線的に外上方に延び、端部は上側にやや肥厚する。内面ナデ。外面胴部中位以上はハケ、以下はヘラケズリの後一部ヘラナデ。	
1571	G区	SK3	弥生土器 壺	12.3	(5.6)	-	橙色 にぶい黄褐色 々	口縁部は外反し、端部は外側に粘土帯を貼付し肥厚し面を成す。内面ハケの後口縁部でヘラミガキ。外面細かい単位のハケ、口縁部に押圧痕、下位の一部に煤附着。	
1572	G区	SK3	弥生土器 壺	-	(5.6)	8.7	オリーブ黒色 浅黄色 灰色	底部は平底状。底部端から胴部は直線的に立ち上がる。内外面ともナデ。	
1573	G区	SK5	弥生土器 壺	10.1	(6.1)	-	橙色 にぶい黄褐色 々	頸部から口縁部は外反する。端部は丸味を持った面を成し、外側にやや肥厚する。内面ナデ・押圧痕。外面ハケの後ナデか。口縁部に押圧痕。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1574	G区	SK5	弥生土器 壺	—	(24)	—	灰オリーブ色 橙色 浅黄橙色	外面に6条以上とみられる櫛描沈線帯が巡る。沈線は浅く、部分的に不明瞭。	
1575	G区	SK5	弥生土器 甕	—	(4.7)	—	にぶい黄橙色 浅黄橙色 橙色	頸部下に2条の断面蒲鉾型の微隆起突帯と、その上位に刻みが巡る。	
1576	G区	SK5	弥生土器 甕	—	(2.9)	5.6	黄灰色 黄橙色 黄灰色	底部は平底で浅い凹面を成す。内面ナデ、凹凸面が残る。外面ナデ。	
1577	I区	SK1001	弥生土器 甕	—	(2.4)	—	橙色 〃 黄灰色	頸部の屈曲から口縁部は直線的に立ち上がる。端部は面を成し、上下に肥厚する。	
1578	H区	SK1003	弥生土器 甕	15.2	(11.3)	—	明褐色 橙色 灰色	頸部はくの字状で、口縁部は緩く外反する。端部は面を成し、外側へ肥厚。内面粗い単位の後ナデ、頸部に押圧痕。外面タタキの後ハケ。内外面とも一部煤附着。	
1579	H区	SK1003	弥生土器 鉢	18.0	7.8	—	にぶい橙色 〃 〃	底部は丸底状。口縁部は内湾して上方に延び、端部は面を成す。内面ハケ、外面タタキ・指頭圧痕。	
1580	H区	SK1003	土製品 支脚	—	12.9	10.5	にぶい黄橙色 〃 —	支脚は外上方へ双方向に湾曲して付く。脚部は裾部で外反し、端部は太く丸く取める。内外面ナデ・指頭圧痕。	
1581	H区	SK1006	弥生土器 甕	—	(14.0)	—	浅黄色 にぶい黄橙色 黄灰色	丸底状の底部から胴部片。内面ナデ、外面タタキ。	
1582	H区	SK1006	弥生土器 鉢	—	(4.9)	—	にぶい黄橙色 〃 褐色	口縁部は直線的に外反し、端部は狭い面を成す。口縁端部内側が浅く窪む。内面粗いハケの後ナデ、滑らかに仕上がる。外面ナデ。	
1583	E区	SK2089	瓦質土器 羽釜	27.2	(3.3)	—	灰色 〃 〃	口縁部は緩く内湾し上方に延び、端部は面を成す。口縁部の外側に断面不整形の銚が取り付く。銚端部は丸味を持つ。内外面ともナデ。銚の接合痕が比較的明瞭。	
1584	E区	SK2092	弥生土器 壺	16.8	36.9	8.4	明赤褐色 にぶい橙色 〃	底部は平底状。口縁端部に格子文。頸部に突帯1条、下位に刺突文。内面胴部はケズリの後ナデ・ヘラミガキ。外面頸部ハケ、胴部ハケの後ミガキ、下位はヘラミガキ。	
1585	E区	SK2092	弥生土器 甕	18.4	24.2	6.0	にぶい黄褐色 にぶい橙色 暗灰黄色	底部は平底状。頸部の屈曲はやや急で口縁部は直線的に外反する。端部は上下に肥厚し直立する面を成す。内面ケズリの後ナデ、外面ヘラナデ。	
1586	E区	SK2092	弥生土器 甕	12.2	15.9	5.0	にぶい橙色 橙色 褐色	底部は平底状。口縁部は直線的に短く外反する。端部は緩い凹面を成し、内側にやや肥厚する。内面ナデ、頸部下にヘラナデに伴う圧痕。外面ハケの後ナデ、口縁部ナデ。	
1587	E区	SK2092	弥生土器 甕	14.6	(7.0)	—	黄褐色 にぶい黄褐色・オリーブ黒色 暗灰黄色	頸部はくの字状。口縁部は直線的に外上方に延び、端部は面を成し外側に肥厚する。内外面ともナデ、内面胴部ケズリの後篋状工具によるナデ。外面の一部に煤附着。	
1588	E区	SK2092	弥生土器 甕	17.6	19.3	6.5	橙色 〃 黄灰色	底部はやや突出する平底状。口縁部は短く外反し、端部は外側に肥厚、1～2条の凹線様に窪む。内面胴部ケズリ、上位ミガキ風のヘラナデ。外面胴部下位でヘラナデ。	
1589	E区	SK2087	弥生土器 甕	15.0	(4.6)	—	橙色 〃 褐色	口縁部は直線的に延びる。端部は緩い凸面を成す。内面ナデ、口縁部は横方向のナデが顕著。外面ハケの後ナデ、口縁部には横方向のナデが顕著。	
1590	E区	SK2092	弥生土器 甕	16.8	(8.5)	—	にぶい黄褐色 黄褐色・黒色 灰オリーブ色	胴部と頸部の境目が段状になる。口縁部は外反。端部は面を成し外側に僅かに肥厚。内面ナデ、胴部はヘラケズリの後ナデ、口縁部ナデ。外面ナデ、胴部に煤附着。	
1591	E区	SK2092	弥生土器 甕	13.8	(13.6)	—	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 黄灰色	胴部は内湾する。頸部は外反し口縁部は緩く外反する。端部は面を成し、外側へ肥厚する。内面ケズリの後ナデ、外面粗いハケの後篋状工具によるナデか。	
1592	E区	SK2092	弥生土器 甕	16.2	(11.4)	—	にぶい黄褐色 〃 黄灰色	口縁部は緩く外反する。端部は緩い凹面を成し、外側へ肥厚。内面胴部縦方向のケズリの後ナデ、口縁部ナデ。外面ナデ、頸部から口縁部は横方向のナデが卓越する。	
1593	E区	SK2087	弥生土器 甕	12.8	(7.8)	—	にぶい黄褐色 〃 浅黄褐色	胴部上位は内湾し、頸部は緩く外反する。口縁部は短く延び、端部は太く丸く取める。内面ナデ、粘土の接合痕を残す。外面横方向のハケの後、口縁部にナデ。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1594	E区	SK2092	弥生土器 甕	-	(4.1)	4.3	にぶい黄褐色 明褐色 黄灰色	底部は高台状に周縁部が突出する。胴部は緩く内湾して立ち上がる。内面ケズリの後ナデ、外面ナデ、底部端に篋状工具による圧痕。	
1595	E区	SK2092	弥生土器 甕	-	(3.9)	6.4	黄褐色 にぶい橙色 灰オリーブ色	底部は平底状。胴部は緩く外反する。内面ナデ、一部に煤付着。外面胴部に縦方向のハケ、底部端に横方向のナデ、底部にナデ。	
1596	E区	SK2092	弥生土器 鉢	18.6	(11.8)	-	橙色 灰黄褐色 灰色	頸部はやや急で、口縁部は短く直線的に外上方に延びる。端部は緩い凹面を成す。内面体部はケズリの後ナデ、口縁部はナデ。外面ナデ、一部に煤付着。	
1597	E区	SK2092	弥生土器 鉢	-	(8.4)	5.3	にぶい黄褐色 褐色 橙色黄灰色	底部は凹面を成す。体部は外上方に延びる。外面底部と胴部の境に3条の凹線が巡る。内面体部は主に縦方向、又は横方向のミガキ。外面ミガキ。	
1598	E区	SK2092	弥生土器 高杯	24.6	(6.7)	-	にぶい橙色 〃 にぶい 橙色・にぶい 黄褐色	杯部は緩く内湾して外上方に立ち上がる。口縁部は屈曲の後外反して開き、端部は面を成す。内外面ともヘラナデ、口縁部では横方向のヘラナデが卓越する。	
1599	E区	SK2092	石材 剥片	全長 11.4	全幅 9.4	全厚 1.6	-	母材からの打割による剥離片で、一部に自然面が残る。出土時は3点に分割されていたものを接合した。重量128.0g	
1600	E区	SK2092	石材 剥片	全長 10.7	全幅 8.4	全厚 1.6	-	母材からの剥離片で、一部に自然面を残す。縁部を部分的に加工したものか。重量91.0g	
1601	E区	SK2092	石材 剥片	全長 7.0	全幅 5.7	全厚 0.9	-	母材からの剥離片で、一部の鋭い端部は利用したものか。一部に風化自然面が残る。重量34.0g	
1602	E区	SK2094	弥生土器 甕	34.4	(4.2)	-	橙色 〃 〃	口縁部は緩く内湾して上方へ延びる。端部は外側に断面三角形の粘土を貼付し肥厚、広い水平面を成す。口縁部外面に押圧風の刻みを施す。内面ナデ、外面ハケ。	
1603	E区	SK2094	土師器 杯	12.1	3.7	4.8	橙色 〃 〃	円盤状高台。外面底部は凹面を成す。体部から口縁部は外反の後緩く外反する。内面ナデ、外面回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1604	E区	SK2097	弥生土器 甕	-	(4.0)	6.8	黄褐色 褐色 暗灰黄色	底部は平底状。底端部は稜が比較的明確で、胴部は直線的に立ち上がる。内面ケズリの後ナデ、押圧痕が残る。外面ハケの後ナデ、底部にヘラナデ・圧痕が見られる。	
1605	E区	SK2097	須恵器 壺	-	(4.8)	-	暗灰黄色 黄灰色 にぶい褐色	内湾した胴部片。内外面とも回転ナデ。外面胴部中に篋状工具による「奉」の刻書あり。	
1606	E区	SK2098	弥生土器 壺	-	(4.3)	-	橙色 〃 〃	頸部に6条以上の篋描沈線を有する。沈線間に断面台形状の突帯を2条以上貼付し、押圧により刻む。頸部は外反して上方に延びる。内面ナデ、外面ハケ。	
1607	E区	SK2098	弥生土器 壺	-	(9.9)	-	にぶい黄褐色 褐色 〃	胴部は内湾する。胴部中に6条以上1単位とする篋描沈線を上下に配し、間に双線の山形文を施す。内面ナデ、一部に煤付着。外面ハケ。	
1608	E区	SK2098	弥生土器 壺	-	(15.1)	-	にぶい黄褐色 〃 明黄褐色	頸部に多重篋描沈線、中に3条の突帯に押圧風の刻み。胴部6～8条1単位の篋描沈線が3単位、間に双線の山形文。内面ナデ。外面ハケ、胴部上位ミガキ、一部に煤付着。	
1609	E区	SK2098	弥生土器 壺	-	(10.2)	-	にぶい黄褐色 明赤褐色 褐色	胴部は中位で内湾の後直線的に頸部に延びる。胴部中に6条1単位の篋描沈線を施し、間に双線の山形文を配す。内面ナデ、押圧痕・接合痕を残す。外面ハケ。	
1610	E区	SK2098	弥生土器 壺	-	(15.7)	5.6	にぶい黄褐色 〃 〃	底部は平底で、緩い凹面を成す。胴部は内湾し算盤玉形を呈す。胴部の中位から上位にかけて7条1単位の篋描沈線が3単位。内面ナデ、外面ハケか。	
1611	E区	SK2098	弥生土器 壺	10.1	(12.0) (16.0)	6.6	にぶい褐色 にぶい橙色 灰オリーブ色	底部は平底状。口縁端部の一部に切裂風の刻み、頸部に9条の篋描沈線、3条の突帯を貼付し篋状工具で刻む。内面ナデ、外面胴部にヘラミガキ。	
1612	E区	SK2098	弥生土器 甕	22.9	(7.6)	-	にぶい褐色 暗灰黄色 灰オリーブ色	口縁部は連続的に外反し、端部は狭い凹面を成す。内外面ともナデ、口縁部下に押圧痕を残す。	
1613	E区	SK2098	弥生土器 甕	22.8	(6.3)	-	にぶい黄褐色 明黄褐色 褐色	口縁部は外反し、端部は緩い凹面を成す。内面口縁部は横方向のハケ、口縁端部は横方向のナデ。外面ハケ、頸部に縦方向のハケ、口縁端部に押圧痕が残る。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1614	E区	SK2098	弥生土器 甕	-	(13.7) (9.4)	6.0	橙色 〃 浅黄橙色	底部は平底状。頸部に3条の篋描沈線。内面ナデ、胴部中に煤付着。外面頸部ヘラナデ、胴部は縦方向のナデ。	
1615	E区	SK2098	弥生土器 甕	16.8	(13.3)	-	明褐色 にぶい褐色 明褐色	口縁部は連続的に緩く外反し、端部は面を成し外側へ肥厚する。胴部上位に2条の微隆起突帯。内面ナデ、頸部はハケの後ナデ。外面胴部ナデ、口縁部ハケ、煤付着。	
1616	E区	SK2098	弥生土器 甕	-	(6.4)	-	明褐色 にぶい褐色 橙色	胴部上位に2条の微隆起突帯を配し、その上下に摘み出しに伴う押圧痕が残る。胴部は緩く内湾して立ち上がる。内外面ともナデ。	
1617	E区	SK2098	弥生土器 甕	-	(11.2)	6.7	にぶい褐色 〃 暗灰褐色	底部は平底状。高台状に周縁部が突出する。内外面ナデ、外面煤付着。	
1618	E区	SK2098	弥生土器 甕	-	(11.1)	7.6	灰黄褐色 にぶい黄褐色 橙色	底部は平底状。胴部は緩く内湾して立ち上がる。内面ナデ、一部に煤付着。外面ナデ、底部端には押圧痕が残る。	
1619	E区	SK2098	弥生土器 甕	-	(33.8)	9.3	にぶい黄褐色 〃 〃	底部は平底状。胴部上位に1条以上の微隆起突帯に刻みが巡る。内面ナデ。外面ナデ、微隆起突帯の上下に押圧痕、胴部は条痕風の粗いヘラナデ。内外面の一部に煤付着。	
1620	E区	SK2098	弥生土器 甕	-	(3.3)	7.1	にぶい黄褐色 〃 灰色	底部は平底で緩い凹面を成す。内外面ともナデ、底部端には横方向のナデ。	
1621	E区	SK2098	弥生土器 鉢か蓋	-	(5.3)	7.5	にぶい黄褐色 〃 〃	底部は高台状の凹面を成し、胴部は外反する。内外面ともナデ、内面の一部に煤付着。	
1622	E区	SK2099	弥生土器 壺	-	(3.9)	6.1	にぶい黄褐色 にぶい橙色 暗灰黄色	底部は平底で端部は丸味を持つ。胴部は緩く外反して立ち上がる。内面ナデ、外面ハケ。	
1623	E区	SK2099	弥生土器 壺	-	(3.0)	-	にぶい黄褐色 にぶい褐色 暗灰黄色・にぶい黄褐色	外面に櫛描籐状文・櫛描波状文。	
1624	E区	SK2099	緑釉陶器 碗	12.2	(1.7)	-	灰オリーブ色 〃 灰色	口縁下部で屈曲し口縁部は直線的に立ち上がる。端部は外上方に開き丸く収める。	
1625	F区	SK2116	弥生土器 壺か	-	(1.8)	-	明赤褐色 〃 にぶい褐色	口縁部上面に3条の沈線と竹管刺突文が巡る。	
1626	F区	SK2116	鉄製品 刀子	全長 6.0	全幅 1.5	全厚 0.7	-	背部は直線状、刃部はやや弧状を呈す。重量 8.0g	
1627	F区	SK2117	土師器 甕	25.5	(8.6)	-	にぶい褐色 にぶい黄褐色 橙色・灰黄褐色	口縁部はくの字状に外反し、端部は凹線状を成し、上方に拡張する。口縁部内外面とも横方向のナデ。内面横方向のハケ、外面胴部は縦方向のハケ。	平安前期
1628	F区	SK2117	須恵器 蓋	19.6	(2.0)	-	灰色 〃 〃	口縁部は内傾する面を成し、端部は尖り気味に仕上げる。内外面とも回転ナデ。	
1629	F区	SK2117	須恵器 杯	-	(1.3)	8.0	灰色 〃 〃	断面長方形の直立する高台。外面高台内に粘土塊が付着。内外面とも回転ナデ。	
1630	F区	SK2117	土製品 土錘	全長 4.2	全幅 1.2	全幅 1.2	- 暗灰黄色 -	管状土錘。孔径 0.5～0.6cm。	
1631	F区	SK2118	瓦器 椀	14.2	(3.5)	-	灰色 〃 〃	外面口縁部はナデにより僅かに凹む。摩耗著しく調整は不明瞭。	12c 後～ 13c
1632	F区	SK2118	瓦器 椀	-	(3.4)	-	灰オリーブ色 〃 オリーブ黒色	外面指頭圧痕。摩耗著しく調整は不明瞭。	12c 後～ 13c
1633	F区	SK2122	弥生土器 甕	-	(5.7)	4.8	オリーブ黒色 にぶい黄褐色 〃	底部は平底状。内面指ナデ、外面細かい単位のタタキの後縦方向のハケ・ナデ。底部付近は横方向のナデ。底部は丁寧な仕上げられている。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1634	F区	SK2122	弥生土器 甕	-	(3.5)	7.6	黄灰色 にぶい橙色 黄灰色	底部は平底状。外面胴部と底部の境目は僅かに凹む。	
1635	F区	SK2129	石製品 叩石	全長 9.5	全幅 6.3	全厚 2.1	-	一面は自然面、片面は剥離面。長軸の一端に敲打痕が残る。砂岩製。重量 143.0g	
1636	F区	SK2132	土師器 皿	11.6	2.8	7.0	にぶい黄橙色 〃 褐灰色	底部から口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1637	F区	SK2132	土師器 甕	-	(5.5)	-	にぶい黄褐色 黒褐色 灰黄褐色	口縁部片。口縁端部は内傾する面を成し、上方に尖り気味に仕上げる。	
1638	F区	SK2138	須恵器 椀か	-	(1.9)	6.6	灰黄色 浅黄色 灰黄色	摩耗が著しく調整が不明瞭だが、底部切り離しは回転糸切り。酸化焙焼成。	
1639	M区	SK2167	瓦器 皿	-	(1.9)	-	灰黄色・灰色 灰色 灰黄色	体部から口縁部は緩く内湾して立ち上がる。端部は丸く収める。内面ミガキ、外面ナデ。	
1640	M区	SK2171	土師器 皿	8.0	1.6	5.4	橙色 浅黄橙色 〃	小型の皿。口縁部は緩く外反し、端部は太く丸く収める。内面ナデ、外面回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1641	M区	SK2172	須恵器 蓋	-	(1.8)	-	灰白色 〃 〃	天井部から口縁部は直線的に延びる。端部は短く下方へ屈曲し、丸く収める。内外面ともナデ。	
1642	M区	SK2173	弥生土器 甕	20.2	(6.2)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	口縁部は緩く外反する。端部は面を成し、外側にやや肥厚する。口縁端部に押圧痕が残る。内外面ともナデ。煤が部分的に付着。	
1643	M区	SK2173	弥生土器 甕	-	(3.3)	7.8	橙色 にぶい黄褐色 明黄褐色	底部は平底状。底部端から胴部は緩く内湾して立ち上がる。内外面ともナデ。外面の一部に煤付着。	
1644	M区	SK2173	須恵器 蓋か脚	-	(1.2)	-	褐灰色 〃 〃	天井部から口縁部は外反した後屈曲する。端部は尖り気味に丸く収める。内外面ともナデ。	
1645	M区	SK2183	土師器 杯	12.6	3.6	6.6	浅黄色 〃 〃	体部から口縁部は直線的に立ち上がり、端部は丸く収める。内面ナデ、外面回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1646	南区	SK1	土師器 羽釜	-	(3.2)	-	灰黄褐色 橙色 灰黄褐色	口縁部は直線的に立ち上がり、端部は斜めで凹面を成す。口縁下に断面台形状の鋳が取り付き、端部は面を成す。内外面ともナデ。	
1647	南区	SK1	須恵器 杯	-	(1.5)	9.6	灰白色 〃 灰黄色	底部端に断面不整形の高台がハの字状に付き、畳付は凹面を成す。	
1648	南区	SK1	須恵器 杯	-	(1.4)	10.0	灰白色 黄灰色 〃	湾曲する底部端に断面台形状の高台が直立して付く。内面回転ナデ、外面ナデ。内面底部から破断面にかけて墨または煤が付着。	
1649	南区	SK1	須恵器 鉢	-	(5.8)	11.1	灰黄褐色 〃 〃	平底の底部から、体部は緩やかに外上方に延びる。内外面とも回転ナデ、外面底部端にケズリ。	
1650	南区	SK1	須恵器 壺	-	(2.9)	-	灰色 灰白色 〃	転用硯か。内部は滑らかで、ミガキ様の単位を留める。	
1651	南区	SK1	鉄製品 釘	全長 2.6	全幅 0.9	全厚 0.6	-	角釘。断面形は方形を呈す。重量 3.2g	
1652	南区	SK2	弥生土器 壺	20.2	(1.9)	-	にぶい黄褐色 〃 灰色	口縁部は外反し、端部は面を成し、上下に肥厚する。内外面ともナデ。内面口縁部に横方向のナデ。	
1653	南区	SK2	弥生土器 甕	15.7	(4.3)	-	にぶい黄褐色 灰黄褐色 浅黄褐色	頭部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。端部は面を成し、外側にやや肥厚する。内面ハケ、外面タタキ。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1654	G区	SD1	弥生土器 壺	-	(5.6)	6.7	浅黄色 にぶい黄橙色 にぶい橙色	底部は平底で底部端から胴部は外反の後、直線的に立ち上がる。内面ナデ、外面ヘラナデ。	
1655	G区	SD1	弥生土器 壺	-	(7.8)	6.6	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色 明黄褐色	底部は平底状で、凹面を成す。胴部は底部端から緩く外反して立ち上がる。内面ナデ、押圧痕を残す。外面ハケの後ヘラナデ。	
1656	G区	SD1	土師器 杯	12.3	(2.9) (1.8)	6.4	橙色 にぶい橙色	口縁部から直線的に延び、端部は太く丸味を持ち、外側へ尖る。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1657	G区	SD1	須恵器 碗	-	(2.9)	8.0	浅黄色 灰黄色 〃	断面台形状の高台がハの字状に付く。高台の取り付け部の内側は丁寧にナデて仕上げるが、外側は無調整。体部外面に圧痕（4条の太く丸い沈線帯）が残る。	
1658	I区	SD3	須恵器 杯	-	(1.6)	13.8	灰黄色 灰白色 灰黄色	底部に断面台形状の高台がハの字状に付く。畳付は凹面を成す。	
1659	I区	SD3	須恵器 壺	-	(2.4)	10.6	灰黄色 灰白色 灰黄色	底部に断面四角形の高台がハの字状に付く。底部端に屈曲部を有し、胴部は直線的に立ち上がる。	
1660	I区	SD3	土製品 土錘	全長 3.9	全幅 1.5	全厚 1.5	- にぶい黄橙色 -	管状土錘。円孔は直径0.4cmで、長軸方向に貫通する。	
1661	I区	SD3	石製品 台石	全長 18.0	全幅 13.4	全厚 9.8	-	一部に煤付着。鼠歯状痕を残す。	
1662	F区	SD2025	土製品 土錘	全長 3.5	全幅 0.9	全厚 0.7	- 浅黄橙色 -	管状土錘。孔径0.3cm。	
1663	F区	SD2027	土師器 杯	14.7	4.1	7.6	浅黄橙色 にぶい橙色 浅黄橙色	全面に赤色顔料が塗布されるが、摩耗のためほぼ剥落。底部から口縁部にかけて緩やかに外反し、口縁端部は僅かに肥厚し丸く収める。底部切り離しは回転糸切り。	
1664	F区	SD2027	土製品 土錘	全長 2.9	全幅 1.0	全厚 0.9	- 浅黄橙色 -	管状土錘。孔径0.4cm。	
1665	H区	SD2029	弥生土器 高杯か	-	(4.8)	-	にぶい黄橙色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	口縁部は直線的に上方へ延び、端部は緩い凹面状で外側へ肥厚する。内外面ともナデ。外面に2条以上の凹線を施す。	
1666	F区	SD2043	須恵器 杯	-	(1.5)	10.2	灰白色 灰色 黄灰色	杯の底部片。ハの字状に開く高台が付く。内外面とも回転ナデ。	
1667	M区	SD2061	須恵器 壺	-	(5.1)	-	灰色 にぶい褐色	外面に2条の凹線と8条以上を1単位とする櫛描波状文が施される。内外面ともナデ。胎土中に小規模な円孔が見られる。	
1668	M区	SD2061	瓦器 碗	-	(3.8)	-	灰色 にぶい褐色 灰黄色	口縁部は緩く内湾し、端部は丸く収める。内面ミガキ、外面ナデ。	
1669	M区	SD2061	陶器 甕	-	(8.0)	14.4	にぶい黄橙色 灰白色 黄灰色	底部は平底で中央が緩い凹面を成す。底部端は屈折し、胴部は緩く内湾する。内面ナデ、外面はケズリの後ナデか。胎土中に小規模な円孔が多く見られる。亀山窯産。	
1670	南区	SD1・2	土師器 甕	-	(3.7)	6.8	にぶい橙色 橙色 灰黄褐色	広い平底の底部。内外面ともナデ。	
1671	南区	SD1	須恵器 杯	13.4	(1.6)	-	灰黄色 黄灰色 灰黄色	体部から口縁部は外上方に延びる。口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1672	南区	SD1	須恵器 杯	16.0	(1.5)	-	灰色 〃 〃	口縁部は緩く外反する。端部は外反し、尖り気味に丸く収める。内外面とも回転ナデ。外面口縁端部に沈線または段部が巡る。	
1673	南区	SD1	須恵器 鉢	10.6	(3.6)	-	灰黄色 〃 灰白色	体部は直線的に外上方に延び、口縁部は内湾し、端部は丸く収める。内外面ともナデ。器面に裂孔が見られる。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1674	南区	SD1・2	須恵器 甕	-	(7.8)	-	黄灰色 灰オリーブ色 灰白色	転用碗か。甕の胴部片を用いて内面側に滑らかな箇所があり、本来のナデ痕を消す。外面タタキ、複数の筋状の煤附着。	
1675	南区	SD1	瓦質土器 羽釜	14.4	(5.0)	-	灰色 〃 〃	胴部から口縁部は内湾して内上方に延び、端部は面を成す。口縁部下に断面三角形の鐙が取り付く。鐙端部は丸く収める。内外面ともナデ。	
1676	G区	P20	弥生土器 甕	21.8	(4.0)	-	にぶい橙色 橙色 にぶい黄橙色	口縁部は外反する。端部に断面三角形の突帯が付き、上下に押圧痕が残される。内外面ともナデ。	
1677	G区	P26	須恵器 壺か甕	-	(3.9)	-	黄灰色 灰色 黄灰色	底部は丸底状。底部から胴部は器壁が厚く、内湾して立ち上がる。小裂孔が多い。内面口ロ目顯著。外面回転ナデ、胴部下位以下はケズリ。	
1678	G区	P30	弥生土器 壺	15.2	(5.8)	-	にぶい黄褐色 〃 黄褐色	口縁部は外反し、6条の篋描沈線と2条の沈線上に突帯を貼付し、刻みを施す。端部は凹面状で外側へやや肥厚、外端部に刻み。内面ハケの後ミガキ、口縁部ナデ。外面ハケ。	
1679	G区	P53	土師器 椀	-	(1.8)	8.1	灰オリーブ色 〃 にぶい黄色・灰色	底部には断面台形状の高台。内面ナデ、外面ヘラナデ、底部に圧痕を残す。	
1680	G区	P56	弥生土器 壺	-	(8.0)	-	褐灰色 にぶい橙色 〃	胴部上位に10条以上の篋描沈線を施し、この上に3条以上の断面台形の刻み目突帯を貼付する。	
1681	G区	P58	弥生土器 壺	-	(5.6)	6.8	浅黄褐色 にぶい黄褐色 灰黄色	底部は平底で、胴部は緩く内湾して立ち上がる。内面ナデ。外面ナデ、一部ヘラにより砂粒が動く。	
1682	G区	P66	弥生土器 甕	-	(3.5)	2.0	にぶい橙色 〃 灰黄褐色	底部は小さな平底状で、弱い凸面を成す。内面ナデ、外面タタキ。	
1683	G区	P68	土師器 杯	-	(2.0)	6.4	橙色 〃 浅黄褐色	体部は内湾して立ち上がる。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1684	G区	P70	弥生土器 甕	-	(9.8)	-	明黄褐色 にぶい橙色 〃	胴部は内湾し、頸部で緩く外反する。内面ナデ、外面頸部はハケ、胴部はナデ、一部に煤附着。	
1685	G区	P70	弥生土器 甕	-	(11.7)	6.6	褐色 にぶい黄褐色 浅黄褐色	底部は平底で浅い凹面を成す。胴部は直線的に立ち上がる。内面ナデ、煤附着。外面ハケ・ナデ。	
1686	G区	P72	須恵器 杯身	-	(1.4)	-	灰色 〃 灰褐色	底部から体部は緩く内湾する。外面底部にヘラ記号か。内面回転ナデ。外面体部下位はケズリ、上位はナデ。小規模な円孔が少在。	
1687	H区	P1018	弥生土器 甕	13.0	(2.5)	-	にぶい橙色 橙色 褐灰色	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は外反する。端部は面を成し、外側にやや肥厚する。内面ナデ、外面タタキ。	
1688	H区	P1018	弥生土器 甕	17.6	(3.3)	-	橙色 にぶい黄褐色 灰黄褐色	頸部はくの字状で、口縁部は短く外反する。端部は中位で稜を持つ面を成し、外側へやや肥厚する。端部の稜は面取りによる調整の変換点。内面ハケ、外面タタキ。	
1689	H区	P1018	弥生土器 甕	-	(4.6)	-	暗黄褐色 にぶい橙色 黄灰色	底部はやや突出した丸底。胴部は緩く内湾して立ち上がる。内面篋状工具によるナデ、外面タタキの後篋状工具によるナデ。	
1690	H区	P1033	弥生土器 壺	-	(4.0)	-	にぶい黄褐色 〃 にぶい黄褐色・灰黄色	底部は貼付底風の丸底。胴部は緩く内湾して立ち上がる。内面ナデ、単位を残す凹凸面が残る。外面ハケの後ナデ。	
1691	E区	P2488	須恵器 杯	-	(1.3)	8.2	灰オリーブ色 灰白色 灰黄色	外面底部端に断面台形状の高台が付き、底部端で腰折風に屈曲する。内外面とも回転ナデ、内面自然釉がかかる。外面高台内はケズリの後ナデ、高台と体部に自然釉。	
1692	E区	P2494	土師器 杯	-	(1.3)	6.6	褐色 にぶい黄褐色 〃	内面ナデ、外面体部回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1693	E区	P2497	弥生土器 鉢	27.7	(13.1)	-	にぶい橙色 にぶい褐色 にぶい褐色・黄灰色	頸部は緩く外反し、口縁端部は面を成す。外面胴部上位に4条の沈線。内外面ともナデ。外面胴部に短いヘラナデ、口縁端部に密なヘラナデ。内外面の一部に煤附着。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1694	E区	P2500	土師器皿	9.2	1.4	6.7	にぶい黄橙色 淡黄色 灰白色	底部は緩い凸状。口縁部は短く直線的に伸び、端部は尖り気味に丸く収める。内面ナデ、外面体部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ。底部に粘土紐痕、圧痕を残す。	
1695	E区	P2503	陶器甕	-	(8.2)	-	灰黄褐色 にぶい赤褐色 にぶい黄橙色	胎土中に小規模の円・裂孔が存在する。内面ナデ、外面タタキの後ナデ。	
1696	E区	P2513	土師器皿	9.8	1.3	5.0	にぶい橙色 〃 〃	口縁部は直線的に外上方に伸び、口縁端部は狭い面を成す。内外面とも回転ナデ。見込み中央にロクロ目・兜痕を残し、一部に煤付着。底部切り離しは回転糸切り。	
1697	E区	P2513か	土師器杯	9.2	3.1	5.7	橙色 黄橙色・橙色 〃	底部はやや突出し、緩い凹面状。体部から口縁部は緩く内湾した後僅かに外反し端部は丸く収める。内面丁寧なナデ。外面回転ナデ、ロクロ目を残す。底部に粘土紐の痕跡。	
1698	E区	P2513	須恵器杯	16.2	(4.0)	-	灰白色 〃 〃	体部から口縁部は緩く外反する。端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。外面体部にロクロ目を残す。	
1699	E区	P2513	石製品石包丁	全長 8.9	全幅 4.7	全厚 1.5	-	平面形は長方形を呈す打製石包丁。刃部は概ね直線的で調整により端部は細く尖る。背部は直線的。両側縁の挟りは浅いが縁辺全体が鋸歯状を呈す。重量 77.0g	
1700	E区	P2518	土師器皿	9.2	1.5	6.4	橙色 〃 〃	口縁部は直線的に伸び、端部は丸く収める。内面回転ナデ、見込みにロクロ目。外面回転ナデ。底部切り離しは回転ヘラ切りか。	
1701	E区	P2518	土師器杯	-	(1.3)	7.1	にぶい黄橙色 〃 浅黄褐色	底部は高台風に突出する。体部は直線的に外上方に伸びる。内面回転ナデ、見込みにロクロ目が残る。外面ナデ。底部切り離しは回転ヘラ切りか。	
1702	E区	P2523	瓦質土器か鉢	-	(5.1)	-	灰褐色 〃 にぶい黄褐色	口縁部は直線的に伸び、口縁部下の外面に稜を有する。端部は上方に伸び、丸く収める。内外面ともナデ。搬入品か。	
1703	E区	P2526	須恵器甕	26.0	(6.2)	-	暗灰黄色 灰黄色 黄灰色	頭部の屈曲はやや急で、口縁部は外反する。端部は面を成し外側に肥厚する。内外面ともナデ、外面肩部に自然釉がかかる。	
1704	E区	P2549	須恵器甕	-	(4.4)	-	灰白色 〃 〃	口縁部は外反し、端部は内側に肥厚し面を成す。口縁部外面に櫛描波状文、その上位に断面三角形の突帯を1条配する。内外面ともナデ。	
1705	E区	P2557	土師器杯	13.7	(2.2)	-	橙色 〃 〃	体部は直線的に外上方に伸びる。口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、外面ロクロ目顕著。	
1706	E区	P2559	弥生土器壺	-	(12.9)	-	黒褐色 にぶい黄褐色 黒褐色	胴部は中位で最大径(18.0cm)を持つ。断面は楕円形状。内面ハケの後ナデか。煤が部分的に付着。外面胴部全体に丁寧なハケ、一部にはナデ。	
1707	E区	P2560	弥生土器甕	-	(4.7)	4.8	にぶい黄褐色 〃 黄灰色	底部は小さな平底状で緩い凸面を成す。内面ナデ、外面タタキの後ハケ。底部端にはタタキが残る。	
1708	E区	P2562	土師器杯	13.1	(3.7)	-	淡黄色 〃 〃	体部は内湾し、口縁部で緩く外反する。端部は尖り気味に丸く収める。内外面は回転ナデ。内面口縁部に煤付着。外面ロクロ目顕著、火轆と見られる黒変が残る。	
1709	E区	P2565	土師器皿	9.2	1.5	6.4	橙色 〃 〃	底部はやや突出。口縁部は短く直線的に外上方に伸び、端部は太く丸く収める。内面ナデ、底部に兜痕状の粘土の盛り上がりが残る。外面ナデ、底部はヘラナデ。	
1710	E区	P2565	土師器皿	10.1	1.6	5.5	明赤褐色 〃 にぶい黄褐色	底部はやや突出し、口縁部は直線的に外上方に開く。端部は丸く収める。内面回転ナデ、外面ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1711	E区	P2565	土師器杯	9.9	3.4	5.5	にぶい黄褐色 〃 〃	底部は緩い凸面を成す。体部は直線的に伸び、口縁部は僅かに外反する。端部は外側に尖り気味に丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1712	E区	P2565	銅製品鏡か	全長 3.1	全幅 2.8	全厚 0.9	-	片面に低い断面三角形の突帯と半球形の隆起を有す。縁辺は凹面を部分的に残す。鍔が付着し、鉄製品と接していたものか。他面は滑らかで内湾する。	
1713	E区	P2577	土師器皿	8.6	1.3	7.1	にぶい黄褐色 〃 にぶい黄褐色・黄灰色	口縁部は外反して外上方に伸び、端部は外側に尖り気味に太く丸く収める。内外面とも回転ナデ、底部は回転ヘラケズリ。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1714	E区	P2577	土師器 皿	11.0	(2.3)	—	にぶい橙色 〃 〃	体部は内湾し、口縁部は直線的に外上方に開く。端部は太く丸く収める。内外面ともナデ。外面体部にカキ目か、櫛描様の沈線帯が施される。	
1715	E区	P2578	石製品 砥石	全長 6.6	全幅 2.8	全厚 1.2	—	2面を使用する。表面は比較的短い線条が残される。縁辺に斜方向の線条が連続的に残る。側面に細かな凹凸を留め、線条が残る。重量 27.0g	
1716	E区	P2580	土師器 杯	—	(1.4)	5.1	浅黄橙色 〃 灰白色	底部から体部は外上方に延びる。内外面とも回転ナデ、底部切り離しは回転糸切り。	
1717	E区	P2580	黒色土器 碗	—	(1.4)	6.4	褐灰色 橙色 〃	内面黒色処理。底部端に断面台形状の高台がハの字状に付く。内面ヘラミガキ、外面ナデ。	
1718	E区	P2594	須恵器 杯	—	(1.7)	6.2	淡黄色 灰黄色 〃	底部はやや突出する。内面回転ナデ、外面ナデ。底部切り離しは回転糸切り、その後ナデ。	
1719	E区	P2606	土師器 皿	—	(1.0)	9.4	にぶい黄橙色 〃 〃	内面ナデ。外面底部に粘土紐痕を消すナデ、ミガキを施した後に墨書を施す。	
1720	E区	P2607	土師器 皿	10.7	2.0	7.4	にぶい黄橙色 〃 〃	底部から口縁部は直線的に外上方に延び、口縁部で僅かに外反する。端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。外面底部ナデ。	
1721	E区	P2613	土師器 皿	9.8	1.9	7.1	橙色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	体部から口縁部は緩く外反し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。見込みロクロ目顕著、内面口縁部の一部に煤附着。外面粘土紐痕を消すナデ・圧痕が残る。	
1722	E区	P2615	須恵器 碗	15.8	(5.8)	—	灰黄色 〃 〃	体部は丸味を帯びて外反し、口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は丸く収める。内面ナデ、外面回転ナデか。外面の一部に煤附着。	
1723	E区	P2617	土師器 杯	11.6	(2.2)	—	明黄褐色 〃 にぶい黄橙色	口縁部は直線的に外上方に延び、端部は尖り気味に丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1724	E区	P2631	土師器 皿	9.8	2.3	6.4	にぶい黄橙色・橙色 〃 にぶい黄橙色	底部は緩い凸面状、底部端は一部で丸味を帯びる。口縁部は緩く外反し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。内面ロクロ目顕著、底部に煤附着。外面底部に粘土紐痕。	
1725	E区	P2631	土師器 皿	—	(1.0)	6.0	橙色 〃 〃	底部端は丸味を持つ。内面回転ナデ、見込みロクロ目顕著、一部に煤附着。外面ナデ、底部ヘラケズリ。	
1726	E区	P2631	須恵器 杯	—	(1.1)	8.4	灰黄色 〃 〃	底部端は丸味を持つ。内外面とも回転ナデ。外面底部に粘土紐痕跡を残す。底部に墨書か。	
1727	E区	P2634	緑釉陶器 碗	—	(1.7)	7.0	— 浅黄橙色 〃	内面及び外面に緑釉が施される。底部端に高台がハの字状に付く。高台端部は丸味を持つ面を成す。内外面ともナデ、内面体部と底部の境目に沈線が1条巡る。	
1728	E区	P2635	土師器 杯	—	(1.6)	5.0	浅黄橙色 にぶい黄橙色 浅黄橙色	底部は緩い凸面を成す。体部は直線的に外上方に延びる。内外面とも回転ナデ。内面ロクロ目顕著。外面底部に粘土紐痕を残すが、後にナデが加えられる。	
1729	E区	P2635	土師器 羽釜	21.4	(6.7)	—	にぶい橙色・灰黄褐色 〃 にぶい黄褐色	口縁部はやや内上方に延び、端部は緩い凹面を成す。口縁部下に断面台形状の鐙が取り付く。内面ナデ、外面胴部にハケ、鐙の上下は丁寧なナデで、接合痕を消す。	
1730	E区	P2637	土師器 杯	14.0	4.0	7.3	明赤褐色 橙色 〃	底部はやや突出する。口縁部は緩く外反し、端部は太く丸く収める。内外面とも回転ナデ、見込み・外面体部にロクロ目を残す。底部切り離しは回転糸切り。	
1731	E区	P2638	弥生土器 甕	—	(3.4)	4.7	灰黄褐色 〃 〃	底部は高台状を呈し中央は凹状を呈す。胴部は外上方に延びる。内外面ともナデ、外面の一部に煤附着。	
1732	E区	P2639	土師器 杯	11.8	2.8	8.6	橙色 明黄褐色 〃	底部から口縁部は直線的に外上方に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。内面口縁部から体部の一部に煤附着。外面底部に粘土紐痕を残す。	
1733	E区	P2643	鉄製品 釘	全長 8.2	全幅 1.5	全厚 0.6	—	扁平な頭部、断面形は方形。重量 12.0g	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1734	E 区	P2644	土師器杯	—	(1.0)	5.9	淡黄色 〃 〃	内外面ともナデ、外面底部にヘラ圧痕(記号か)が残る。	
1735	E 区	P2645	土師器杯	17.1	(3.9)	—	橙色 〃 〃	体部から口縁部は直線的に延び、端部は丸味を帯た面を成す。内面ヘラミガキ、一部に煤付着。外面回転ナデの後ミガキ。	
1736	E 区	P2645	土師器杯	14.9	3.6	8.7	にぶい黄橙色 橙色 にぶい黄橙色	底部から体部は緩く内湾する。口縁部は僅かに外反し、端部は丸味を持った面を成す。内外面ともヘラミガキ、煤様の黒色細粒が付着。外面底部に粘土紐接合痕。	
1737	E 区	P2649	弥生土器甕	19.4	(8.1)	—	橙色 にぶい橙色 暗灰黄色	頭部の屈曲は急で、口縁部は緩く外反する。端部は凹面状で、外側へ肥厚する。内面胴部ケズリの後ナデ、口縁部ナデ。外面胴部タタキの後ハケ、口縁部ナデ。タール状の煤付着。	
1738	E 区	P2650	銭貨	外径 2.59	外径 2.52	全厚 0.16 ～0.20	—	万年通寶。内径 2.17cm・2.23cm 重さ 2.15g	
1739	E 区	P2651	土師器杯	—	(1.5)	9.8	橙色 〃 〃	底部は緩い凹面状を呈し、底部端は丸味を持つ。内外面ともナデ、外面底部に粘土紐痕を残す。	
1740	E 区	P2651	土師器杯	—	(1.5)	8.3	浅黄橙色 黄橙色 淡黄色	底部端はやや丸味を持ち、体部は緩く外反する。内面ナデ、一部に煤付着。外面回転ナデ、底部はケズリの後回転ナデ。器面の一部に煤付着。	
1741	E 区	P2653	土師器皿	10.0	1.6	5.6	橙色 〃 暗灰黄色	底部端はやや突出し、中央は凹状になる。体部から口縁部は緩く外反し、端部は丸く収める。内面ナデ。外面回転ナデ、底部に粘土紐痕を残す。	
1742	E 区	P2653	土師器杯	12.4	(2.2)	—	橙色 〃 〃	口縁部は緩く外反し、端部は丸く収める。内外面ともナデ、ロクロ目を残す。	
1743	E 区	P2656	弥生土器壺	—	(3.6)	—	にぶい黄橙色 〃 〃	頭部は直立し、屈曲の後緩く内湾し外上方に延びる。口縁部は上方に立ち上がる。頭部に3条以上の篋描沈線、断面蒲鉾型の突帯、刺突刻みを配す。	
1744	E 区	P2656	土師器杯	—	(1.8)	8.2	橙色 〃 黄灰色	底部端は突出し、中央部は緩い凸面を成す。内外面とも回転ナデ、外面底部は粘土紐痕、篋状工具によるナデ・ケズリ及び圧痕が残る。	
1745	E 区	P2657	弥生土器壺か	4.5	(3.8)	—	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色・灰色 にぶい黄褐色	口縁部は緩く内湾して上方に延びる。端部は面を成し内側に肥厚する。外面に2条の篋描沈線が巡る。内外面ともナデ。内面凹凸面、粘土紐接合痕が残る。	
1746	E 区	P2661	土師器皿	10.8	(2.4)	—	黒褐色 にぶい黄褐色 淡黄色	体部から口縁部は緩く外反し、端部は丸く収める。内外面ともナデ、内面の一部に煤付着。	
1747	E 区	P2661	土師器杯	14.0	(3.2)	—	暗灰黄色 〃 黄色	口縁部は外反し、端部は細く丸く収める。内外面ともナデ。	
1748	E 区	P2661	土師器杯	—	(1.0)	8.2	浅黄橙色 〃 〃	底部端は丸味を持つ。内面底部にロクロ目、一部に煤付着。外面回転ナデ、底部に粘土紐痕、後にナデを施す。	
1749	F 区	P2666	土製品土錘	全長 3.9	全幅 1.6	全厚 1.5	— にぶい黄褐色 —	管状土錘。孔径 0.5cm。	
1750	F 区	P2670	弥生土器壺	16.8	(1.9)	—	明赤褐色 にぶい橙色 〃	口縁端部に刷毛状工具による刻目が施される。内面口縁部は荒い単位のハケ・横方向のナデ。外面頸部にかけて縦方向のハケ。	
1751	F 区	P2670	弥生土器甕	—	(7.0)	—	褐色 褐色・オリーブ黒色 オリーブ黒色	胴部上位にハケの後5条の篋描沈線が巡る。内面ナデ・指頭圧痕。外面下位は斜・横方向のナデ。	
1752	F 区	P2670	土師器甕	—	(2.4)	—	橙色 にぶい橙色 橙色	くの字状を呈する口縁部片。口縁端部は内傾する面を成し、僅かに凹状を呈す。内面横方向のハケ、外面に縦方向のハケ。	
1753	F 区	P2672	土師器皿	14.6	1.4	9.8	にぶい橙色 橙色 〃	口縁部は直線的に外上方に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは摩耗が著しく不明。	

遺物観察表 1754～1773

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1754	F区	P2672	須恵器 杯	13.0	(2.8)	—	灰色 〃 〃	底部から口縁部は緩やかに外上方に延び、口縁端部はやや尖り気味に仕上げる。	
1755	F区	P2672	須恵器 杯身	—	(1.9)	—	灰色 〃 〃	内外面とも回転ナデ。	
1756	F区	P2677	須恵器 鉢	28.0	(5.5)	—	灰色 〃 〃	口縁端部はやや内傾する面を成す。内面口縁端部は丸味を帯び、外面端部は鋭く稜を成す。内外面とも回転ナデ。篠か。	
1757	F区	P2688	弥生土器 甕	—	(3.0)	—	にぶい黄橙色 〃 浅黄橙色	底部は丸底状。底部中心より4cmの位置に、焼成後、外面からの敲打による径1cmの穿孔が見られる。外面タタキ。	
1758	F区	P2692	須恵器 杯蓋	13.6	(3.3)	—	灰色 灰白色・オリーブ黒色 灰色	外面は磨耗し調整は不明瞭であるが、天井部との境が沈線状になる。内面は回転ナデ。	
1759	F区	P2692	須恵器 高杯	—	(4.9)	—	灰白色 灰色 灰白色	脚部に2カ所の透孔あり。内外面とも回転ナデ。	
1760	F区	P2700	弥生土器 壺	—	(4.1)	—	にぶい黄橙色 にぶい橙色 橙色	胴部片。上位に8条以上の多重沈線、下位に双線による山形文が施される。内面ナデ、外面縦方向のハケ。	弥生前期末
1761	F区	P2722	土師器 椀	—	(2.7)	—	灰白色 〃 〃	口縁端部は尖り気味に仕上げる。磨耗が著しく調整が不明瞭。	
1762	F区	P2723	須恵器 壺か甕	—	(2.7)	9.2	黄灰色 暗黄灰色 灰白色	外面底部に自然釉がかかる。内外面とも回転ナデ。	
1763	F区	P2725	土師器 甕	—	(2.3)	—	浅黄橙色 〃 〃	くの字状に外反する口縁部片。胎土に0.3cm大の砂礫を含む。	9c
1764	F区	P2735	土師器 皿か杯	16.1	2.1	11.0	明黄褐色 にぶい橙色 明黄褐色	口縁部は直線的に外上方に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ・ミガキ。	
1765	F区	P2737	瓦器 椀	—	(0.9)	4.8	黄灰色 灰色 にぶい黄橙色	底部片。断面逆台形状の高台が付く。器面は丁寧なナデ。	12c 後～ 13c
1766	F区	P2755	土師器 椀	—	(3.2)	—	にぶい赤褐色 明赤褐色 浅黄橙色	赤色顔料が塗布される。内外面ともナデ。	
1767	F区	P2756	土師器 皿	6.8	1.8	5.3	にぶい橙色 〃 〃	小型の皿。口縁端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1768	F区	P2758	土師器 皿	6.2	1.4	4.2	にぶい黄橙色 にぶい橙色 橙色	小型の皿。口縁端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1769	F区	P2758	土師器 皿	7.2	1.7	4.3	にぶい橙色 〃 〃	小型の皿。口縁端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1770	F区	P2758	土師器 皿	6.9	1.6	5.0	にぶい橙色 〃 橙色	小型の皿。口縁端部は僅かに肥厚し、丸く収める。内外面とも回転ナデ。外面底部から口縁部に煤付着。底部切り離しは回転糸切り。	
1771	F区	P2758	土師器 皿	8.0	1.3	5.6	にぶい黄橙色 〃 〃	小型の皿。口縁端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1772	F区	P2758	土師器 皿	7.0	1.7	5.2	浅黄橙色 〃 〃	小型の皿。口縁端部は僅かに肥厚し、丸く収める。磨耗著しく調整は不明瞭。底部切り離しは回転糸切り、僅かに板状の圧痕が見られる。	
1773	F区	P2758	土師器 皿	7.0	1.6	5.3	にぶい橙色 〃 〃	小型の皿。口縁端部は丸く収める。内面の一部に煤付着。底部切り離しは回転糸切り。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1774	F区	P2758	土師器 皿	7.4	1.6	5.9	にぶい橙色 にぶい黄橙色 〃	小型の皿。口縁端部は僅かに肥厚し、丸く収める。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り、少量の粘土塊が付着。	
1775	F区	P2758	土師器 杯	11.8	3.1	6.2	にぶい黄橙色 〃 〃	底部から口縁部は緩やか外上方に延び、端部は丸く収める。内面横・斜方向のナデ、外面横方向の回転ナデ。	
1776	F区	P2758	土師器 杯	11.1	4.2	5.5	にぶい橙色 橙色 〃	底部から口縁部は直線的に外上方に開く。口縁端部は僅かに肥厚し、丸く収める。底部切り離しは回転糸切り。	
1777	F区	P2758	土師器 杯か	12.5	(3.6)	—	橙色 〃 〃	口縁部は直線状に斜上方に延び、端部は丸く収める。内面中位は回転ナデにより稜線状になる。	
1778	F区	P2758	土師器 杯	11.3	3.0	7.3	にぶい橙色 〃 〃	底部から口縁部は直線的に外上方に開き、口縁端部は丸味を帯びた内傾する面を成す。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り、少量の粘土塊が付着。	
1779	F区	P2758	土師器 杯	12.2	3.3	8.0	橙色 〃 にぶい黄橙色	底部から口縁部は直線的に外上方に開き、口縁端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1780	F区	P2758	土師器 杯	—	(1.6)	5.9	にぶい黄橙色 にぶい橙色 にぶい黄橙色	底部片。見込みロクロ目顕著、外面に少量の粘土塊が付着。底部切り離しは回転糸切り。	
1781	F区	P2758	土師器 杯	—	(2.4)	7.3	にぶい橙色 〃 〃	底部端は丸味を帯びる。内外面とも回転ナデ。外面は稜が明瞭。底部切り離しは回転糸切り、少量の粘土塊が付着。	
1782	F区	P2758	土師器 杯	—	(1.4)	7.0	黄褐色 〃 〃	内外面とも回転ナデ。見込みロクロ目顕著。底部切り離しは回転糸切り、周縁の一部に粘土が付着。	
1783	F区	P2758	土師器 杯	—	(2.1)	7.4	にぶい橙色 〃 〃	内面の一部に煤付着。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1784	F区	P2758	土師器 杯	—	(2.1)	6.4	にぶい黄褐色 灰黄褐色 にぶい橙色	内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1785	F区	P2759	須恵器 杯身	14.6	3.7	10.6	灰白 〃 〃	口縁部に1条の沈線が巡る。外面底部に自然釉、底部切り離しは回転糸切り。蓋の可能性あり。	
1786	F区	P2760	土師器 皿	7.0	1.6	4.8	明黄褐色 〃 〃	小型の皿。口縁部は外上方に延び、口縁端部上面は凹状になる。見込み周縁は凹状を呈す。底部切り離しは回転糸切り。摩擦著しい。	
1787	F区	P2760	土師器 皿	6.5	1.0	3.8	橙色 〃 〃	小型の皿。口縁部は外上方に延び、端部は丸く収める。見込み周縁は凹状を呈す。底部切り離しは回転糸切り。	
1788	F区	P2760	土師器 皿	7.2	1.9	4.7	橙色 〃 〃	小型の皿。口縁部は斜上方に延び、端部は丸く収める。底部切り離しは回転糸切り。	
1789	H区	P2777	土製品 支脚	全長 6.4	—	全厚 1.7	— 浅黄色 —	2方向に延びる支脚の支部か。粘土を巻き込み押圧痕と接合痕を残す。器面はナデを施し、比較的滑らか。	
1790	H区	P2782	須恵器 鉢	21.8	(4.3)	—	灰色 〃 灰白色	口縁部は直線的に延び、端部は面を成す。内外面ともナデ。	
1791	H区	P2789	須恵器 鉢	20.4	(5.5)	—	にぶい橙色 〃 灰黄褐色	口縁部は直線的に立ち上がり、端部は緩い凹面を成す。内外面ともナデ。外面は粘土の接合に伴う圧痕で弱い凹凸面を成す。	
1792	H区	P2803	弥生土器 壺	17.0	(1.8)	—	橙色 にぶい橙色 褐灰色	口縁部は外反し、端部は内傾する面を成す。上下に肥厚し3条の凹線が巡る。内面ミガキ、口縁端部横方向のナデ。外面ナデ。	
1793	H区	P2803	弥生土器 甕	—	(2.1)	—	橙色 〃 灰色	口縁部は緩く外反する。端部は面を成し、外側にやや肥厚する。内外面ともナデ。	

遺物観察表 1794～1813

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1794	H区	P2803	石製品 石包丁	全長 9.3	全幅 4.5	全厚 1.0	-	泥質の変成岩製。表裏面は打割により破断。刃部はやや弧を描き、中央は使用に伴い丸味を帯びる。背部は緩い凸面状の自然面で直背。両側縁に小さな抉り。重量500g。	
1795	H区	P2804	瓦質土器 羽釜	-	(3.2)	-	オリーブ黒色 〃 灰白色	口縁部は内傾する。口縁部横に鈔が取り付く。鈔端部は太く丸く収める。	
1796	H区	P2818	須恵器 杯	-	(1.2)	7.7	黄灰色 灰色 〃	底部端に断面方形または蒲鉾型の高台が付く。内面ナデ、外面体部はナデ、高台内に回転ケズリを施す。	
1797	H区	P2828	土師器 皿	10.3	(1.5)	-	明黄褐色 橙色 明黄褐色	小型の皿。底部は緩い凸面を成し、口縁部は直線的に立ち上がる。端部は丸く収める。内面回転ナデ、外面ナデ。	
1798	F区	P2840	土師器 皿	7.4	1.7	5.4	にぶい赤褐色 橙色 〃	小型の皿。外面高台の境目が強いナデにより沈線状になる。底部切り離しは回転糸切り。	
1799	F区	P2842	瓦器 椀	21.0	(4.0)	-	灰色 〃 灰白色	摩耗著しく調整は不明瞭だが、内面にミガキ、外面指頭圧痕が残る。胎土は精選されており、微細なガラス粒・細砂粒のみ混じる。和泉型か。	12c 後～ 13c
1800	F区	P2846	瓦質土器 羽釜	全長 10.6	-	全厚 2.5	灰黄色 〃 灰色	羽釜の脚部。	13c 後～
1801	F区	P2851	瓦質土器 羽釜	-	(2.6)	-	黄灰色 灰色 黄灰色	口縁部外縁に断面三角形の短い鈔が取り付く。	14c 前
1802	F区	P2871	弥生土器 甕	-	(2.8)	4.7	にぶい黄褐色 〃 黄灰色	底部は小さな平底状。内面指頭圧痕が残る。外面タタキ。	
1803	F区	P2873	須恵器 杯	-	(2.3)	7.8	灰黄色 〃 灰白色	ハの字に開く高台が付く。内外面とも回転ナデ。摩耗著しい。	
1804	F区	P2889	弥生土器 甕	-	(2.2)	3.0	橙色 〃 灰黄色	底部は小さな平底状。内面ナデ、指頭圧痕が残る。外面胴部・底部にタタキ。	
1805	F区	P2906	瓦器 椀	15.8	(2.6)	-	灰色 〃 にぶい黄褐色	内外面ともミガキ。	12c 後～ 13c
1806	F区	P2907	須恵器 杯	-	(2.3)	9.8	灰白色 〃 〃	内外面とも回転ナデ。	
1807	F区	P2912	弥生土器 高杯	-	(3.8)	-	褐灰色 灰黄褐色 にぶい黄褐色	高杯の脚部あるいは器台状土製品。外面にナデ・指頭圧痕。	
1808	F区	P2914	須恵器 杯	-	(2.0)	11.2	灰色 〃 〃	ハの字状に開く高台が付く。内外面とも回転ナデ。	
1809	F区	P2920	弥生土器 甕か	-	(3.6)	-	にぶい橙色 〃 〃	外面に少なくとも3条の沈線、丁寧なミガキ。	
1810	F区	P2920	弥生土器 甕	-	(14.6)	-	灰黄褐色 〃 にぶい橙色	口縁部は緩やかに外反する。胴部上位に3条の微隆起突帯。内外面ともナデ。	
1811	F区	P2932	土師器 杯	15.8	3.8	8.8	浅黄褐色 〃 〃	底部から口縁部へ直線的に外上方に開き、口縁部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1812	F区	P2932	黒色土器 椀	-	(1.6)	6.8	黒褐色 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	低い高台が付く。内面に黒色処理。外面ケズリ・ミガキ。	
1813	F区	P2932	土師器 甕	-	(4.3)	-	にぶい黄褐色 〃 黄灰色	甕の把手部か。指を差し込み、中空状になる。内部には爪の痕跡が残る。外面指頭圧痕、一部にケズリ。	6c 後～ 7c 初

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1814	F 区	P2939	土師器 椀	-	(2.1)	6.6	にぶい橙色 にぶい黄橙色 灰白色	円盤状高台の底部片。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1815	F 区	P2941	土師器 杯	17.0	(3.2)	-	橙色 明赤灰色 橙色	口縁部は直線的に外上方に延び、端部は僅かに肥厚し、丸く収める。摩耗が著しく調整は不明瞭。	
1816	F 区	P2942	土師器 羽釜	23.9	(3.9)	-	にぶい黄橙色 〃 〃	口縁直下に断面台形状の鋳が取り付く。口縁端部はナデにより僅かに凹状を呈す。	
1817	F 区	P2942	土師器 鍋	24.2	(5.8)	-	橙色 にぶい橙色 灰白色	口縁部片。僅かに外反し、口縁端部は丸く収める。内面胴部との境目に横方向のハケ。	
1818	F 区	P2943	土師器 皿	11.4	1.6	9.0	浅黄橙色 〃 〃	底部から口縁部はやや外反し、口縁端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1819	F 区	P2944	土師器 羽釜	22.0	(2.9)	-	灰黄褐色 にぶい黄褐色 にぶい褐色	口縁直下に鋳が取り付く。口縁端部は水平な平坦面を成す。摂津。	
1820	F 区	P2947	土師器 杯	12.6	(4.0)	-	明黄褐色・黒褐色 灰黄褐色 にぶい黄橙色	口縁端部はやや肥厚し丸く収める。内外面とも回転ナデ。外面はナデにより段状になる。	
1821	F 区	P2947	土師器 杯	19.8	(4.1)	-	にぶい黄橙色 浅黄橙色 灰白色	口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1822	F 区	P2972	土師器 杯	12.2	3.3	7.0	黄橙色 〃 〃	口縁部は直線状に外上方に延び、端部は丸く収める。内面中位は回転ナデにより稜線状に肥厚する。底部切り離しは回転糸切り。	11c 頃
1823	F 区	P2972	土師器 杯	-	(2.1)	7.0	にぶい黄橙色 〃 〃	摩耗著しく調整は不明瞭だが、底部切り離しは回転糸切り。	
1824	F 区	P2972	土師器 杯	-	(2.8)	6.4	にぶい黄橙色 〃 〃	内外面とも回転ナデ、見込みにロクロ目が残る。底部切り離しは回転糸切り。	
1825	F 区	P2972	土師器 杯	12.0	3.6	6.5	浅黄橙色 〃 〃	口縁部は直線状に外上方に延び、端部は丸く収める。内面中位は回転ナデにより稜線状に肥厚する。底部切り離しは回転糸切り。	11c 頃
1826	F 区	P2972	土師器 杯	11.4	3.6	6.8	浅黄橙色 〃 〃	口縁部は直線状に外上方に延び、端部は丸く収める。内面中位は回転ナデにより稜線状に肥厚する。底部切り離しは回転糸切り。	
1827	F 区	P2972	土師器 甕	18.4	(14.4)	-	にぶい褐色 明褐色 褐色	内面胴部は横・斜方向のヘラケズリ、口縁部はハケ。外面横・斜方向のハケ・ナデ。	
1828	F 区	P2982	土師器 椀	14.4	5.0	6.8	浅黄褐色 〃 〃	底部から口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。内面は摩耗が著しくは不明瞭、外面は回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り、板状の圧痕が残る。	12c
1829	F 区	P2993	土師器 蓋	-	(2.1)	-	灰黄褐色 にぶい黄褐色 黄褐色	外面天井部に薄い輪状の粘土が付着。内面丁寧なミガキ。外面ケズリ。	
1830	F 区	P3010	土師器 椀	15.0	(4.7)	-	にぶい黄褐色 〃 〃	口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。内面全面に丁寧なミガキ、外面は器面が剥離し、調整は不明。	
1831	F 区	P3017	弥生土器 甕	-	(5.8)	6.6	にぶい黄褐色 黒色 灰色	底部は平底状。内面は縦方向の強いナデ、外面縦方向のハケ・指頭圧痕。胎土に0.2～0.3cmのチャート砂礫を含む。	
1832	F 区	P3023	土師器 椀	19.1	(4.0)	-	にぶい橙色 〃 浅黄褐色	口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。内面ミガキ、外面ナデ・ミガキ。精緻な胎土。	
1833	M 区	P3329	土師器 椀	15.6	5.2	5.8	浅黄褐色 〃 〃	底部端に断面逆台形の高台が付く。体部は緩く内湾し、口縁部は短く外反する。端部は太く丸く収める。内外面ともナデ。	

遺物観察表 1834～1853

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1834	M区	P3330	土師器 杯	-	(3.8)	-	浅黄橙色・にぶい橙色 浅黄橙色 〃	体部から口縁部は直線的に立ち上がる。端部は太く丸く収める。内面ナデ、外面回転ナデ。	
1835	M区	P3330	製塩土器	-	(1.4)	-	にぶい橙色 にぶい黄橙色 浅黄橙色	内面に布目圧痕が残る。	
1836	M区	P3334	弥生土器 壺	20.0	(9.8)	-	明黄褐色 橙色 灰オリーブ色	頸部は直立の後外反。口縁部直下にミガキ風のヘラナデの後、3条1単位の櫛描波状文が不連続に2列。外面口縁部は横方向のナデ、端部に竹管刺突文が単位を持ち施される。	
1837	M区	P3337	須恵器 甕	-	(13.8)	-	灰白色 〃 〃	内面ナデ、外面平行タタキ。	
1838	M区	P3338	土師器 杯	14.8	3.7	8.0	灰黄褐色 にぶい黄橙色 褐灰色	底部は緩やかな凹面状。体部及び口縁部は緩く内湾して立ち上がる。端部は太く丸く収める。内外面とも回転ナデ、内面にロクロ目顕著。底部切り離しは回転糸切り。	
1839	M区	P3338	土師器 杯	-	(2.3)	7.1	浅黄橙色 〃 〃	体部は緩く内湾する。内外面ともナデ、外面はロクロ目顕著。底部切り離しは回転糸切り。	
1840	M区	P3339	瓦器 椀	-	(3.0)	-	灰黄色・黄灰色 灰黄色・オリーブ黒色 灰黄色	口縁部は緩く内湾して立ち上がる。端部は丸く収める。内面ナデの後ミガキ、外面ナデ。	
1841	M区	P3343	瓦質土器 羽釜	25.4	(4.8)	-	オリーブ黒色 灰オリーブ色 〃	口縁部は緩く内湾して立ち上がる。端部は丸味を持った面を成す。鏝は断面隅丸方形状で端部を丸く仕上げる。内外面ともナデ。	
1842	M区	P3361	黒色土器 椀	-	(2.0)	8.8	にぶい橙色 橙色 にぶい橙色	内面に黒色処理。底部端に断面長方形の高台がハの字状に付く。高台量付は丸く太く仕上げる。内面ナデ・ミガキ、外面ナデ。	
1843	M区	P3369	土師器 皿	8.8	1.7	5.8	橙色 〃 〃	小型の皿。口縁部は内湾して延び、端部は丸く収める。内面ナデ。外面回転ナデ、ロクロ目顕著。底部切り離しは回転糸切り、板状の圧痕が残る。	
1844	M区	P3398	須恵器 台付椀	11.8	(4.3)	-	灰色 〃 灰黄色	体部は内湾し、口縁部は直立する。端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
1845	M区	P3407	土師器 高杯	20.0	(3.9)	-	褐色 明黄褐色 浅黄色	杯部は接合部分で屈曲し、口縁部は外反して立ち上がる。端部は丸く収める。内面の一部に煤付着。器面はナデ。	
1846	M区	P3419	石製品 土掘り具か 石包丁	全長 10.3	全幅 4.2	全厚 1.5	-	チャート製。表裏面は自然面と剥離面。両側縁は刃部で鋭く尖る。背部は、一部で狭い面を成す。端部は一方は凸部、他方は破断又は打割による面を成す。重量 60.0g	
1847	南区	P12	須恵器 壺	-	(4.0)	-	灰色 〃 〃	頸部片。緩やかに屈曲する。内外面とも回転ナデ。	
1848	南区	P22	須恵器 椀	-	(1.5)	7.4	灰白色 〃 灰黄色	底部端に断面台形状の高台が付く。内外面ともナデ。見込みロクロ目顕著。	
1849	南区	P28	須恵器 杯	-	(2.3)	5.4	浅黄色 〃 灰白色	底部はやや突出し、体部は直線的に外上方に延びる。内面ナデ、外面回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1850	南区	P31	石材 剥片	全長 7.4	全幅 5.5	全厚 1.7	-	敲打による剥離片。剥離面に褐色の付着物あり。鉄成分か。重量 56.2g	
1851	南区	P34	弥生土器 甕	17.7	(3.5)	-	にぶい黄橙色 〃 灰色	頸部から口縁部片。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は緩く外反する。端部はやや窪んだ面を成す。内面ハケ。外面タタキの後ナデ、一部に煤付着。	
1852	南区	P38	弥生土器 甕	-	(3.1)	-	灰黄褐色 黒褐色 にぶい黄褐色	胴部片。緩く湾曲する。内面ナデ。外面横・斜方向のハケ、煤付着。下川津B類。	
1853	南区	P38	弥生土器 高杯	-	(4.7)	-	褐色 〃 灰色	体部から口縁部は直線的に外上方に延びる。内面丁寧なナデかミガキ。外面ナデ。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1854	南区	P38	弥生土器 高杯	-	(2.7)	13.6	にぶい黄橙色 〃 灰色	脚部は裾部に向かって外反して開き、端部は面を成す。残存部の脚の中位に2カ所の直径約0.7cmの円孔を穿つ。内面ハケの後ナデ、外面ナデ。	
1855	南区	P42	弥生土器 甕	-	(2.1)	6.0	にぶい黄橙色 灰黄褐色 灰色	底部は緩い凸面を成す。内面ナデ。外面タタキ、底部に篋状工具による圧痕が残る。	
1856	南区	P49	土師器 杯	-	(2.8)	6.7	にぶい黄橙色 浅黄褐色 〃	体部は底部端から外反し、外上方に延びる。内外面ともナデ、外面ロクロ目顕著。底部切り離しは不明瞭であるが回転糸切り。	
1857	南区	P51	須恵器 鉢	-	(2.8)	11.0	にぶい橙色 黄灰色 にぶい橙色	平底状の底部。内外面ともナデ、外面底部の中央に砂粒が付着。	
1858	南区	P57	土師器 杯	-	(1.2)	5.9	橙色 〃 浅黄褐色	内外面ともナデ。底部はヘラナデにより粘土紐の痕跡を消す。	
1859	南区	P57	土師器 羽釜	27.4	(4.0)	-	にぶい黄褐色 〃 〃	口縁部は直線的に上方へ延び、端部は緩い凹面状を呈す。口縁下に断面台形状とみられる鋳が取り付く。内外面ともナデ。	
1860	南区	P60	土師器 杯	14.2	4.8	6.9	灰黄色 〃 灰白色	体部は底部端から緩く外上方に延びる。口縁部は短く外反し、端部は太く丸く収める。内外面とも回転ナデ、ロクロ目顕著。底部切り離しは回転糸切り。	
1861	南区	P61	須恵器 杯	-	(1.5)	7.0	灰白色 〃 〃	底部は円盤状を呈す。内外面ともナデ。底部切り離しは静止糸切り。	
1862	G区	包含層	弥生土器 壺	17.8	(19.1)	-	浅黄褐色 にぶい橙色 褐灰色	口縁部は外反する。端部は粘土帯貼付により外側へ肥厚し面を成す。胴部上位に赤色顔料付着。内面ナデ、口縁部の一部にハケ。外面ハケの後ミガキ、口縁部はハケ。	
1863	G区	包含層	弥生土器 壺	14.2	(7.5)	-	橙色 〃 灰黄色	口縁部は外反する。端部は粘土帯貼付により外側に肥厚し端部は面を成す。頸部に篋状文。内面ハケの後ナデ。外面頸部ハケ、口縁部に押圧による刻み目が巡る。	
1864	I区	包含層	弥生土器 壺	-	(6.7)	-	明褐色 にぶい橙色 暗灰黄色	頸部下に列点文が巡る。内面ナデ、胴部にハケが残る。外面ハケの後ナデ。	
1865	G区	包含層	弥生土器 壺	11.1	(2.0) (6.6)	-	浅黄色 〃 黄灰色	口縁部は外反する。口縁部に外側から粘土帯を貼付し肥厚する。内面口縁部横方向のハケ、胴部はミガキを施す。外面口縁部縦方向のハケ、胴部は横・斜方向のハケ。	
1866	H区	包含層	弥生土器 壺	18.5	(2.5)	-	明赤褐色 〃 褐灰色	口縁部外反の後短く上方に延び、口縁部下の内側に稜を有す。口縁部下に篋状工具の端部を用いた刻みまたは開口部(羽状文)が配される。内面丁寧なナデ、外面ミガキ。	
1867	F区	包含層 検出面	弥生土器 壺	22.3	(5.4)	-	浅黄色 にぶい黄褐色 灰色	口縁部は外反し、端部は内傾する面を成す。口縁部に波状の櫛描沈線。内面横・斜方向のハケ、外面縦方向のハケ。	
1868	H区	包含層	弥生土器 壺	-	(5.0)	-	明黄褐色 にぶい黄褐色 明黄褐色	口縁部は緩く外反し、端部は外側に肥厚し、中央の窪んだ面を成す。口縁部に竹管刺突文、口縁部上端に刻み。内面ハケの後横方向のナデ、外面ハケの後ナデ。	
1869	E区	包含層 検出面	弥生土器 壺	-	(5.6)	-	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色 明黄褐色	頸部に4～5条1単位の櫛描波状文を4単位以上施す。頸部は連続して緩く外反する。内面ハケ・ナデ。外面ハケ。	
1870	G区	包含層	弥生土器 壺	13.4	(3.0)	-	橙色 〃 浅黄色	口縁部は外反し、端部は面を成す。口縁部に2条の凹線を施す。内外面ともナデ。	
1871	G区	包含層	弥生土器 壺か	16.2	(3.0)	-	橙色 にぶい橙色 黄灰色	口縁部は外反し大きく開く。端部は面を成し、2条の篋描きによる擬凹線が巡る。内面ミガキ、口縁部は横方向のナデ。外面ヘラナデ、口縁部は横方向のナデ。	
1872	I区	包含層	弥生土器 壺	17.8	(5.9)	-	にぶい橙色 にぶい赤褐色 黄灰色	口縁部は大きく外反する。端部は面を成し、上下に拡張する。口縁部には不明瞭だが3条の凹線が巡る。	
1873	G区	包含層	弥生土器 壺	17.6	(6.3) (18.0)	-	橙色 にぶい橙色 褐灰色	口縁部は直線的に上方へ延び、外反する。端部は直立する面を成し、外側へ肥厚する。内面ナデ、外面ハケの後ナデ。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1874	H区	包含層	弥生土器壺	9.4	(4.9)	—	明赤褐色 〃 橙色	口縁部は緩く外反し、端部で外側にやや肥厚し、丸味を持った面を成す。内面横方向のハケの後ナデ、外面縦方向のハケの後ナデ。	
1875	H区	包含層	弥生土器壺	15.8	(4.3)	—	橙色 にぶい黄橙色 黄灰色	口縁部は外反し、端部は面を成す。内面横方向のハケの後ナデ、外面縦方向のハケの後口縁部部下に横方向のナデ。	
1876	F区	包含層	弥生土器壺	12.0	(5.5)	—	橙色 にぶい黄褐色 黄褐色	小型の壺。胴部は丸みを帯び、頸部から口縁部は短く外反する。口縁部は面を成し、外側へ僅かに肥厚する。内面ナデ・指頭圧痕。外面ハケの後ナデ。	
1877	H区	包含層	弥生土器壺	12.0	(5.5)	—	明赤褐色 橙色 灰色	複合口縁壺。口縁部は外反の後屈折し内上方に延びる。端部は平坦な面を成す。内面細かいハケ、口縁部ナデ、外面細かいハケ、口縁部は横方向の粗いハケの後ナデ。	
1878	G区	包含層	弥生土器鉢か壺	—	(7.7)	4.2	浅黄色 灰黄色 灰色	底部は平底状。底部の端から体部は緩く内湾して立ち上がる。内面ヘラミガキ、外面ハケの後ナデ。	
1879	G区	包含層	弥生土器壺	—	(11.6)	5.9	にぶい褐色 にぶい橙色 褐色	底部は平底状。胴部は下位で緩く外反し、上位に向かって内湾する。胴部最大径は18.4cm。内面ナデ、外面ハケの後ナデか。	
1880	F区	包含層	弥生土器壺	—	(4.0)	10.1	暗灰黄色 にぶい黄橙色 〃	底部は平底状。内面ナデ・指頭圧痕、外面ナデ・ミガキ。	
1881	G区	包含層	弥生土器壺	—	(4.2)	5.1	灰黄褐色 にぶい黄褐色 灰黄褐色	底部は平底で、中央部は窪む。内外面ともナデ。	
1882	G区	包含層	弥生土器壺	—	(4.3)	6.2	明黄褐色 にぶい黄褐色 明黄褐色	底部は平底状。底部端から胴部は直線的に立ち上がる。内面ナデ、外面ハケ。	
1883	F区	包含層	弥生土器壺	—	(4.1)	5.8	黄灰色 浅黄褐色 黄灰色	底部は平底状。内面ナデ・ミガキ、外面荒い単位のハケ・ミガキ。	
1884	G区	包含層	弥生土器壺	—	(3.5)	6.6	にぶい橙色 〃 にぶい褐色	底部は平底状で浅い凹面を成す。内面ナデ、外面ナデ、一部にミガキ。	
1885	G区	包含層	弥生土器壺	—	(3.3)	6.2	黄灰色 にぶい橙色 にぶい橙色・黄灰色	底部は平底状。内面ナデ、外面タタキの後ハケ。	
1886	F区	包含層	弥生土器壺か甕	—	(3.3)	10.6	にぶい黄色 暗灰黄色 浅黄色	平底状の底部片。内面ナデ、指頭圧痕、外面丁寧なナデ。器壁厚い。	
1887	G区	包含層	弥生土器壺	—	(6.0)	6.8	にぶい黄褐色 褐色 にぶい黄褐色	底部は平底状。底部端から緩く屈曲の後胴部は直線的に立ち上がる。内面ナデ、外面タタキの後ハケ。	
1888	F区	包含層	弥生土器壺	—	(3.3)	10.2	にぶい黄褐色 橙色 黄灰色	底部は平底状。内面ナデ、外面ナデ・指頭圧痕。	
1889	G区	包含層	弥生土器甕	22.2	(5.8)	—	橙色 にぶい黄褐色 浅黄褐色	口縁部は外反して延び、端部は内傾する面を成す。頸部に沈線帯か。内外面ハケの後ナデ。	
1890	G区	包含層	弥生土器甕	24.0	(7.0)	—	にぶい黄褐色 〃 明褐色	口縁部は緩く外反し、端部は面を成す。内外面ともナデ。外面口縁部は横方向のナデが顕著。	
1891	G区	包含層	弥生土器甕	—	(9.8)	—	灰黄褐色 〃 にぶい黄褐色	胴部から口縁部は緩く外反する。胴部上位に4条の篋描沈線を配す。内面ハケの後ミガキ、外面頸部に縦方向のハケ。	
1892	G区	包含層	弥生土器甕	—	(5.3)	—	にぶい黄褐色 〃 〃	胴上部に2条の断面三角形の突帯が巡る。上位突帯の上側と下位突帯の直下には押圧痕。両突帯の間はナデ。内面ハケの後ナデ。突帯貼付部に凹凸が残る。外面ハケ。	
1893	M区	包含層	弥生土器甕	17.2	(3.6)	—	明赤褐色 橙色 明赤褐色	口縁部下に4条の篋描沈線が巡る。口縁部はL字状に屈曲し、外側へ短く肥厚する。上面は平らな面を成し、端部は丸味を持つ面に仕上げる。内外面ともナデ。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1894	E区	包含層	弥生土器甕	-	(2.1)	-	にぶい橙色 にぶい黄橙色	口縁部は外反する。端部は丸味を持った凸面を成す。口縁端部に小さな押圧風の刻みを密に施す。内面ハケ、口縁端部横方向のナデ。	
1895	F区	包含層	弥生土器甕	-	(7.0)	-	にぶい橙色 にぶい黄橙色 浅黄橙色	胴部上位に3条の微隆起突帯。外面頭部は縦方向のハケ、胴部中位以下はナデ。	
1896	H区	包含層	弥生土器甕	13.0	(11.0) (15.5)	3.8	にぶい赤褐色 橙色 褐灰色	底部は緩い凸面状。頭部はくの字状。口縁部は短く外反し、端部は外側にやや肥厚する。内面粗いハケの後ナデ、一部に煤付着。外面タタキの後口縁部にハケ、底部にタタキ。	
1897	F区	包含層	弥生土器甕	20.5	(18.3)	-	にぶい黄橙色 にぶい橙色 浅黄橙色	口縁部は短く外反する。内面口縁部は横方向のハケ、胴部は縦方向のヘラケズリ。外面口縁端部は横方向のナデ、頭部から胴部はタタキの後ハケ。	
1898	E区	包含層 検出面	弥生土器甕	14.5	(6.9) (5.1)	5.1	黄灰色 にぶい褐色 黄灰色	底部は平底で緩い凸面状。頭部で屈曲し、口縁部は短く延びる。端部で面を成し外側に肥厚する。内面ナデ、口縁部ハケ。外面口縁部丁寧なナデ、胴部ハケ、底部端ナデ。	
1899	南区	包含層	弥生土器甕	18.2	(5.2)	-	にぶい黄橙色 灰白色	頭部はくの字状に屈曲し、口縁部は緩く外反する。端部は凹面を成し外側へ肥厚する。内面ハケ、外面タタキ。	
1900	G区	包含層	弥生土器甕	15.6	(5.9)	-	にぶい橙色 にぶい褐色 浅黄橙色	頭部はやや急に曲がり、口縁部は短く直線的に立ち上がる。端部は内傾する面を成し、外側にやや肥厚する。	
1901	G区	包含層	弥生土器甕	18.0	(3.0)	-	にぶい橙色 明褐色 にぶい黄褐色	頭部はくの字状に屈曲し、口縁部は短く外反する。端部は平らな面を成し、外側にやや肥厚する。	
1902	H区	包含層	弥生土器甕	11.8	(3.5)	-	にぶい黄褐色 褐色 にぶい褐色	口縁部は内湾する。口縁端部に弱い段が残されている。内面ヘラナデ、外面タタキ。	
1903	H区	包含層	弥生土器甕	-	(5.5)	-	にぶい橙色 にぶい黄褐色 にぶい褐色	胴部上位は緩く内湾する。内面ハケの後ナデ、押圧痕が残る。外面ハケ、一部に煤付着。	
1904	F区	包含層	弥生土器甕	-	(10.4)	6.8	浅黄橙色・褐灰色 にぶい橙色 浅黄橙色	平底状の底部片。底部に簾状の圧痕。内面下から上へのナデ・ヘラケズリ、外面下から上へのナデ・ヘラミガキ。	
1905	H区	包含層	弥生土器甕	-	(4.6)	8.0	黄灰色 浅黄橙色 褐灰色	底部は平底状。胴部は直線的に立ち上がる。内面ケズリの後ナデ、外面丁寧なヘラナデ。	
1906	G区	包含層	弥生土器甕	-	(7.7)	6.5	褐色 明黄褐色 にぶい黄褐色	底部は緩い凹面状を呈す。底部端は押圧によって外反し、胴部は直線的に立ち上がる。内面ナデ、外面ハケの後ナデ。	
1907	H区	包含層	弥生土器甕	-	(7.3)	6.5	にぶい橙色 黒褐色 褐色	底部は平底状で、胴部は緩く内湾して立ち上がる。内面ナデ、小さな凹部が残る。外面ハケ、底部とその周辺に強いナデが施される。	
1908	E区	包含層	弥生土器甕	-	(8.1)	7.2	にぶい橙色 にぶい黄褐色 暗灰黄色	底部は平底状で中央部がやや窪む。胴部は直線的に外上方に延びる。内外面ともナデ。	
1909	G区	包含層	土師器甕	-	(5.9)	-	灰黄褐色 にぶい橙色 灰黄褐色	横断面不整形方形又は方形の把手。	
1910	南区	包含層	庄内式土器甕	15.4	(2.5)	-	黒褐色 灰黄褐色 にぶい黄褐色	頭部の屈曲は急で、口縁部は内湾気味に外上方へ延びる。端部は凹面を成し、短く上方へ延びる。内面ハケ。外面ナデ、煤付着。	
1911	H区	包含層	弥生土器鉢	26.0	(6.9)	-	明赤褐色 暗灰黄色	体部は内湾して立ち上がる。頭部で屈曲し、口縁部は短く直線的に外反する。端部は外側にやや肥厚し、弱い凹面を成す。内外面ナデ。	
1912	南区	包含層	弥生土器鉢	-	(3.7)	-	にぶい黄褐色 浅黄褐色 黄灰色	体部は内湾し、やや外上方に延び、頭部で変換点を持ち、口縁部は再び内湾し上方に延びる。内外面ともナデ。	
1913	H区	包含層	弥生土器鉢	10.0	3.1	2.6	にぶい褐色 明赤褐色 にぶい黄褐色	底部から口縁部は内湾し、端部は細く尖り気味に収める。口縁部に強い押圧による段が形成される。内面ナデ・指頭圧痕。外面指ナデ・指頭圧痕、裂孔がみられる。	

遺物観察表 1914～1933

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1914	H区	包含層	弥生土器 鉢	10.2	2.4	2.0	にぶい黄橙色 浅黄橙色 オリーブ黒色・浅黄橙色	底部から口縁部は内湾して立ち上がる。端部は細く丸く収める。内面ナデ、外面押圧痕を残す。	
1915	H区	包含層	弥生土器 鉢	11.2	5.3	-	にぶい黄橙色 浅黄橙色	底部は丸底状で、やや突出する。底部から口縁部は内湾して立ち上がる。端部は狭い面を成す。内外面ともナデ、内面に弱い凹凸が残る。	
1916	H区	包含層	弥生土器 鉢	11.6	(5.2)	-	明赤褐色 黒褐色	体部から口縁部は内湾して延び、端部は概ね内傾する面を成す。内外面ともナデ。器面に小さな凹凸や裂孔が多く残る。	
1917	H区	包含層	弥生土器 鉢	13.3	(5.3)	-	橙色	口縁部は緩く内湾して立ち上がる。端部は部分的に幅広い面を成す。内面ヘラナデ、外面タタキ。	
1918	H区	包含層	弥生土器 台付鉢	15.4	(2.9)	-	橙色 浅黄橙色	口縁部は緩く内湾し、端部は丸味を持った面を成す。外面口縁端部に沈線状のナデ。内外面ともミガキ。	
1919	南区	包含層	弥生土器 鉢	15.2	(2.0)	-	にぶい黄橙色 浅黄橙色 灰黄色	口縁部は緩く外上方に開く。端部は凹面を成し、外側に肥厚する。内面丁寧なナデ、口縁部横方向のナデ。外面タタキ、体部上位に竹管よる刺突。	
1920	南区	包含層 検出面	弥生土器 鉢	-	(2.6)	-	にぶい黄橙色	底部は丸底ないし小さな丸底で、底部端が部分的に不明瞭。体部は内湾して外上方に立ち上がる。	
1921	M区	包含層	弥生土器 高杯	23.0	(3.0)	-	にぶい黄橙色 橙色 浅黄橙色	杯部で屈曲し、口縁部は上方へ短く延び、外側へ肥厚する。端部は平坦面状。内面ナデ、杯部に粗なハケ目、疎なミガキ。外面杯部ミガキ、口縁端部に3条の凹線が巡る。擬凹線か。	
1922	F区	包含層 検出面	弥生土器 蓋か高杯	-	(6.5)	-	にぶい黄橙色 にぶい橙色	蓋の頂部あるいは高杯の脚部片か。器面は縦方向のナデ。	
1923	H区	包含層	弥生土器 高杯	-	(3.0)	-	にぶい黄橙色 灰色	杯部の底部は内湾する。脚部は緩く外反する。内面杯部はナデ、脚部は絞り目か。外面脚部はハケ。杯の接合部分に押圧痕が残る。	
1924	H区	包含層	弥生土器 高杯	20.0	(3.9)	-	黒褐色・明赤褐色 明赤褐色 橙色	杯部で屈曲し、口縁部は緩く外反して立ち上がる。口縁部下に浅い沈線が1条巡る。端部は面を成す。内面ナデ、外面ミガキか。	
1925	南区	包含層	弥生土器 高杯	20.0	(2.5)	-	橙色	体部は緩く湾曲の後、接合部で屈曲し、口縁部は外反して外上方に延びる。端部は丸く収める。内外面ともナデ。	
1926	F区	包含層	弥生土器 器台か	6.8	3.4	4.9	にぶい黄橙色 明黄褐色	器面に指頭圧痕、内面中央部に爪による圧痕。	
1927	F区	包含層	弥生土器 器台か	-	(4.3)	-	にぶい黄橙色	内面ナデ・指頭圧痕・爪による圧痕が残る。外面と脚部内面はハケ。	
1928	F区	包含層	ミニチュア 土器か	-	(1.0)	2.6	橙色 にぶい赤褐色 灰黄褐色	径の小さな底部片。鉢または甕形か。	
1929	H区	包含層	土製品 支脚	-	16.3	10.0	にぶい黄橙色 黄灰色	大きい角状の支部が2方向に延びるが、片方は欠損。背面には握みを有し、脚部は中空。内面上位ナデ、下位粗いハケ。外面ナデ、工具痕などの細かな凹凸が残る。	
1930	南区	包含層	土製品 支脚	全長 5.1	-	全厚 2.1	にぶい黄橙色 黄灰色	支脚の支部。器面はナデ。	
1931	南区	包含層	土製品 支脚	全長 5.7	-	全厚 3.2	にぶい黄褐色 浅黄橙色	支脚の支部。上位は篋状工具によるナデ、下位は粘土接合痕を留め、押圧痕を残す。	
1932	南区	包含層	土製品 支脚	全長 8.1	-	全厚 2.9	にぶい橙色 橙色	支脚の支部。上位は丁寧なナデ、下位は粘土接合痕を留め、押圧痕を残す。	
1933	F区	包含層	石製品 石包丁	全長 9.8	全幅 4.7	全厚 0.7	-	磨製石包丁。丸味を帯びた側部を有し、ほぼ全面に研磨が施される。紐孔は4穴で、1穴は表面と裏面の位置がずれ、楕円形状を呈す。重量 36.6g	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1934	M区	包含層	石製品 石包丁	全長 7.7	全幅 5.2	全厚 1.0	-	片刃。全体の約半分を欠く。穿孔途中の孔と両側からの穿孔による孔が各1穴。背は細い平坦面状で、裏面には一部に自然面を残す。直背孤刃。重量 49.0g	
1935	F区	包含層	石製品 石包丁	全長 7.9	全幅 5.2	全厚 1.0	-	打製石包丁。一面は自然面、片面は剥離面。両側に抉りを有する。頁岩製。重量 51.0g	
1936	F区	包含層	石製品 石包丁か	全長 8.3	全幅 4.3	全厚 1.1	-	石包丁未製品か。頁岩製。重量 40.0g	
1937	E区	包含層	石製品 石包丁	全長 7.6	全幅 4.7	全厚 1.3	-	打製石包丁。平面形は長方形。表面は概ね自然面で表面は剥離面。細い刃部は直線状で連続的な調整。分厚い背部は緩い弧状。両側縁の抉りは緩やかで大きい。重量 61.0g	
1938	G区	包含層	石製品 石斧	全長 6.5	全幅 2.5	全厚 1.0	-	1/3～1/4程度残存する。片刃。刃部は側刃が丸味を持って仕上げられ、中央は直線的である。基部は断面楕円形又は長方形で、胴張型。蛇紋岩製。重量 15.1g	
1939	E区	包含層	石製品 石斧	全長 11.9	全幅 2.1	全厚 1.6	-	細い棒状の河原石の先端を研ぎ、鑿状工具又は錐状工具として仕上げる。刃部の多くは欠損する。身に打痕が残り、抉りが施される。重量 53.0g	
1940	M区	包含層	石製品 砥石	全長 5.3	全幅 4.3	全厚 3.8	-	3面を砥面として使用。主面には斜方向の比較的長く深い溝状痕。側面には長軸方向に短く浅い線条。他面には方向の異なる短く浅い線条が見られる。重量 80.0g	
1941	M区	包含層	石製品 紡錘車	全長 3.4	全幅 3.1	全厚 0.6	-	中央部に直径 0.8cm程度の円孔。片側からの穿孔によるか。端部は研磨により滑らかな狭い面を成す。表面には滑らかな面が残り、擦痕を残す。裏面は剥離面。重量 9.0g	
1942	E区	包含層 検出面	石製品 管玉	全長 1.1	全幅 0.5	全厚 0.4	-	一方からの穿孔が殆どで貫通している。蛇紋岩製か。孔径 0.2cm。重量 0.3g	
1943	F区	包含層	土師器 皿	7.6	1.2	5.2	橙色 〃 〃	底部から口縁部は直線的に外反し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、底部切り離しは回転糸切り。	
1944	E区	包含層 検出面	土師器 皿	10.6	(1.8)	-	にぶい黄橙色 にぶい橙色 浅黄橙色	体部から口縁部は直線的に短く外反する。端部は太く丸く収める。内面ナデ、外面回転ナデ。	
1945	E区	包含層	土師器 皿	10.2	1.7	6.8	明赤褐色 にぶい赤褐色 橙色	底部はやや凹面状。口縁部は外反し、端部は外側に尖り気味に丸く収める。内面回転ナデ、見込みに僅かなロクロ目。外面回転ナデ・ナデ、底部の粘土紐接合痕を丁寧に消す。	
1946	E区	包含層 検出面	土師器 皿	11.0	2.0	7.5	浅黄色 淡黄色 〃	体部から口縁部は緩やかに外反し、端部はやや広く緩い凸面を成す。内外面とも回転ナデ、ロクロ目顕著。内面煤付着、底部切り離しは回転糸切り。	
1947	F区	包含層	土師器 皿	7.7	1.9	5.8	にぶい橙色 橙色 浅黄橙色	小型の皿。底部から口縁部は外上方に延び、端部は丸く収める。底部切り離しは回転糸切り。	
1948	E区	包含層 検出面	土師器 皿	9.0	1.5	5.5	橙色 〃 浅黄橙色	体部にロクロ目と見られる稜を有す。口縁部は外反し、端部は丸く収める。内面ナデ、外面回転ナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1949	F区	包含層	土師器 杯	-	(1.1)	8.2	にぶい黄橙色 橙色 にぶい黄橙色	外面底部に「十」の墨書。底部切り離しはヘラ切り。	
1950	E区	包含層	土師器 杯	9.0	3.5	6.3	にぶい褐色 〃 灰色	底部は緩い凸面状。口縁部は緩く外反し端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、見込み中央に粘土の盛り上がりを残す。一部に煤付着。外面体部下位にロクロ目、底部はナデ。	
1951	F区	包含層 検出面	土師器 杯	12.0	3.7	6.2	にぶい黄橙色 〃 〃	底部から口縁部は外上方に延び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、ロクロ目顕著。内面底部はナデ、底部切り離しは回転糸切り。	
1952	E区	包含層	土師器 杯	12.2	2.9	8.2	にぶい黄橙色 〃 浅黄色	口縁部は直線的に外上方に開き、端部は太く丸く収める。内外面とも回転ナデ、内面口縁部に煤付着。外面体部ロクロ目顕著、底部に粘土紐痕、篋状工具による圧痕を残す。	
1953	F区	包含層	土師器 杯	14.4	(4.1)	-	浅黄色 にぶい橙色 浅黄色	口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1954	H区	包含層	土師器杯	-	(1.9)	6.4	にぶい橙色 〃 浅黄橙色	体部は底部端から直線的に立ち上がる。内外面とも回転ナデ。見込みにロクロ目を残す。底部切り離しは回転糸切り。	
1955	E区	包含層	土師器杯	11.4	3.6	6.0	橙色 〃 〃	底部中央は凹状を呈す。体部から口縁部は緩く外反し、端部は丸く収め、外側に稜を持つ。内外面とも回転ナデ、底部切り離しは回転糸切り。	
1956	F区	包含層	土師器杯	15.6	3.6	7.0	橙色 〃 にぶい橙色	底部から口縁部は緩やかに外反する。口縁端部はやや肥厚し、回転ナデにより沈線状を呈す。見込みにロクロ目顕著。底部切離しは回転糸切り。	
1957	M区	包含層	土師器杯	-	(1.8)	6.0	にぶい橙色・にぶい黄橙色 にぶい黄橙色 〃	円盤状高台。内外面とも回転ナデ。外面ロクロ目顕著。底部切り離しは回転糸切り。	
1958	F区	包含層 検出面	土師器杯	15.0	4.5	8.2	にぶい黄橙色 浅黄橙色 〃	底部から口縁部は緩やかに外反し、口縁端部は僅かに外側に肥厚する。内外面とも回転ナデ、内面底部はナデ。底部切り離しは回転糸切り。	
1959	南区	包含層	土師器杯	15.2	4.0	6.5	橙色 浅黄橙色 〃	体部は緩やかに外上方に延びる。口縁部は緩く外反し、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、外面体部はロクロ目顕著。底部切り離しは回転糸切り。	
1960	F区	包含層	土師器碗	15.8	(4.1)	-	にぶい橙色 〃 浅黄橙色	底部から口縁部は緩やかに外反し、口縁端部は丸く収める。器壁が厚い。精緻な胎土。	
1961	F区	包含層 検出面	土師器碗	17.5	(4.6)	-	浅黄色 〃 〃	底部から口縁部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。摩耗著しく調整は不明瞭だが、外面に僅かに赤色顔料が残る。	
1962	F区	包含層	土師器碗	15.0	(4.4)	-	にぶい褐色 〃 にぶい黄橙色	底部から口縁部は緩やかに外反し、口縁端部は丸く収める。回転ナデによって外面は稜線状になる。	
1963	南区	包含層 検出面	土師器碗	16.6	6.7	7.6	淡黄色 〃 〃	底部端に断面平行四辺形状の高台。体部は丸く、口縁部は短く外反し、端部は丸く収める。内面ナデ・ミガキ、十字の火罨様の被熱赤変。外面ナデ、高台内に回転糸切りの痕跡。	
1964	E区	包含層	土師器碗	19.3	(2.2)	-	橙色・黒褐色 橙色 〃	口縁部は直線的に外上方に延び、端部は丸く収める。内面横方向のミガキ、一部に煤附着。外面回転ナデ・ミガキ。	
1965	南区	包含層	土師器碗	-	(1.5)	9.4	明赤褐色 〃 浅黄橙色	底部端に断面台形状の高台が付く。内外面ともナデ、内面及び外面畳付より上位に赤色塗料を塗布。	
1966	F区	包含層	土師器碗か	-	(2.8)	10.2	にぶい橙色 橙色 にぶい黄橙色	ハの字状に開く高台が付く。内面丁寧なミガキ、外面回転ナデ。底部切り離しは回転ヘラ切り。	
1967	F区	包含層	土師器碗か	-	(2.9)	8.0	にぶい黄橙色 浅黄橙色 〃	断面長方形のハの字状に開く高台。内面丁寧なミガキ、外面ナデ、指頭圧痕が残る。僅かに赤色顔料が残る。	
1968	F区	包含層	土師器碗か	-	(3.3)	7.0	浅黄色 浅黄橙色 灰色	底部片。高台との境目が肥厚し、見込みは凹む。摩耗が著しく調整不明瞭。底部切り離しは回転糸切り。	
1969	F区	包含層	土師器杯か鉢	31.4	(5.3)	-	淡黄色 〃 〃	口縁端部は内傾する面を成す。内外面とも回転ナデ。	
1970	F区	包含層 検出面	土師器高杯	-	(7.6)	-	灰白色 〃 〃	内外面とも横方向のナデ。内面に縦方向の浅い筋状痕が残る。	
1971	F区	包含層	土師器甕	15.8	(5.5)	-	褐色 にぶい褐色 〃	口縁部は外反する。内外面口縁部は横方向のナデ、内面胴部は縦方向の強いナデ。	
1972	E区	包含層	土師器甕	18.9	(3.7)	-	にぶい橙色 黒褐色 にぶい黄橙色・黄灰色	頭部はくの字状で、口縁部は短く外上方に延びる。端部は丸味を持った面を成す。内面ナデ。外面ナデ、胴部上位はタタキ又は粗い単位のハケの後横方向のナデ。	
1973	F区	包含層 検出面	土師器甕	19.9	(6.2)	-	橙色 明赤褐色 〃	口縁部は短く外反し、端部は内傾する面を成す。頭部はナデにより僅かに凹む。内面胴部中に接合痕が残る。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1974	F区	包含層	土師器甕	-	(4.0)	-	にぶい黄褐色 〃 黒褐色	口縁部はくの字状に外反し、端部は丸く収める。摩耗著しく調整は不明瞭。	
1975	南区	包含層	土師器甕	19.2	(3.8)	-	橙色 〃 黄灰色	口縁部は直線的に上方に延びる。端部は面を成し内外に肥厚する。内外面ともナデ。外面口縁部に低い隆帯が2条巡る。	
1976	F区	包含層	土師器甕	-	(4.5)	-	にぶい橙色 〃 褐灰色	口縁部はくの字状に外反し、端部は丸く収める。摩耗著しく調整は不明瞭。	
1977	南区	包含層	土師器甕	20.3	(5.2)	-	にぶい褐色 〃 褐色 にぶい黄色	頭部で屈曲し、口縁部は緩く内湾気味に外上方に延びる。端部は浅い凹面状を呈す。内面粗い単位のハケの後ナデ、外面タタキ。	
1978	南区	包含層	土師器甕	24.9	(4.1)	-	にぶい褐色 〃 〃	口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は面を成し、上方へ突出する。内外面ともナデ。	
1979	南区	包含層	土師器甕	29.0	(4.3)	-	にぶい橙色 〃 〃	頭部から口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は面を成し、上側に偏りを有す。内面ナデ、外面ナデ・押圧痕。	
1980	南区	包含層	土師器甕	33.4	(3.6)	-	橙色 〃 〃	頭部で屈曲した後、口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は面を成し、外面に1条の沈線が巡る。内外面ともナデ。	
1981	南区	包含層検出面	土師器甕	-	(2.6)	-	にぶい橙色 〃 浅黄橙色	胴部上位は内湾する。内面ナデ、外面タタキの後ハケ。酸化焙焼成の須恵器か。	
1982	F区	包含層	土師器羽釜	28.4	(2.6)	-	にぶい橙色 〃 橙色	口縁端部は中央部が僅かに凹む水平面状を呈す。鈔は口縁部よりやや下に取り付き、端部は外上方にやや尖り気味に仕上げる。	
1983	F区	包含層	土師器羽釜	26.0	(4.3)	-	灰黄褐色 にぶい黄橙色 灰黄褐色	口縁部は内湾し、口縁端部は中央部が僅かに凹む水平面状を呈す。断面四角形の鈔を有し、鈔の下部は肥厚する。	
1984	E区	包含層	土師器羽釜	18.8	(4.4) (8.0)	-	灰黄褐色 暗灰黄色 にぶい褐色	口縁部は緩く内湾し上方に延び、断面長方形の鈔が取り付き。鈔上下及び端部は丁寧なナデ。鈔部下側は面取り。内面ナデ。外面ヘラナデ、胴部はハケ・ナデ。撰津。	
1985	南区	包含層	土師器羽釜	-	(2.7)	-	橙色 〃 〃	鈔部は断面長方形を呈し、端部は面を成す。外面ナデ。	
1986	F区	包含層	土師器羽釜	27.8	(4.5)	-	にぶい黄橙色 〃 橙色	口縁部は内湾し、口縁部横に下部が肥厚する鈔が取り付き。鈔の側面は垂直な平坦面を呈す。	
1987	F区	包含層検出面	土師器羽釜	30.4	(4.6)	-	にぶい橙色 〃 褐灰色	口縁部直下に断面台形状の鈔が取り付き。口縁端部はやや内湾し、丸く収める。	
1988	F区	包含層検出面	土師器羽釜	24.8	(3.3)	-	にぶい褐色 〃 灰黄褐色	口縁端部は内側に拡張し、内傾する面を成す。鈔端部は外上方に延び、外傾する面を成す。	
1989	F区	包含層	土師器羽釜	23.5	(3.7)	-	黄橙色 にぶい褐色 〃	口縁部は内湾し、口縁部横に断面三角形の鈔が取り付き。摩耗著しく調整は不明瞭。	
1990	F区	包含層検出面	土師器羽釜	20.0	(3.5)	-	灰黄褐色 褐灰色 黄灰色	口縁部はやや内湾し、端部は丸く収める。口縁部下に断面三角形の小さい鈔が取り付き。	
1991	I区	包含層	須恵器蓋	13.4	(2.1)	-	灰褐色 〃 〃	天井部は緩く内湾する。口縁端部は丸く収め、下方に肥厚する。内面回転ナデ、外面ナデ。やや酸化、胎土に白色粒を含む。	
1992	F区	包含層検出面	須恵器蓋	-	(1.5)	-	灰黄色 灰白色 〃	外面天井部に薄い輪状の粘土が付着する。摩耗著しく調整は不明瞭。	
1993	F区	包含層検出面	須恵器蓋	15.6	(3.0)	-	灰白色 〃 〃	天井部は肥厚し、外面に扁平な摘みを有する。断面三角形の小さなかえりが付く。	

番号	調査区	遺構層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1994	M区	包含層	須恵器 蓋	16.0	(1.9)	—	灰白色 〃 〃	天井部から口縁部は緩く内湾する。口縁部は屈曲して短く下方に向かい、端部は丸く収める。内面ケズリの後ナデ、外面ナデ。胎土中に小規模な円孔が見られる。	
1995	E区	包含層 検出面	須恵器 杯	13.6	(2.8)	—	黄灰色 灰色 〃	体部は内湾し、口縁部は緩く外反した後外上方に延びる。端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ、内面の一部に煤附着。胎土中に小規模な円・裂孔が存在する。	
1996	G区	包含層	須恵器 杯	15.6	3.6	12.0	灰色 〃 〃	平底の底部から、口縁部は直線的に延び、端部は丸く収める。小規模な円・裂孔が多い。内外面とも回転ナデ。	
1997	南区	包含層	須恵器 杯	—	(1.2)	11.2	灰白色 灰色 灰黄色	底部端に断面台形状の高台が付き、高台端部は内外側へ肥厚する。内外面ともナデ、内面は滑らかな面を成す。	
1998	H区	包含層	須恵器 杯	—	(2.5)	8.2	灰褐色 褐灰色 暗灰黄色	底部端に断面方形の高台がハの字状に付く。体部は底部端の屈曲から直線的に立ち上がる。内外面ともナデ。	
1999	南区	包含層	須恵器 杯	—	(2.2)	6.2	黄灰色 灰黄色 灰黄色	底部は円盤状に突出し、体部は内湾して外上方に延びる。内外面とも回転ナデ、一部に煤附着。底部切り離しは回転糸切り。	
2000	H区	包含層	須恵器 杯	—	(0.8)	—	黄灰色 〃 〃	杯または杯の底部を用いた顔料の精製容器か。母材の擦り潰しに使用したものか。内面研面、赤色顔料が附着する。外面高台の接合痕が残る。高台内にケズリ。	
2001	南区	包含層	須恵器 椀	—	(1.3)	8.8	灰黄褐色 にぶい橙色 黄灰色	底部端に断面台形状の高台がハの字状に付く。内外面ともナデ。	
2002	F区	包含層	須恵器 椀	—	(2.0)	5.4	にぶい黄褐色 〃 〃	円盤状高台の底部片。底部切り離しは回転糸切り。精緻な胎土。	
2003	I区	包含層	須恵器 鉢	21.8	(2.3)	—	灰色 〃 〃	口縁部は直線的に外上方に延び、上方へ短く立ち上がる。端部は肥厚し、太く丸く収める。内外面ともナデ。胎土中に小規模な円・裂孔あり。	
2004	M区	包含層	須恵器 鉢	—	(2.3)	—	灰色 オリーブ黒色 灰色	口縁端部は上方へ肥厚し、緩い凸面を成す。内外面ともナデ。東播系須恵器。	
2005	G区	包含層	須恵器 盤または鉢	—	(3.0)	14.0	灰白色 黄灰色 灰黄色	広い平底の底部端から体部は直線的に立ち上がる。内面ナデ、外面ケズリ。胎土中に小規模な円孔が多く、僅かに裂孔もみられる。	
2006	H区	包含層	須恵器 壺または甕	21.0	(4.4)	—	灰白色 灰黄色 灰白色	口縁部は緩く外反する。端部はやや膨らんだ面を成す。内外面とも回転ナデ。胎土中に小規模な円孔が存在する。	
2007	G区	包含層	須恵器 壺	20.2	(5.4)	—	灰黄褐色 〃 にぶい褐色	口縁部は緩く外反する。端部は浅い凹面を成し、上方へ僅かに肥厚する。断面に小規模な円孔、中裂孔。内面回転ナデ、部分的に自然釉。外面ナデ、篋状工具の圧痕。	
2008	F区	包含層	須恵器 壺	18.6	(5.1)	—	灰白色 黄灰色 灰白色	口縁部片。口縁端部は外傾する面を成し、外上方に尖り気味に仕上げる。内面ナデ。外面口縁部は横方向の回転ナデ、肩部はタタキ。	
2009	H区	包含層	須恵器 壺	—	(2.5)	14.6	灰黄色 灰白色 〃	底部端に断面台形状の高台がハの字状に付く。内外面ともナデ。外面高台の一部に自然釉が附着。胎土中に小規模な円・裂孔が存在する。	
2010	M区	包含層	須恵器 台付壺	—	(3.9)	8.4	灰白色 〃 〃	台部は短く外反する。端部は下方に肥厚し、丸味を持った面を成す。内面底部はナデ、台部はケズリの後ナデ。外面ナデ。	
2011	南区	包含層 検出面	須恵器 壺か埴瓶	—	(3.3)	13.8	暗灰黄色 灰黄色 〃	底部は緩い凸面状を呈す。胴部は緩く外上方に延びる。内外面とも回転ナデ、外面底部及び体部下位にハケ。	
2012	H区	包含層	須恵器 瓶	—	(2.5)	7.2	灰黄色 黄灰色 にぶい黄褐色	内面横方向の不統一で粗いナデ。外面ケズリの後ナデか。平底の底部には篋状工具または植物の茎のような圧痕が残る。	
2013	I区	包含層	須恵器 甕	—	(5.5)	—	黄灰色 オリーブ黒色 黄灰色	口縁部は外反する。端部は上下に肥厚し、凹面状を呈す。内外面とも回転ナデ。胎土中に小円孔を有し、白色粒を多く含む。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
2014	I 区	包含層	須恵器 甕	-	(2.9)	14.6	灰オリーブ色 灰黄色 〃	平底の底部で、底面は歪む。底部端で短く外反し、胴部は内湾する。内外面ともナデ。外面底部に一筋の圧痕。	
2015	I 区	包含層	須恵器 転用硯	全長 7.0	全幅 4.4	全厚 1.8	灰白色 〃 にぶい黄橙色	甕の胴部片。内面は同心円文で、硯として転用し滑らかな面を成す。外面タタキ・カキ目か。	
2016	G 区	包含層	緑釉陶器 皿	12.6	(1.7)	-	オリーブ灰色 灰白色 〃	内外面とも緑釉が施される。口縁部は直線的に伸び、端部は丸く収める。内外面とも回転ナデ。	
2017	F 区	包含層	緑釉陶器 碗	-	(1.3)	-	浅黄橙色 〃 〃	摩耗著しいが、内外面に部分的に釉薬が残る。	
2018	F 区	包含層	黒色土器 碗	15.0	(4.1)	-	にぶい黄橙色 黄橙色 にぶい黄橙色	内外面とも黒色処理。体部は内湾気味に伸び、口縁部は外反する。内面は摩耗著しく調整は不明瞭。外面はナデ、指頭圧痕、一部にミガキ。	
2019	H 区	包含層	黒色土器 碗	-	(3.0)	6.8	暗灰色 にぶい黄橙色 灰オリーブ色	内面に黒色処理が施される。底部端に高く太い高台がハの字状に付く。底部から体部は内湾する。内面ミガキ。外面ナデ、部分的に煤附着。	
2020	G 区	包含層	黒色土器 碗	-	(1.3)	6.5	灰色 〃 浅黄色	内外面とも黒色処理が施される。底部には断面不整形の高台がハの字状に付く。内面ミガキ、外面ナデ。	
2021	H 区	包含層	黒色土器 碗	-	(1.4)	7.4	黒褐色 橙色 浅黄橙色	内面に黒色処理が施される。底部端に細い高台がハの字状に付く。底部から体部は内湾して立ち上がる。内面ミガキ、外面ナデ。	
2022	M 区	包含層	瓦器 碗	-	(1.5)	4.6	灰色 〃 灰黄色	底部端に断面逆台形状の高台が付く。底部から体部は緩く内湾する。内面ミガキ、外面凹凸面を残す。高台の接合部に横方向のナデが顕著。	
2023	南区	包含層	瓦器 碗	-	(3.0)	-	暗灰色 灰色 灰白色	体部は緩やかに湾曲する。内面ナデ、外面押圧痕が残る。	
2024	F 区	包含層	瓦質土器 羽釜	22.0	(2.5)	-	にぶい黄色 にぶい黄色・黒褐色 灰色	口縁部下に断面三角形の小さい鑊が取り付く。鑊の下面に煤附着。	13c 後～ 14c 初
2025	H 区	包含層	瓦質土器 羽釜	-	(4.8)	-	灰黄色 灰色 灰黄色	口縁部に断面三角形を呈する鑊が取り付く。胴部は内湾する。内外面ともナデ。	
2026	南区	包含層	瓦質土器 羽釜	-	(4.1)	-	灰オリーブ色 灰色 〃	体部から口縁部は内湾し、体部上位に断面台形状の鑊が取り付く。内外面ともナデ。外面はやや浅い凹凸面を保ち、鑊の接合部は上側はナデ、下側は概ね凹凸面が残る。	
2027	F 区	包含層	瓦質土器 羽釜	21.6	(7.9)	-	灰色 〃 灰黄色	口縁部下に断面三角形の短い鑊が取り付く。外面鑊の下部及び胴部の一部にタール附着。	14c 前
2028	F 区	包含層	瓦質土器 羽釜	-	(4.3)	-	灰色 〃 灰白色	口縁部下に断面三角形の小さな鑊が取り付く。	
2029	F 区	包含層	瓦質土器 羽釜	-	(11.5)	-	浅黄色 灰色 〃	羽釜の脚部片。	13c 後～ 14c
2030	F 区	包含層	瓦質土器 羽釜	-	(9.1)	-	灰色 〃 灰白色	羽釜の脚部片。	
2031	F 区	包含層	瓦質土器 羽釜	-	(9.0)	-	灰色 〃 灰白色	羽釜の脚部片。	
2032	F 区	包含層	青磁 碗	14.4	(3.3)	-	灰オリーブ色 〃 灰白色	外面に鎚蓮弁文。蓮弁中央の稜はやや不明瞭。龍泉窯系碗。	
2033	F 区	包含層	青磁 碗	15.6	(3.9)	-	オリーブ灰色 〃 灰白色	外面に鎚蓮弁文。蓮弁中央の稜は明瞭。龍泉窯系碗。	

番号	調査区	遺構層位	器種器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
2034	F区	包含層	青磁碗	-	(3.3)	-	灰オリーブ色 〃 灰白色	外面に鎬蓮弁文。蓮弁中央の稜は不明瞭。龍泉窯系。	
2035	F区	包含層	青磁碗	-	(3.8)	-	オリーブ灰色 〃 灰白色	外面に鎬蓮弁文。蓮弁中央の稜は明瞭。見込みに2条の界線が巡る。龍泉窯系。	
2036	H区	表採	青磁碗	-	(3.1)	-	灰オリーブ色 〃 灰白色	体部は直線的に延び、口縁部は緩く外反する。同安窯。	
2037	E区	包含層	青磁碗	-	(2.6)	-	オリーブ灰色 〃 灰色	口縁部は緩く外反し、端部は尖り気味に丸く収める。内外面とも青磁釉が施される。外面に鎬蓮弁文。	
2038	M区	包含層	青磁碗	-	(2.3)	-	オリーブ黄色 灰オリーブ色 灰白色	外面に鎬蓮弁文。龍泉窯。	
2039	E区	包含層 検出面	青磁碗	-	(3.2)	-	灰オリーブ色 〃 灰白色	外面に鎬蓮弁文。内外面とも青磁釉が施される。龍泉窯。	
2040	南区	包含層	白磁碗	15.0	(1.9)	-	灰白色 〃 〃	口縁部は外上方に延び、端部は外側に大きく肥厚し玉縁状を呈す。内外面とも施釉。	
2041	E区	包含層	白磁碗	-	(2.1)	6.4	灰白色 〃 〃	厚い底部から削り出しによる高台は断面台形状を呈し底部端に腰折状の屈曲部を持つ。内面底部と体部の境界に段を有する。外面ケズリ、高台内は後にナデ。	
2042	E区	包含層	白磁碗	17.0	(5.5)	-	灰白色 〃 〃	体部は緩く内湾し口縁部は直線的に外上方に延びる。端部は丸味を持ち、外側に僅かに肥厚する。内外面ともナデ。外面体部下位にケズリ。	
2043	M区	包含層	陶器壺	-	(5.3)	-	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色 〃	胴部上位に断面三角形の突帯が巡る。接合痕は明瞭で、突帯の下半には強いナデが施される。内外面ともナデ。胎土中に白色粒・赤色チャートを含む。	
2044	M区	包含層	陶器壺	-	(4.3)	14.0	灰黄色 〃 にぶい黄色	底部は平底状。胴部は緩く内湾して立ち上がる。内面ナデ、ロクロ目顕著。外面ヘラケズリの後ナデ。	
2045	南区	包含層	陶器壺	-	(5.8)	9.1	灰色 黄灰色 〃	底部は緩い凸面状を呈し、胴部は直線的に外上方に延びる。内外面ともナデ。内面ロクロ目顕著、外面底部に粘土が溶着する。	
2046	F区	包含層 検出面	陶磁器碗	-	(3.1)	-	灰白色 〃 〃	外面に文様が施される。胎土は陶器質。陶胎染付か。	
2047	F区	包含層 検出面	炆器 不明	-	(8.1)	-	黄灰色 褐灰色 灰褐色	外面上位と下位にそれぞれ2条の沈線、沈線間に櫛描波状文。	
2048	南区	包含層	製塩土器	-	(3.8)	-	橙色 〃 〃	体部は緩く湾曲し上方に延びる。内面布目圧痕、外面ナデ。	
2049	南区	包含層	製塩土器	-	(2.5)	-	にぶい黄橙色 浅黄色 灰白色	口縁部は緩く内湾し上方に延び、端部は丸く収める。内面布目圧痕、外面ナデ。	
2050	H区	包含層	製塩土器	-	(1.7)	-	橙色 〃 〃	内面に布目圧痕を残す。	
2051	E区	包含層	平瓦	全長 5.0	全幅 4.0	全厚 1.7	橙色 〃 〃	凹面に布目圧痕、凸面ナデ。	
2052	E区	包含層	平瓦	全長 5.8	全幅 3.7	全厚 2.1	橙色 にぶい橙色 橙色	凹面に粗い格子状の布目圧痕、凸面ナデ。	
2053	E区	包含層	平瓦	全長 8.1	全幅 5.3	全厚 2.2	橙色 にぶい黄橙色 橙色	凹面に粗い格子状の布目圧痕、凸面ナデ。	

番号	調査区	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)			色調 内面・外面・断面	特徴	備考
				口径	器高	底径			
2054	G区	包含層	丸瓦	全長 7.6	全幅 5.6	全厚 2.0	にぶい橙色 にぶい黄橙色 橙色	凹面に布目圧痕を残す。一部に煤付着。	
2055	M区	包含層	平瓦	全長 5.7	全幅 3.4	全厚 3.3	橙色 〃 浅黄橙色	凹面に布目圧痕、凸面に斜格子状のタタキ目が残る。胎土中に小規模な円孔が見られる。焼成はやや不良。	
2056	F区	包含層	平瓦	全長 6.8	全幅 5.2	全厚 1.9	灰白色 〃 〃	凹面に僅かに布目圧痕、凸面に縄目状のタタキ目が残る。摩耗が著しく調整は不明瞭。	
2057	I区	包含層	平瓦	全長 10.0	全幅 7.3	全厚 2.3	浅黄色 灰色 淡黄色	凹面に布目圧痕、凸面に格子状のタタキ目。瓦質。	
2058	南区	包含層	土製品 土錘	全長 5.8	全幅 3.4	全厚 3.0	橙色 にぶい黄橙色 浅黄橙色	約1/3を欠く。平面形は端部を浅く抉った隅丸方形状を呈す。側面形は楕円形状。中央部分は長軸方向に深い溝を刻む。	
2059	F区	包含層	土製品 土錘	全長 3.7	全幅 1.5	全厚 1.4	- にぶい橙色 -	管状土錘。孔径0.3cm。	
2060	G区	包含層	土製品 土錘	全長 3.9	全幅 1.5	全厚 1.4	- 橙色 -	管状土錘。中央部に直径0.5cmの円孔が貫通する。	
2061	南区	包含層	土製品 土錘	全長 4.1	全幅 1.6	全厚 1.6	- 浅黄橙色 -	小型の管状土錘で、小円筒形を呈す。直径約0.6cmの円孔を穿つ。	
2062	G区	包含層	鉄製品 馬具か	全長 4.8	全幅 2.9	全厚 0.7	-	鉄芯の本体は上下で各々90度に曲がる。半円形の環を作り出すために別の鉄芯が本体に絡むか。重量11.0g	
2063	G区	包含層	鉄製品 刀子か	全長 5.4	全幅 2.2	全厚 0.8	-	刀子の一部か。刀身部から峰又は刀身部から闊（片闊、撫角）。背部は直線的で、刃部は湾曲し、幅を狭くする。重量16.0g	
2064	南区	包含層	鉄製品 不明	全長 5.2	全幅 2.6	全厚 1.2	-	磁性を有す。断面蒲針形を呈し、側端は一方が太く丸みを持ち、他方は細く、開き気味となる。重量16.4g	
2065	F区	包含層	鉄製品 釘	全長 4.2	全幅 1.4	全厚 0.7	-	角釘。重量5.0g	
2066	G区	包含層	鉄製品 釘	全長 5.5	全幅 1.6	全厚 0.5	-	頭部は直角に曲がる。芯部は直線的で端部を欠く。重量4.0g	
2067	F区	包含層	鉄製品 釘	全長 7.4	全幅 2.7	全厚 0.5	-	角釘。重量12.0g	
2068	G区	包含層	鉄製品 釘	全長 8.2	全幅 2.3	全厚 1.0	-	頭部が緩く曲がり、芯部でくの字状に屈曲する。又他の鉄製品が掘じれながら螺旋状に絡んでいるようにも見受けられる。重量16.0g	
2069	G区	包含層	鉄製品 釘	全長 4.1	全幅 0.9	全厚 0.9	-	芯部は直線的で端部で徐々に幅を狭くする。先端部は欠くか。重量5.0g	
2070	F区	包含層	鉄滓	全長 6.5	全幅 5.6	全厚 3.1	-	重量104.0g	

写真図版



A 区北部調査前風景(西より)



北区調査前風景(南西より)



南区調査前風景(北西より)



H・I 区調査前風景(西より)



A・B・K区遺構完掘状態(南より)



A・J区北部遺構完掘状態(西より)



G区遺構完掘状態(西より)



J区中部遺構完掘状態(西より)1



J区中部遺構完掘状態(西より)2



M区遺構完掘状態(東より)



M区遺構完掘状態(西より)



北区遺構完掘状態(西より)



南区遺構完掘状態(西より)



ST1001 完掘状態(西より)



ST1001・1002バンクセクション(南より)



ST1001 検出状態(西より)



ST1001 バンクセクション(北西より)



ST1001 弥生土器甕(1433) 出土状態



ST1001 弥生土器高杯(1457) 出土状態



ST1001 石包丁(1461) 出土状態



ST1001 完掘状態(北より)



ST1002 石包丁(1474) 出土状態(東より)



ST1002 石包丁(1474) 出土状態



ST2001 完掘状態(北より)



ST2001 カマド検出状態(南より)



ST2002完掘状態(西より)



ST2002バンクセクション(東より)



ST2002カマド完掘状態(南東より)



ST2002カマド検出状態(南より)



ST2002カマド遺物出土状態



SD2003完掘状態(北西より)



ST2003・2004完掘状態(南西より)



ST2003・2004検出状態(東より)



ST2003トレンチセクション(北より)



ST2003礫出土状態(東より)



ST2003土師器甕(113)出土状態



ST2003カマド検出状態(南より)



ST2003カマド完掘状態(南より)



ST2003カマド遺物出土状態(1回目) (南より)



ST2003カマド弥生土器甕(106)出土状態



ST2003カマド遺物出土状態(2回目) (南より)



ST2003カマド弥生土器甕(104・106)・須恵器杯身(126)



ST2003カマド遺物出土状態(3回目) (南より)



ST2003カマド須恵器杯身(125)出土状態



ST2004完掘状態(西より)



ST2005検出状態(西より)



ST2005遺物出土状態(西より)



ST2005完掘状態(西より)



ST2006完掘状態(北より)



ST2006鉄製品鉄剣(161)出土状態



ST2007検出状態(南より)



ST2007完掘状態(西より)



ST2008 完掘状態(南より)



ST2008 完掘状態(北より)



ST2008 遺物出土状態



ST2008 弥生土器甕(180)出土状態



ST2008 弥生土器壺(179)・甕(182)出土状態(南より)



ST2008 弥生土器壺(179)・甕(182)出土状態



ST2008 弥生土器甕(181・184)出土状態



ST2008 弥生土器鉢(199)出土状態



ST2008 SK2 遺物出土状態(南西より)



ST2008 SK2 遺物出土状態(南より)



ST2010 上面土器集中遺物出土状態(1回目) (東より)



ST2010 上面土器集中遺物出土状態(1回目) (南より)



ST2010 上面土器集中遺物出土状態(1回目) (西より)



ST2010 上面土器集中支脚(298)出土状態



ST2010 上面土器集中遺物出土状態(2回目) (南より) 1



ST2010 上面土器集中遺物出土状態(2回目) (南より) 2



ST2010 上面土器集中遺物出土状態(3回目) (南より)



ST2010 上面土器集中支脚(301)出土状態(南より)



ST2009・2010完掘状態(西より)



ST2009・2010バンクセクション(東より)



ST2009・2010 検出状態(東より)



ST2009 バンクセクション(東より)



ST2009 土製品土錘(253) 出土状態



ST2009 完掘状態(東より)



ST2010 バンクセクション(西より)



ST2010 南半磔・遺物出土状態(西より)



ST2010 弥生土器甕(325) 出土状態



ST2010 弥生土器甕(325・332) 出土状態



ST2012床面遺物出土状態(東より)



ST2012上面遺構検出状態(北西より)



ST2012遺物出土状態(1回目) (北西より)



ST2012遺物出土状態(2回目) (北西より)



ST2012遺物出土状態(3回目) (北西より)



ST2012 弥生土器壺(397) 出土状態



ST2012 遺物出土状態(1回目)



ST2012 弥生土器鉢(457) 出土状態



ST2012 中央ピット遺物出土状態(北より)



ST2012 西半遺物出土状態(2回目) (南より)



ST2012 東半遺物出土状態(2回目) (南より)



ST2012 SK2 完掘状態(北より)



ST2012 SK3 完掘状態(東より)



ST2015完屈状態(南より)



ST2015バンクセクション(東より)



ST2015カマドセクション(南より)



ST2015カマド遺物出土状態(北東より)



ST2015カマド遺物出土状態(北より)



ST2015カマド須恵器杯(513)出土状態



ST2015カマド弥生土器高杯(507)出土状態



ST2015カマド完掘状態(南東より)



ST2013完掘状態(東より)



ST2013 P1 ミニチュア土器(496)出土状態



ST2016・2017・2021 完掘状態(北東より)



ST2016 上面遺構完掘状態(西より)



ST2016 上面 P1 礫出土状態(北より)



ST2016 上面 P2 完掘状態(北より)



ST2016 上面 P3 礫出土状態(北より)



ST2016・2017 遺物出土状態(南東より)



ST2016・2017 バンクセクション(西より)



ST2017 弥生土器甕(542・543) 出土状態



ST2021 床面検出状態(南より)



ST2021 完掘状態(南東より)



ST2018・2019 検出状態(東より)



ST2018・2019 完掘状態(西より)



ST2018完掘状態(北東より)



ST2018 弥生土器高杯(573)出土状態



ST2018 石包丁(575)出土状態



ST2019 遺物出土状態(南西より)



ST2019 弥生土器鉢(589)出土状態



ST2019 セクション(南西より)



ST2019 P2 弥生土器鉢(590)出土状態



ST2019 P3 弥生土器壺(577)出土状態



ST2020 検出状態(北より)



ST2020 バンクセクション(北より)



ST2020 完掘状態(北より)



ST2020 カマド検出状態(南より)



ST2020 カマド完掘状態(北より)



ST2020 カマド鉄製品(608)出土状態(北より)



ST2020 カマド鉄製品(608)出土状態



ST2022 遺物出土状態(南より)



ST2022 炭化物検出・石包丁(1488)出土状態(西より)



ST2022 石包丁(1488)出土状態



ST2022 弥生土器壺(1476)出土状態



ST2022 遺物出土状態(北西より)



ST2022 中央ピットセクション(北より)



ST2022 弥生土器鉢(1480)出土状態



ST2022 碟出土状態



ST2022 壁溝検出状態(北東より)



ST2023完掘状態(北西より)



ST2023・2024検出状態(西より)



ST2023バンクセクション(南より)



ST2023カマドセクション(南東より)



ST2023カマド土師器甕(1493)出土状態



ST2024完掘状態(東より)



ST2024カマド検出状態(東より)



ST2024カマド遺物出土状態



ST2024カマド土師器甕(1500)出土状態



ST2024須恵器杯蓋(1505)出土状態



ST2025 完掘状態(南東より)



ST2026 完掘状態(南西より)



ST2027 完掘状態(南東より)



ST2028 完掘状態(東より)



ST3001 弥生土器甕(616) 出土状態



北区 ST1 完掘状態(北より)



北区 ST1 セクション(北東より)



北区 ST1 弥生土器壺(618)出土状態



北区 ST1 SK1 完掘状態



北区 ST1 SK2 完掘状態



北区 ST2完掘状態(北より)



北区 ST2検出状態(北より)



北区 ST2ピット完掘状態(南より)



北区 ST2弥生土器甕(669)出土状態(南西より)



北区 ST2弥生土器甕(669)出土状態



南区 ST1 完掘状態(北東より)



南区 ST1 遺物出土状態(北東より)



南区 ST1 弥生土器鉢(1511・1512)出土状態(南より)



南区 ST1 弥生土器鉢(1511)出土状態



南区 ST1 弥生土器鉢(1512)出土状態



SB1 完掘状態(南東より)



SD2051 完掘状態(北西より) SD2052 完掘状態(南東より)



P3268 弥生土器壺(687) 出土状態(南西より)



SK2011 弥生土器甕(683) 出土状態(北より)



SK2011 弥生土器甕(683) 出土状態



C区SK1鉄製品鋤先(731)出土状態(南西より)



C区SK1鉄製品鋤先(731)出土状態(西より)



F区SK1礫出土状態(西より)



F区SK1完掘状態(西より)



F区SK2礫出土状態(西より)



F区SK2土製品(1562)出土状態



F区SK2完掘状態(西より)



F区SK3完掘状態(北西より)



F区SK1・2・3完掘状態(東より)



G区SK1弥生土器甕(1544)出土状態(北より)



G区SK1弥生土器甕(1544)出土状態



G区SK1完掘状態(南西より)



G区SK3弥生土器壺(1570)出土状態(西より)



G区SK3弥生土器壺(1570)出土状態



G区SK3完掘状態(南より)



G区SK4完掘状態(北東より)



G区SK5完掘状態(西より)



M区SK1床面検出状態(南より)



SK1003遺物出土状態(西より)



SK1003完掘状態(南より)



SK2009完掘状態(北東より)



SK2014遺物出土状態(1回目)(南東より)



SK2014遺物出土状態(1回目)



SK2014遺物出土状態(2回目)



SK2015 検出状態(西より)



SK2015 土師器碗(753) 出土状態(南より)



SK2015 土師器碗(753) 出土状態



SK2029 礫出土状態(北より)



SK2052 遺物出土状態(南より)



SK2062 弥生土器鉢(766) 出土状態(東より)



SK2062 弥生土器鉢(766) 出土状態



SK2063 セクション(北より)



SK2063 弥生土器高杯(866) 出土状態



SK2072 礫出土状態(東より)



SK2074 礫出土状態(北東より)



SK2081 遺物出土状態(南より)



SK2081 弥生土器壺(770・772) 出土状態(東より)



SK2081 弥生土器壺(770) 出土状態



SK2081 弥生土器壺(772) 出土状態



SK2090・2091完掘状態(北西より)



SK2090検出状態(北より)



SK2090土師器甕(780)出土状態



SK2090周辺遺構完掘状態(西より)



SK2090完掘状態(北より)



SK2092(SK2087)遺物出土状態(1回目) (南西より)



SK2092(SK2087)弥生土器壺(1584)出土状態



SK2092(SK2087)弥生土器甕(1587)出土状態



SK2092(SK2087)石製品(1599・1600・1601)出土状態



SK2092(SK2087)遺物出土状態(1回目)



SK2092(SK2087)遺物出土状態(2回目)



SK2094 遺物出土状態(西より)



SK2094 土師器杯(1603)出土状態



SK2097 検出状態(南より)



SK2097 セクション(北西より)



SK2097 完掘状態(南より)



SK2098 遺物出土状態(東より)



SK2098 弥生土器壺(1609)出土状態



SK2098 弥生土器壺(1610)出土状態



SK2098 完掘状態(西より)



SK2099 弥生土器壺(1622)出土状態(東より)



SK2147 弥生土器甕(788)出土状態(北より)



SK2153 土師器椀(881)出土状態



SK2155 弥生土器甕(883)出土状態(西より)



SK2155 弥生土器甕(883)出土状態



SK2159 完掘状態(西より)



SK3001 完掘状態(北より)



SK3002 礫出土状態(北より)



SK3002 完掘状態(北より)



北区 SK3 完掘状態(南より)



北区 SK3 完掘状態(北より)



北区 SK4 完掘状態(北より)



北区 SK6 完掘状態(南より)



北区 SK7 完掘状態(南より)



I区完掘状態(南より)



集石遺構1セクション(南より)



集石遺構1完掘状態(南より)



I区SD1～3・5・集石遺構1検出状態(北より)



SD2057・2058完掘状態(南東より)



南区 SD5 ～ 7 完掘状態(南より)



南区 SD5 ～ 7 検出状態(西より)



南区 SD5 ～ 7 磔出土状態(西より)



南区 SD6 ・ 7 磔出土状態(北より)



南区 SD1 ・ 2 完掘状態(東より)



P2001 弥生土器壺(926) 出土状態(北西より)



P2037 土師器杯(930) 出土状態(北西より)



P2075 弥生土器甕(936) 出土状態



P2209 礫出土状態(北より)



P2404 弥生土器壺(1002) 出土状態(東より)



P2455 礫出土状態(南より)



P2453 礫出土状態(南より)



P2453 須恵器壺(1023) 出土状態



P2518 土師器皿(1700) 出土状態(北より)



P2518 土師器皿(1700) 出土状態



P2613 土師器皿(1721) 出土状態(北より)



P2613 土師器皿(1721) 出土状態



P2650 銭貨(1738) 出土状態(北東より)



P2650 銭貨(1738) 出土状態



P2672 礫 出土状態(北西より)



P2758 土師器杯(1781) 出土状態



P2803 石包丁(1794)出土状態(西より)



P2803 石包丁(1794)出土状態



P2982 土師器碗(1828)出土状態(西より)



P2982 土師器碗(1828)出土状態



P3293 土師器碗(1084)出土状態(南より)



P3293 土師器碗(1084)出土状態



P3181 弥生土器甕(1053)出土状態(南西より)



P3334 弥生土器壺(1836)出土状態(南西より)



北区 P1 ~ 5 検出状態(北より)



北区 P1 ~ 5 完掘状態(北より)



北区 P2 土師器杯(1088) 出土状態



北区 P3・4 遺物出土状態(西より)



北区 P5 土師器杯(1093) 出土状態



北区 P7・10 完掘状態(東より)



北区 P11 遺物出土状態(北より)



北区 P44 土師器皿(1102・1103)出土状態(東より)



北区 P44 土師器皿(1102・1103)出土状態



南区 P60 土師器杯(1860)出土状態(南西より)



南区 P60 土師器杯(1860)出土状態



SX1 遺物出土状態(南東より)



SX1 遺物出土状態(北より)



SX1 弥生土器壺(1114)出土状態



A 区包含層土師器皿(1217)出土状態



A 区包含層土師器杯(1234)出土状態



A 区包含層土師器杯(1237)出土状態



A 区包含層土師器甕(1274)出土状態



D 区包含層弥生土器鉢(1171)出土状態



D 区包含層砥石(1208)出土状態



D区包含層鉄製品轡(銜) (1410)出土状態



F区包含層石包丁(1933)出土状態



南区包含層弥生土器鉢(1920)・土師器椀(1963)出土状態



南区包含層弥生土器鉢(1920)出土状態



南区包含層土師器杯(1959)出土状態



南区包含層土師器椀(1963)出土状態



G区作業風景(北東より)



K区作業風景(北東より)



弥生土器(甕)・土師器(甕)



弥生土器(壺・甕)・土師器(甑)・石製品(砥石)・鉄製品(鉄劍)



弥生土器(甕)



弥生土器(壺・高杯)・土製品(支脚)



弥生土器(甕)



弥生土器(壺・甕・高杯)



弥生土器(壺・甕・鉢・高杯)



弥生土器(甕・高杯)・土師器(甕)・須恵器(提瓶)



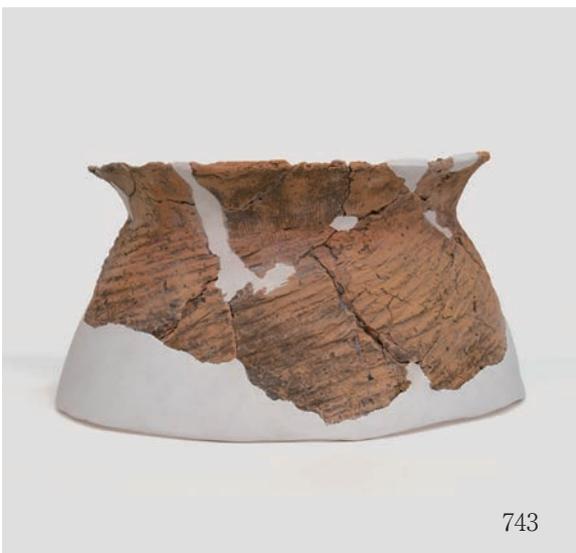
弥生土器(甕)・土師器(甕)



弥生土器(甕)・石製品(砥石)



弥生土器(壺・甕)



弥生土器(甕)



弥生土器(壺・甕)・土師器(甕)・石製品(叩石)



陶器(德利)・石製品(石斧・台石)



弥生土器(壺・甕)・須恵器(壺)・石製品(叩石)



弥生土器(甕・鉢・蓋)・土師器(甕)



弥生土器(甑)・土師器(甕)・須恵器(壺・甕)



弥生土器(甕・高杯)・須恵器(甕)・白磁(碗)



弥生土器(壺・甕・鉢・高杯)・石製品(叩石)



弥生土器(壺・甕)・土師器(甕・甑)



弥生土器(壺・甕・高杯)・土製品(支脚)



弥生土器(甕)



弥生土器(鉢)・須恵器(壺)・石製品(剥片)



弥生土器(壺)



弥生土器(甕・鉢)・石製品(叩石)



弥生土器(壺・甕)・土師器(杯)



弥生土器(壺・甕・甑)・須惠器(杯蓋)・石製品(石包丁)



弥生土器(壺・鉢)・ミニチュア土器・須恵器(杯身)・石製品(砥石・叩石)



弥生土器(鉢)



弥生土器(甕・鉢)・黑色土器(碗)・土製品(土錘)・石製品(砥石)



弥生土器(鉢)・土製品(支脚)



弥生土器(鉢)・ミニチュア土器・土製品(支脚)・石製品(石包丁)



弥生土器(壺・甕・鉢)・石製品(叩石)



弥生土器(甑・鉢)・小型丸底土器(鉢)



弥生土器(甕・鉢・高杯・器台)・ミニチュア土器・須恵器(蓋)・石製品(石斧・砥石)



弥生土器(壺・鉢・台付鉢・高杯か台付鉢)・石製品(石包丁)



弥生土器(甕・鉢・台付鉢)・石製品(石包丁)



弥生土器(壺・甕・鉢)・土師器(椀)・鉄製品(刀子)



弥生土器(壺・鉢・台付鉢・高杯)・土師器(碗)・緑釉陶器(皿)・陶器(瓶)・石製品(叩石)



土師器(皿・杯)・須恵器(蓋)・石製品(石包丁・砥石)・鉄製品(刀子)



弥生土器(壺・甕)・土師器(皿・杯・碗)・手づくね土器



弥生土器(甕・鉢・高杯)・小型丸底土器(鉢)・石製品(石包丁)



石製品(石包丁・石斧・砥石・叩石)



土師器(皿・台付皿・杯)・手づくね土器・石製品(叩石)



土師器(杯)・須恵器(杯蓋・杯・円面硯)・緑釉陶器(碗)・鉄製品(鉄斧・轡(銜))



弥生土器(鉢)・土師器(杯か高杯)・須恵器(杯蓋)・石製品(石包丁)・鉄製品(刀子)



弥生土器(鉢・高杯)・土師器(杯)・土製品(不明)・石製品(剥片か)



弥生土器(壺・甕・鉢)・土師器(杯)・石製品(剥片)・鉄製品(刀子)



土師器(皿・杯)・須恵器(杯)・石製品(石包丁)・銅製品(鏡か)



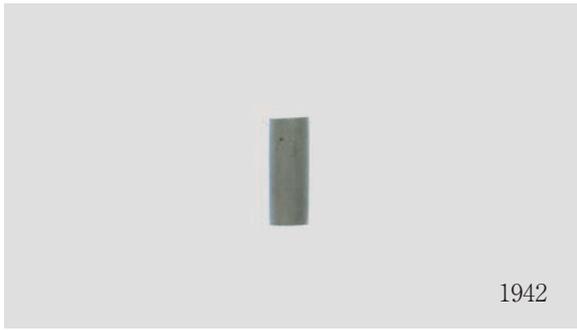
土師器(皿・杯)・須恵器(高杯)・緑釉陶器(碗)・銭貨・石製品(石包丁)



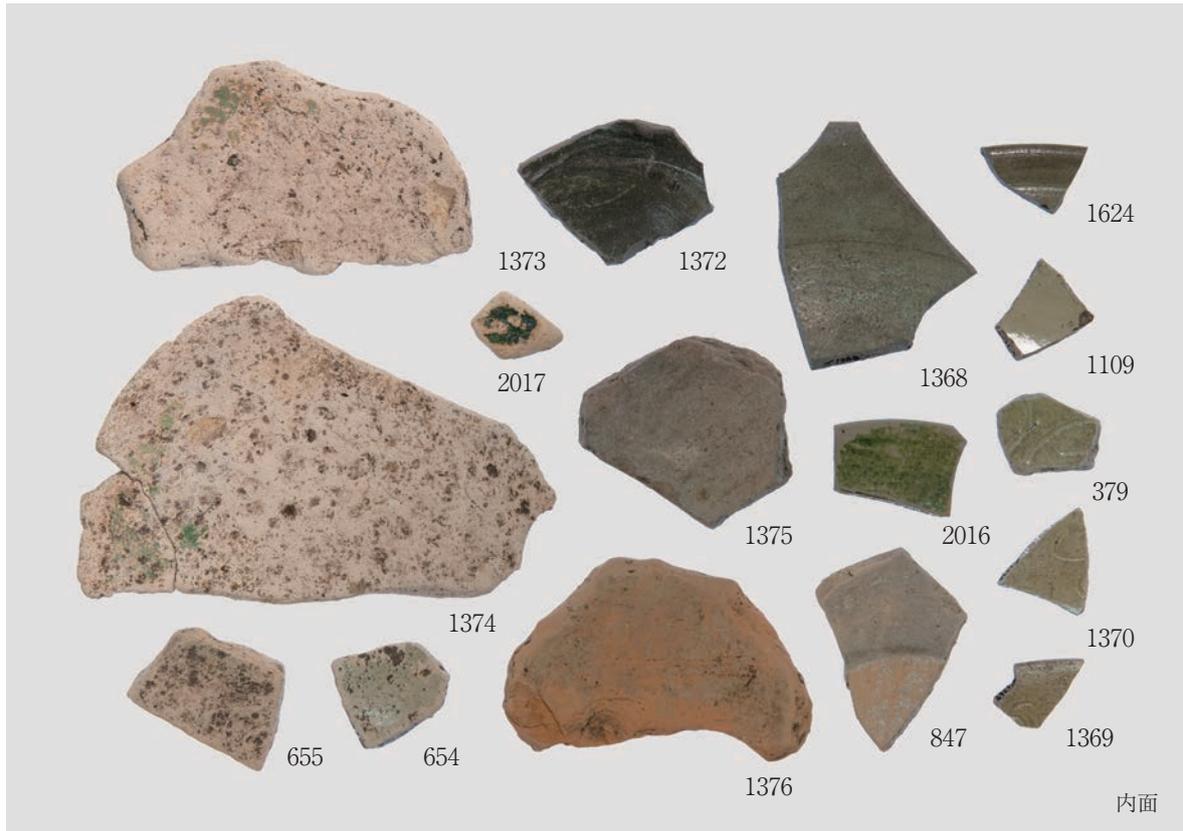
弥生土器(甕)・土師器(杯・碗)・石製品(土掘り具か石包丁)



弥生土器(鉢)・石製品(石包丁・石斧・紡錘車)



土師器(杯・椀)・須恵器(蓋)・石製品(管玉)・鉄製品(馬具か)



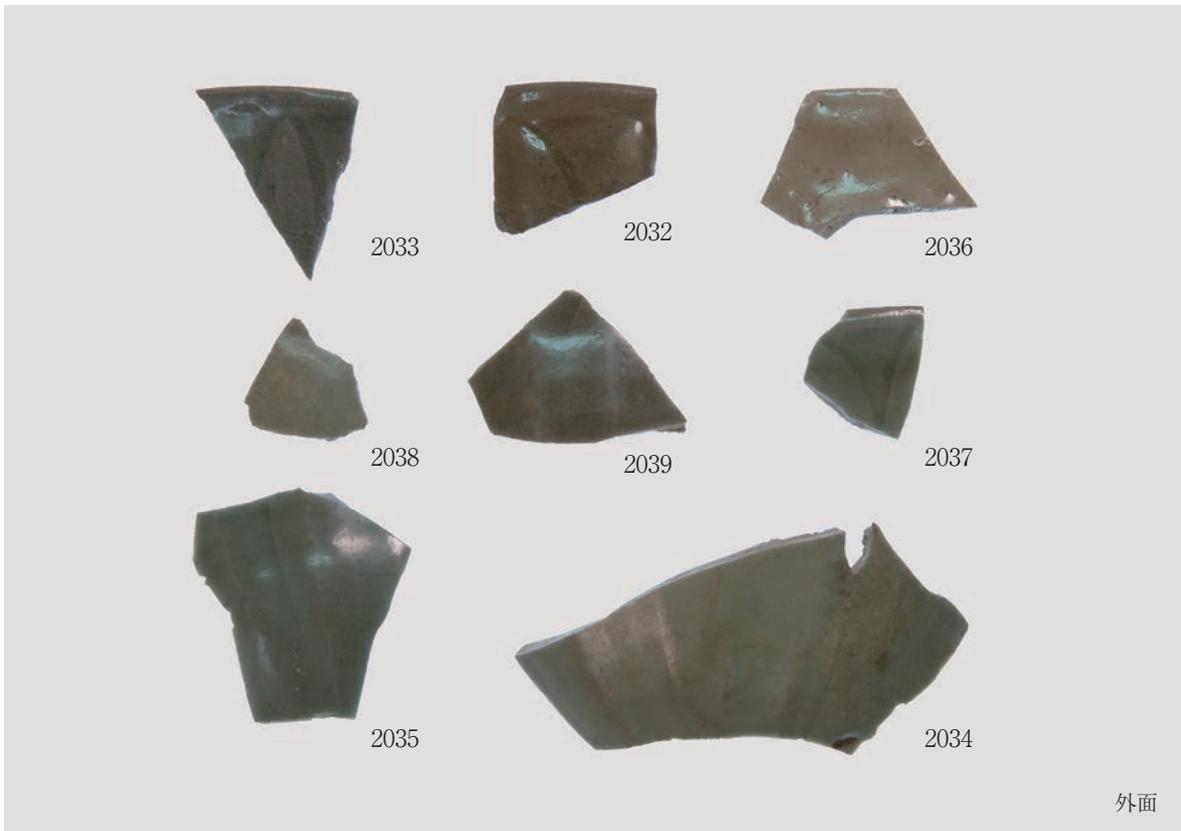
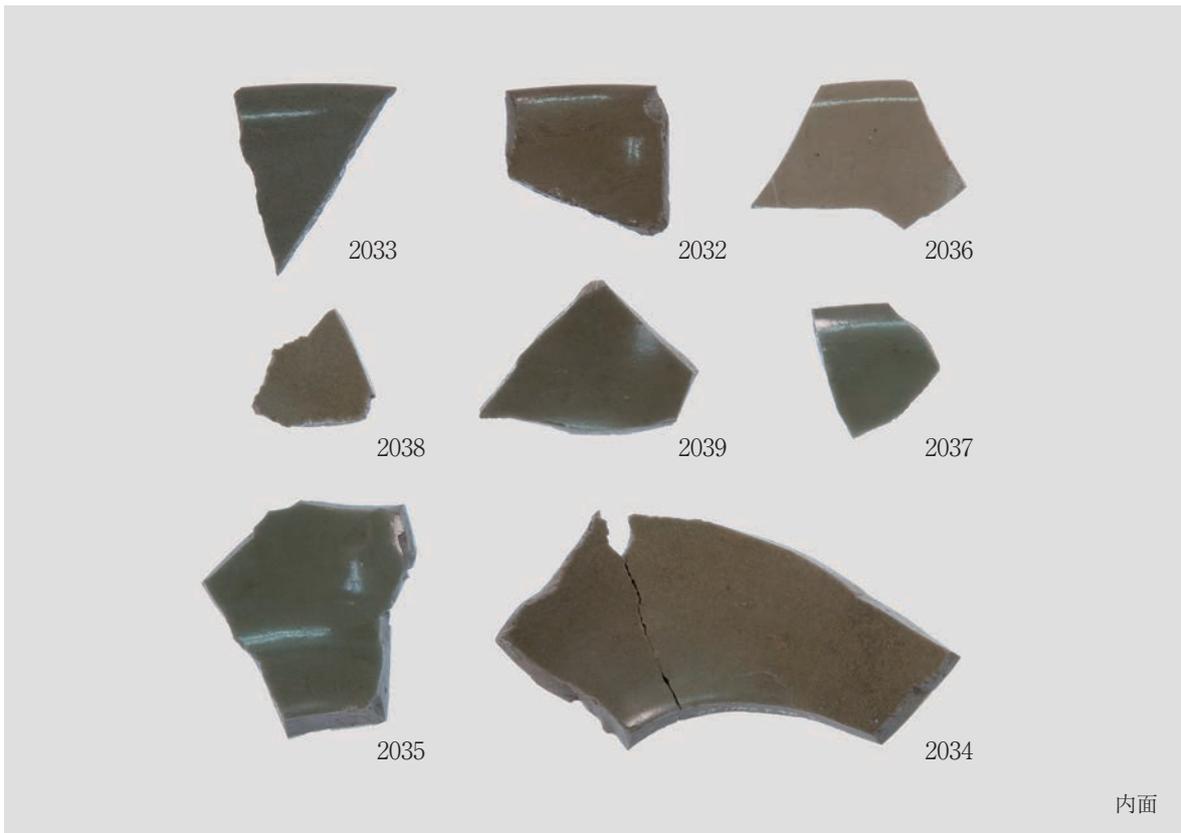
緑釉陶器(碗・皿・不明)



黑色土器(碗)



瓦器(皿·碗)



青磁(碗)



白磁(碗)



製塩土器・陶器(壺・甕)



瓦(丸瓦·平瓦)



731

鉄製品(鋤先)

報告書抄録

ふりがな	にしのいせき							
書名	西野遺跡Ⅱ							
副書名	宅地開発に伴う発掘調査報告書							
巻次	第二分冊							
シリーズ名	高知県香南市発掘調査報告書							
シリーズ番号	第20集							
編著者名	岡本 桂典 横山 藍							
編集機関	香南市文化財センター（香南市教育委員会）							
所在地	高知県香南市香我美町山北1553-1							
発行年月日	2024年3月25日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしのいせき 西野遺跡	こうちけん 高知県 こうなんしのいちちよう 香南市野市町 にしの 西野1530番地他	39211	200023	33° 33' 50"	133° 41' 11"	二次調査 2006. 4. 4 ～ 2007. 3. 30 四次調査 2007. 10. 9 ～ 2007. 11. 8	二次調査 4,500㎡ 四次調査 170㎡	記録保存調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
西野遺跡	集落跡	弥生時代 古墳時代 中世	竪穴柱建物跡 掘立柱建物跡 柵列 土坑跡 柱穴			弥生土器 土師器 須恵器 緑釉陶器 黒色土器 瓦器 瓦質土器 貿易陶磁器 近世陶磁器 金属製品 石製品	弥生時代後期から古墳時代初頭、古墳時代後期の竪穴建物跡、古代の掘立柱建物跡などが確認された。	
要約	西野遺跡は香南市野市町西野の物部川左岸段丘上に立地する弥生時代から近世にかけての集落遺跡である。宅地開発計画に伴い、記録保存調査が行われた。二次調査に当たる本調査では、弥生時代前期末から近世にかけての遺物が出土した。調査対象地が集落として機能していた主な時期は、弥生時代後期から古墳時代初頭・古墳時代後期・古代・中世である。出土遺物が占める割合は、弥生時代後期から古墳時代初頭が最も多く、次いで古墳時代後期である。平成17年度に行われた一次調査でも出土した鉄製の鋤先が本調査でも出土した。古代の遺物も一定量が出土し、周辺の下ノ坪遺跡や北地遺跡と同様の官衙関連遺構の広がりも確認され、天平宝字4年(760)鑄造の萬年通寶が柱穴から出土した。							

高知県香南市発掘調査報告書第20集

西野遺跡Ⅱ

宅地開発に伴う発掘調査報告書

第二分冊

2024年3月25日

発行 高知県香南市教育委員会
香南市文化財センター

高知県香南市香我美町山北1553-1

Tel. 0887-54-2296

印刷 弘文印刷株式会社